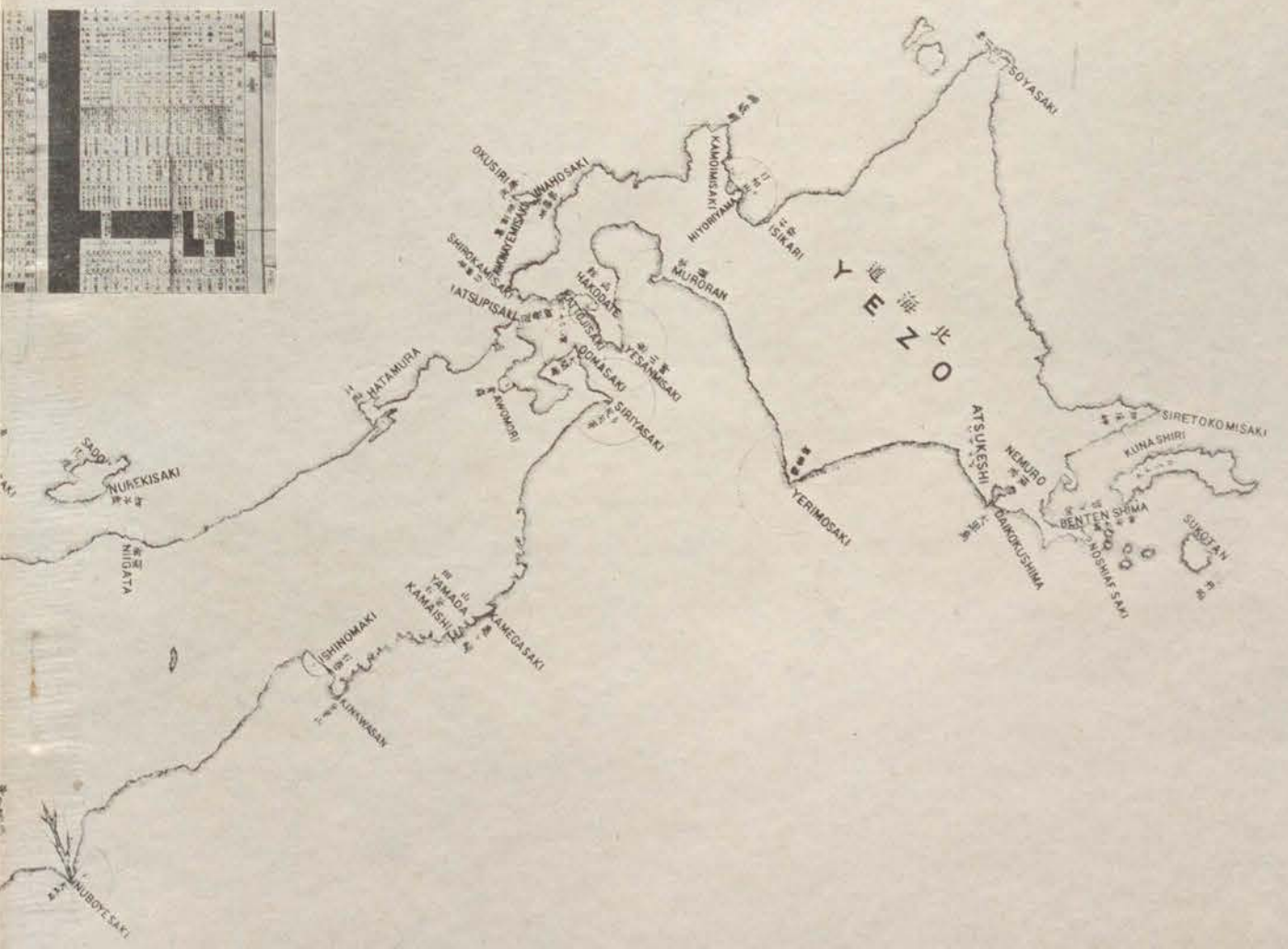
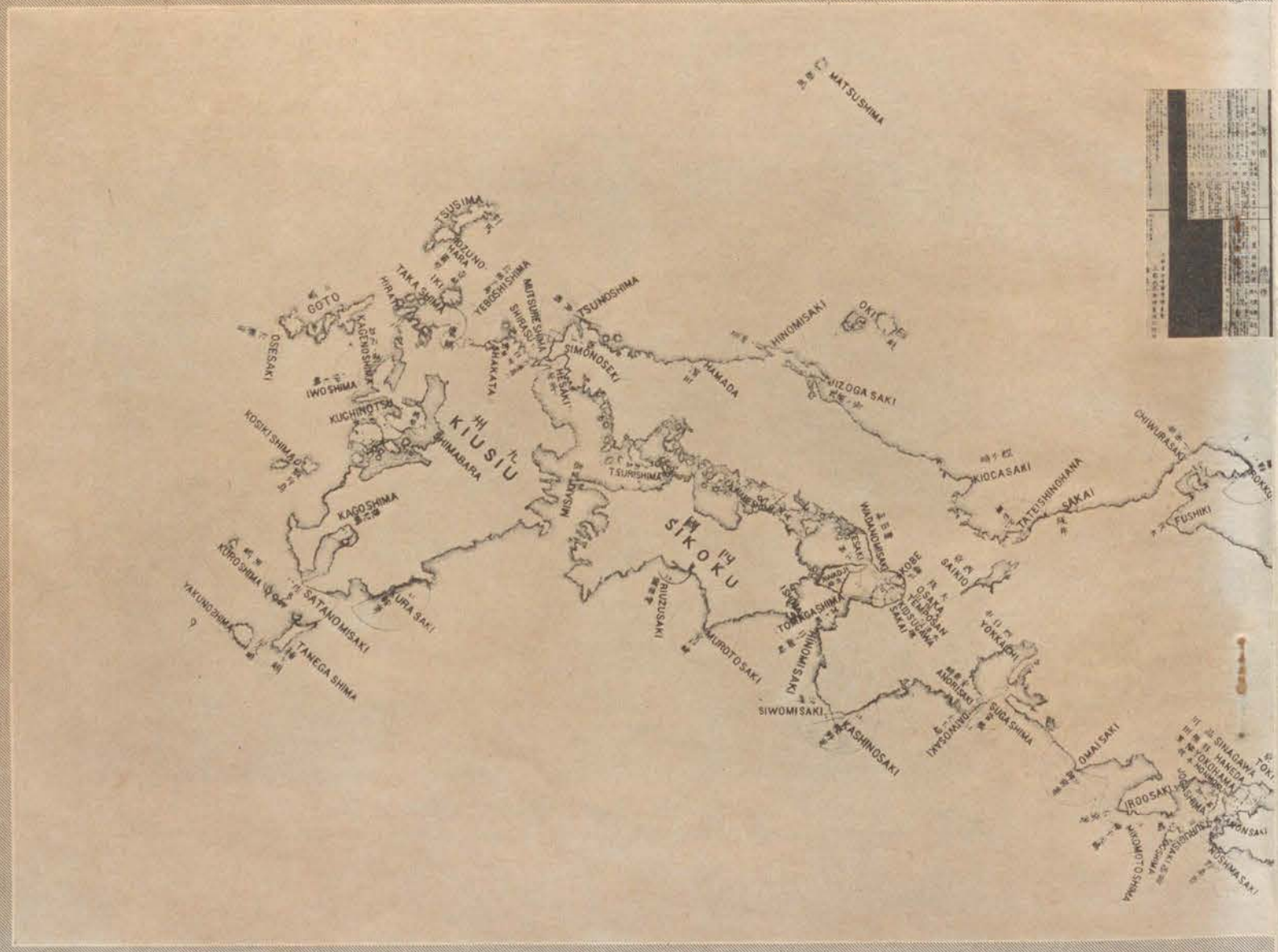
灯台文化九十年

写真で見る



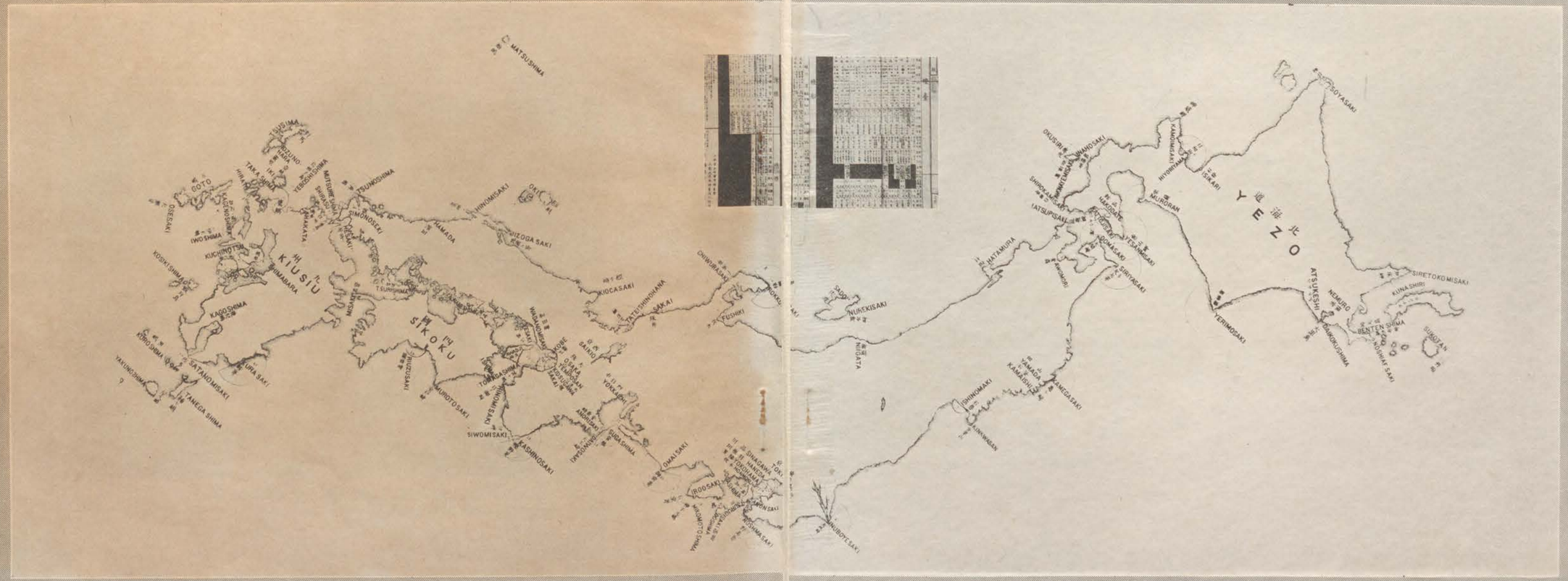
古い航路標識位置図（明治18年1月現在）




MATSUSHIMA
TSUSIMA
IKI
TAKA SHIMA
HIRADO
GOTO
OSESAKI
KAGENOSHIMA
IWO SHIMA
KUCHINOTSU
KOSIKI SHIMA
KIUSIU
SHIMABARA
KAGOSHIMA
KUROSHIMA
YAKUNOSHIMA
SATANOMISAKI
TANEGA SHIMA
URA SAKI
TEBOSHISHIMA
MUTSURE SHIMA
SHIRASU
HAKATA
TSUNOSHIMA
SIMONOSEKI
HESAKI
MISAKI
TSURISHIMA
HAMADA
HINOMISAKI
OKI
IIZUGA SAKI
KIOCASAKI
TATEISHINOHANA
SAKAI
ONIWASAKI
FUSHIKI
SAINIO
KOBE
OSAKA
TENNOSAN
TOBISUGAHAMA
SAKAI
WADANOMISAKI
SIKOKU
RUZUSAKI
MUROTO SAKI
TOMOGASHIMA
SIWOMISAKI
KASHINOSAKI
YONKAICHI
ANORISAKI
SUGA SHIMA
OMAI SAKI
IROOSAKI
SINAGAWA
HANEDA
YOKOHAMA
ANJIMA
MIKOMOTOSHIMA
KUSHIMA SAKI

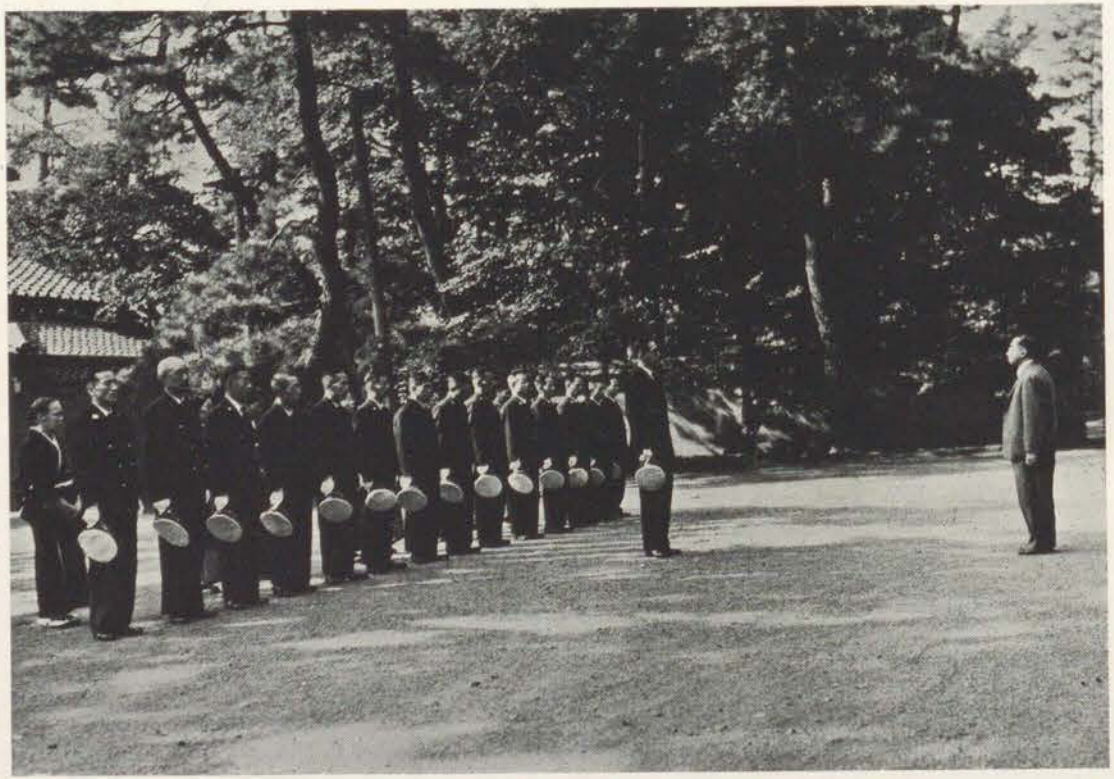
古い航路標識位置図

（明治18年1月現在）



H22.1.6
西脇久夫氏より預り

写真でみる灯台文化九十年



天皇陛下に拝謁の光栄（永年勤続者とその夫人―昭和30年11月５日―）

光を掲げて九十年

海上保安庁灯台部長　土井智喜

日本に初めて洋式灯台が建設されたのは、明治元年（一八六八年）十一月一日、東京湾口の観音崎においてであった。この十一月一日を卜して、灯台記念日が催され、今年の十一月一日は八十八周年、すなわち、人間でいえば米寿を迎えるわけである。それまでは暗黒であった海面へ、燦然たる光芒を放つようになったこの灯台こそは、鎖国の夢より覚めた日本の文明開化に、文字通りの光を掲げることとなった。

そもそも、日本がこのような近代的灯台を建設するに至ったいきさつは、慶応二年（一八六六年）英、仏、蘭、米の四箇国との間に締結した江戸条約において、江戸幕府は、開港に伴う船舶出入の安全のために灯台を備える義務を負い、東京港出入のための灯台は特別に急ぐ必要があって、慶応三年（一八六七年）仏国公使ロセスに依頼し、フランスに燈明器械を注文するとともに、当時の横須賀製鉄所傭首長である仏人土木技師ウェルニーに委嘱して、観音埼、城ヶ島、品川第二砲台、野島埼の四灯台の築造に当らせたのによるものである。

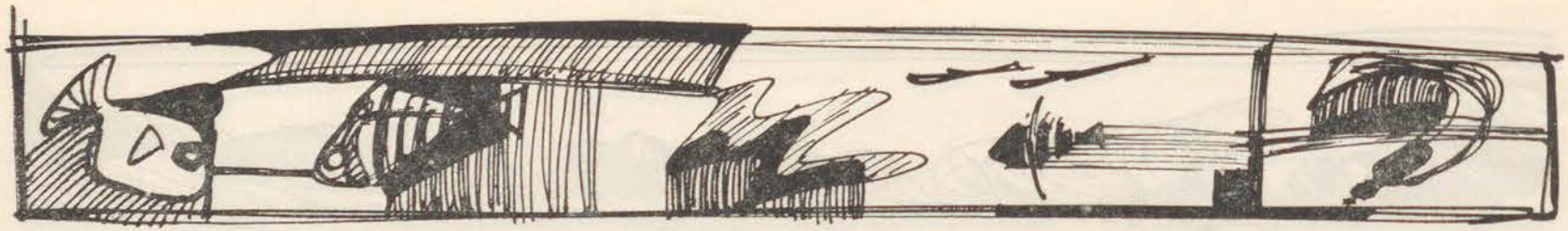
前記四灯台は、フランスの技術によって造られたが、その後、明治新政府は、当時の英国公使パークスの斡旋に従って、建築技師ブラントンを首長とする御雇英人によって、神子元島、石室埼、剣埼をはじめとする著名な灯台が重要航路に相続いて建設され、しかも灯台看守のいわゆる燈明番についても、明治十五年頃までは、御雇英人の手によって担当されたか、またはその教授を受けた伝習生によって承継された。

これら開国初期の灯台建設は、当時の日本としては大変な大事業であり、これに従事した招聘外国人は、灯台寮の御雇であったとともに、いわゆるシヴィル・エンジニアとして、港湾、橋梁、鉄道等の近代産業技術を導入する役割を演じたのであって、従って灯台がいわばそのパイオニアであった。

西洋技術導入の先駆をなしたわが灯台は、音響信号、電波技術等の採用についても、また先達をつとめた。マルコニーにより無線電信が発明された翌明治二十九年（一八九六年）には、これを知った当時の航路標識管理所長は、電波を灯台に利用するため、日本で最初の調査を依頼するところがあった。また、無線電話が、日本で初めて実用に供されたのも、大正三年（一九一四年）神島灯台に設置されたのが起りである。

かように、わが灯台史九十年は、日本の近代化、すなわち、その挺子となった科学技術において先駆者たる光を掲げてきた。いまはまた、時代の要請である管理技術のオートメーション化、すなはち自動機械化に当面して、灯台もまた革新的な進展を続けている。しかしながら、いままで、かかる光輝ある灯台文化史をひもとくに適する刊行物が流布されておらないことは、まことに遺憾であった。われわれ灯台人の間でも、最近ようやく機が熟して、灯台九十年史編纂の企てが進められその資料の一端として、灯台文化の概観に便利な本書のような写真帳が、国光出版株式会社の手で上梓されるに至ったことは、当事者としての喜びであるにとどまらず、国民のひとりとしても多年の渇望を医される思いである。監修に当った一員として、広く本書を江湖に推す所以である。

昭和三十一年八月一日

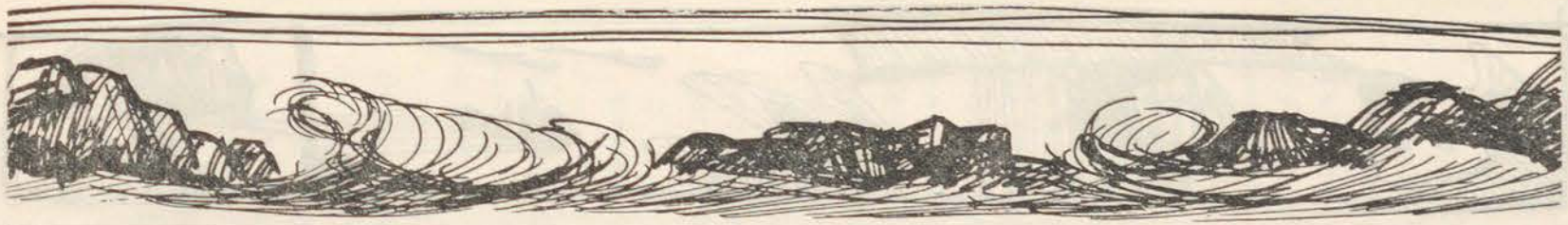


写真でみる 灯台文化九十年

目次

◇オートメーション化した伊島灯台（表紙）
◇新・旧航路標識位置図（見返し）
◇天皇陛下に拝謁の光栄（永年勤続者とその夫人――昭和三十年十一月五日）（扉）
◇光を掲げて九十年　海上保安庁灯台部長　土井智喜 …（一）
◇推薦のことば　社団法人灯光会 …（一）
◇昔の灯台 …（一）
エジプトのハアロス灯台（焚火による）。英国のエディストーン灯台（ロープソクによる）。…（一）
独逸のヘリーゴランド灯台（油による）。灯船。…（二）
住吉出見浜の灯明台（油による）。城ヶ島灯明台（篝火による）。浦賀灯明台（油）。…（三）
天保山灯台（油）。砲台と甍屋の見える天保山灯台。つくだじま灯明台（油）。
旧九段坂上の灯明台（油）。今の九段坂上の灯明台。…（四）
◇江戸条約で出来た八灯台・二灯船（洋式灯台の出現）…（五）
観音崎灯台（**煉瓦造・初代**）。灯船本牧（**木造**。）野島崎灯台（**煉瓦造・初代**）。…（五）
樫野埼灯台（**石造・初代**）。神子元島灯台（**石造・今のもの**）。剣埼灯台（**石造・初代**）。…（六）
灯船函館（**木造**）。伊王島灯台（**鉄造・当時のものと今のもの**）。…（七）
佐多岬灯台（**鉄造・今のものと当時のもの**）。潮岬灯台（**木造・初代**）。…（八）
◇灯台の構造別 …（二）
仏人技師ウェルニー。英人技師ブラントン。
煉瓦造（品川灯台。野島埼灯台（初代）。…（二）
石造（神子元島灯台と視察団の記念撮影。経ヶ岬灯台）。…（三）
木造（昔の安乗埼灯台。昔の石室埼灯台。昔の船川灯台。）…（三）
鉄造（伊江島灯台。汐首灯台。平館灯台。）…（四）
コンクリート造（我国コンクリート建築の嚆矢鞍埼灯台。平磯立標と証明書）。…（五）
鉄筋コンクリート造（清水灯台。コンクリートタイル張りの横浜外防波堤灯台。タイル張りの城ヶ島灯台。（一五頁））…（六）
◇航路標識の種類 …（七）
夜標　**灯台**（弾痕の跡も生々しい水ノ子島灯台。）…（七）
灯竿（大泊灯竿。）…（七）
灯船（東京灯船。）…（七）
導灯（丸亀港前灯。後灯。）…（八）
灯柱（金伏港灯柱。）…（八）

◇灯台局の変遷 …（二）
明治天皇御臨幸当時の横浜灯台寮。灯台局を中心に右は工場、左端は荷場クレーン。灯明台と横浜商館並弁天橋（江戸名所図絵より）。灯台寮行幸御達書。旧試験灯台と倉庫。改築された横浜試験灯台とその附近。試験灯台趾の記念碑。元の試験灯台趾に復活した旧灯台の新しい姿。



灯浮標（本牧灯浮標と灯籠内部の絵。）……（一八）

昼標　立標（組板立標絵（右）―明治四年七月建設。石造月形黒色塗水面上十九尺。）……（一九）

（組板立標絵（左）―明治二十三年十一月初めて灯籠を設け揮発油灯を点ず。大正十年金ノ弦に移設。）（今の金ノ弦立標。）（礁標図さま〴〵。）

陸標（神島灯台）。……（一九）

導灯（島羽高灯と低灯。）……（一〇）

浮標（浮標の図。）（浦賀港旧礁標の図。）……（一〇）

澪標（一三三・一三六頁参照）。……（一〇）

霧信号　霧笛（納沙布灯台の空気サイレン）。（平館灯台のダイヤホーン）。（安渡移矢崎灯台（千島）の霧笛と霧笛用熱機関）。……（一一）

（新・旧霧笛用原動機の比較）。……（一三）

霧鐘（計羅武威岬灯台（千島）の霧鐘。）（葛登支灯台の霧鐘）。……（一三）

霧砲（老鉄山灯台の霧砲と信号中の霧砲）。……（一三）

爆発信号（室蘭港灯台の爆発信号）。（野島埼灯台の爆発信号）……（一四）

水中音信号（荒洲桂灯浮標（水中音信号）の引揚作業）。（水中音信号―桂灯浮標―）。……（一四）

通航・潮流信号（部埼灯台の信号所全景）。（大浜埼灯台の信号所）。（通航信号機）。……（一五）

無線方位信号所（女島無線方位信号所。）……（一五）

◇灯台の等級とレンズ……（一六）

水ノ子島灯台（第一等）と一等閃光レンズ。樫野埼灯台（第二等）と閃光レンズ、反射鏡。……（一六）

稚内灯台（第三等）と閃光レンズ及新・旧三等不動レンズ。……（一七）

古志岐島灯台（第四等）と閃光レンズと古い不動レンズ。……（一八）

姫埼灯台（第五等）（レンズ略）。ロノ津灯台（第六等）（レンズ略）大浜埼灯台（無等）と不動レンズ。……（一八）

閃光灯レンズの図解。最新式反射鏡。新・旧回転ビーコン。日光弁付灯浮標レンズ。灯浮標の灯籠及レンズ。……（一九）

◇回転装置……（二〇）

第一等水銀槽式回転装置。各等水銀槽式回転機械。水銀槽式回転装置の一部転輪式回転装置。いろ〳〵な光の出し方（灯質の種類）

◇灯器（光源）……（二一）

古い灯器の種々。瓦斯灯器。石油灯器。白熱灯器。電気灯器。新式灯浮標灯器（電気）。外国の最古の風車発電機。風車発電機の全景。……（二一）

◇皇室と灯台……（二三）

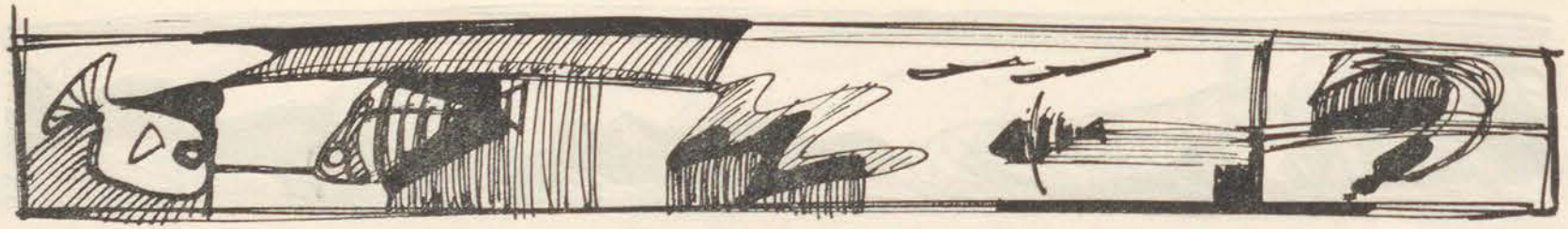
貞明皇后観音埼灯台に行啓。天皇陛下樫野埼灯台に行幸。行幸当日の樫野埼灯台。明治天皇行幸趾（横浜灯台寮）。……（二三）

天皇陛下潮岬灯台に行幸。皇太子殿下剣埼灯台を御見学。灯台に御下賜のラジオ。御仁慈のラジオを囲んで。……（二三）

◇灯台の種々相……（二四）

氷結した厚田港西防波堤灯台（上）下はその全景。氷結した増毛港防波堤灯台と砕氷作業中の職員。……（二四）

海面上から一番高い余部埼灯台。地上から一番高い日御埼灯台。青苗岬灯



台の夜景。擬装した終戦前夜の灯台。……（三五）
最大光力をもつ室戸埼灯台。最大光達距離のある余部埼灯台。待機所より最遠距離の草垣島灯台。……（三六）
最東端の納沙布埼灯台。最西端の女島灯台。最北端の宗谷岬灯台とその遠望。最南端の曾津高埼灯台。……（三七）
一木一草もない灯台。昔と今の烏帽子島灯台。神子元島灯台。水ノ子島灯台。……（三八）
規模の大きい灯台（金華山灯台。尻矢埼灯台。暁の犬吠埼灯台とその近景）。……（三八）

◇想い出の灯台 ……（四〇）
樺太の二丈岩灯標（自動ベル付）関東洲の黄白嘴灯台。千島の安渡移矢岬灯台。……（四〇）
琉球の伊江島灯台。千島の計羅武威岬灯台。樺太の西能登呂岬灯台。関東洲の円島灯台。樺太の愛郎灯台。……（四一）
老虎尾灯台。老鉄山灯台。大三山島灯台。大泊灯竿。沖縄の先原埼灯台。……（四二）

◇視察船から補給船へ ……（四三）
視察船明治丸。新発田丸。戦前の羅洲丸（白色）と戦時中の同船（黒色）。
補給船第十八日生丸。宗谷。若草。……（四四）

◇灯台の出来るまで ……（四五）
野島埼灯台（二代目）の建築中と完成間近かの同灯台。完成した野島埼灯台。築造中の部埼灯台と完成当時の同灯台。……（四五）
旧羽根田灯台図。関東大震災で傾いた旧羽根田灯台と今の羽田灯標の建築工事。完成間近かと完成した同灯標。移動起重機で運ばれる旧灯台。……（四六）
中知床灯台の基礎工事。中知床灯台の断面図及平面図。完成した同灯台の模型……（四七）
襟鼻灯台の遣方から完成までの二十四景。……（四八）
ゲンベイ礁灯標の基礎工事から完成までの六景。……（五〇）

◇無線方位信号所の出来るまで ……（五一）
新潟無線方位信号所の無線室と鉄管塔完成までの三十六景。

◇無線方位信号所と連絡無線の推移 ……（五六）
最古の円島無線方位信号所。野島埼無線方位信号所。霧多布無線方位信号所。最近の長尾鼻無線方位信号所。古い送受信機と電源装置。新しい送受信機と電源装置。

◇無線方位信号所の種類 ……（五九）
回転式標識（チキウ岬）無指向式並に回転式標識（角島）無指向式標識（塩屋埼）無指向式回転式標識並に方向探知（潮岬）無指向式標識・方向探知（八丈島）

◇アンテナのさまざま ……（六〇）
組立木柱の（鮫角）。継柱の（剣埼）。鉄塔（自立式）——鉄塔（自立式）の（舳倉岬）。灯塔——鉄塔（自立式）の（大間埼）。格子型鉄塔（支線式）の（長尾鼻）。灯塔——コンクリート柱の（犬吠埼）。鉄管柱の（都井岬）。回転式枠型の（磯埼）。

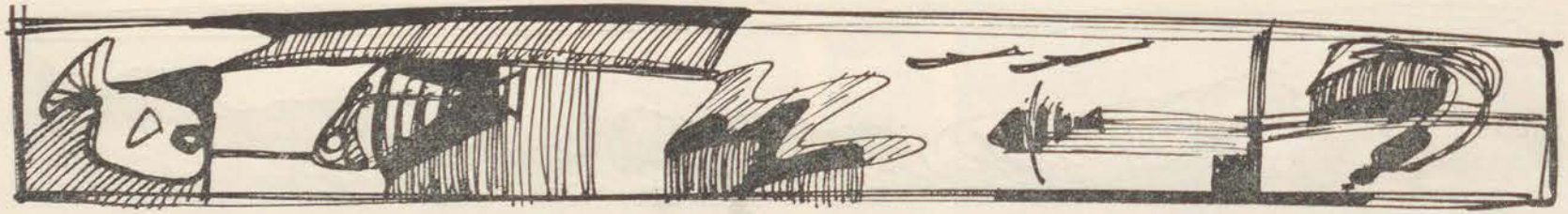
◇無線方位信号所の機械の一例（方向探知、標識局） ……（六三）

◇無線方位信号所の機械の一例（回転式標識局） ……（六三）

◇全国主要航路標識のいろ （北海道・太平洋沿岸・瀬戸内海・



磯崎灯台。鹿島上島灯台。激浪の中の一ノ島灯台。波崎灯台。……（六四）
犬吠埼灯台。勝浦灯台。千倉港灯台。……（六五）
薄暮の野島埼灯台。洲ノ埼灯台と霧信号。浦安灯台。……（六六）
品川灯台。第二海堡灯台。基礎修理中の横浜港防波堤灯台と完成後の同灯台……（六七）
羽田灯標。東京灯船と外国の灯船。……（六七）
観音埼灯台（初代）の記念碑。観音埼灯台（二代目）と関東大震災で崩壊した二代目。今の観音埼灯台。剣埼灯台。……（六八）
城ケ島灯台。伊豆大島灯台。神子元島灯台。昔と今の三宅島灯台。八丈島灯台。……（六九）
石室埼灯台。御前埼灯台。清水港灯台。掛塚灯台。……（七〇）
角石灯標。野間埼灯台。名古屋港中央埠頭灯台と西防波堤灯台。鷲埼灯台。……（七一）
簡易気象観測も扱う神島灯台。……（七一）
四日市港灯柱。菅島灯台。安乗埼灯台（右端は暴風信号柱）。手をふる大王埼灯台の職員。志摩小島灯台。尾鷲港防波堤灯台。……（七二）
三木埼灯台。宇久井駒埼灯台。樫野埼灯台。樫野埼灯台附近にて遭難したトルコ軍人と慕碑。補給船「若草」より樫野埼灯台を望む。市江埼灯台。潮岬灯台正門と明治天皇行幸記念碑。……（七三）
紀伊日ノ御埼灯台と記念の碑。下津灯台。友ケ島灯台と日時計。……（七五）
大阪港突堤灯台。オートメーション化した伊島灯台。改築前と今の和田岬灯台。浮標基地鯛尾港。……（七六）
新・旧江埼灯台。飾磨港南防波堤灯台。大角鼻灯台。着船場より地蔵埼灯台への道と霧信号。……（七七）
男木島灯台と灯内の階段。海上より鍋島灯台を望む。丸亀港灯標と西防波堤灯台。……（七八）
蒲生田埼灯台。阿瀬比ノ鼻灯台（遠望）と日和佐町。甲ノ浦灯台。興津埼灯台。室戸埼灯台と無線日誌。龍頭埼灯台。……（七九）
足摺岬灯台と遍路さん。夜の足摺岬灯台。叶埼灯台。土佐沖ノ島灯台。小松島港南・東防波堤灯台。……（八〇）
大埼灯台。大浜灯台。佐島灯台。観音寺港灯台。襖鼻灯台（四九頁参照）佐田岬灯台。六島灯台。……（八一）
百貫島灯台と着船場より「若草」を望む。除虫菊の咲き乱れる高井神島灯台。大浜埼灯台。「若草」より中渡島灯台を望む。……（八二）
高根島灯台。大久野島灯台。屋形石灯台。宇品灯台。大下島灯台と日時計。安芸白石灯標。……（八三）
釣島灯台と見事な大サボテン。クダコ島灯台と着船場の賑い。センガイ瀬灯浮標。屋島灯台。室津灯台。岩島灯台。……（八四）
宇部港西・南防波堤灯台。壇ノ浦灯台。火ノ山下通航信号所。山底鼻灯台。台場鼻通航信号所標示灯。……（八五）
赤坂通航信号所。厳流島灯台。部埼灯台。（二五頁参照）安岐埼灯台。関埼灯台。姫島灯台。……（八六）
細島灯台、鞍埼灯台（一五頁参照）都井岬灯台。佐多岬灯台（七頁参照）種子ケ島灯台。臥蛇島灯台と蛇臥島最北端。坊ノ岬灯台。……（八七）
屋久島灯台。曾津高埼灯台（三七頁参照）草垣島灯台。長埼鼻灯台。戸馳島灯台。三池港灯台より錨地を望む。上馬刀灯台。……（八八）
新・旧島原灯台。湯島灯台。口ノ津灯台（二八頁参照）釣掛埼灯台。女島灯台二景（三七頁参照）黄島灯台。大瀬埼灯台。樺島灯台（旧野母埼灯台）と漁港口灯柱。薩ノ尾島灯台。伊王島灯台（七頁参照）面高白瀬灯台。……（九〇）
大立島灯台。改築前の伏瀬灯標と今の灯標。平島灯台。御神島灯台。五島白瀬灯台。……（九一）
古志岐島灯台（二八頁参照）二景。二神島灯台。若宮灯台。神埼灯台。三島



灯台。……（九二）
沖ノ島灯台二景。烏帽子島灯台（三八頁参照）。博多港東・西防波堤灯台。
玄界島灯台。……（九三）
築前大島灯台。新・旧若松港防波堤灯台。六連島灯台の今昔。蓋井島灯台。……（九四）
特牛灯台。角島灯台。見島灯台。高山岬灯台。出雲日御埼灯台（二六頁参照）……（九五）
恵曇港北防波堤灯台。多古鼻灯台。美保ケ関灯台。西郷岬灯台。……（九六）
長尾鼻灯台（六一頁参照）田後灯台。雪の余部埼灯台。（三六頁参照）経ケ岬灯台。高野川口灯柱。香住港灯台。……（九七）
博奕岬灯台。小浜港防波堤灯台。敦賀港突堤灯台。立石埼灯台。越前岬灯台。
三国港防波堤灯台。……（九八）
大野灯台。猿山岬灯台と霧信号所。舳倉島灯台（六〇頁参照）。緑剛埼灯台。……（九九）
能登島灯台（高灯・低灯）七尾湾口灯台。伏木港導灯（高灯・低灯）。岩埼鼻灯台。……（一〇〇）
生地鼻灯台。名立港灯台。沢埼灯台。台ケ鼻灯台。……（一〇一）
弾埼灯台。姫埼灯台。鴻瀬鼻灯台。粟生島灯台。……（一〇二）
新潟港防波堤灯台。酒田灯台。飛島灯台。金浦港灯台。……（一〇三）
船川港灯台の今昔。入道埼灯台。鰺作埼灯台。亀飛埼灯台。……（一〇四）
空からみた白神岬灯台と旧白神岬灯台。松前灯台二景。松前小島灯台の遠近二景。新・旧鴎島灯台。……（一〇五）
青苗岬灯台の遠望（三五頁参照）新・旧稲穂岬灯台と霧信号。茂津田岬灯台。
新・旧弁慶岬灯台。岩内港西防波堤灯台二景。……（一〇六）
空からみた神威岬灯台と奇岩。積丹岬無線方位信号所。新・旧日和山灯台。
小樽港南北防波堤灯台。……（一〇七）
石狩灯台。霧の中の雄冬岬灯台。増毛灯台の近景（三四頁参照）留崩港防波堤灯台（白・赤）焼尻島灯台。……（一〇八）
石埼灯台。旧鷲泊灯台と機上からみた今の鷲泊灯台。「若草」船上より稚内灯台を望む。稚内灯台の近景。新・旧宗谷岬灯台と緬羊群がる同灯台附近。……（一〇九）
紋別港防波堤灯台。機上よりみた能取岬灯台と近景。網走港防波堤灯台。根室港防波堤灯台と昔の弁天島灯竿。……（一一〇）
新・旧納沙布灯台と雨に濡れる同灯台。新・旧花咲灯台と港内の漁船群。霧多布灯台（五六頁参照）新・旧落石埼灯台。……（一一一）
湯沸岬灯台と奇岩。厚岸灯台遠近二景。新・旧釧路埼灯台。広尾港防波堤灯台。空からみた浦河灯台。新・旧襟裳岬灯台。……（一一二）
幌泉灯台と「若草」を望む。チキウ岬灯台の峻と無線方位信号所。室蘭港（大黒島）灯台。日浦岬灯台。……（一一三）
新・旧恵山岬灯台と海の温泉。汐首岬灯台。函館港防波堤灯台（赤）。旧葛登支岬灯台と機上からみた今の同灯台。……（一一四）
平館灯台。青森港東・北防波堤灯台。安井埼灯台。陸奥弁天島灯台。……（一一五）
大間埼灯台。尻矢埼灯台。鮫角灯台。沈船防波堤灯台（八戸港内）。普代灯台。……（一一六）
宮古港防波堤灯台。鍬埼灯台と灯室より海を望む。釜石港南・北防波堤灯台
陸中尾埼灯台。……（一一七）
綾里埼灯台。陸前大島灯台。大須賀灯台。四子ノ埼灯台。……（一一八）
金華山灯台と灯室とレンズ。荻ノ浜灯台。波島灯台。石巻港東・西防波堤灯台。鵜ノ尾埼灯台。新・旧塩屋埼灯台。小名浜港防波堤灯台。……（一一九）
灯台の位置図……（一二〇）

◇気象観測と灯台……（一二一）



昔の気象機器。方位計。地中寒暖計と自記雨量計。風力計。風針計。風速計。尻矢埼灯台の気象観測所。自記風針計と自記風力計。

◇**設標船の活躍**……（一三）
設標船「はくと」「ぎんが」「かいおう」と灯浮標の設置作業及び引揚作業
十六景。……（一三）

◇**見廻船の種類**……（一三四）
手押船。小型手押兼発動機船。配給品陸上げ（ボート・通船・本船）。見廻船「あかつき」「きよつこう」「あけぼの」見廻中の大型発動機船。通船の降下作業。

◇**職員の日課**……（一三五）
点灯中の灯台。灯台の断面図。暴風標識の掲揚。海上の監視。執務中の通信士。親時計。一風呂浴びて一日の疲れを——。

◇**灯台の子供達、放射能雨と飲料水**……（一三六）

◇**国民生活と灯台**（一）（**楽しい船旅・貨物の安全輸送**）……（一三七）
光による道しるべ。電波による道しるべ。航海中のアメリカ航路「ぶらじる丸」必需物資を満載しての帰港。

◇**国民生活の灯台**（二）（**豊漁に沸く漁場**）……（一三八）
暁を衝いて帰港する近海漁船。鮭、鱒の漁を終つて帰港した漁船団。大漁に賑う港と出迎えの家族。船底は海幸の山。船底より甲板へ。甲板より更に櫓に積移す。二十貫の海幸の山を軽々と。鮭・鱒の腹中に塩詰め作業の婦人。海幸の出荷も終へて家路に急ぐ婦人達。

◇**海難救助**（**巡視艇と航空機の活躍**）……（一四〇）
灯台のある航空基地（太平洋戦中）。函館港の航空基地（海上保安庁専属）。待機中のビーチクラフトE十八S双発機。着水したヘリコプター。坐礁した船と救助活躍中の巡視艇と航空機。

◇**解説篇**

◇昔の灯台（写真一頁より四頁参照）……（一二一）
◇江戸条約で出来た洋式灯台（写真五頁より八頁参照）……（一二一）
◇航路標識の種類（写真一七頁より二五頁参照）……（一二三）
◇灯台の等級とレンズ（写真二六頁より二七頁参照）……（一二三）
◇回転装置（写真三〇頁参照）……（一二四）
◇灯器（光源）（写真三一頁参照）……（一二四）
◇灯台と伝説……（一二五）
◇福浦灯台。澪標（写真）……（一二六）

◇**全国主要航路標識の性質・構造**（航路標識便覧（一））……（一二七）
◇**灯台への道しるべ**（便覧航路標識（二））……（一四六）
◇**編者のことば**……（一五六）

昔の灯台（一）



エジプトのハアロス灯台（焚火による）



英国のエデイストーン灯台（ローソクによる）

灯台のあゆみ「外国」航路標識即ち灯台の始まりは、紀元前300年頃といわれている。次に簡単にその変遷の跡を眺めてみよう。

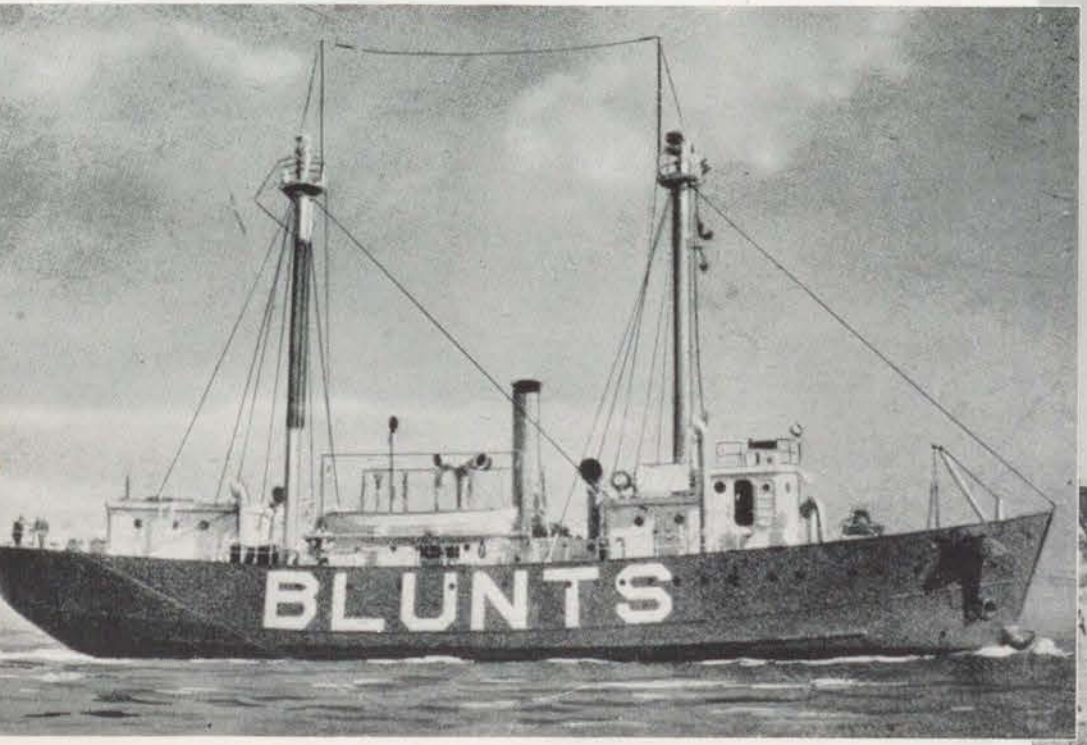
◇**ルツカス山「アポロ」**の神話の塔に就いて「ビルギ」氏は、この塔は、航海者の指導となること大であると記してある。

◇**ロードの大像には、**その掌上に信号用の灯火を点ずる装置ありしとある。（紀元前300年）

◇**エジプトのアレキサンドリア港外**にある**ハアロス灯台**（写真参照）は、石を積み重ねたもので、その上に木、竹、枯草等を置き、松脂を浸して燃やし、航海の目標にしたとある。（紀元前280年）

昔の灯台(二)

◇スペインの「**コルンナ**」**灯台**は、高さ9尺厚さ12尺の硝子張りの灯籠をつくり、灯籠内に銅製の油皿を置き、それを燃したといわれている。（西暦1595年）
◇米国の**ブレスター島**」**灯台**は牛脂と松脂を混合したものに点火した（1673年）
◇英国の「**マーセー**」**河灯台**は、反射鏡を使用したといわれている(1763年)
◇英国の「**エデイストーン**」**灯台**は牛脂ローソクに点火（1795年）したが、1807年には、反射鏡を使用し、油に点火した。（写真参照）
◇英国の「**ベルロツク**」**灯台**は、油を用いた（1811年）
◇スコットランドの「**ケリーボアー**」**灯台**も油灯点火である（1844年）
◇米国の「**アスートン島**」**灯台**は鯨の油に点火し反射鏡を用いた（1812年）
◇独逸の「**ヘリーゴランド**」**灯台**（写真参照）は油に点火したものである。



灯　船

独逸のヘリーゴランド灯台





城ヶ島灯明台

灯台のあゆみ「日本」我が国では仁明天皇の頃遣唐使のために、太宰府に命じて昼は狼火をあげ、夜は篝火をたいて使い船の目標にしたのが最初だといわれている。

◇**住吉灯明台**は、僧空海の寄進になるもので、菜種油を使つて点灯したといわれている。又、**住吉神社出見浜の高灯籠**は、（写真参照）文政十年再建した高さ63尺水面上68尺のもので、灯籠内に天井より銅蝶を吊し、蝶内に油を注ぎ灯心を立て点火したもので、海上二里半を照したとある。

◇**城ケ島灯明台**は（写真参照）慶長元年に出来た油に点火するもので、外国よりの来航船の警報用に供した。

◇**浦賀灯明台**は（写真参照）慶安元年に港口千代崎に建られた油に点火するもので、勘定奉行の所管であつたが、元禄四年から修繕その他の費用は、東浦賀の干鰯問屋役に申付られた。同灯明台は明治五年五月廃止された。



住吉出見浜の灯明台

浦賀灯明台



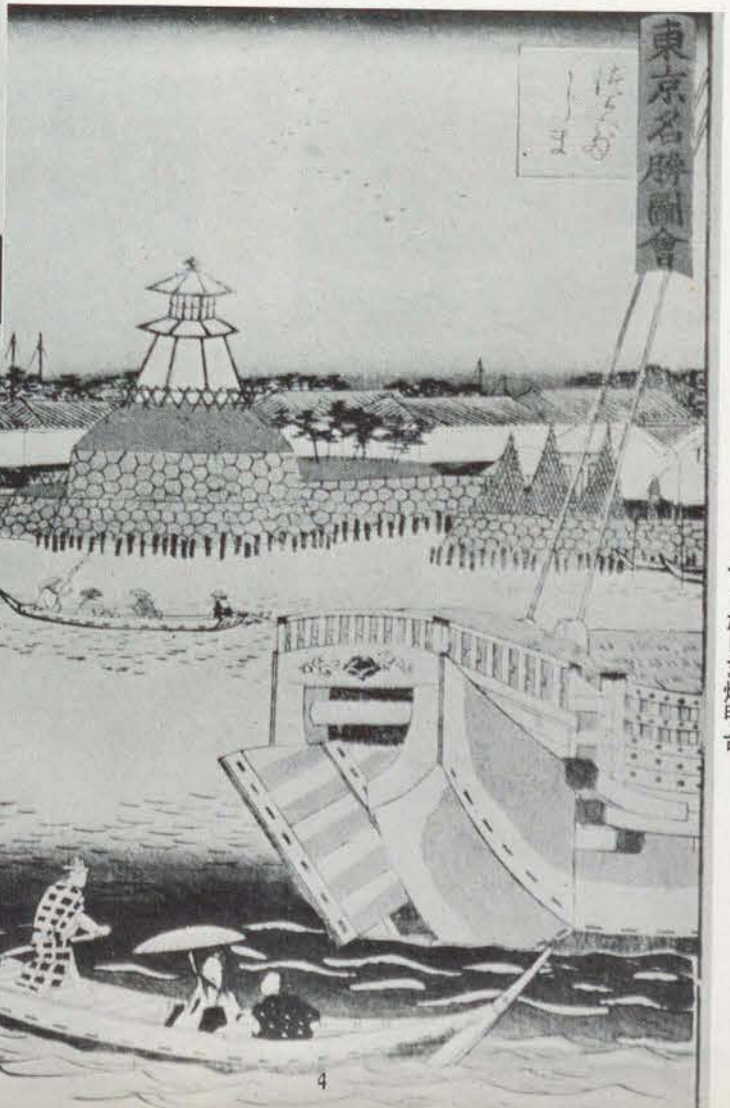
昔の灯台㈣



天保山灯台



旧九段坂上の灯明台



つくだじま灯明台

今の九段坂上の灯明台



砲台と塹壕の
ある天保山灯台



江戸条約で出来た
八灯台二灯船

洋式灯台の出現 (一)



野島埼灯台（初代・明治2年12月21日初点）（八頁参照）



観音埼灯台（初代・明治2年1月1旦初点）（八頁参照）



灯船（本牧・明治2年11月9日初点）（八頁参照）



神子元島灯台（明治３年11月11日初点）

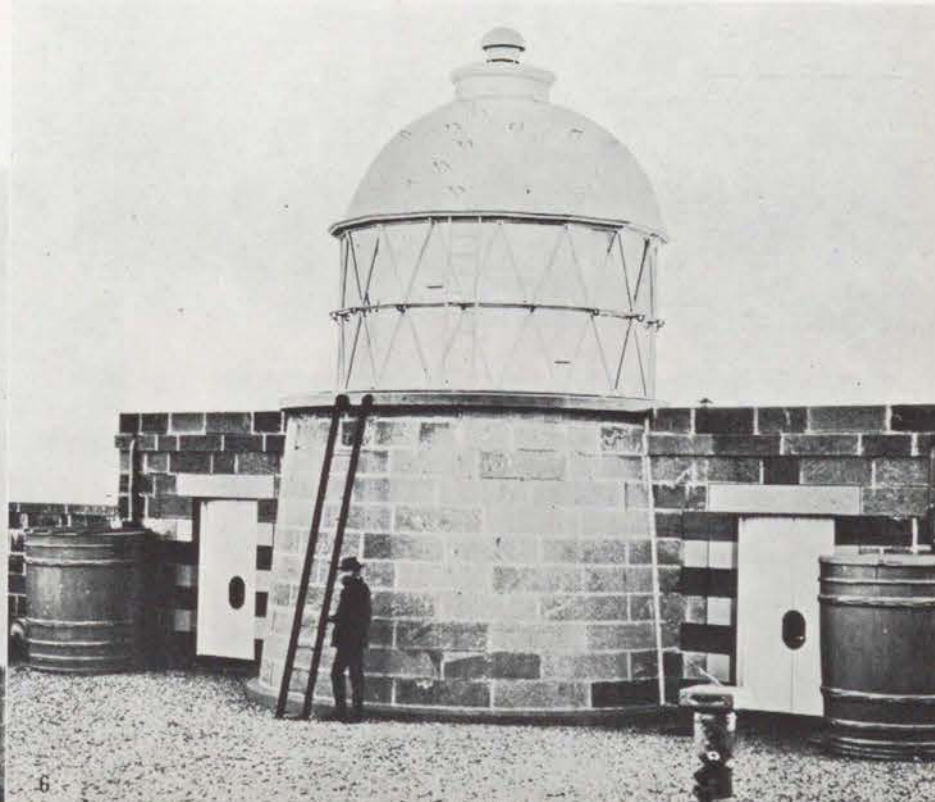
慶応二年五月英・仏・蘭・米の四ケ国と締結した江戸条約書の第十一条に「日本政府は外国貿易のため灯明台・浮木・瀬印木を備ふべし」と定めたので、灯台八ケ所灯船二ケ所の建設方を幕府に要請した。幕府では松平周防守がこれを管掌し、外国奉行、神奈川奉行が直接従事した。八灯台は剣埼（静岡県）観音埼（静岡県）野島埼（千葉県）神子元島（神奈川県）樫野埼（和歌山県）潮岬（和歌山県）佐多岬（鹿児島県）伊王島（長崎県）で、二灯船とは、本牧、函館のことをいう。（写真参照）

洋式灯台の出現 (二)

剣埼灯台（明治４年１月11日初点）



樫野埼灯台（明治３年６月10日初点）

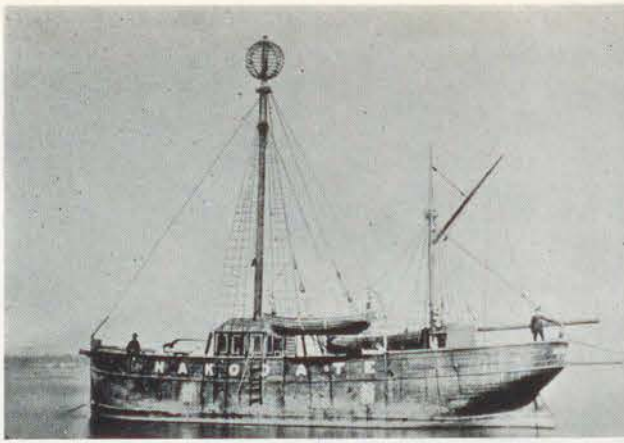


洋式灯台の出現 (三)

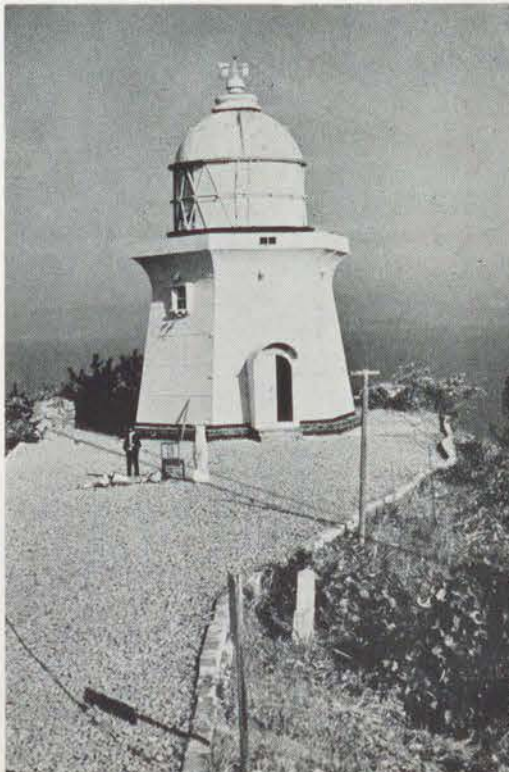
神子元島灯台は、「ブラントン」技師の設計監督による、英式建築のもので、反射鏡28個を灯籠内に置き点火した。
樫野埼灯台は、「ブラントン」技師により設計された英国式灯台で、剣埼灯台と共に灯塔は最も低く、反射鏡12個を備へたものである。
剣埼灯台は「ブラントン」氏による英国式で、反射鏡12個を備へた転轆式回転灯である。（本文1頁参照）



当時の伊王島灯台（明治4年7月31日初点）



灯船「函館」（明治4年7月7日初点）



今の伊王島灯台



神子元島灯台（明治３年11月11日初点）

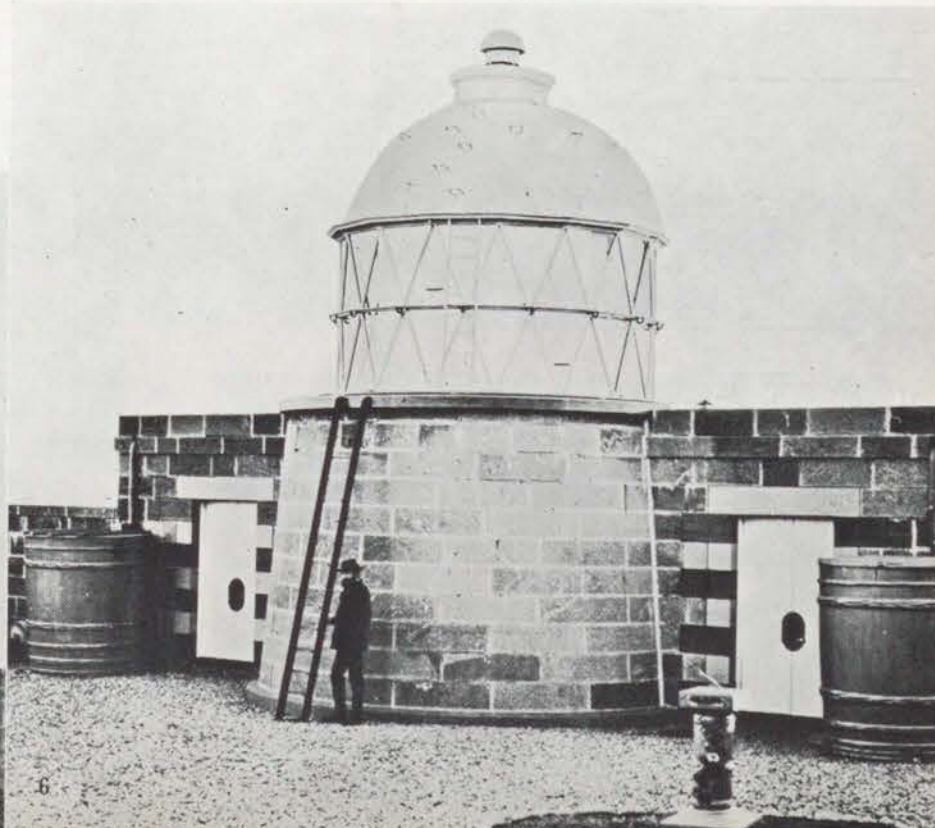
慶応二年五月英・仏・蘭・米の四ケ国と締結した江戸条約書の第十一条に「日本政府は外国貿易のため灯明台・浮木・瀬印木を備ふべし」と定められたので、灯台八ケ所灯船二ケ所の建設方を幕府に要請した。幕府では松平周防守がこれを管掌し、外国奉行、神奈川奉行が直接従事した。八灯台は剣埼（静岡県）観音埼（静岡県）野島埼（千葉県）神子元島（神奈川県）樫野埼（和歌山県）潮岬（和歌山県）佐多岬（愛媛県）伊王島（長崎県）で、二灯船とは、本牧、函館のことをいう。（写真参照）

洋式灯台の出現 (二)

剣埼灯台（明治４年１月11日初点）

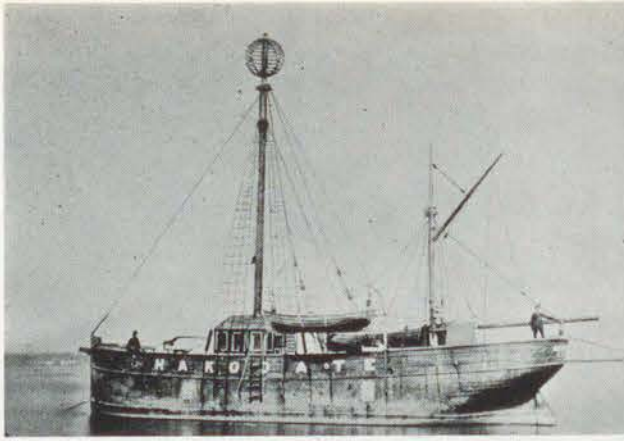


樫野埼灯台（明治３年６月10日初点）



洋式灯台の出現(三)

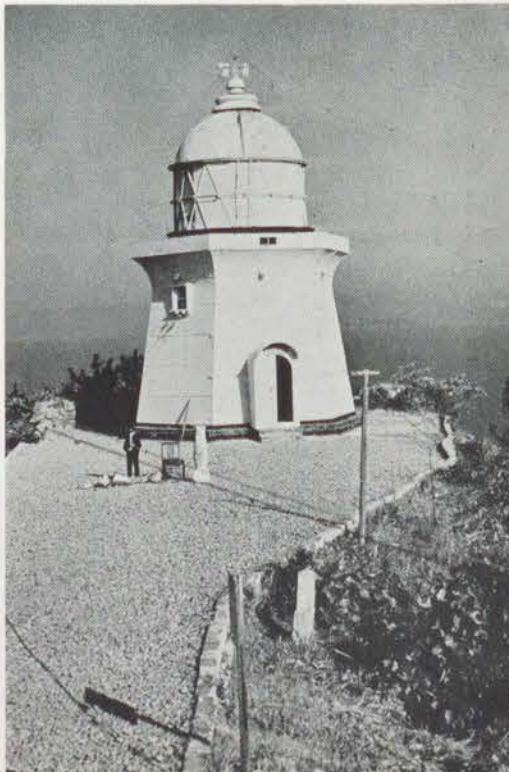
神子元島灯台は、「ブラントン」技師の設計監督による、英式建築のもので、反射鏡28個を灯籠内に置き点火した。
樫野埼灯台は、「ブラントン」技師により設計された英国式灯台で、剣埼灯台と共に灯塔は最も低く、反射鏡12個を備へたものである。
剣埼灯台は「ブラントン」氏による英国式で、反射鏡12個を備へた転轆式回転灯である。（本文1頁参照）



灯船「函館」（明治4年7月7日初点）



当時の伊王島灯台（明治4年7月31日初点）



今の伊王島灯台

観音埼灯台は、仏人技師「ウエルニー」氏の設計監督の下に、横須賀製鉄所で焼いた日本製煉瓦を使用して完成した我国洋式灯台の初めである。光源は初め石油灯だつたが後白熱灯に改めた。
本牧灯台船は、英人技師「ブラントン」氏が、英人技師「ドレーキ」氏に命じて建造したもので「戒礁丸」と命名本牧鼻ノ洲の外方に碇置した。
野島埼灯台は、「ウエルニー」の設計監督により、助手の「ブロラン」が専ら場現技師として建設されたもので、資材は観音埼灯台と同じものを用い不動白熱灯を点じた（本文1頁参照）

潮岬灯台（初代・明治6年9月15日初点）

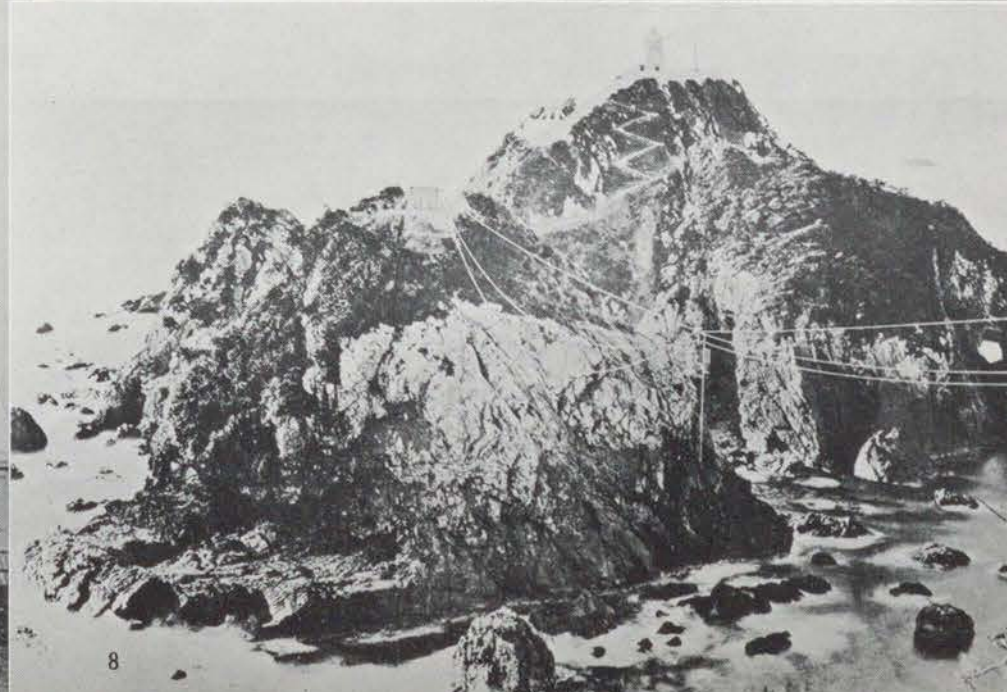


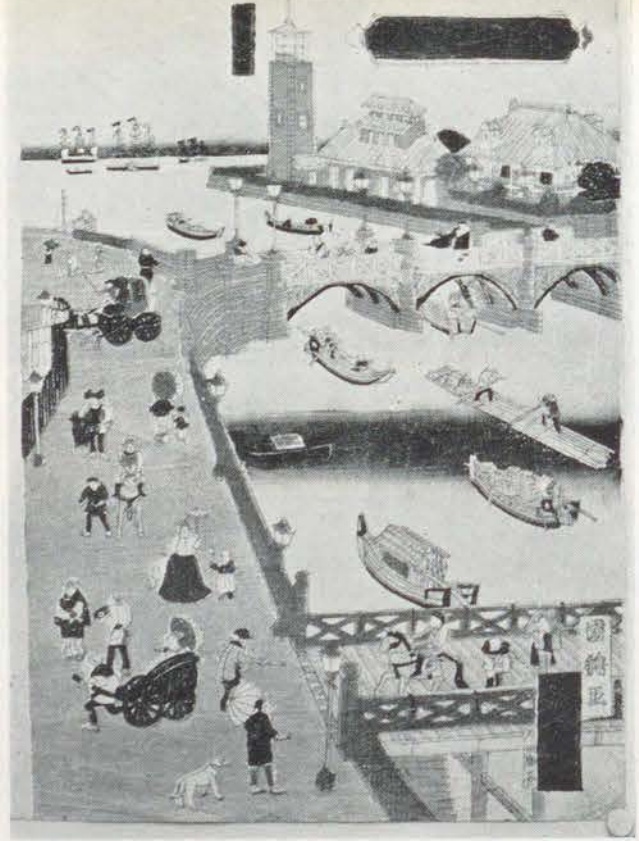
洋式灯台の出現 (四)

今の佐多岬灯台



当時の佐多岬灯台（明治4年10月18日初点）





明治天皇御臨幸当時の横浜灯台寮



(一) 灯台局の変遷

別紙ノ通更ニ御達相成候間此段相達候也

七年三月十七日　伊藤　卿

佐藤燈臺頭殿

明十八日横濱燈臺寮

行幸之節

皇后宮ニモ　行啓

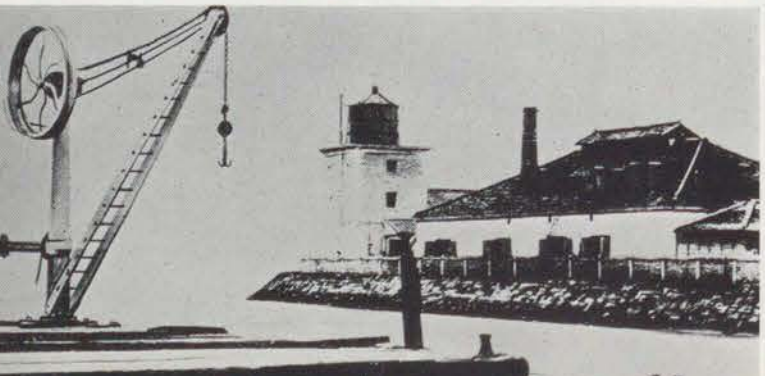
被

仰出候條此旨更ニ相達候事

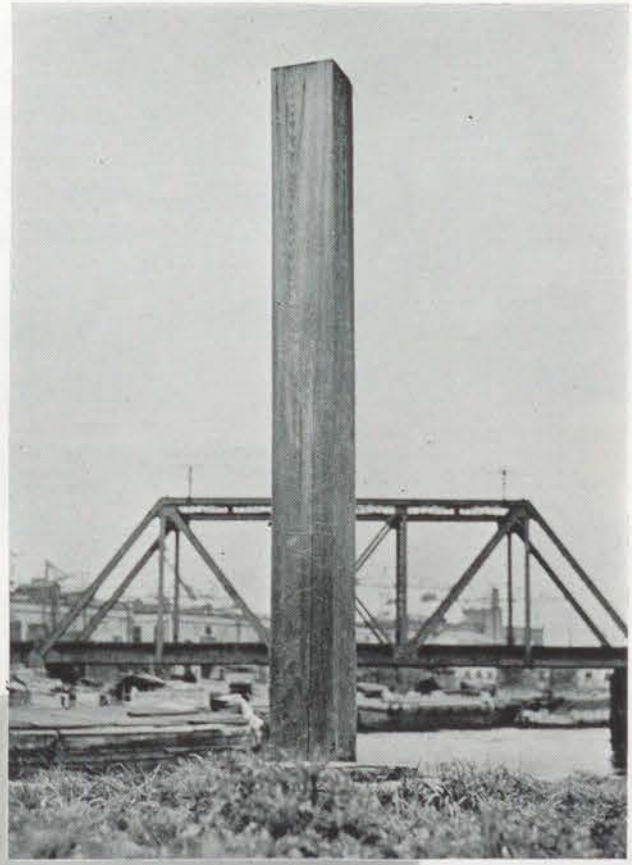
明治七年三月十七日　太政大臣　三條實美

灯台寮行幸御達書

灯台局を中心に右は工場、左端は荷揚クレーン



灯台局は、明治元年四月、政府は神奈川府に命じて神奈川裁判所をして灯台のことを知せしむるに初まる。同二年正月横浜元弁天に一局を設けた。これが灯明台役所又は灯台局と称する初めである。その後民部省、工部省と所轄が変り、同四年八月に工部省の中に灯台寮が設けられ、同七年三月寮内に試験灯台が新置された。更に幾変遷の後、昭和十八年十一月運輸省海運総局に属し、再び灯台局に復活した。昭和二十四年六月海上保安庁法の改正により、同庁灯台部となり、今日に至つたものである。

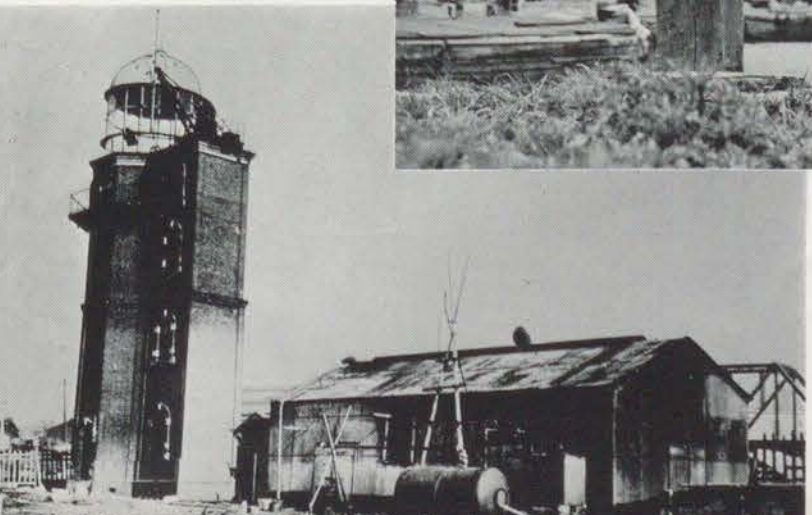


試験灯台趾の記念標



改築された試験灯台とその附近

旧試験灯台と倉庫





元の試験灯台趾に復活した旧試験灯台の新しい姿



英人技師ブラントン



仏人技師ウエルニー



野島埼灯台（初代）

灯台の構造別

品川灯台（視察中の本庁土井灯台部長—左より二人目



今の経ケ岬灯台



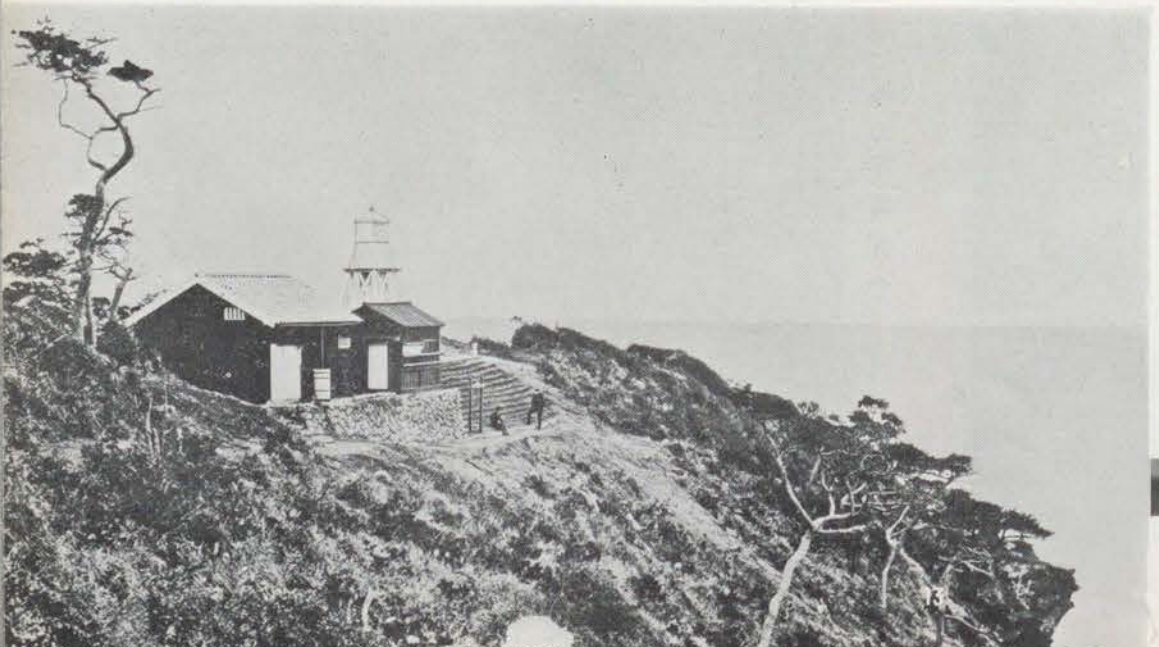
神子元島灯台（視察団１行の記念撮影）





昔の船川灯台

昔の石室埼灯台





昔の安乗埼灯台

4 鉄　造

伊江島灯台



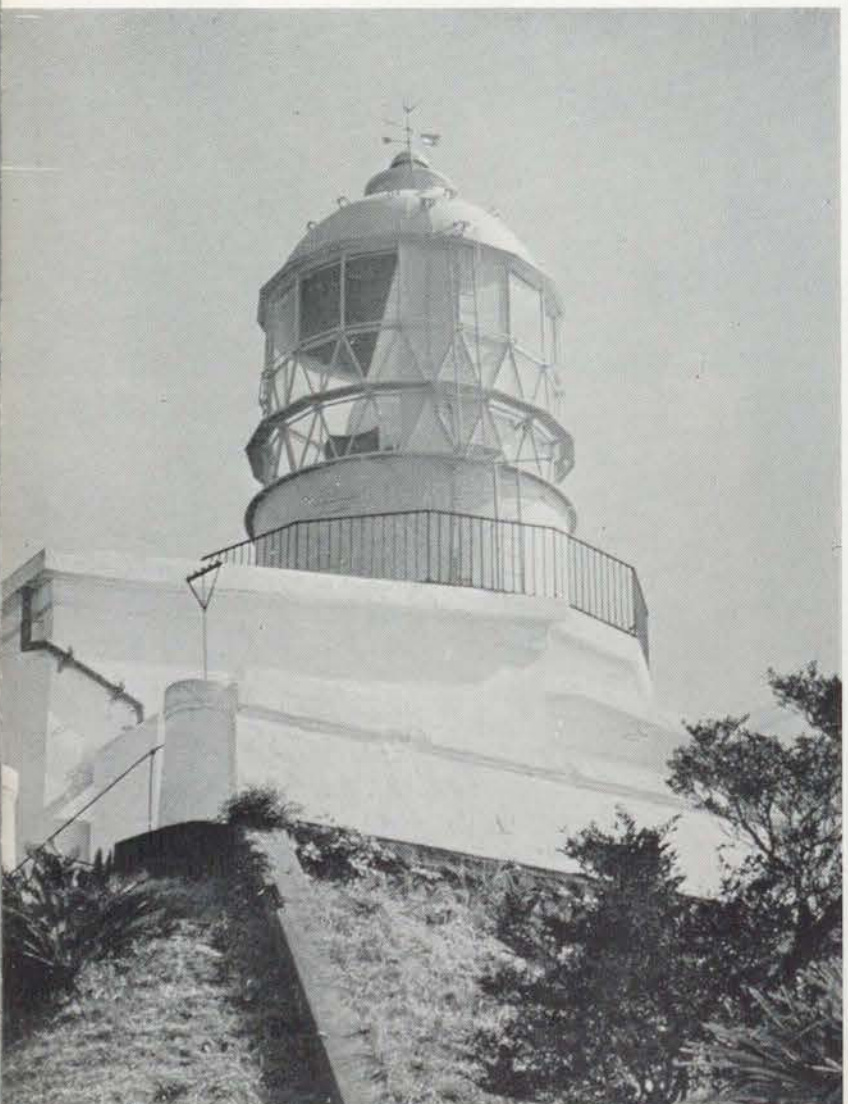
今の汐首灯台



今の平館灯台



5 コンクリート造



鞍埼灯台（我国コンクリート建築の嚆矢―一六頁の説明参照―）



使用セメントの成績良好証明書と平磯立標

城ケ島灯台（鉄筋コンクリート造にタイル張り）



6 鉄筋コンクリート造

灯台の構造は、煉瓦造、石造、木造、鉄造、コンクリート造、鉄筋コンクリート造の六種類（写真参照）で、江戸条約によつて出来た八個所の灯台と二個所の灯船は、いずれも煉瓦・石・木・鉄によつて造られた仏国式と英国式である。

コンクリート造によるものは、明治十七年八月に出来た鞍埼灯台が初めてである。当時は、創業の日も浅い小野田セメントと浅野セメントの二社しかなく、まだ鉄筋コンクリート建築法もなかつたので、鉄筋を使はぬ所謂骨なしのコンクリート造であつた。技術者の苦心も察せられるが、七十有余年を経た今も、健在を誇つている。蓋し我が国建築史上の華である。





横浜港防波堤灯台

清水灯台

我が国**ケーブルカー使用の濫觴**　佐多岬灯台（8頁参照）は、鹿児島湾を抱く佐多岬の突端岩礁の真下にある。南洋航路の船舶が初めて認める灯台として最も重要な地点にある鉄造建築のものである。明治3年3月に仮灯台を設け、同時に本灯台の建設工事を始め、資材の運搬には、はじめ和船を使つたが、名だたる難所のために多くの困難を生じた。そこで、英人技師の発案で、岬中腹の平坦地から島頂岩上にケーブルを架設し、轆轤捲きの方法によつてその資材を運搬、明治4年10月完成した八角形のものである。

このケーブルの使用は、我が国に於ける最初のもので、前記の鞍埼灯台のコンクリート使用とともに、正に日本文化の魁けをなしたものとして特筆すべき価値がある。

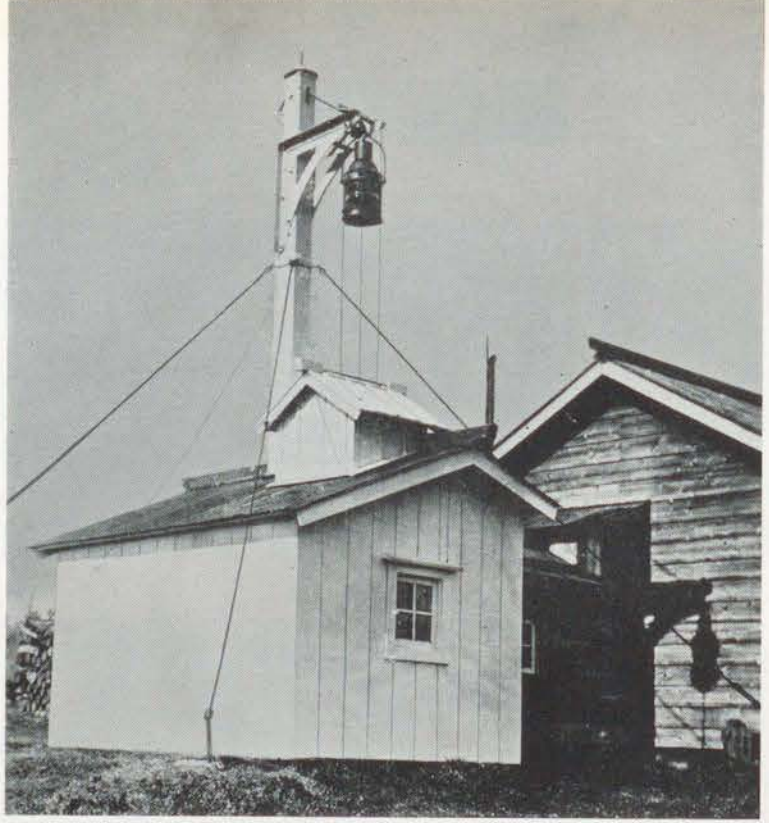
その後このケーブルは、天候不良の時など職員の交替用として明治28年頃迄使用されていた。

尚、灯台や官舎等が白く塗られているのは、遠くから灯台を認めることが出来る便宜のためである。

航路標識の種類



弾痕の跡も生々しい水ノ子島灯台



大泊灯竿

夜標(一)



灯船（東京）

夜　標 (二)

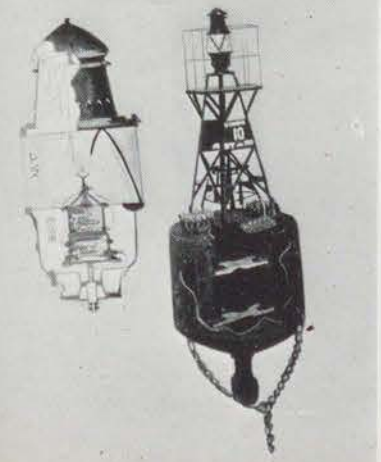


金伏港灯柱



丸亀導灯（前灯）上と（後灯）下

本牧灯浮標と灯籠内部







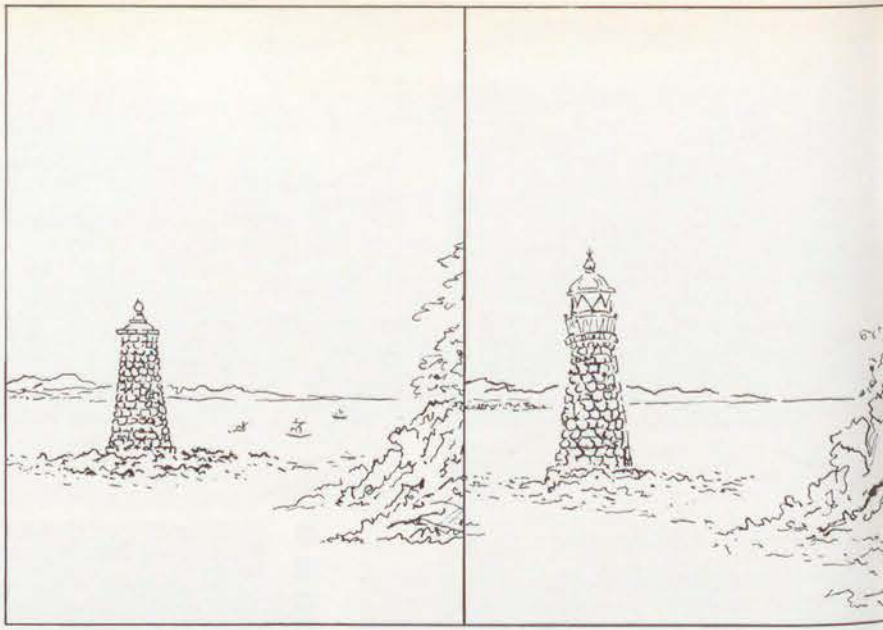
昼標(一)



陸標（神島）



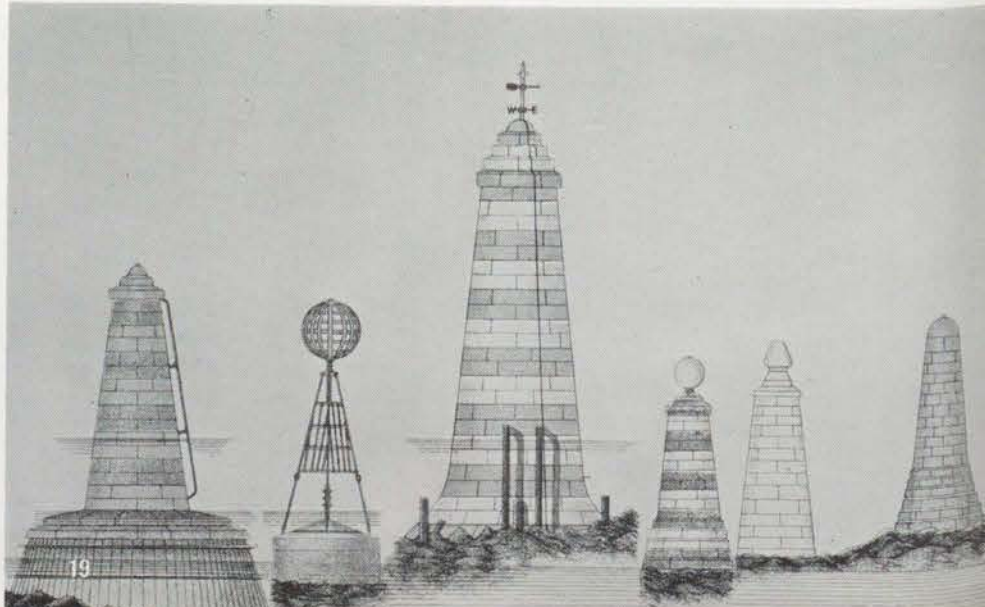
現在の金ノ弦立標

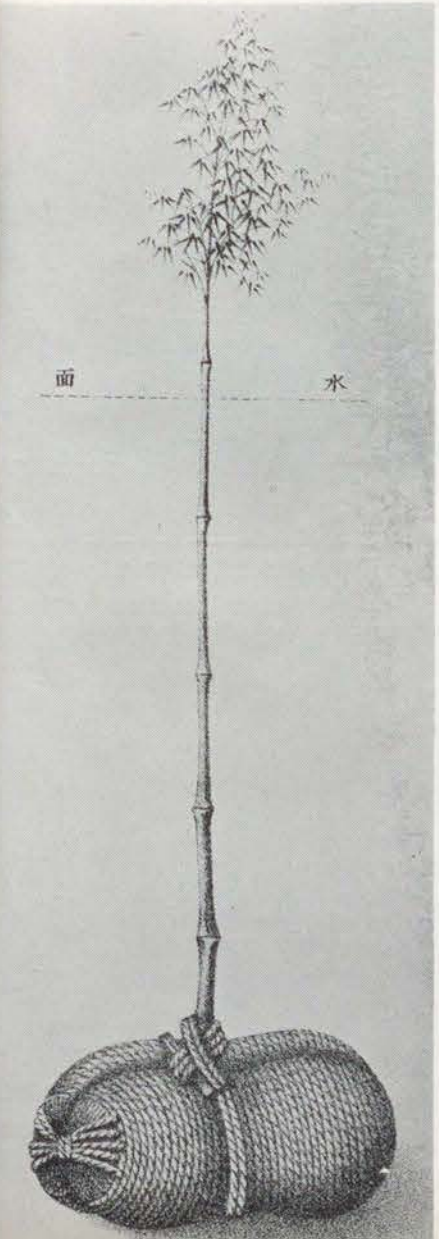


俎板立標絵（明治４年７月建設石造円形黒色塗水面上19尺）

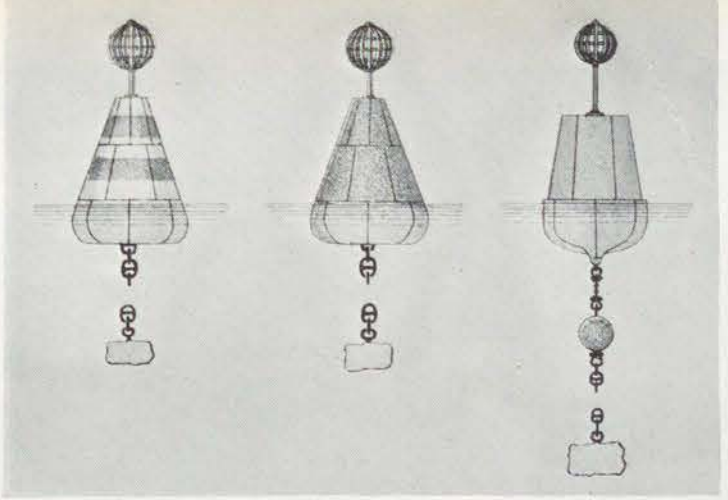
俎板立標絵（明治23年11月初めて灯籠を…け揮発油灯を点ず、大正10年金ノ弦に移…

礁標の図（左より１与次兵衛礁標、２鳴瀬、３俎板、４伏瀬、５釜石、６長太夫の各礁標）（工部統計誌より）

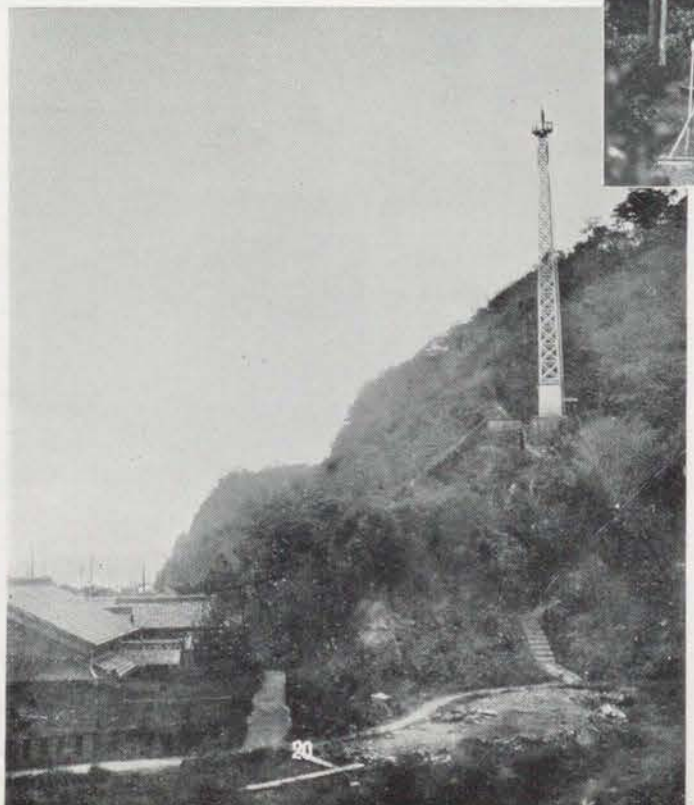




浦賀港旧礁標の図（工部統計誌より）



浮標の図（左横浜浮標、中中ノ洲東端、右金伏の各灯浮標）（工部統計誌より）

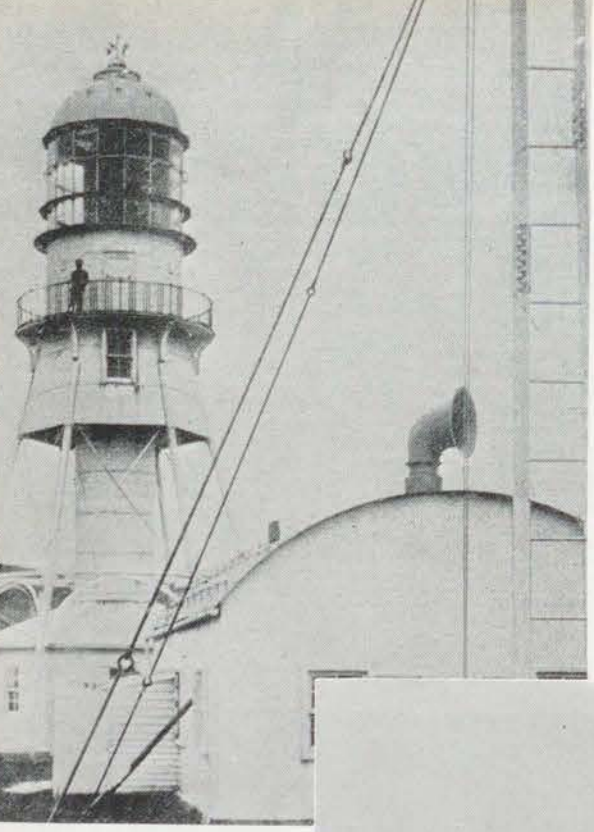


鳥羽低灯



鳥羽高灯

昼標（三）



アトリヤ（千島）灯台の霧笛と霧笛用熱機関（下）

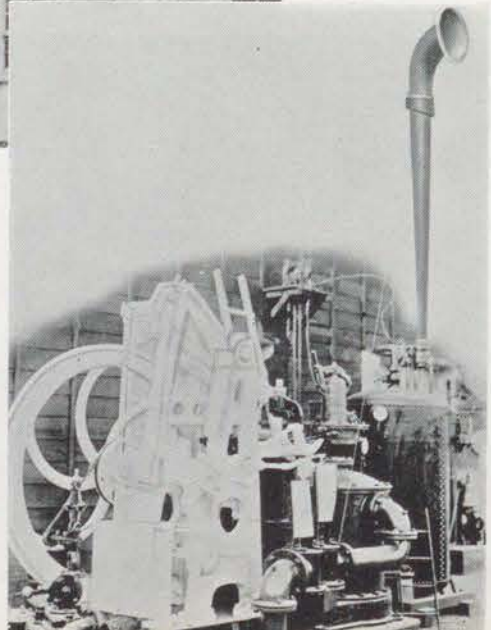


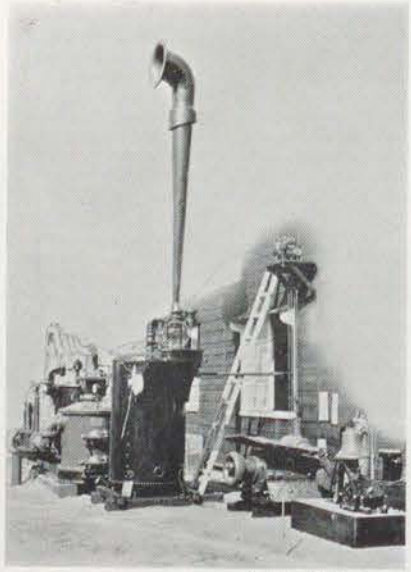
納沙布灯台の霧笛（空気サイレン）

平館灯台の霧笛（ダイヤホーン）

霧信号

(1) 霧笛





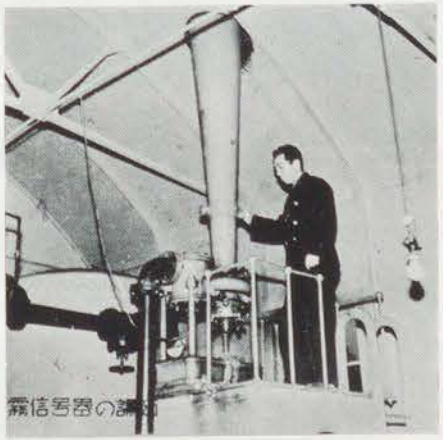
霧信号機器



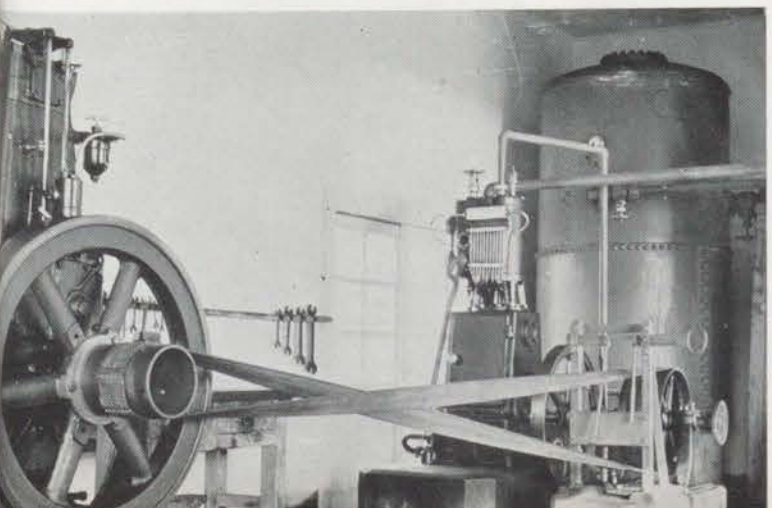




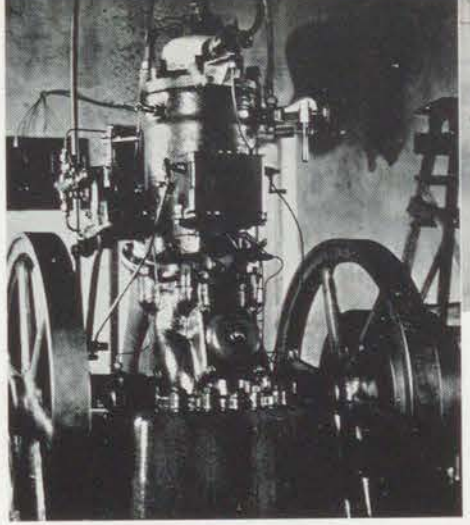
新しい原動機（上・下）



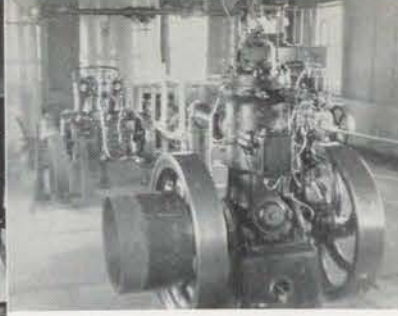
霧笛の操作（左と上）



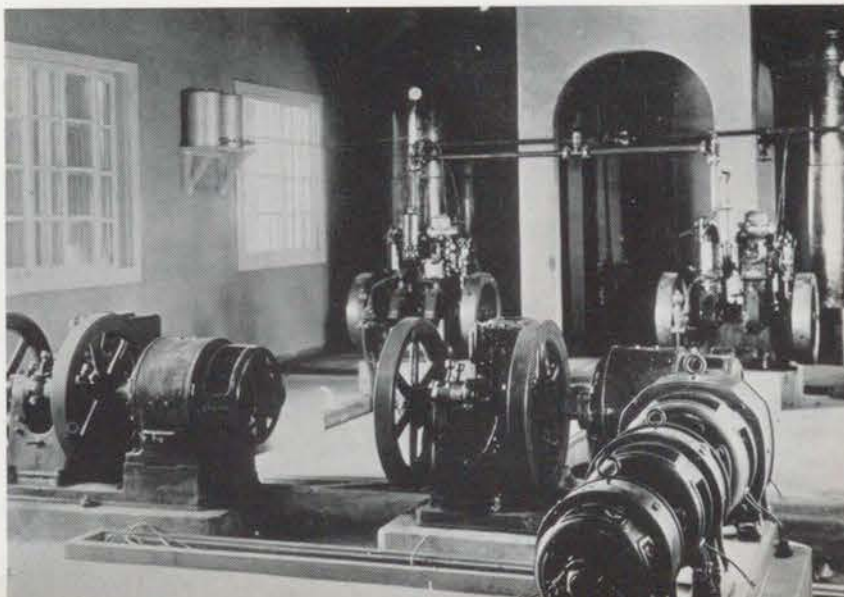
新しい霧笛用原動機及空気圧さく機



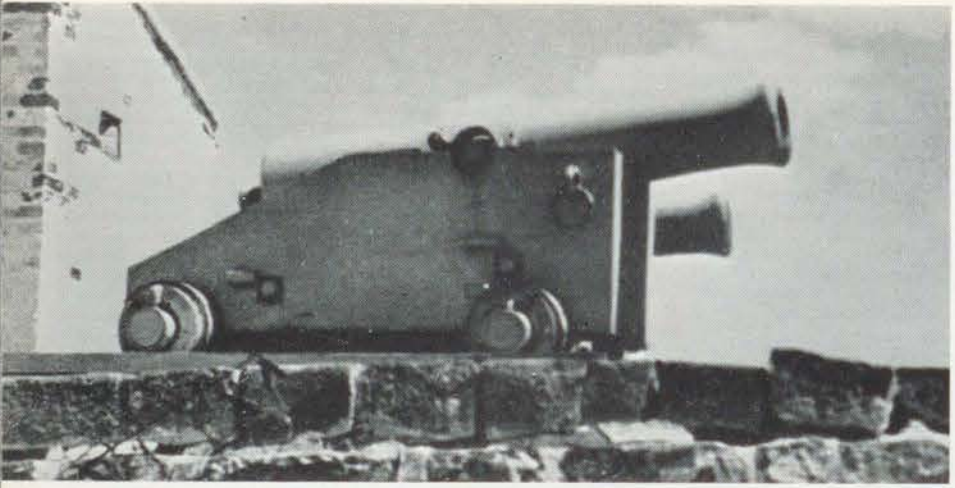
古い霧笛用原動機（右・左）

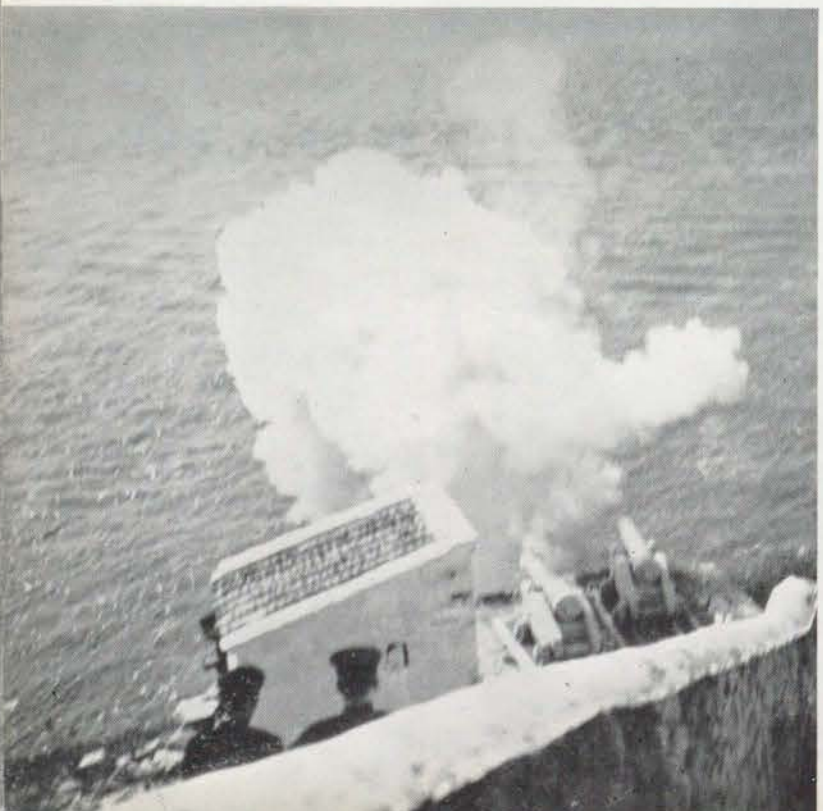


新旧霧笛用
原動機の比較



霧鐘と霧砲





老鉄山灯台の霧砲（上）と信号中の同砲（下）

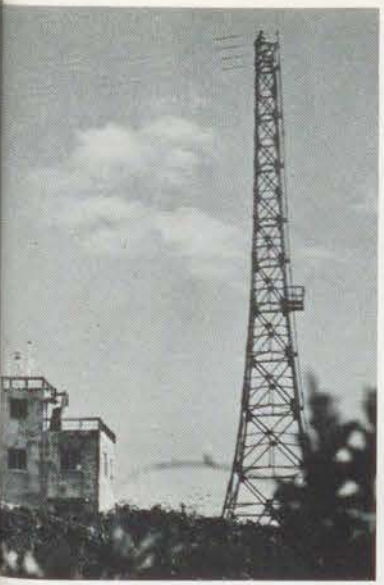


計羅武威埼灯台（千島）の霧鐘



葛登支灯台の霧鐘

爆発信号
水中音信号
無線方位信号
通航潮流信号

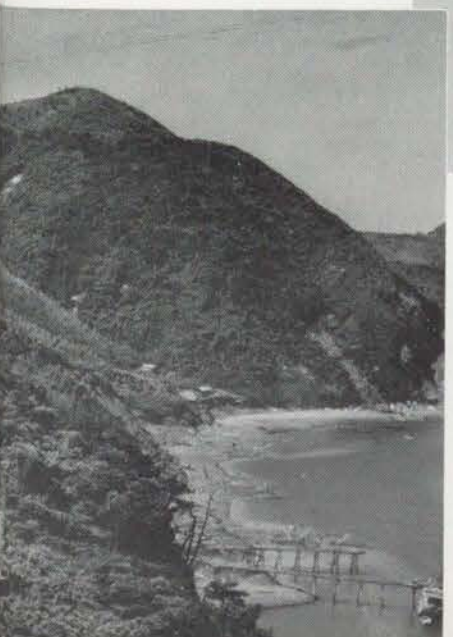




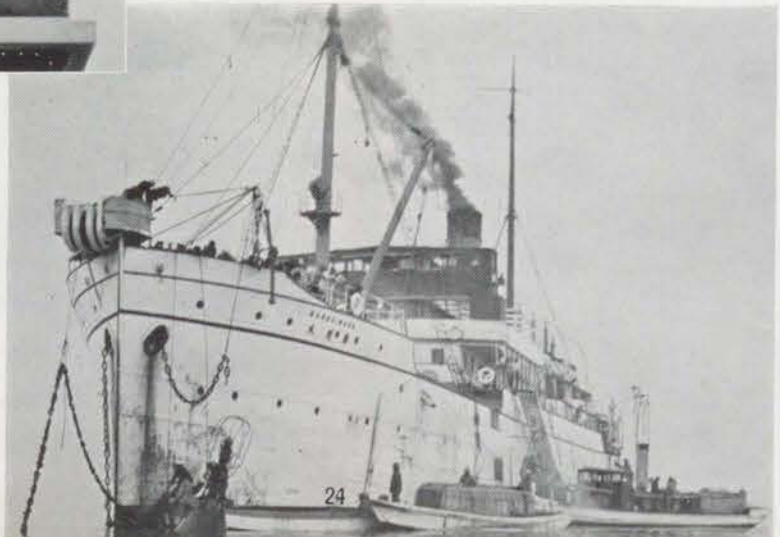
水中音信号（桂灯浮標）

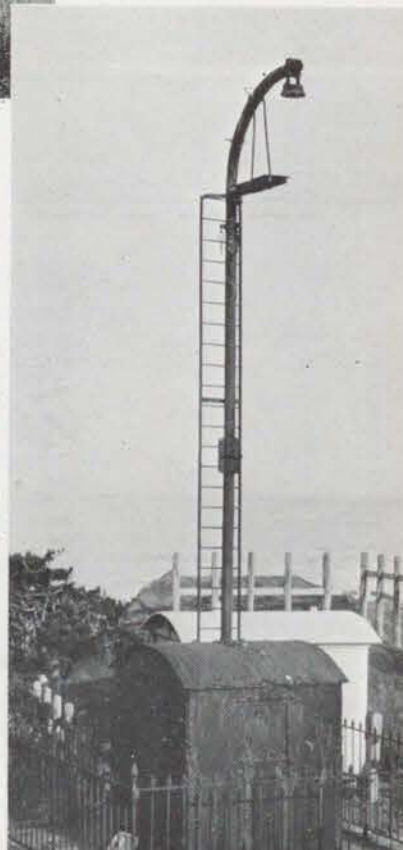


室蘭港灯台の爆発信号



荒洲桂灯浮標（水中音信号）の引揚作業

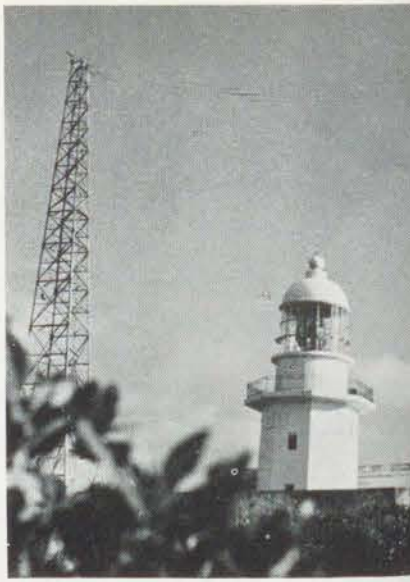




野島埼灯台の爆発信号

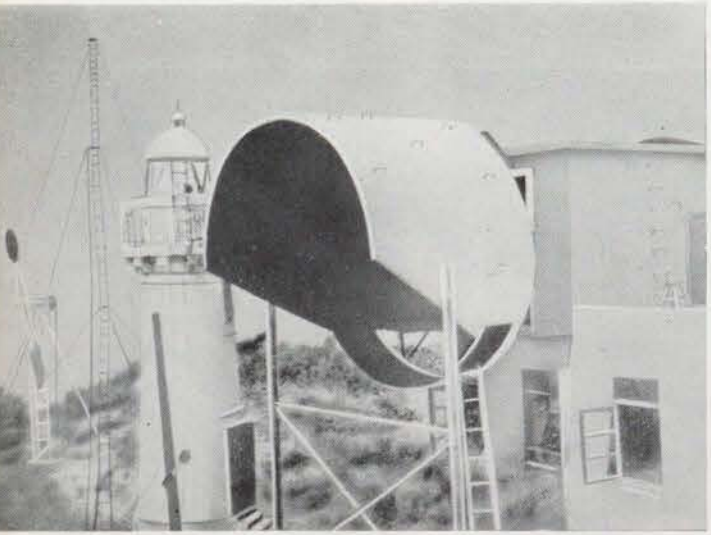


大浜埼灯台の航通信号所と潮流信号所

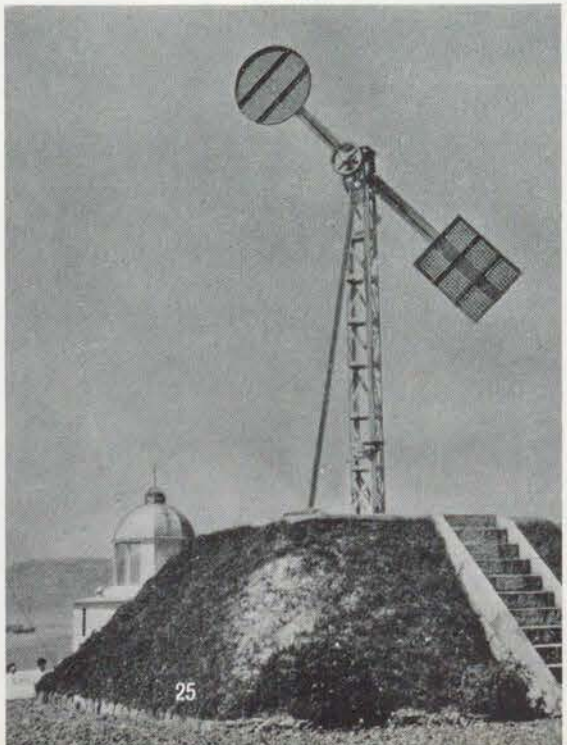


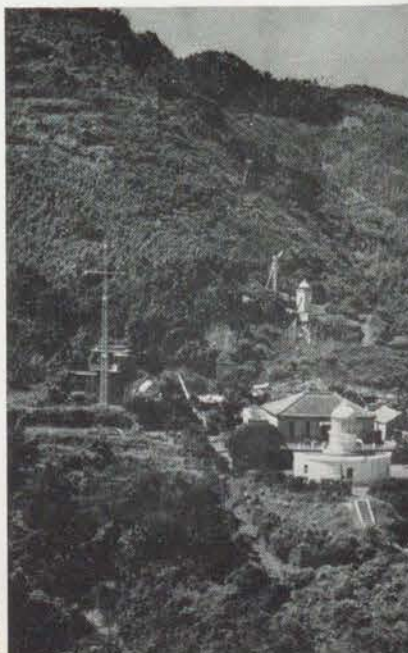
女島の無線方位信号所

通航信号機



通航信号機





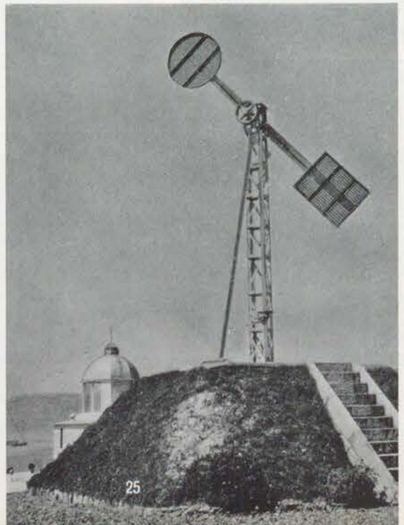
部埼灯台の通航・潮流信号所（前より上へ通航信号所、灯台、待機所水害で崩壊した待機所跡、潮流信号塔（夜間用、同じく書間用の順）



大浜埼灯台の航通信号所と潮流信号所



通航信号機



通航信号機

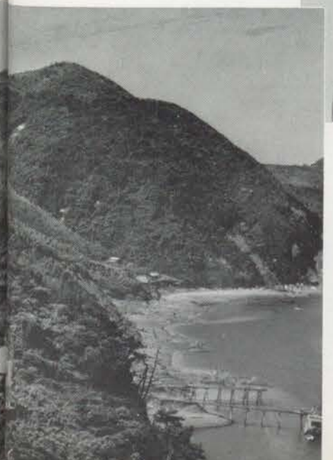
部埼灯台の通航・潮流信号所（前より上へ通航信号所、灯台、待機所水害で崩壊した待機所跡、潮流信号塔（夜間用、同じく書間用の順）



女島の無線方位信号所









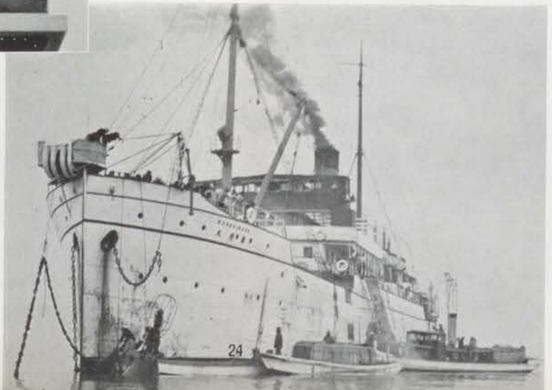
水中音信号（桂灯浮標）

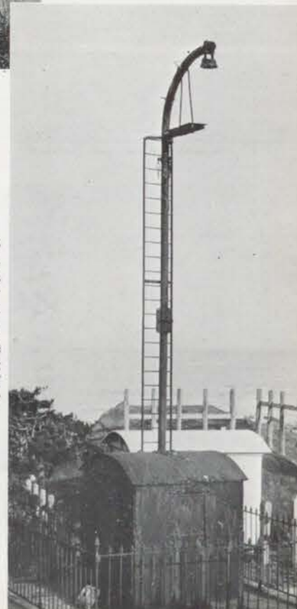


室蘭港灯台の爆発信号

爆発信号
水中音信号
無線方位信号
通航潮流信号

荒洲桂灯浮標（水中音信号）の引揚作業

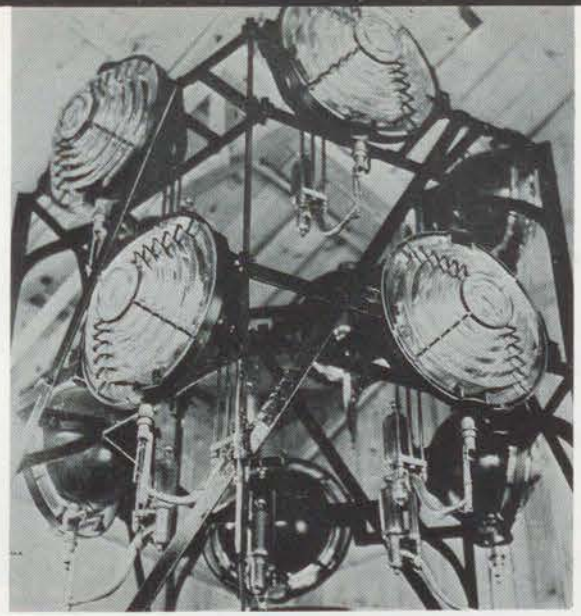




野島埼灯台の爆発信号

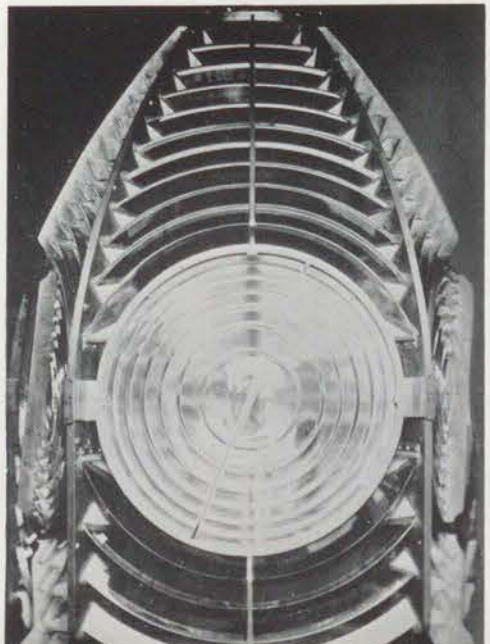


ンズ (1)



樫野埼灯台（第二等）

2等反射鏡

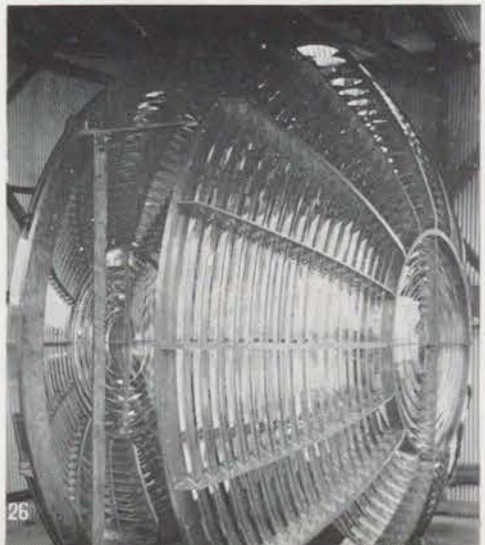


2等閃光レンズ（七〇〇糎）

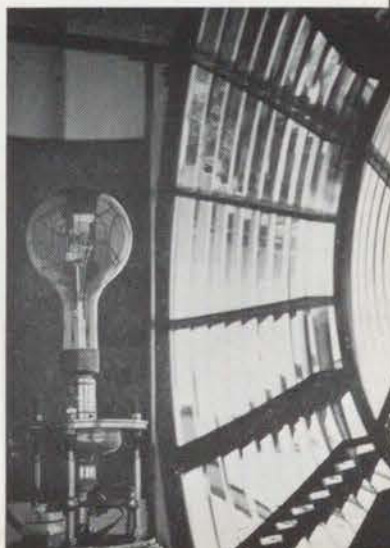


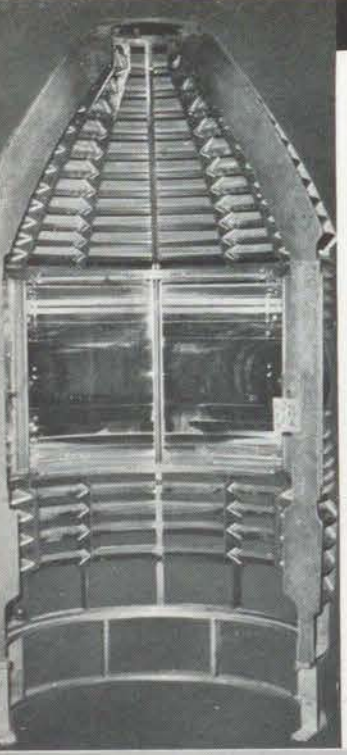
水の子島灯台（第一等）

1等閃光レンズ

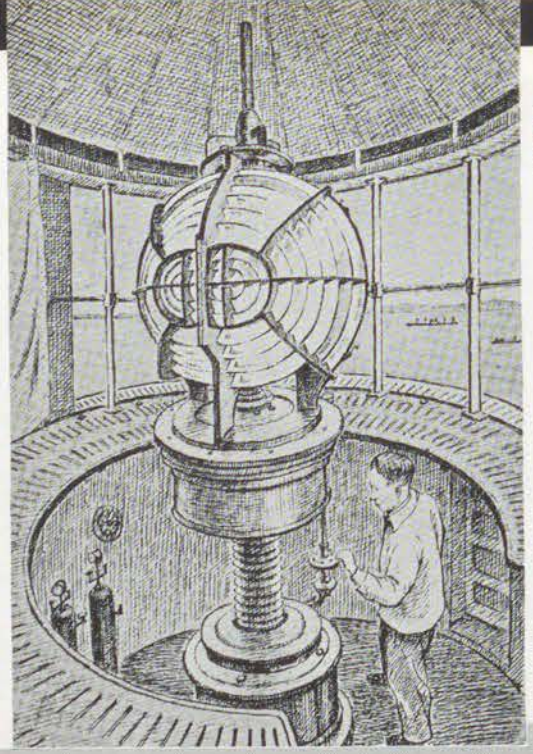


1等閃光レンズと光源（920糎）





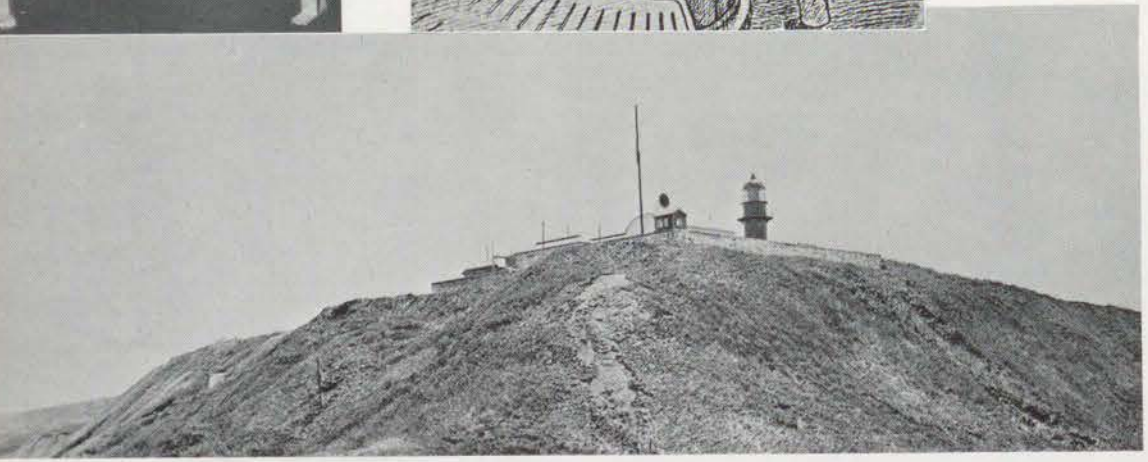
3等不動レンズ



3等閃光レンズ（大五〇〇糎、小三七五糎）



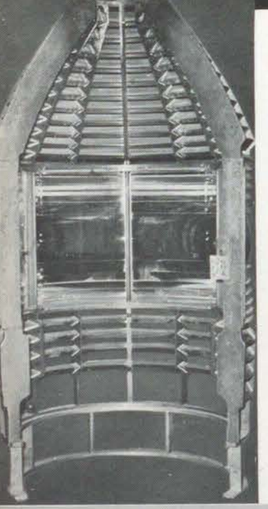
古い3等不動レンズ



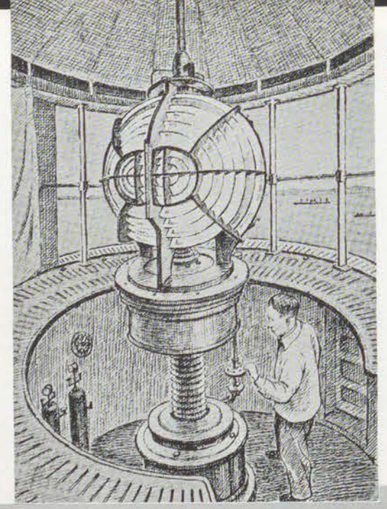
稚内灯台（第三等）



灯台の等級と



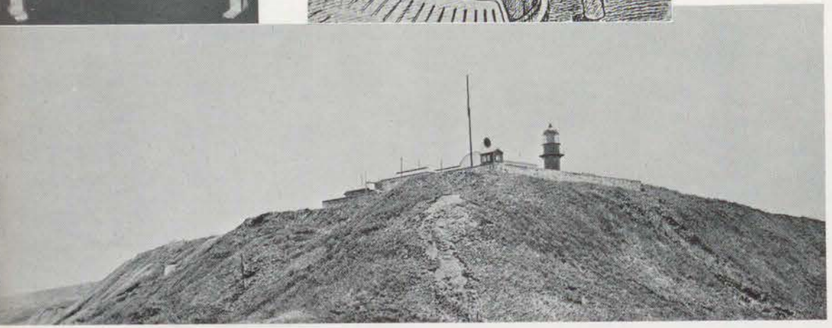
3等不動レンズ



3等閃光レンズ（大五〇〇粍、小三七五粍）



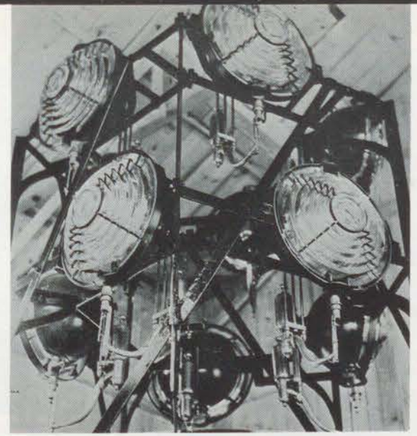
古い3等不動レンズ



稚内灯台（第三等）

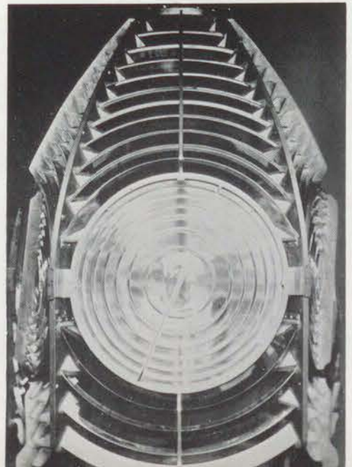


灯台の等級とレンズ (1)



樫野埼灯台（第二等）

2等反射鏡

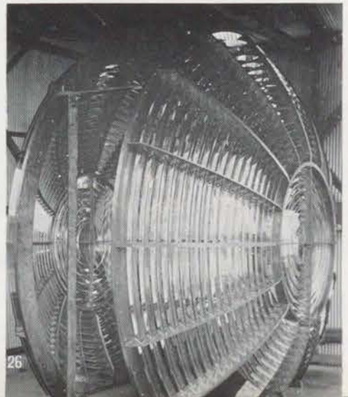


2等閃光レンズ（七〇〇粍）

水の子島灯台（第一等）



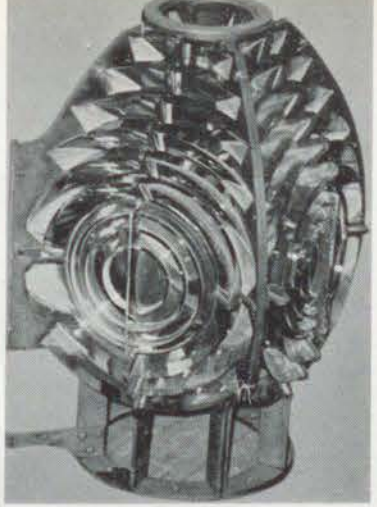
1等閃光レンズ



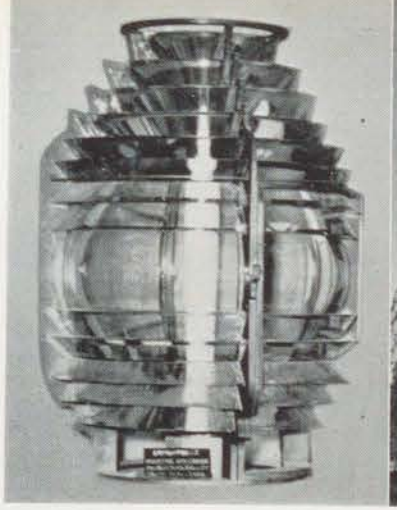
1等閃光レンズと光源（920粍）



灯台の等級とレンズ(2)



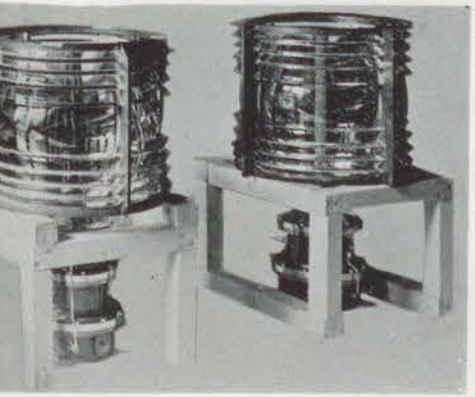
4等閃光レンズ（二五〇粍）



古い4等不動レンズ



古志岐島灯台（第四等）



無等不動レンズ
（最少にして一五〇粍以下）



大浜埼灯台（無等）

口の津灯台（第六等）
（レンズのサイズ一五〇粍）

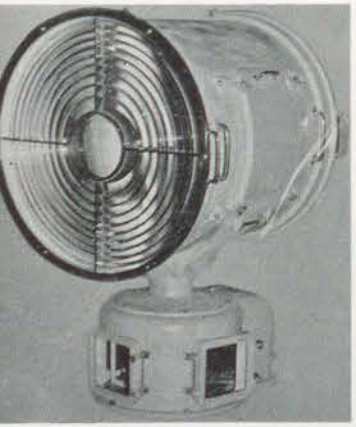


姫埼灯台（第五等）
（レンズのサイズ187.5粍）

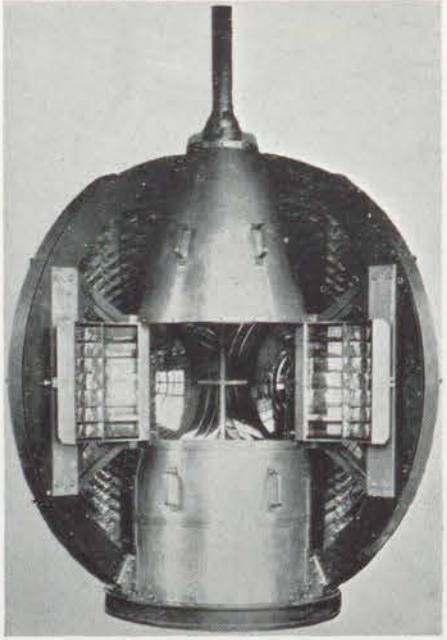


閃光灯レンズの図解

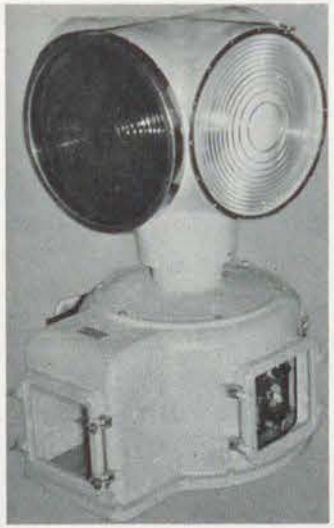




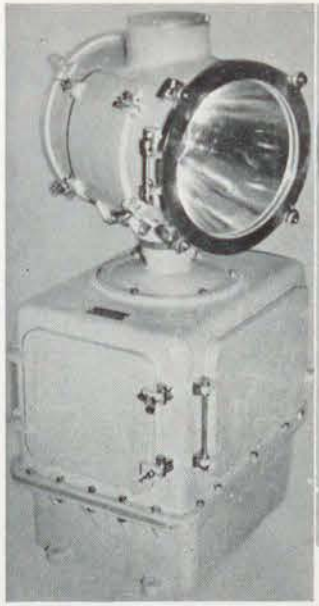
最近の回転ビーコン（60センチ）

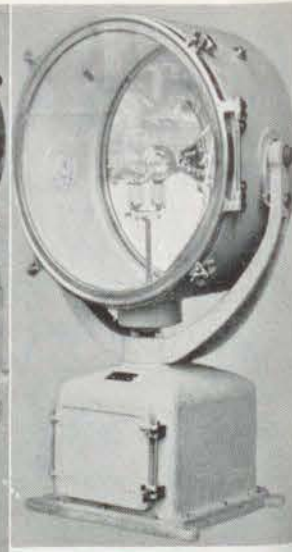


最近の回転ビーコン（90センチ）



回転ビーコン（45センチ）



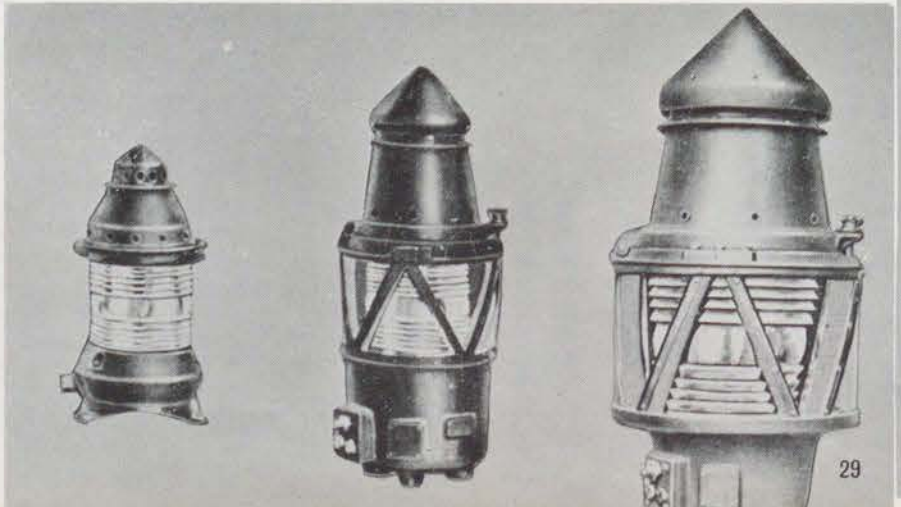


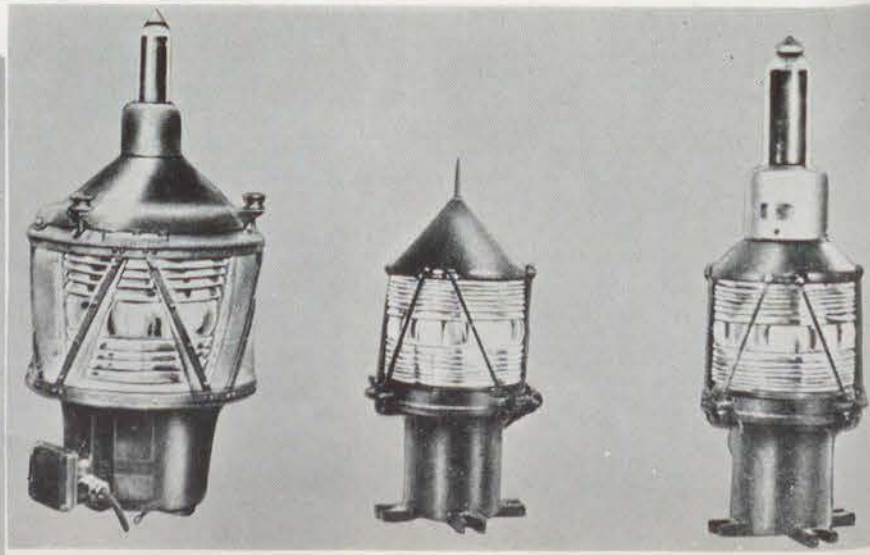
新しい反射鏡（60センチ）

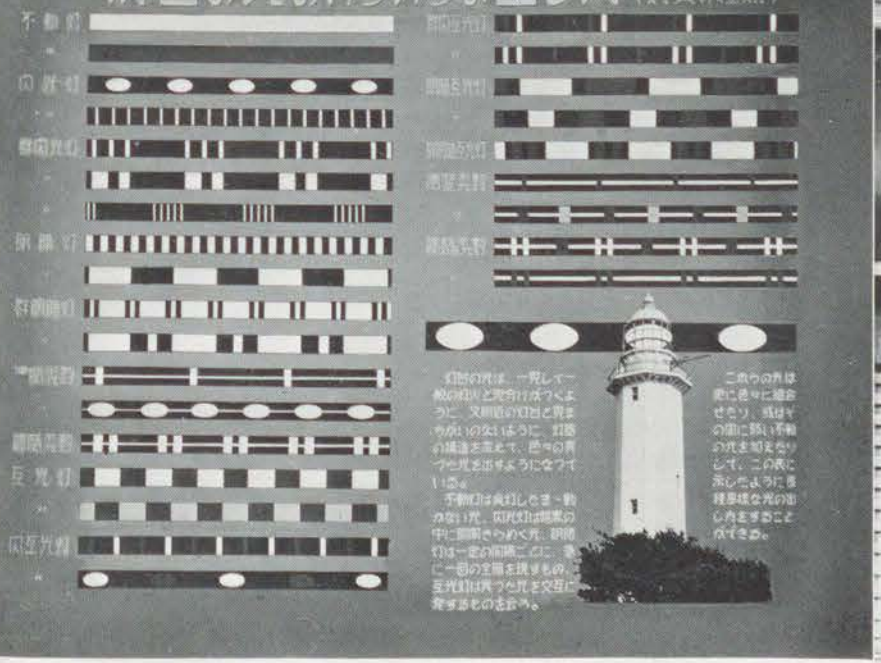
最新式反射鏡（40センチ）

日光弄付灯浮標レンズ

灯浮標の灯籠及びレンズ（右200粍、中200粍、左150粍）

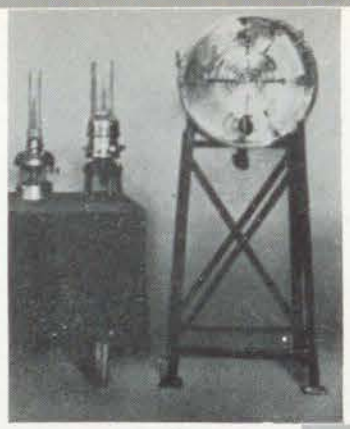





灯台の光のいろいろな出し方（灯質の種類）
不動灯
白閃光
白閃光
白閃光



白熱灯器



石油灯器



瓦斯灯器



古い灯器の種々

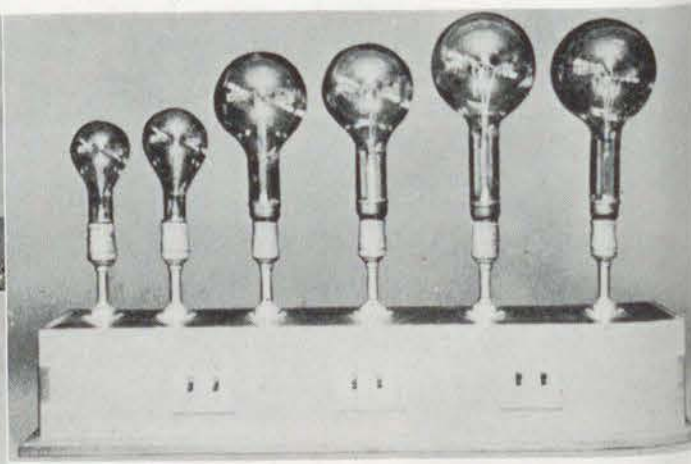
電気灯器



風車発電機



風車発電機全景





新式灯浮標灯器（電気）

灯器（光源）



外国の最古の風車発電機

皇室と灯台

明治天皇行幸趾
（横浜灯台局）

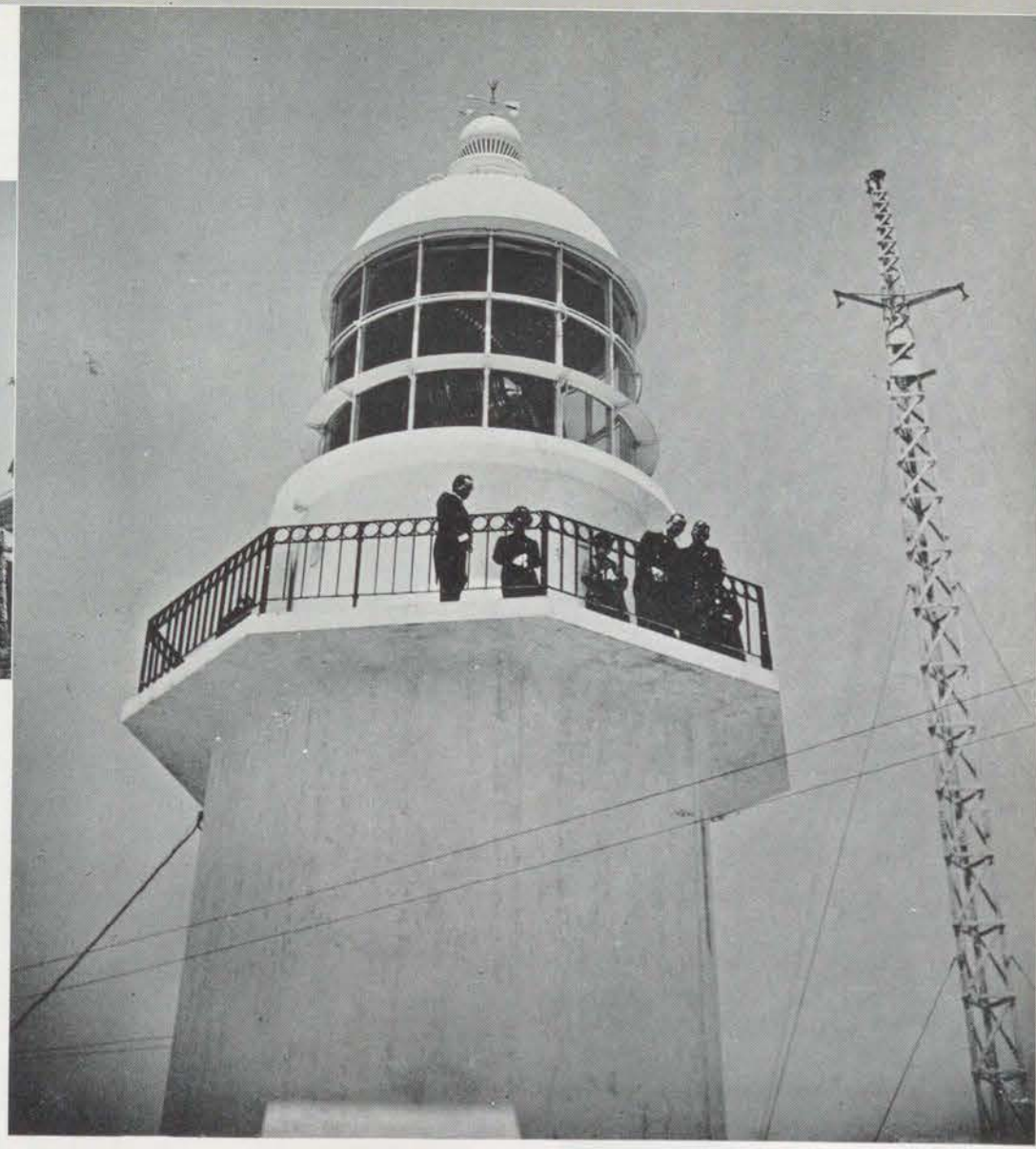




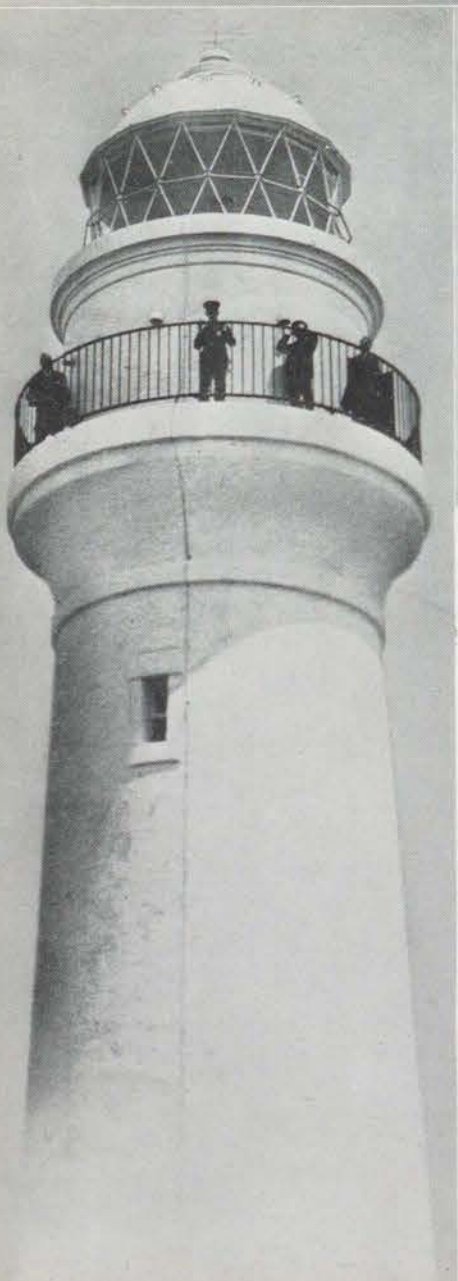
行啓当時の観音埼灯台（二代目）

天皇陛下樫野埼灯台行幸当時の御召艦

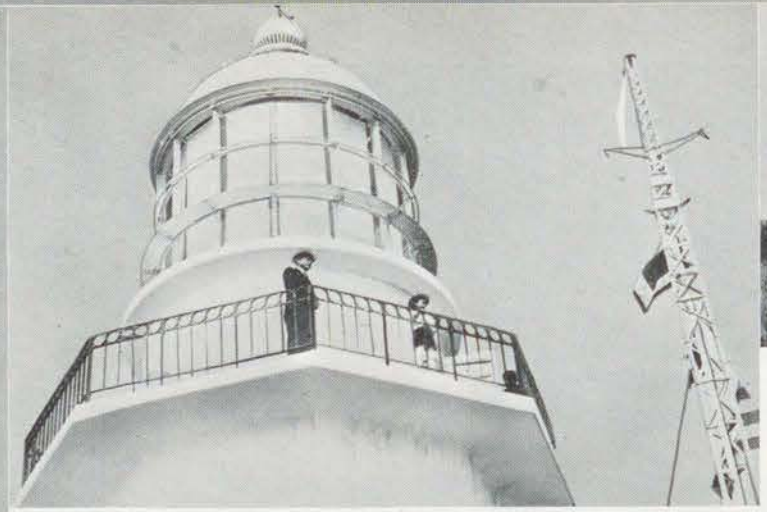




貞明皇后観音埼灯台に行啓



天皇陛下潮岬灯台に行幸



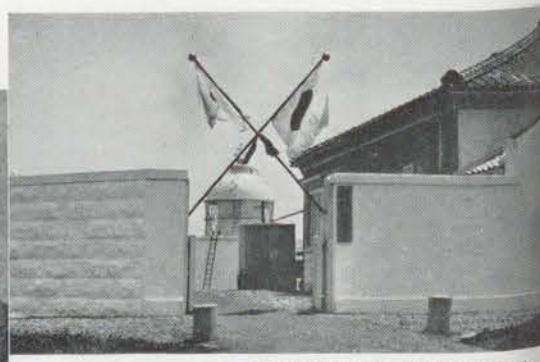
皇太子殿下剣埼灯台御見学



樫野埼灯台に行幸の陛下



→御仁慈のラヂオを囲んで



行幸当日の樫野埼灯台



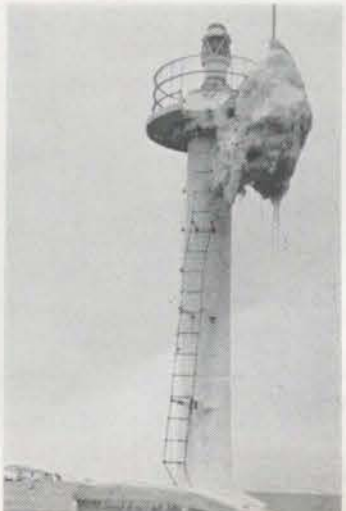
貞明皇后御下賜のラヂオ

灯台の種々相（1）





氷結した厚田港西防波堤灯台の灯塔（上）とその全景（下）

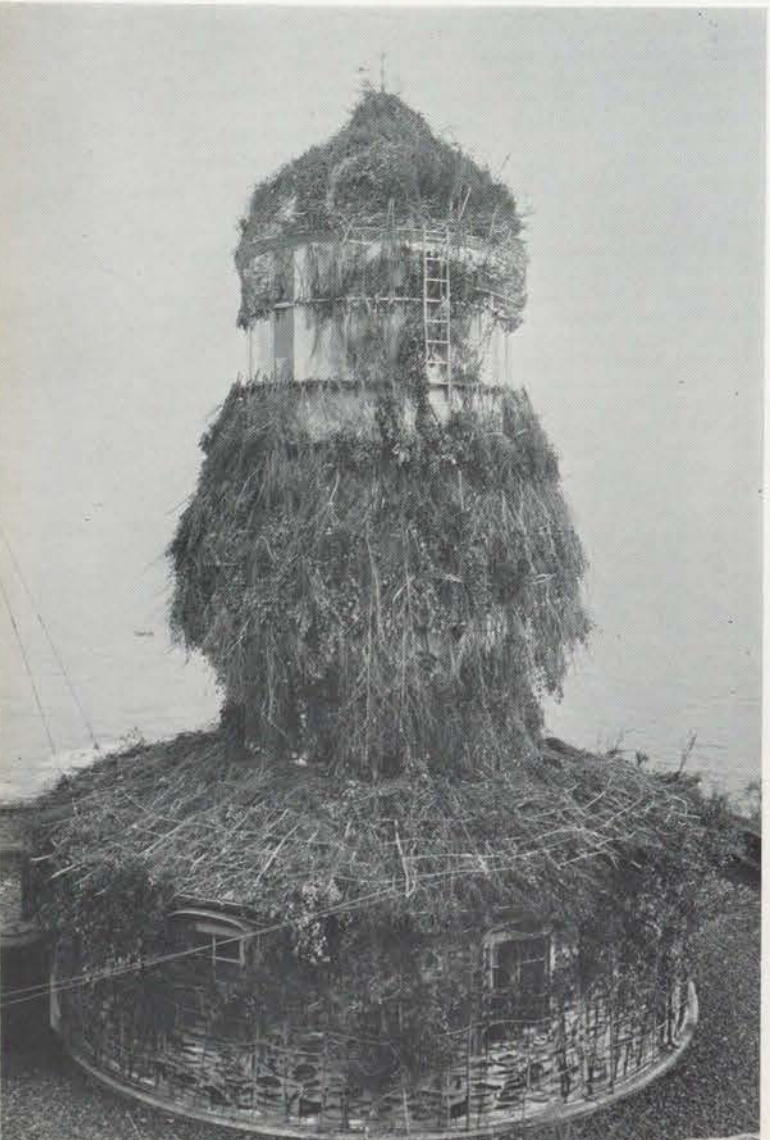




氷結した増毛港防波堤灯台全景（上）とその下部と砕氷作業中の職員（下）

氷結した灯台

擬装した終戦前夜の灯台





海面上から一番高い余部埼灯台

地上から一番高い日ノ御埼灯台



灯台の夜景（青苗岬灯台）



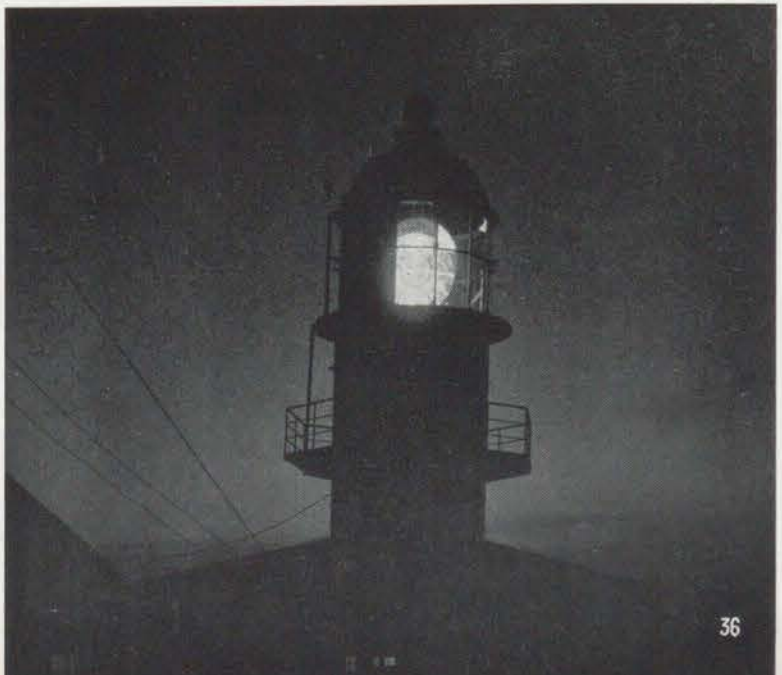




待機所より最遠距離の草垣島灯台の遠・近二景



最大光力をもつ室戸埼灯台

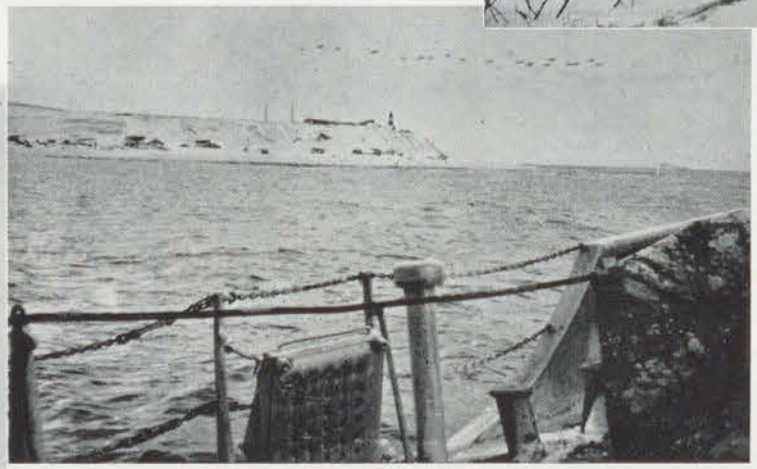


最大光達距離のある余部埼灯台



最西端の女島灯台

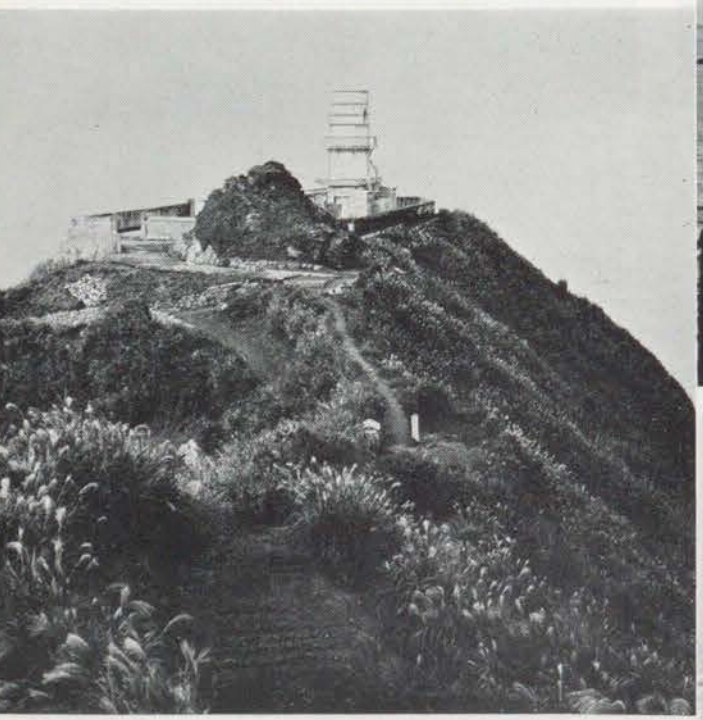




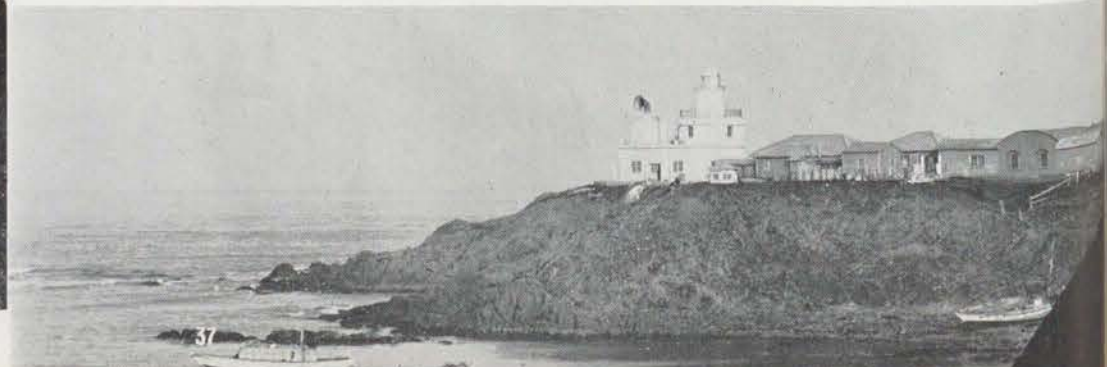
最北端の宗谷岬灯台とその遠望

灯台の種々相（3）

最東端の納沙布埼灯台



最南端の曾津高埼灯台





神子元島灯台



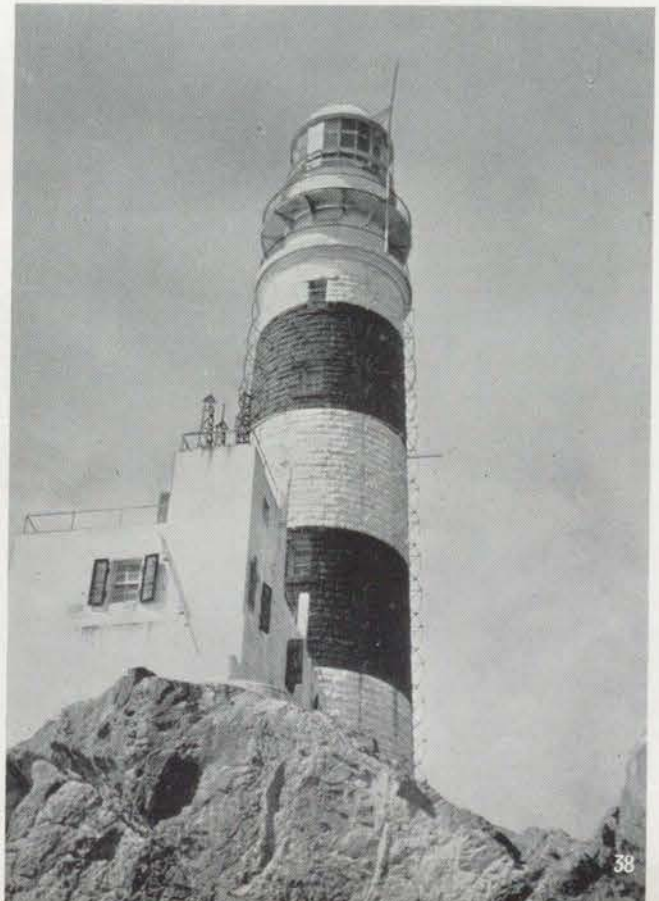
今の烏帽子島灯台

昔の烏帽子島灯台（下）

水の子島灯台

一木一草もない灯台



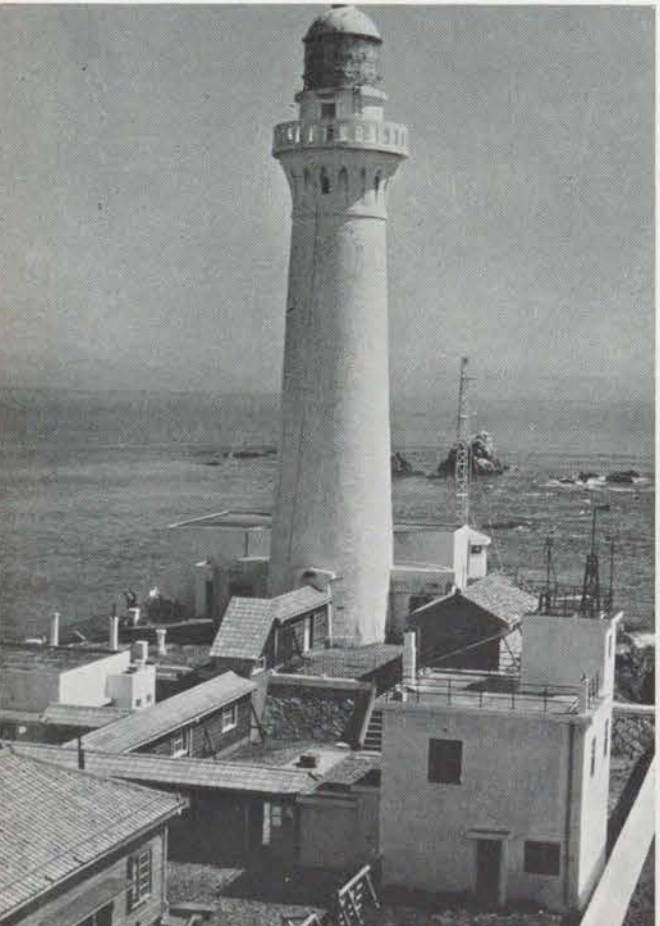


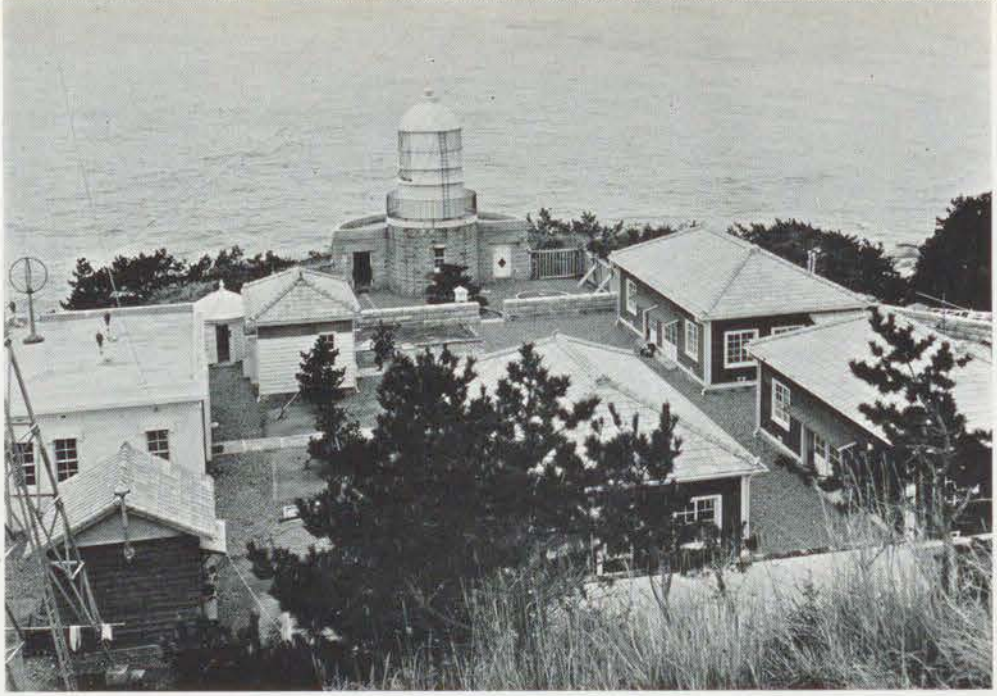


灯台の種々相(4)

規模の大きい灯台

尻矢埼灯台



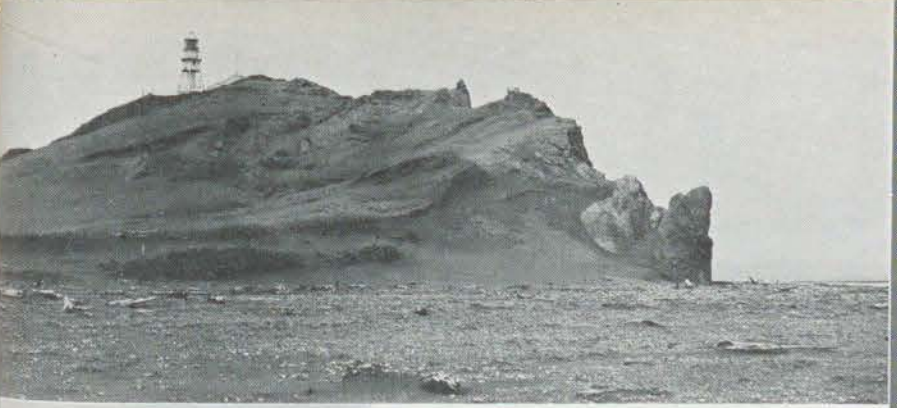


金華山灯台

暁の犬吠埼灯台とその全景



想い出の灯台



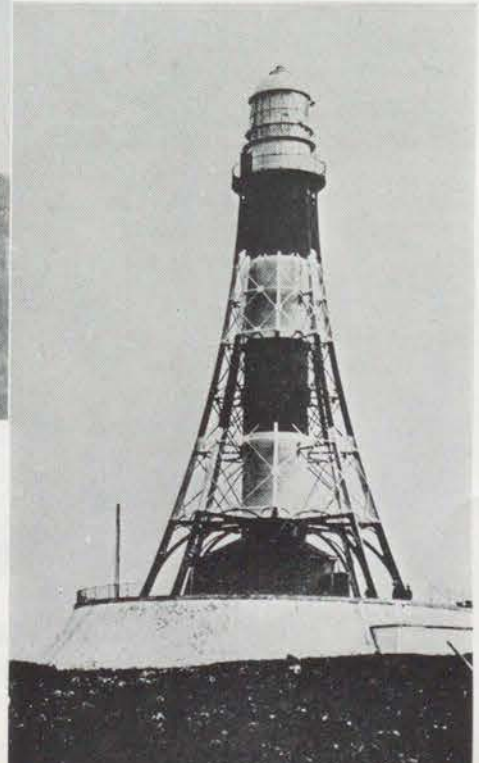
千島の安渡移矢岬灯台



千島の計武羅威岬灯台



琉球の伊江島灯台

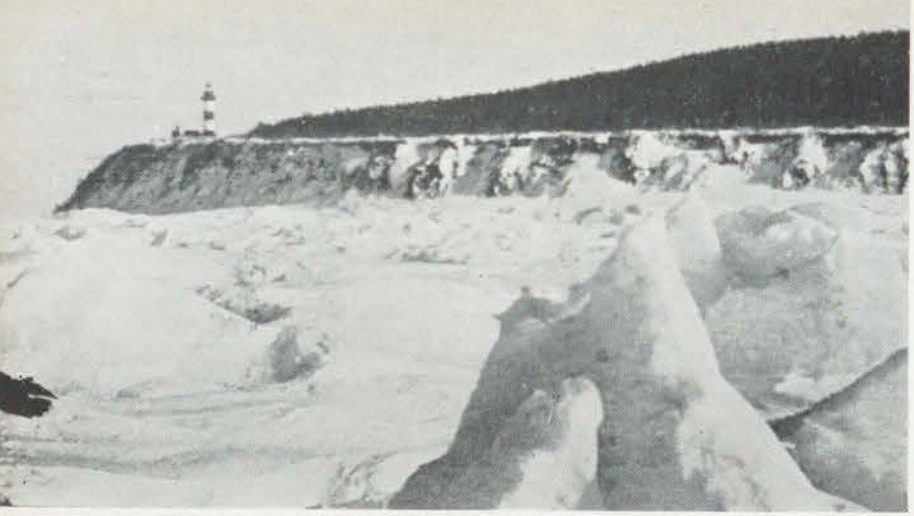




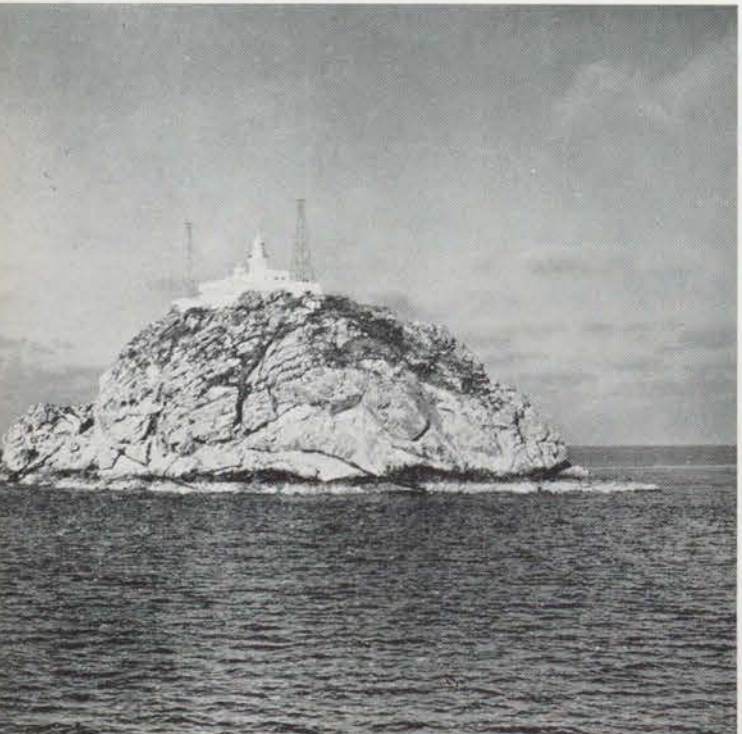
樺太の二丈岩灯標（自動ベル付）

関東州の黄白鼠灯台

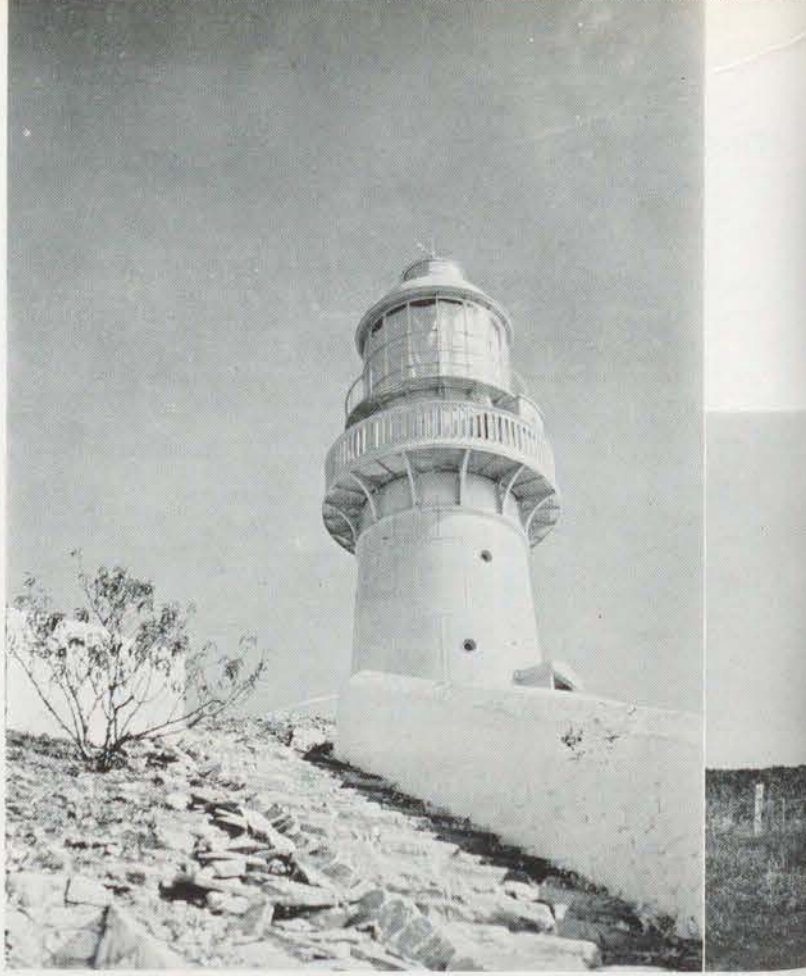




樺太の愛郎灯台



関東州の円島灯台



関東州の老鉄山灯台



樺太の西能登呂岬灯台

沖縄の先原埼灯台





関東州の老虎尾灯台

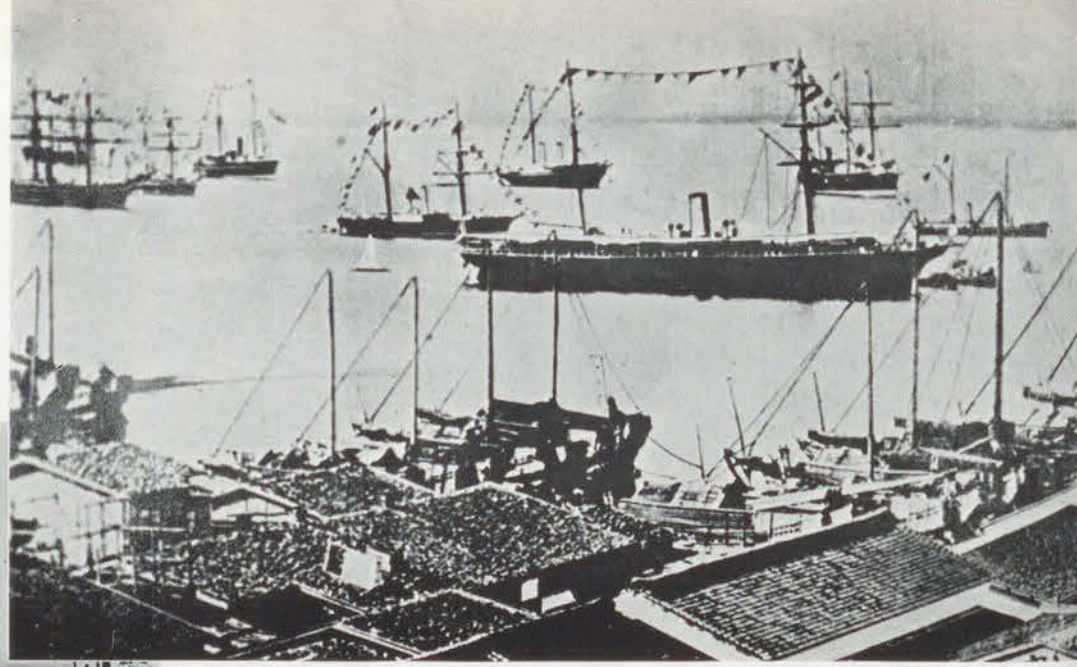
樺太の大泊灯竿



関東州の大三山灯台

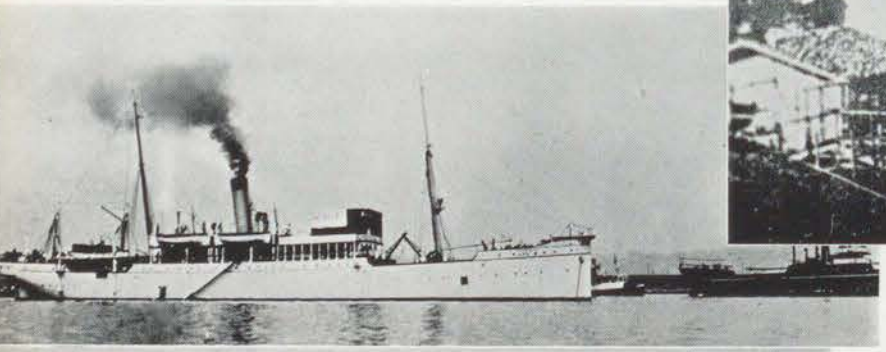


視察船から補給船へ（一）



視察船「明治丸」

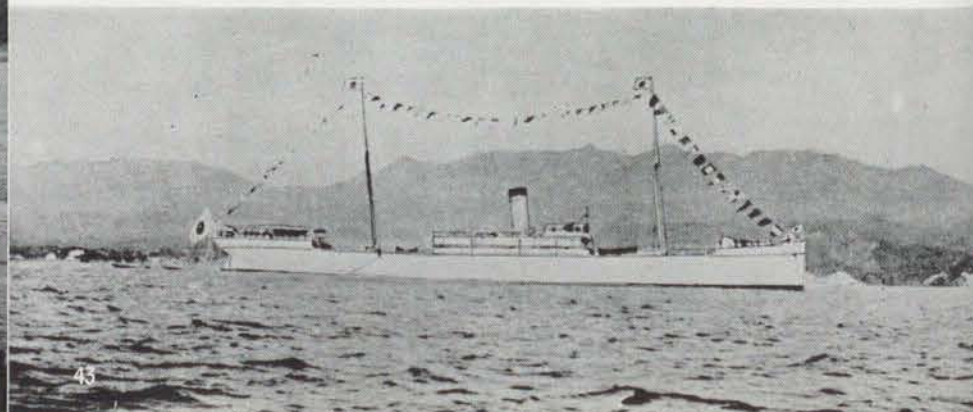
戦前の「羅洲丸」（白色）

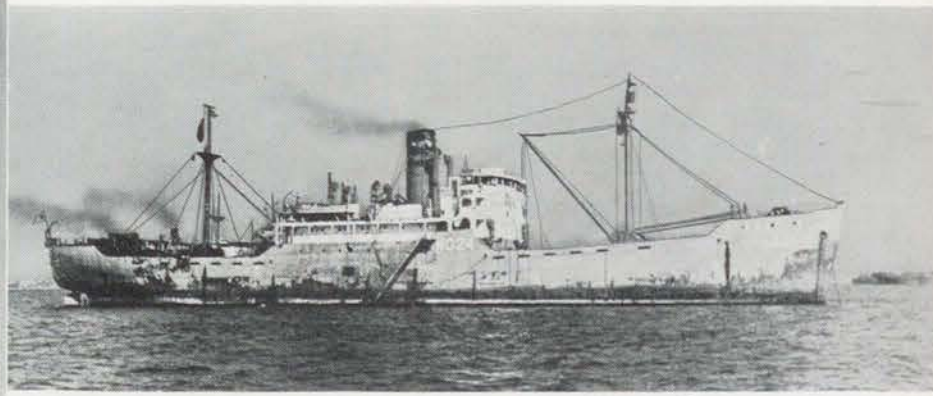




戦時中の「羅洲丸」（黒色）

視察船「新発田丸」





補給船「第十八日生丸」

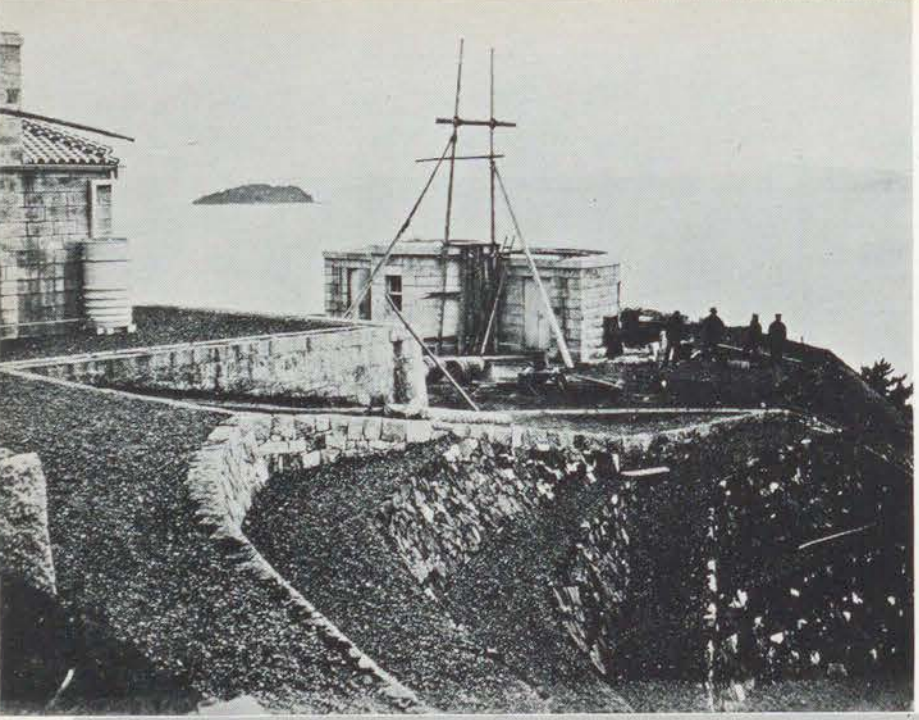
補給船「宗谷」

補給船「若草」



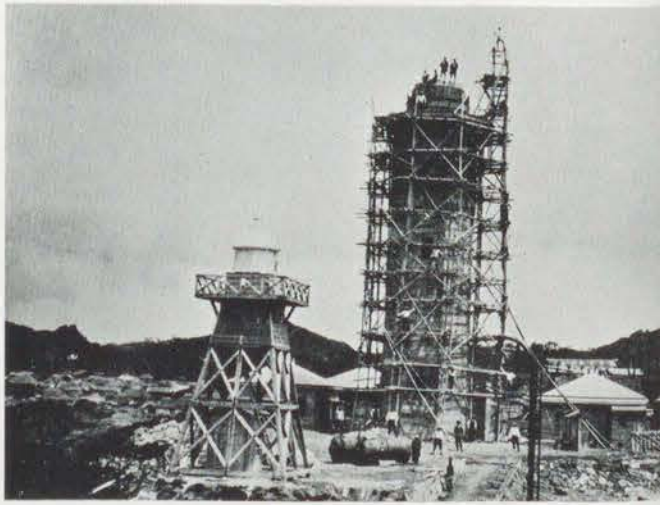


灯台の出来るまで(一)





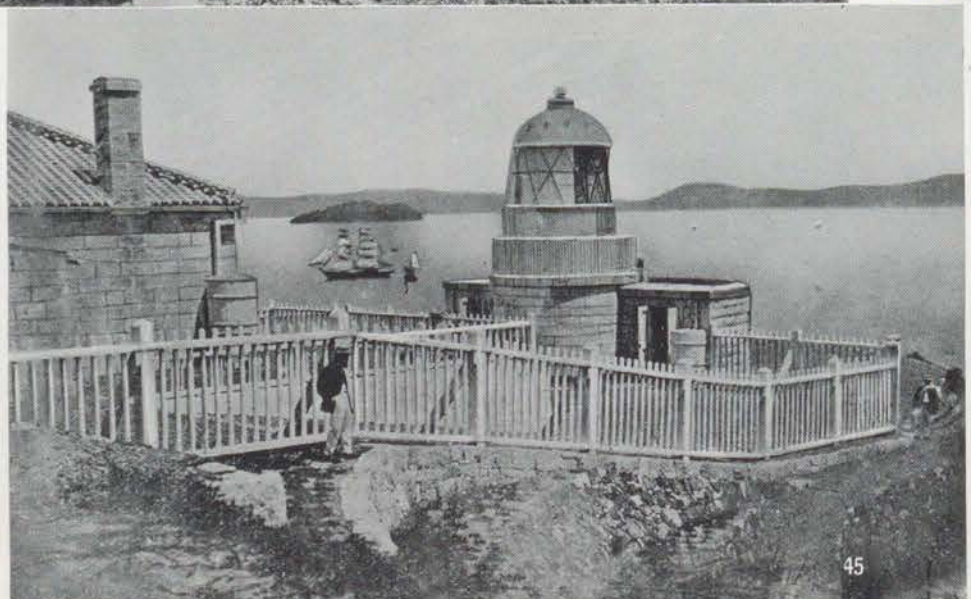
野島埼灯台（二代目）建築中（手前は仮灯台）



完戍間近かの同灯台



完成した同灯台



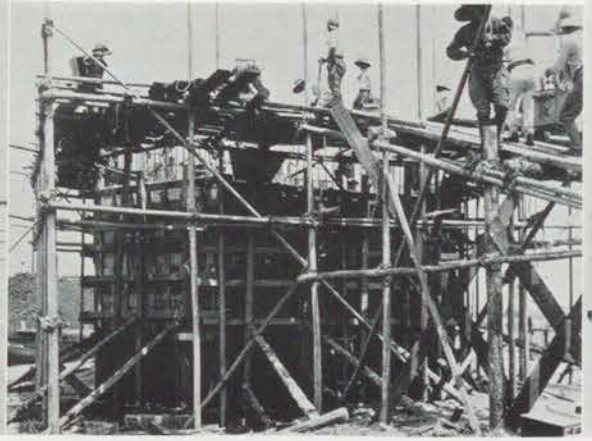
築造中の部埼灯台

完成当時の部埼灯台（立っているのは外人）

灯台の出来るまで (二)



関東大震災（大正十二年九月一日）で傾いた旧羽根田灯台と羽田灯標の新設工事



羽根田灯台の基礎工事(1)

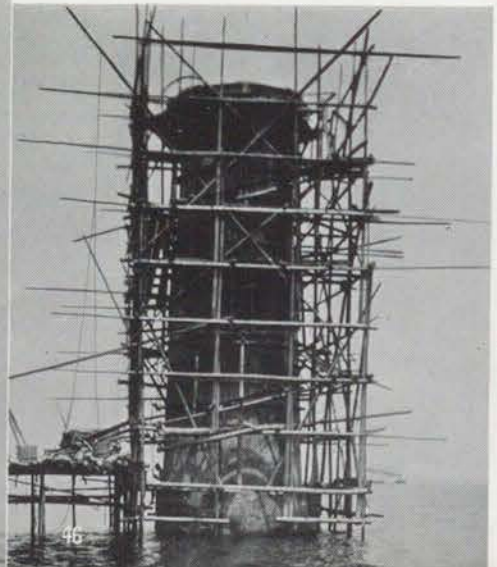


旧羽根田灯台図

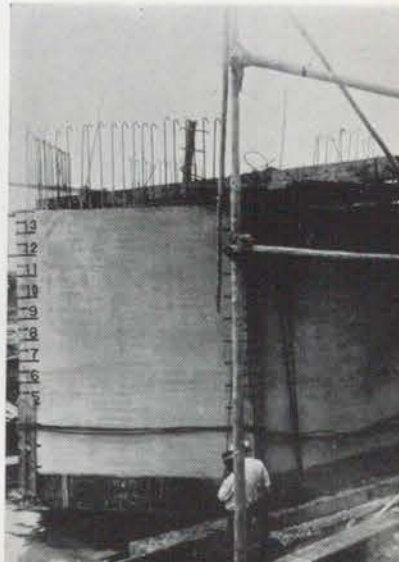
同基礎工事(2)

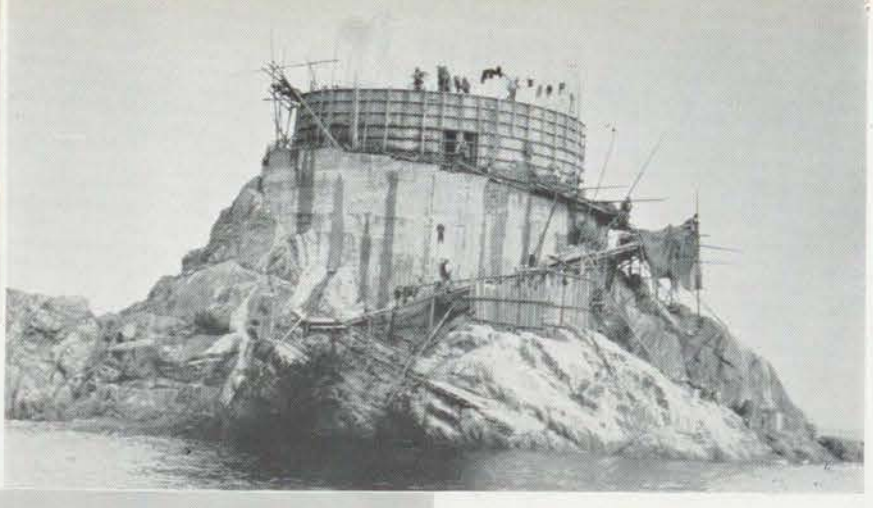


完成した灯標と旧灯台

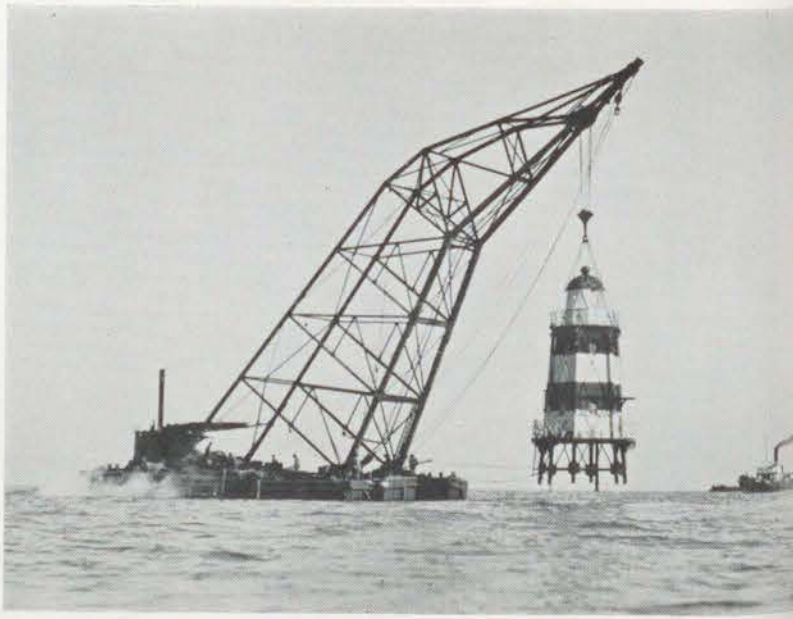


完成間近かの同灯標

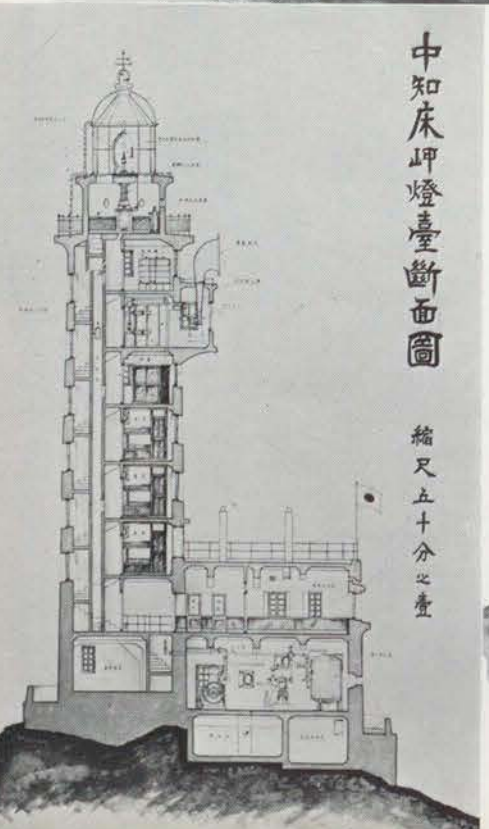




中知床岬灯台の基礎工事



移動起重機で運ばれる旧灯台

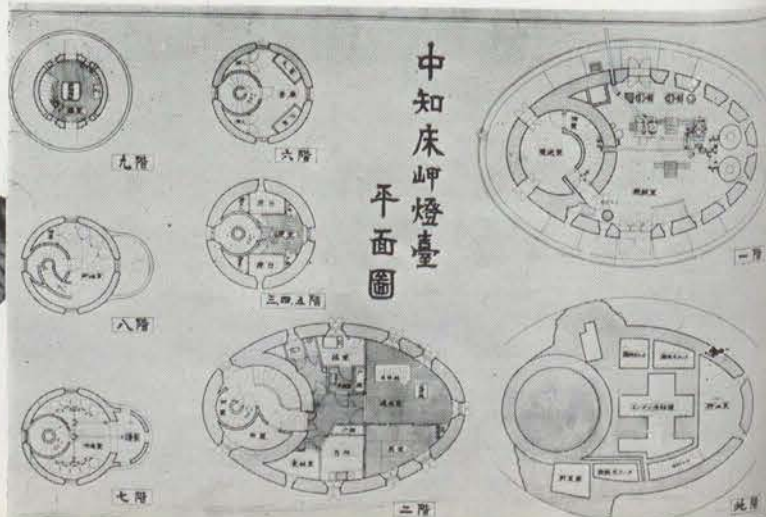


中知床岬燈臺斷面圖

縮尺五十分之壹

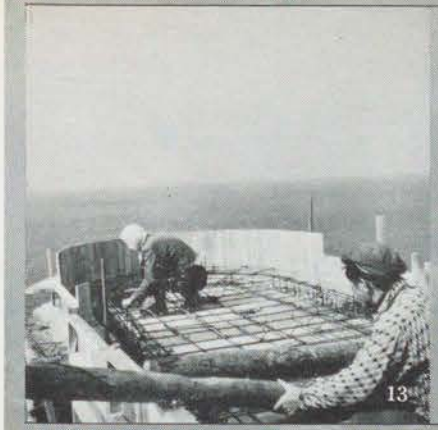


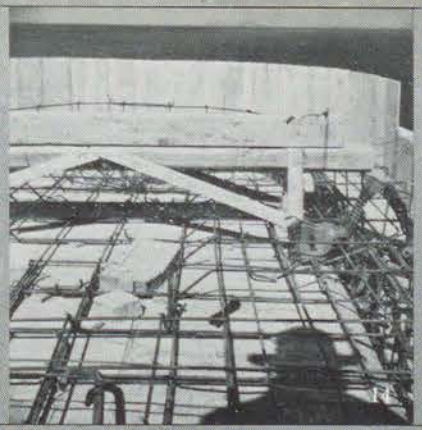
中知床岬灯台の模型

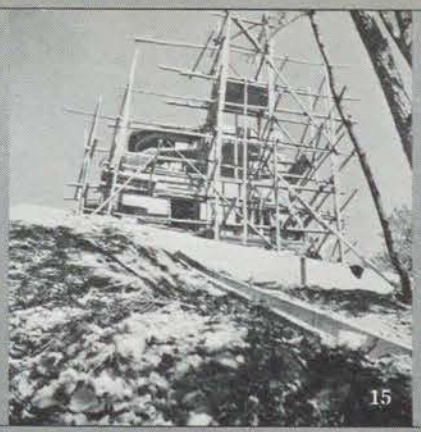


中知床岬燈臺

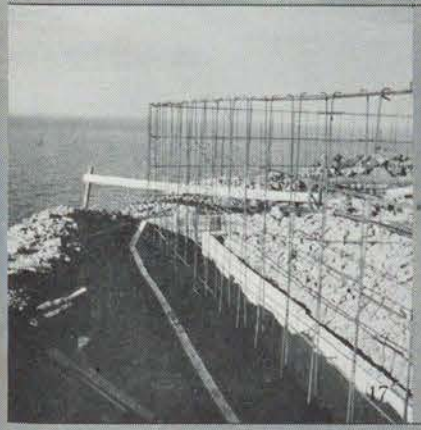
平面圖


13


14


15

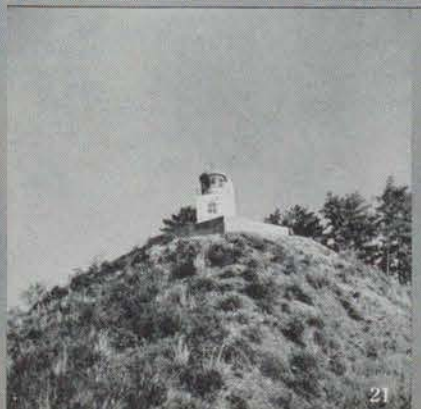

16

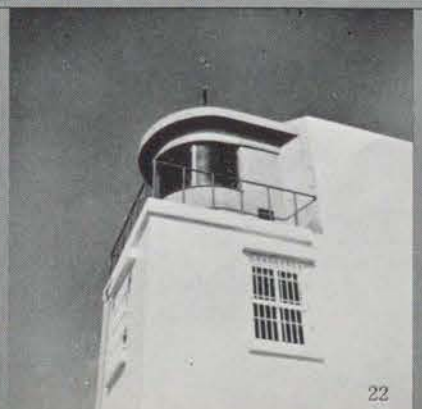

17

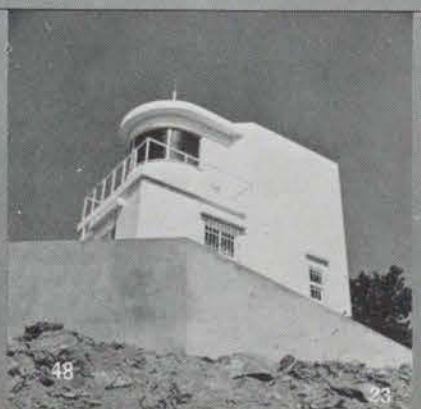

18


19


20


21


22


48 23

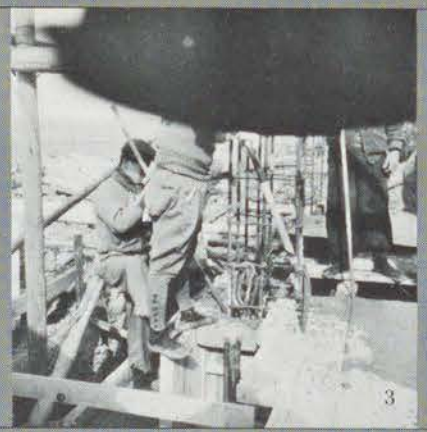

24

灯台の出来るまで(四)



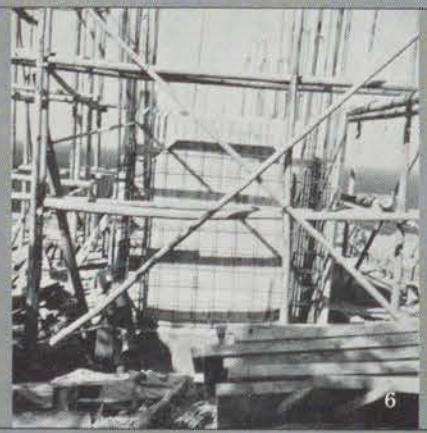
1

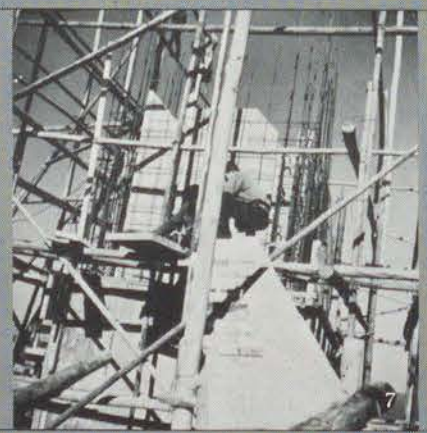

2


3

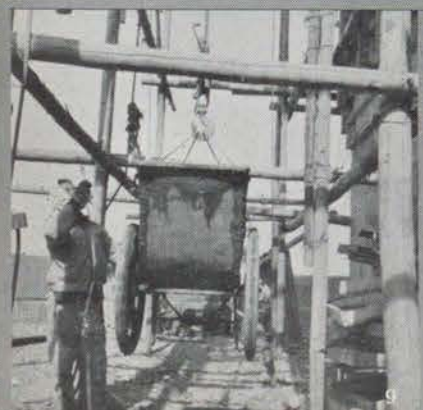

4


5


6


7


8


9


10


11

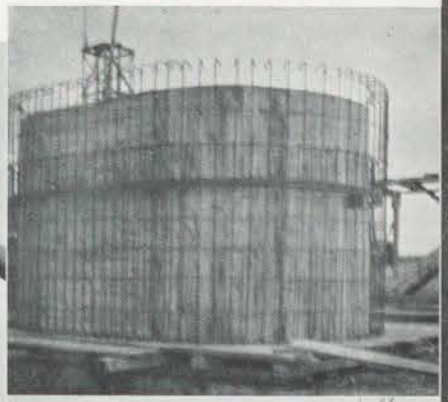

12

ゲンベイ礁灯浮標の出来るまで

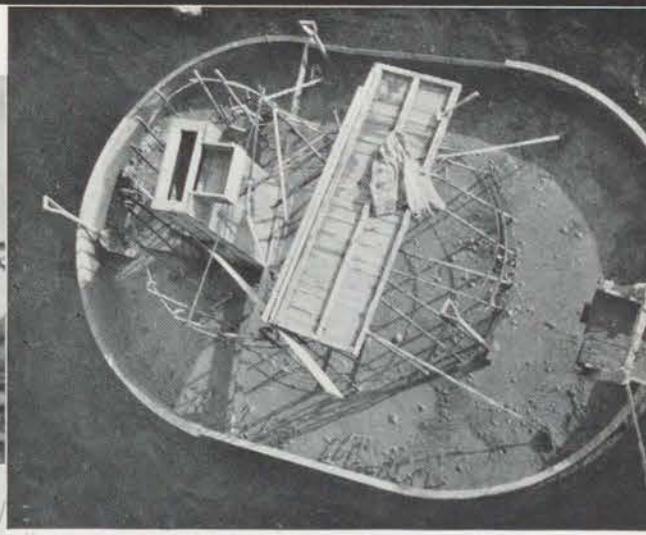
灯籠の取つけ



基礎枠の取つけ







ゲイペン礁（灯標）の基礎工事



←完成した灯標
↓





灯塔工事←



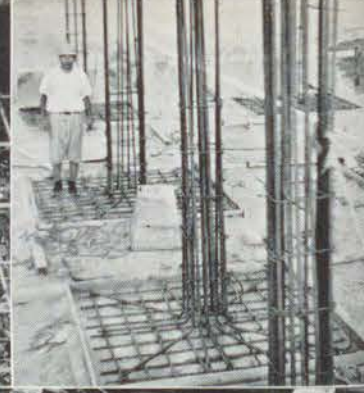
陸上にての基礎枠作製

無線方位信号所の出来るまで(一)

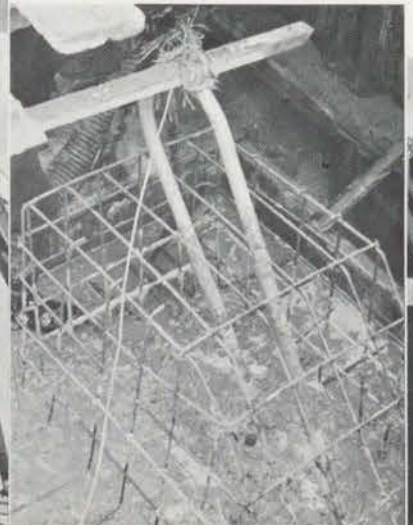
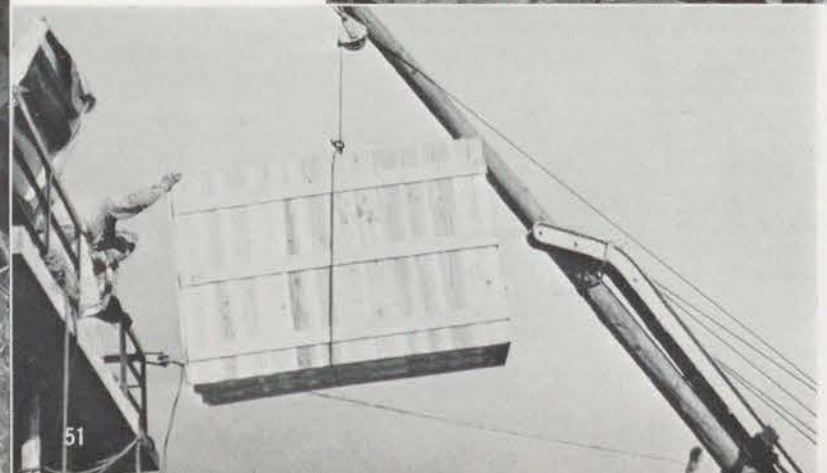
新潟無線方位信号所の地鎮祭から無線室完成まで二十一景



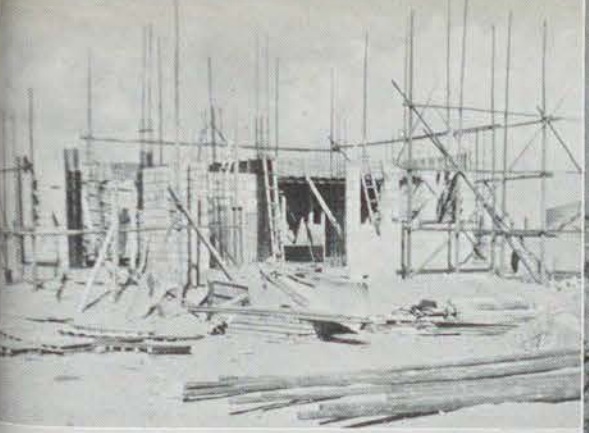


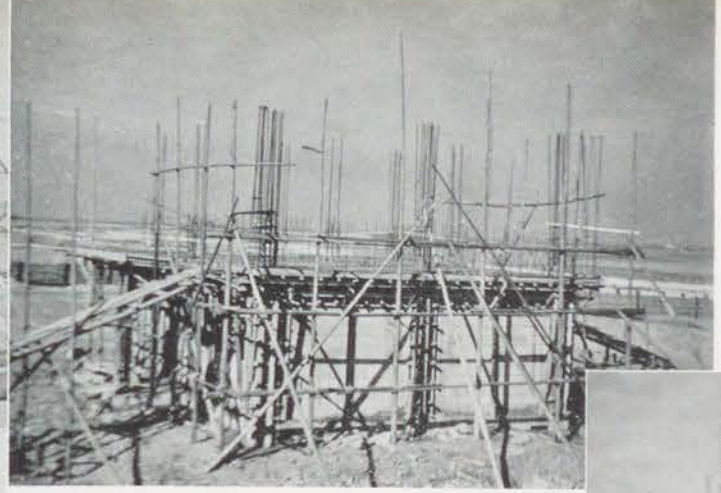




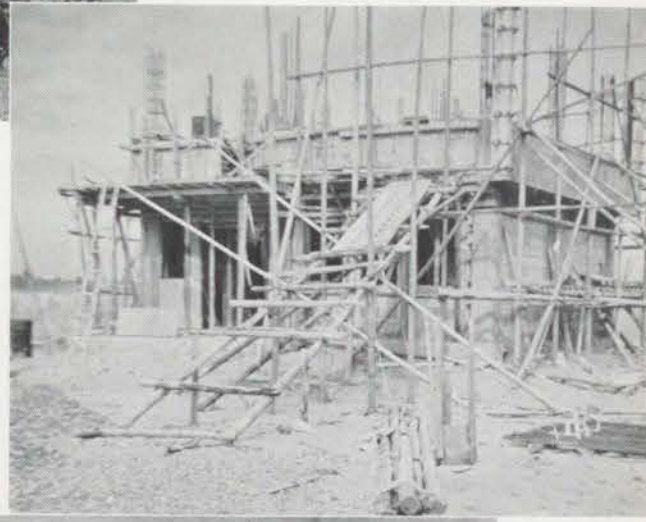




無線方位信号所の出来るまで(二)























無線方位信号所の出来るまで(三)

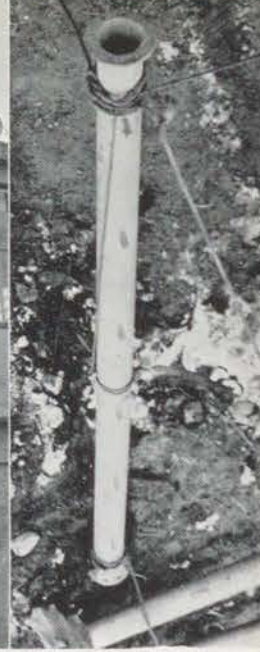


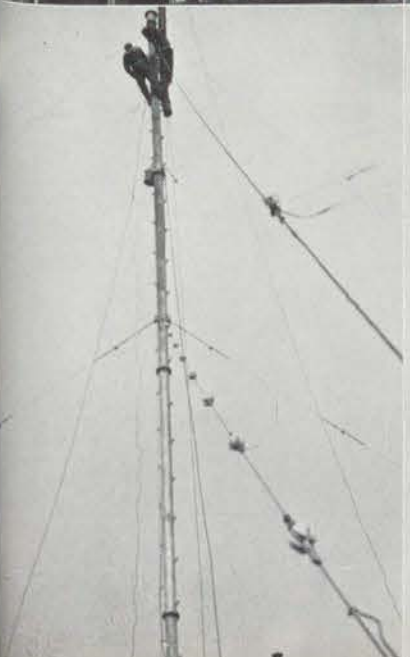




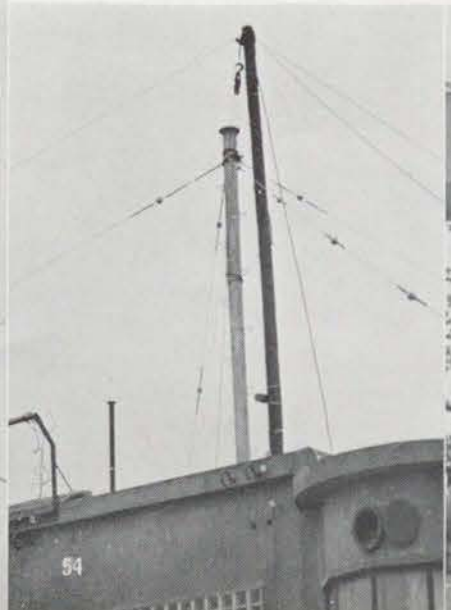
新潟無線方位信号所のアンテナ取付完了まで16景



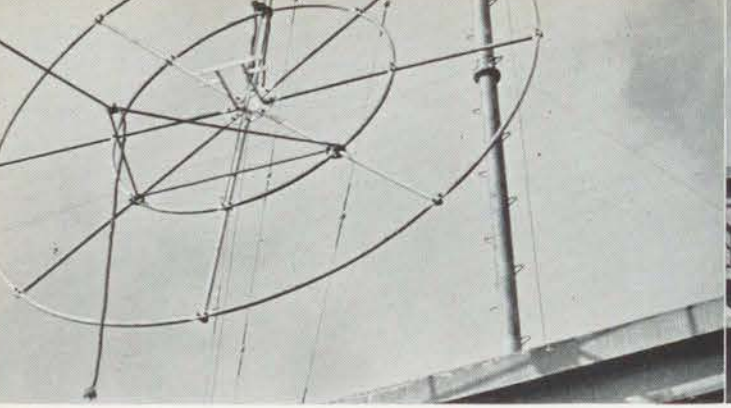




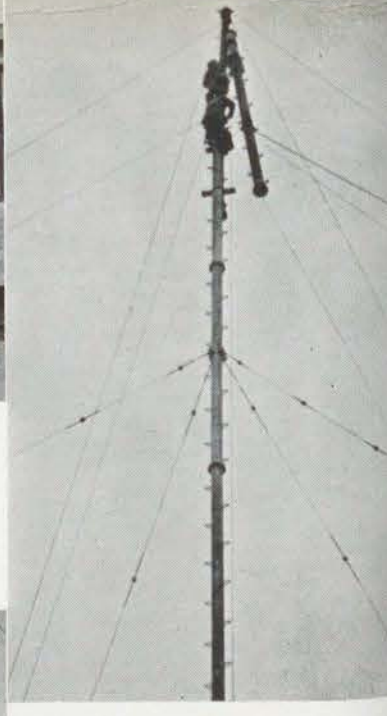


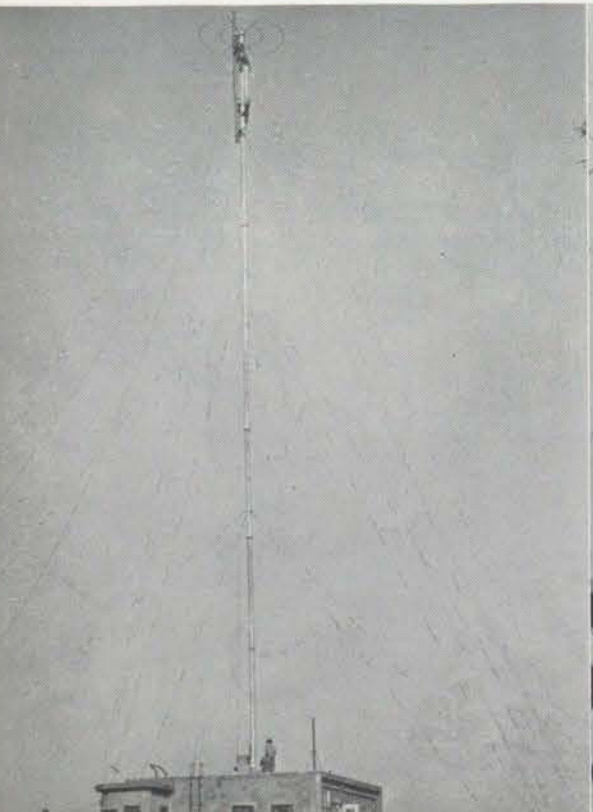


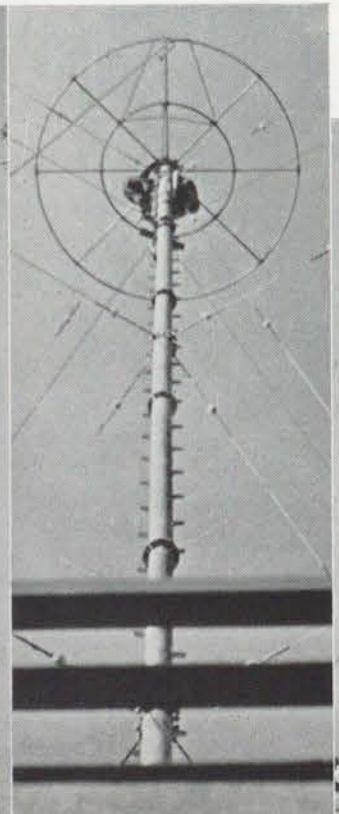




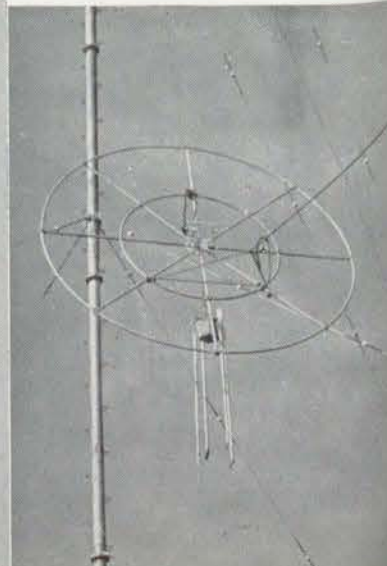






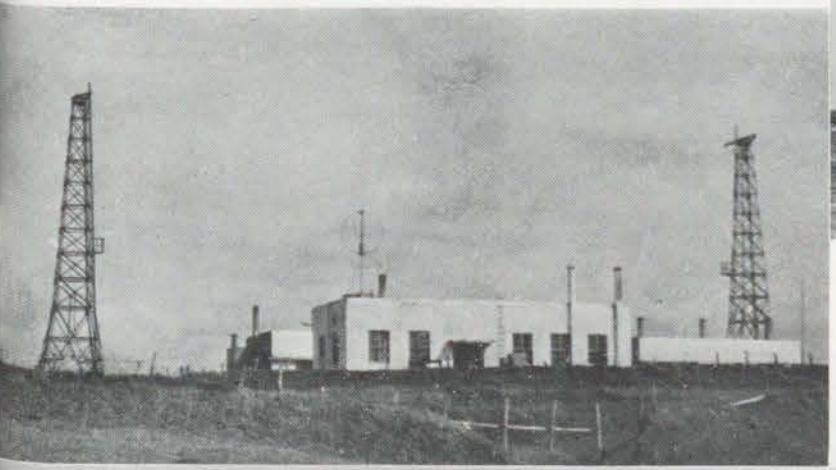


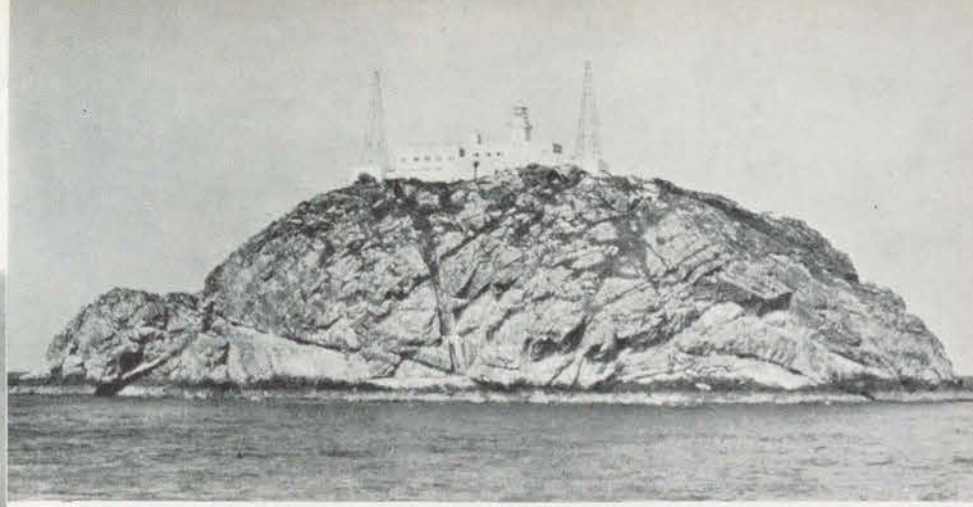




無線方位信号所と連絡無線の推移

霧多布無線方位信号所（昭和19年4月5日開始）



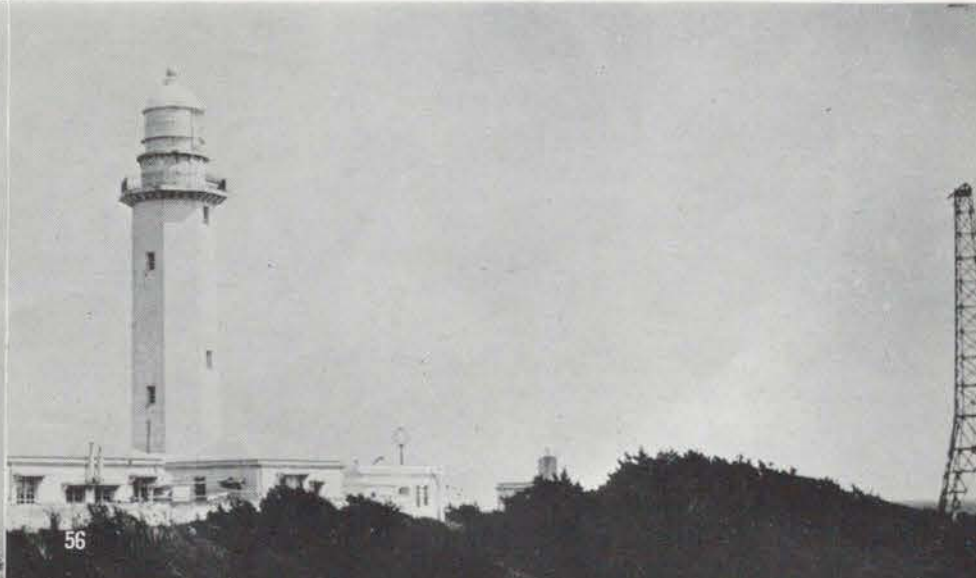


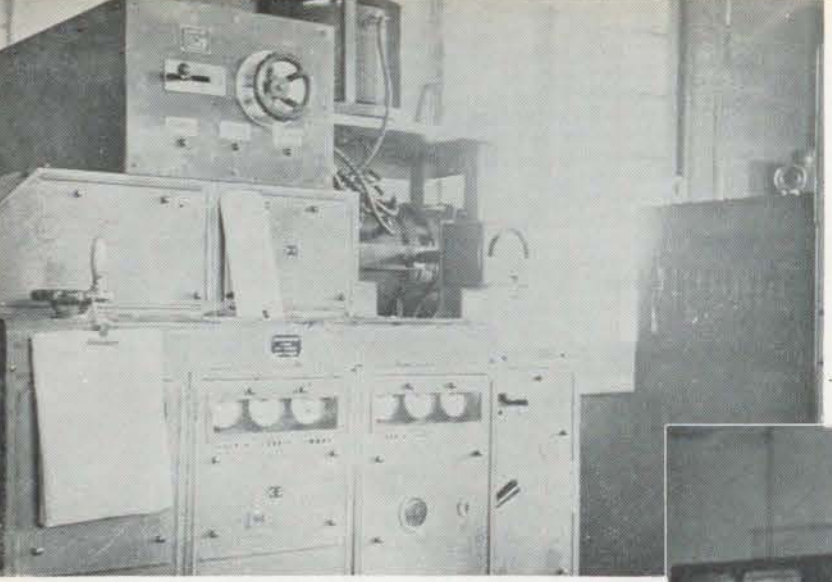
最も古い円島無線方位信号所（昭和2年12月20日開始）

長尾鼻無線方位信号所（昭和31年6月1日開始）



野島埼無線方位信号所（昭和8年9月15日開始）





海軍型送信機

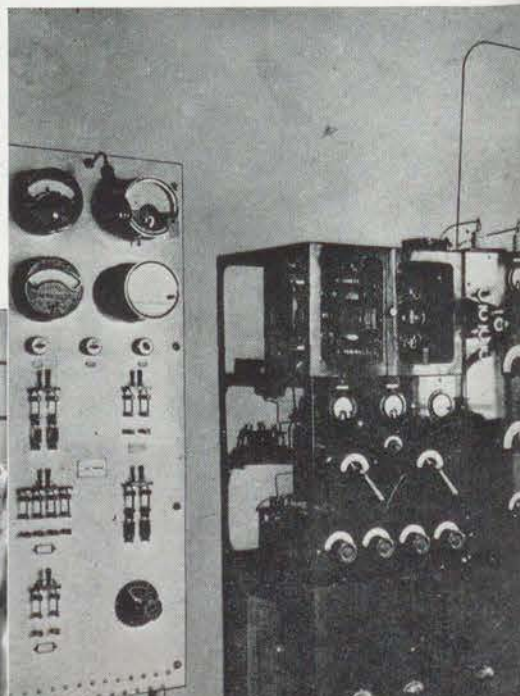


送信機（左）受信機（中央）及び
マルコニー製方向探知機（右）

古い送・受信機と
電源装置

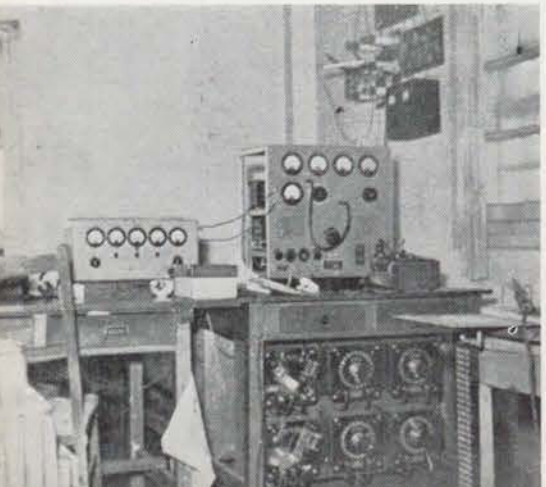


方向側定中の通信士



送信機（自動発振式）

離島連絡無線機

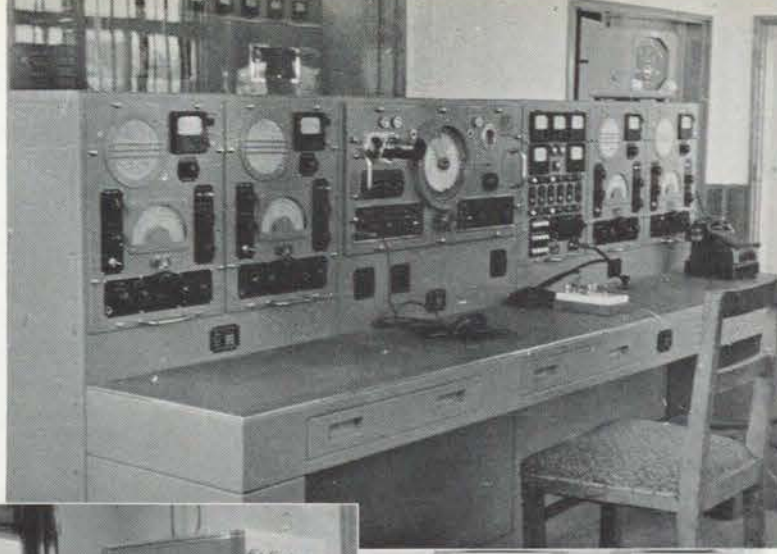




石油発動発電機（右）　発動発電機（左）

新しい送・受信機と電源装置





受信機（左、右各二台）と方向探知機（中央）

親時計（左）送信機（中央）

ゴニオメーター（右）





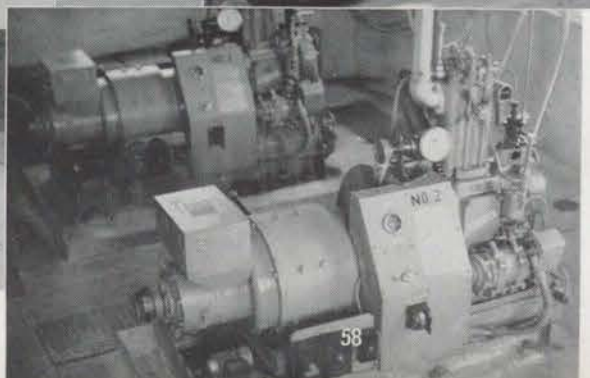
離島連絡用無線電話機（右）

離島連絡用無線電信機（上）

デイゼル発動発電機（左）



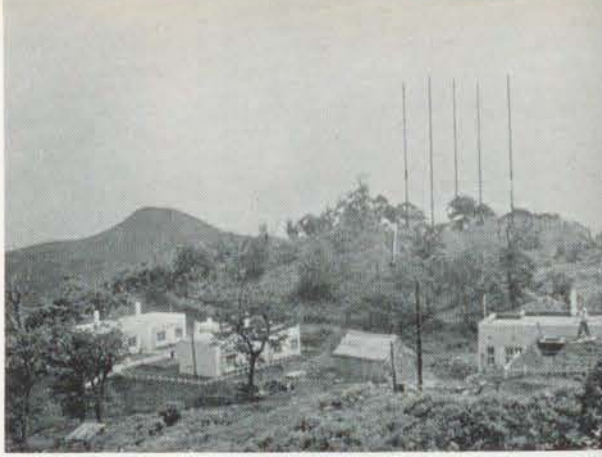
FM式超短波無線電話機
と発電機の自動起動器



無線方位信号所の種類



無指向標識と方向探知（八丈島）



回転式標識（チキウ岬）

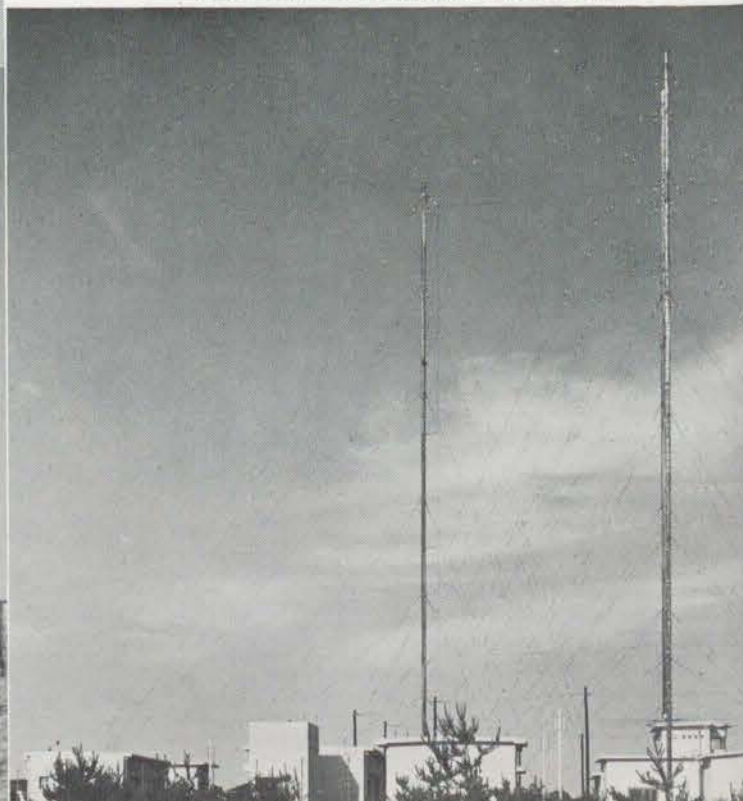
無指向式、回転式標識並びに方向探知（潮岬）

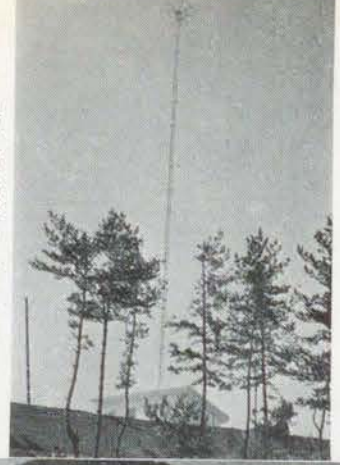


無指向式標識（塩屋埼）



無指向式及び回転式標識（鮫角）

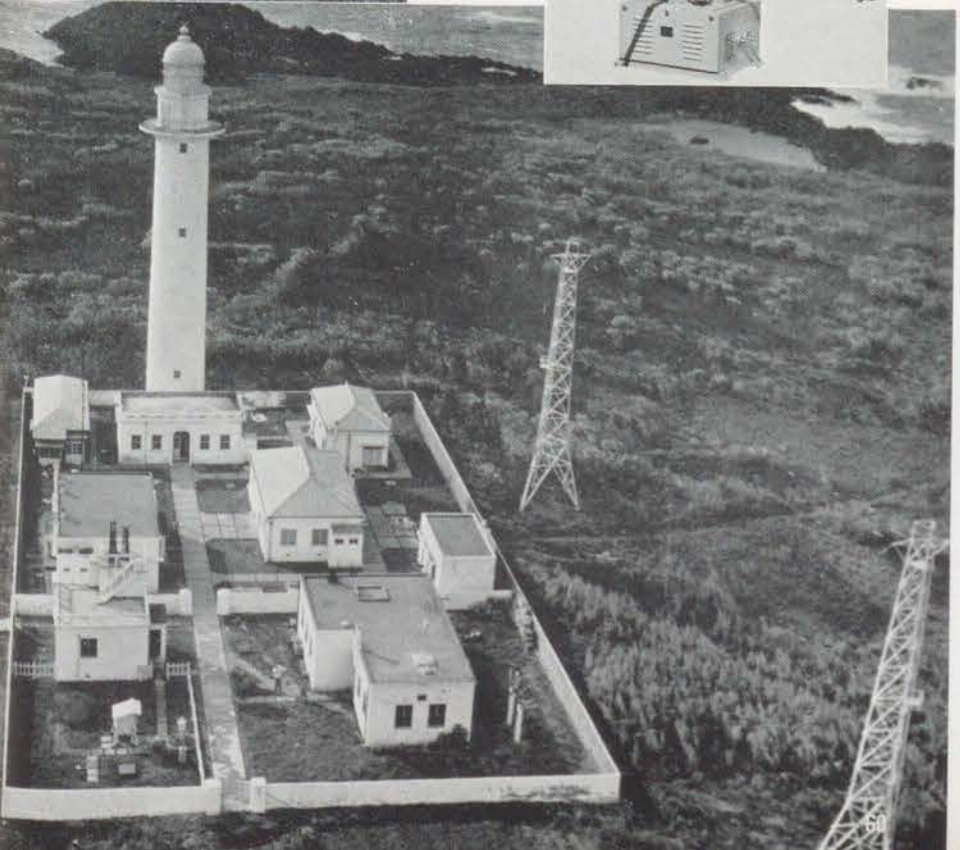




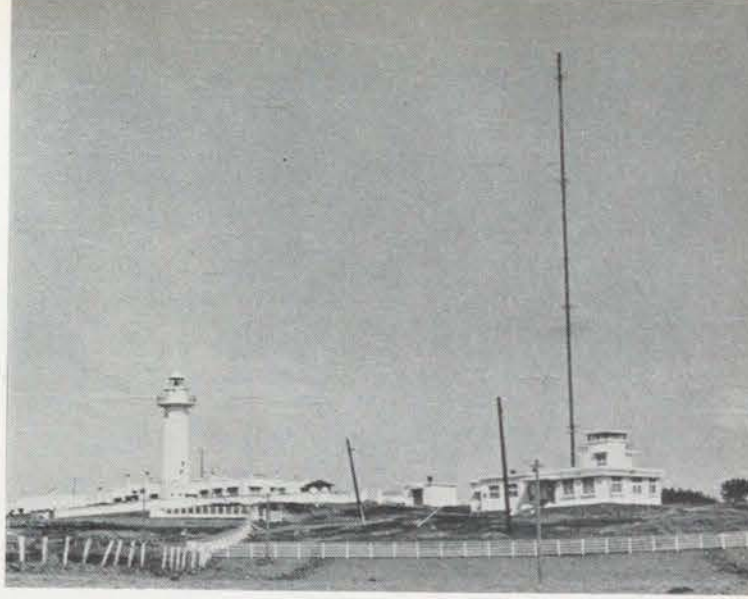
格子型鉄塔の（長尾鼻）



回転式枠型の（磯埼）



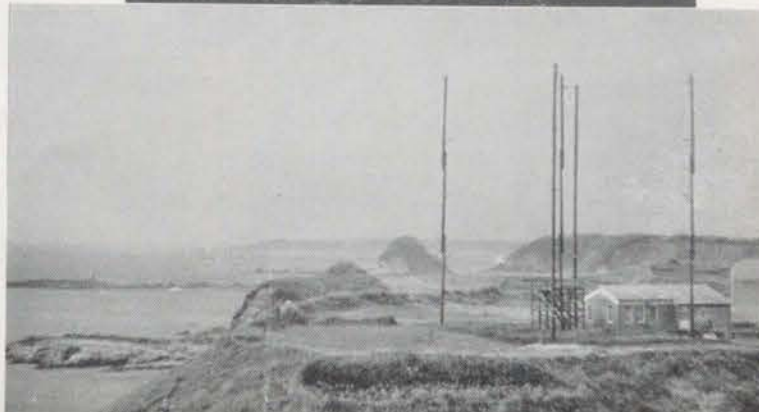
鉄塔（自立式）と鉄塔（自立式）の（舳倉島）



組立木柱の（鮫角）

継柱の剣埼（元の位置のもの）





継柱の剣埼（現在のもの）

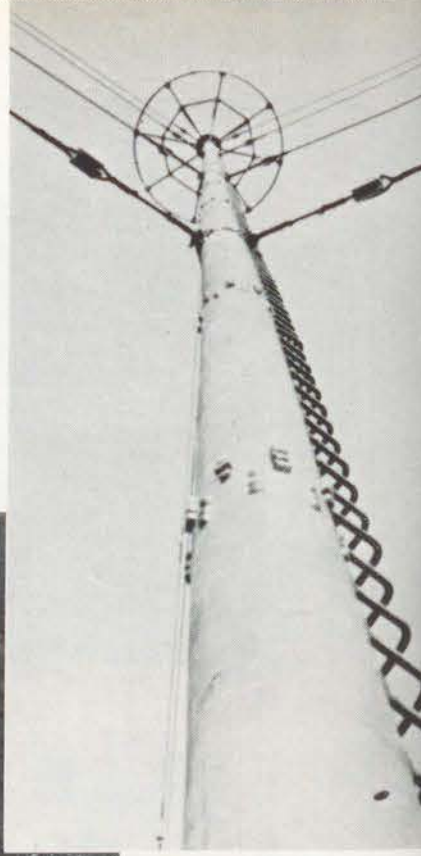
アンテナのさまざま



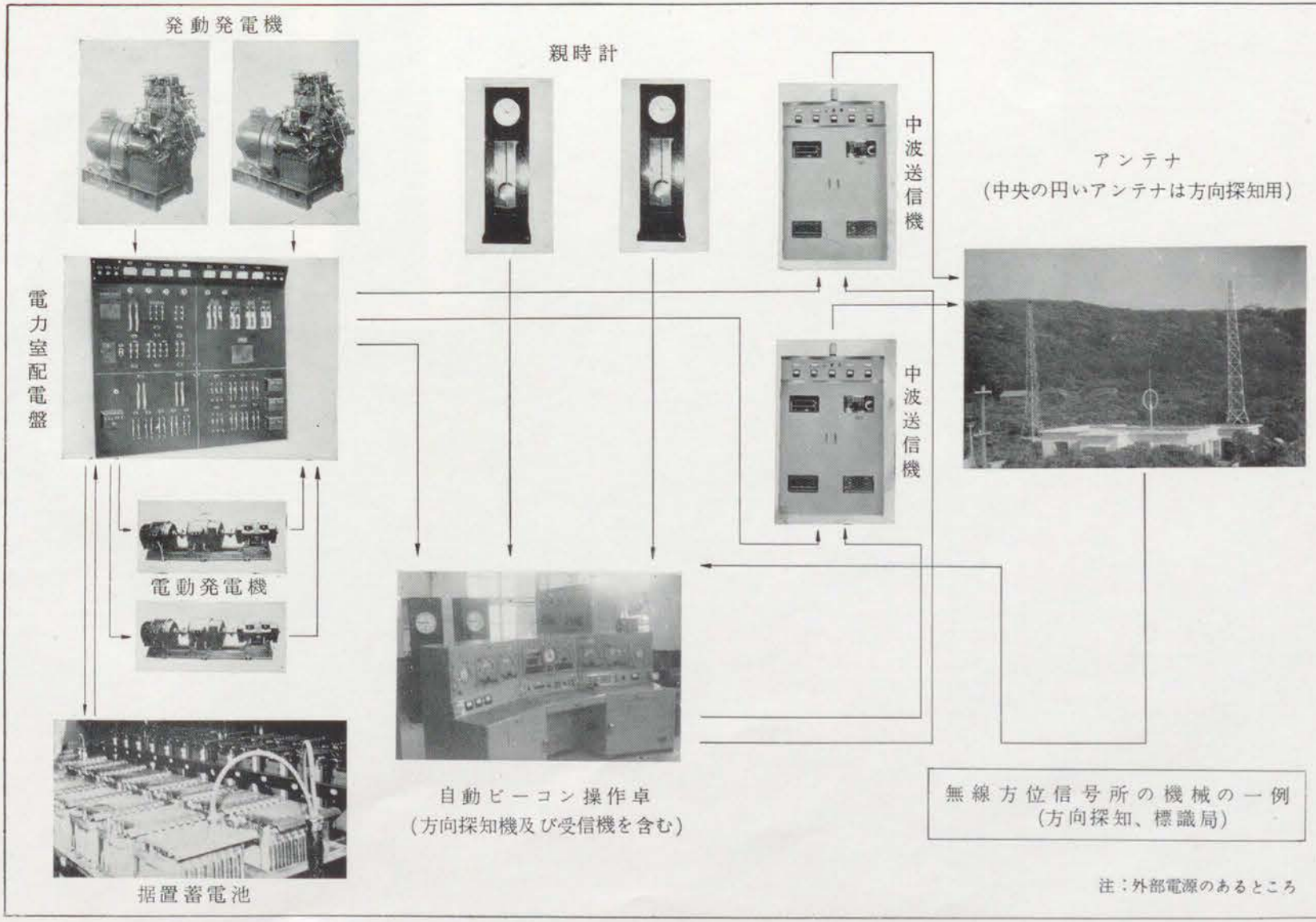
灯塔と鉄塔（自立式）の（大間埼）



灯塔とコンクリート柱の（犬吠埼）



鉄管柱の（都井岬）


発動発電機
親時計
中波送信機
アンテナ
(中央の円いアンテナは方向探知用)
電力室配電盤
中波送信機
電動発電機
自動ビーコン操作卓
(方向探知機及び受信機を含む)
無線方位信号所の機械の一例
(方向探知、標識局)
据置蓄電池
注：外部電源のあるところ

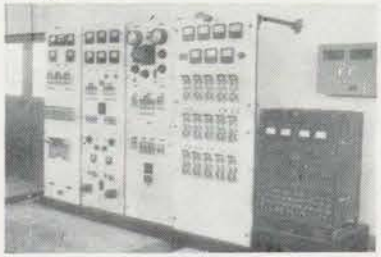
無線方位信号所の機械の一例
（回転式標識局）



予備発動発電機



電力室配電盤

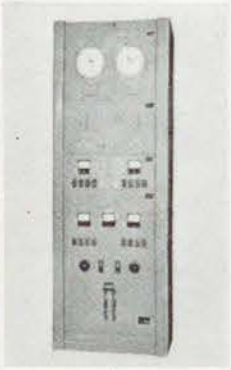




自動電圧調整器

外部電源

ビーコン管制器

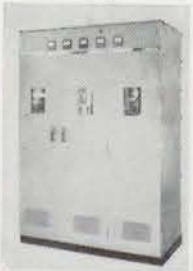




自動ビーコン操作卓
（受信機を含む）

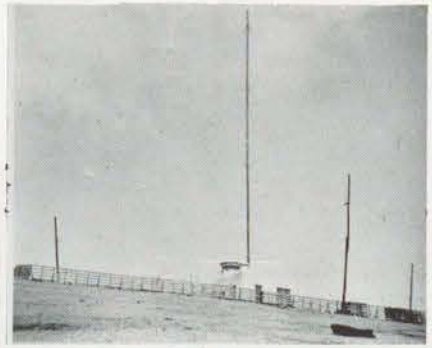


中波送信機



中波送信器

枠型アンテナ





ゴニオメーター

注：外部電源のないところ

全国主要航路標識のいろ〳〵



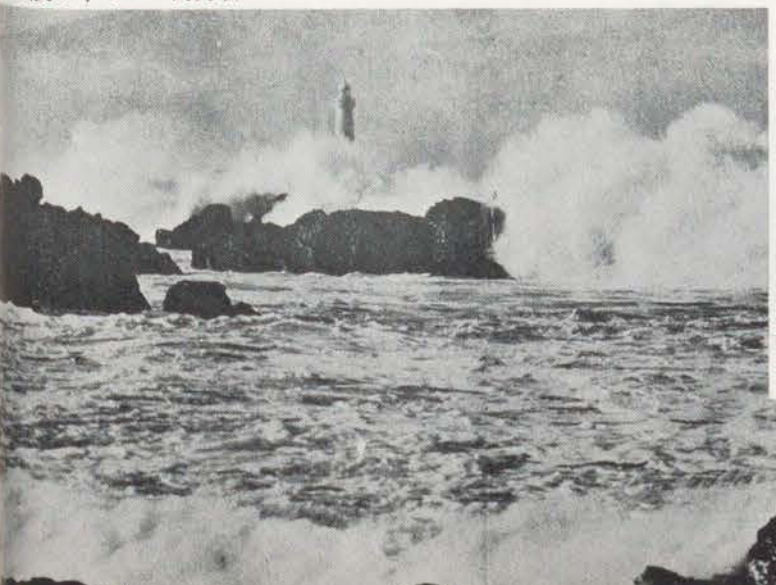


築造中の磯埼灯台（右上）と完成した同灯台（左上）



鹿島上島灯台

激浪の中の一ノ島灯台





一ノ島灯台の近景

犬吠埼灯台の近景



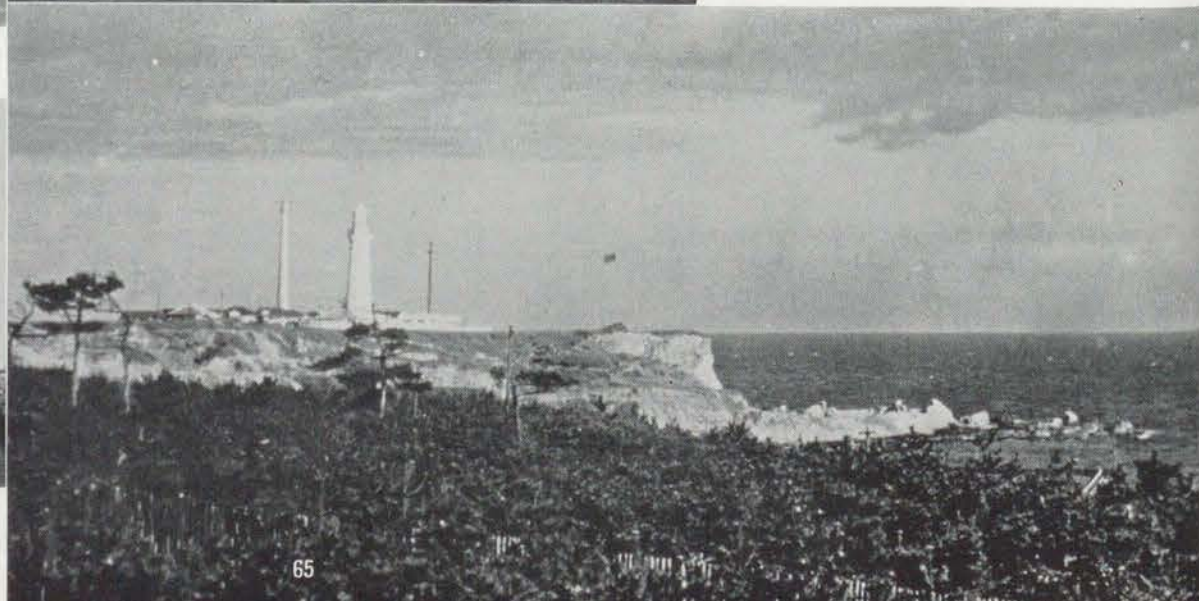


勝浦灯台（後列左より二人目本庁猪口監理課長）と職員



波崎灯台

遙かに犬吠埼灯台を望む





千倉港灯台



野島埼灯台の近景（左）



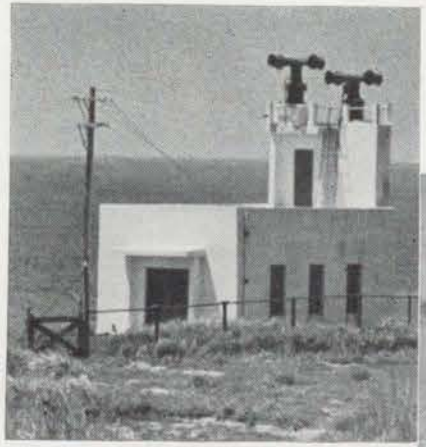
薄暮の野島埼灯台（上）



品川灯台



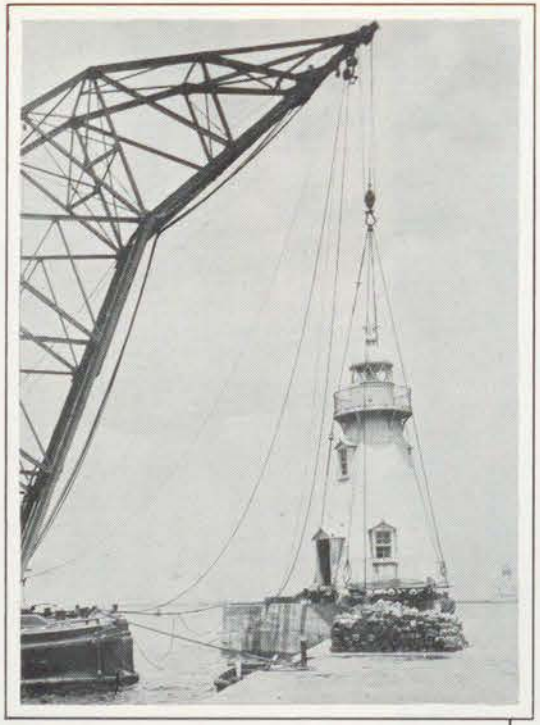
浦安灯台



洲ノ埼灯台と霧信号



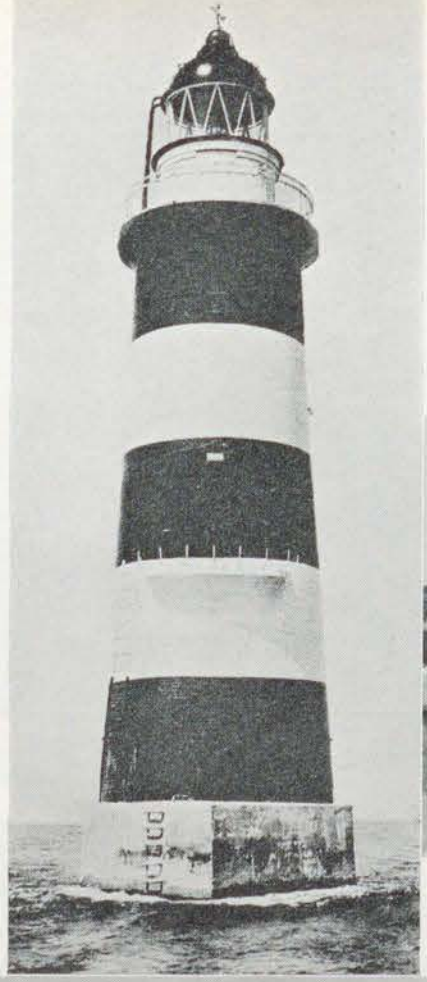
横浜港防波堤灯台の基礎修理作業





東京灯船（上は外国の灯船）





第二海堡灯台の遠・近二景

羽田灯標



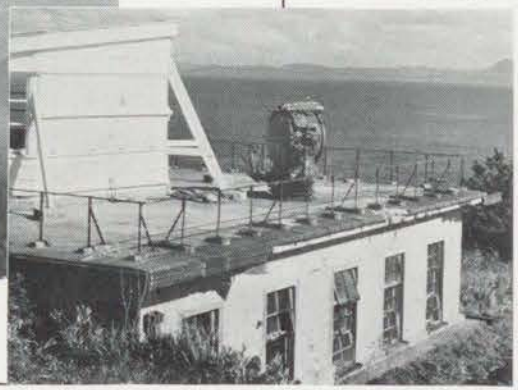


横浜港防波堤灯台





剣埼灯台とその一部





観音埼灯台記念碑（初代）



観音埼灯台（２代目）と関東大震災（大正12年９月１日）で崩壊した同灯台

今の観音埼燈台







昔の三宅島灯台

今の三宅島灯台







灯台と島の娘



城ケ島灯台の遠近二景

伊豆大島灯台



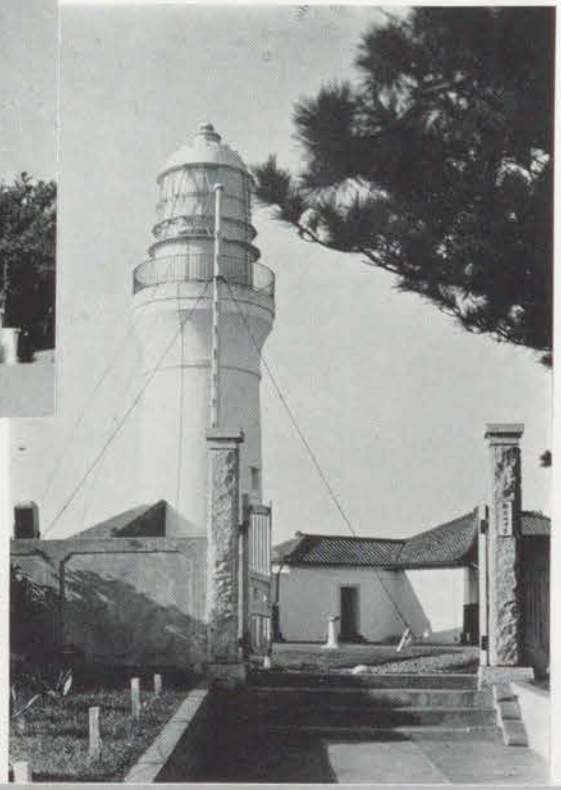
神子元島灯台





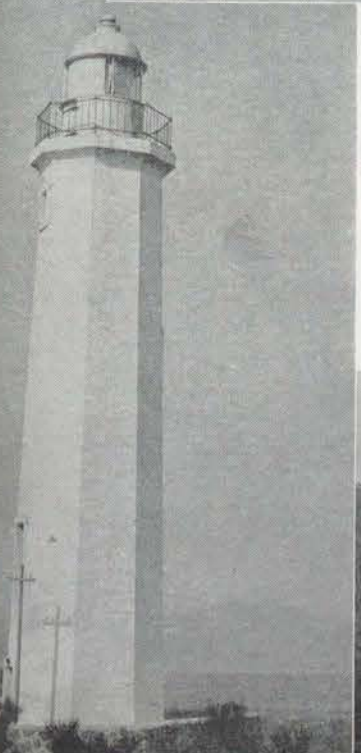
掛塚灯台

御前埼灯台の近景



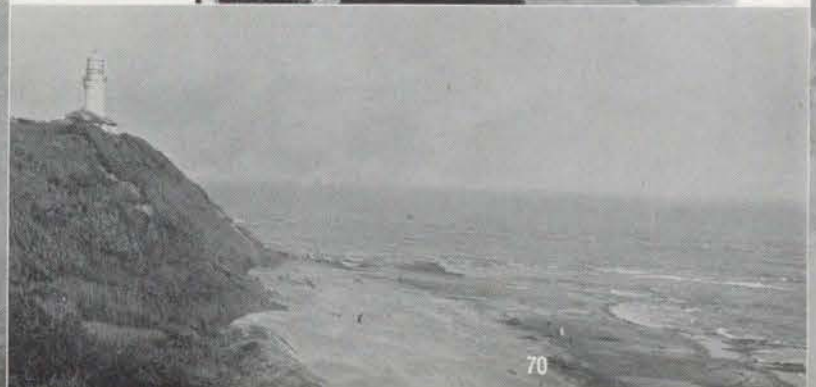
八丈島灯台



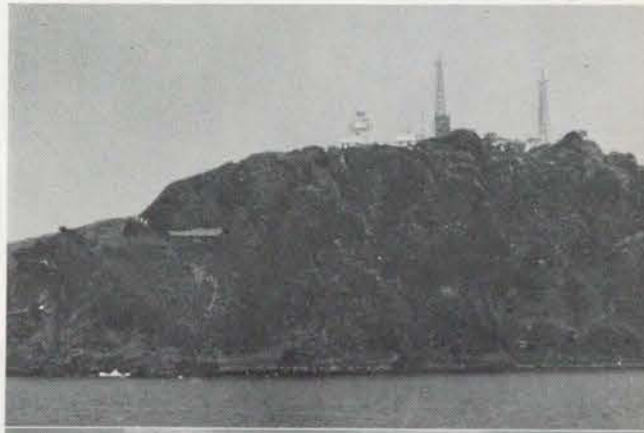


清水灯台

御前埼灯台の遠景



石室埼灯台遠近二景



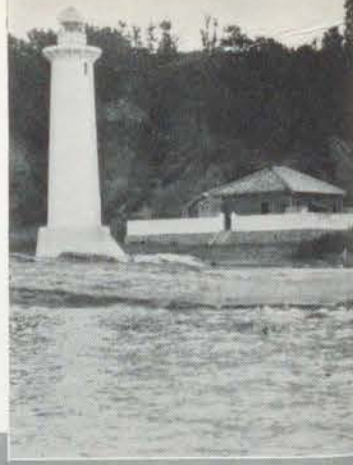




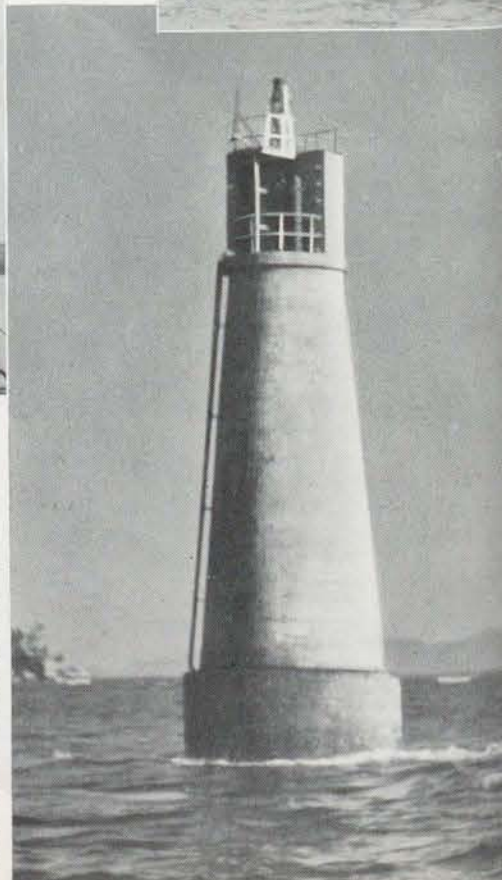
贄埼灯台



名古屋港西防波堤灯台



野間埼灯台



角石灯標（貯気筒交換の時は、命がけで、僅かに白波が立つていても出来ない）



神島灯台（簡易気象観測も扱う）

名古屋港中央埠頭灯台



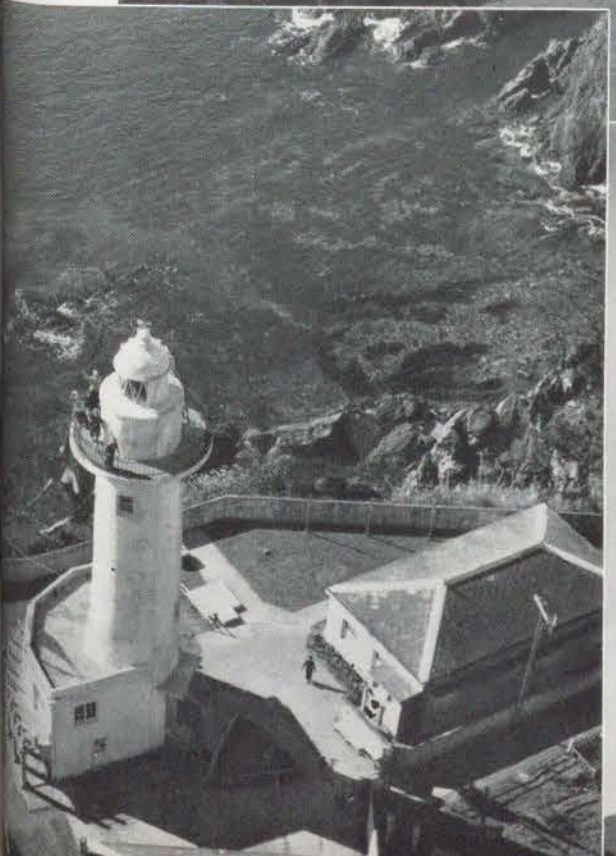


志摩小島灯台



菅島灯台

手をふる大王埼灯台職員





尾鷲港防波堤灯台



四日市港灯柱

安乗埼灯台（右端は暴風信号柱）





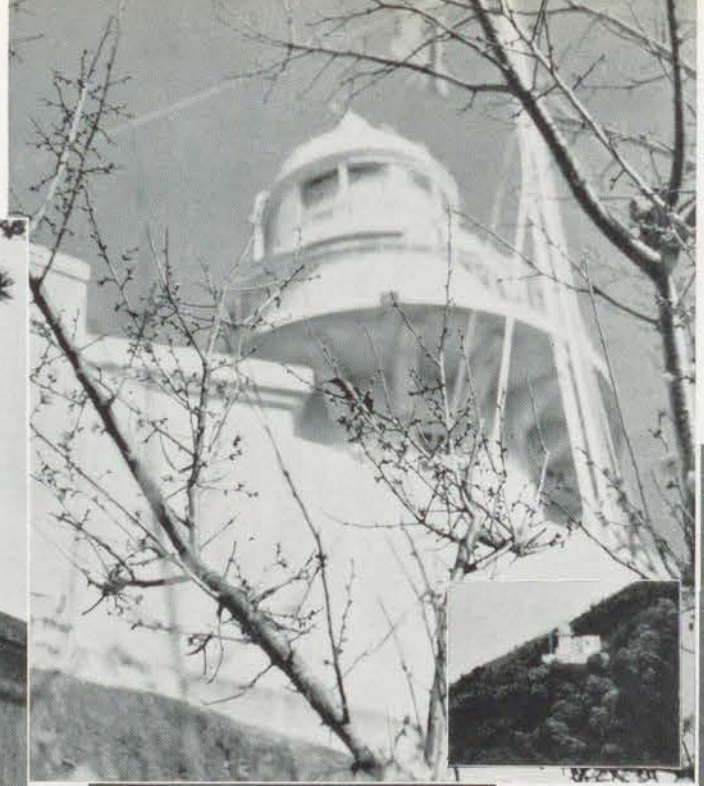
明治天皇行幸記念碑（潮岬灯台）

市江埼灯台





潮岬灯台と正門



三木埼灯台（枠内はその遠景）



宇久井駒埼灯台





遭難軍人全員



樫野埼灯台

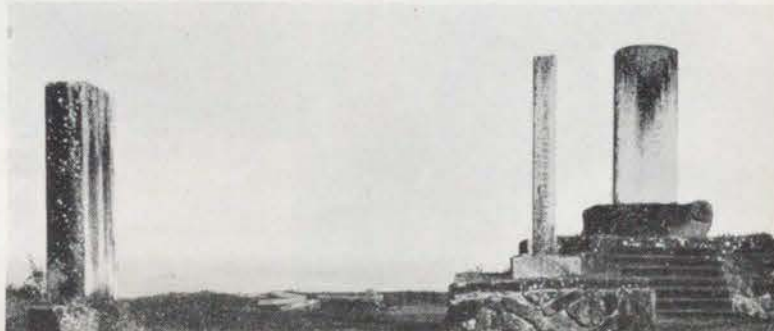


補給船「若草」より樫野埼灯台を望む



樫野埼灯台附近にて遭難したトルコ軍人

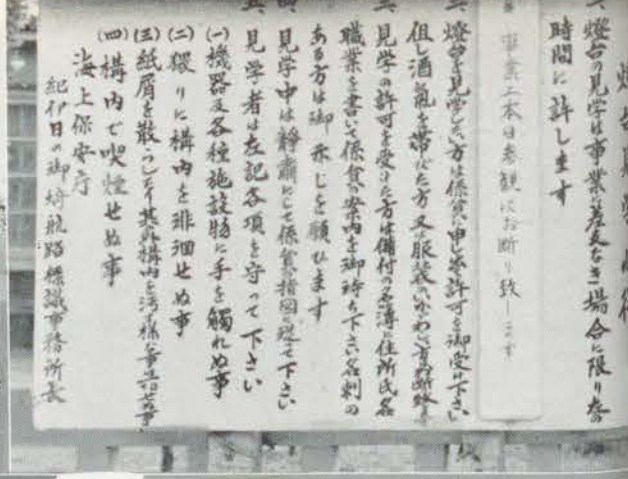
遭難軍人の墓碑







記念碑（塵子の句）



燈台の見学は事業差支なき場合に限り参時間に許し申す

事業上本日参観にお断り致します

燈台を見学した方は係員に申し出て許可を御受け下さい但し酒気を帯びた方又服装のかんばしからざる者は絶対に見学の許可を受けた方は備付の名簿に住所氏名職業を書いて係員の案内を御待ち下さい名刹のある方は御参じを願います

見学中は静粛にして係員指図に従って下さい

見学者は左記各項を守って下さい

(一)機器及各種施設物に手を触れぬ事

(二)猥りに構内を徘徊せぬ事

(三)紙屑を散らしその他構内を汚す様な事をせぬ事

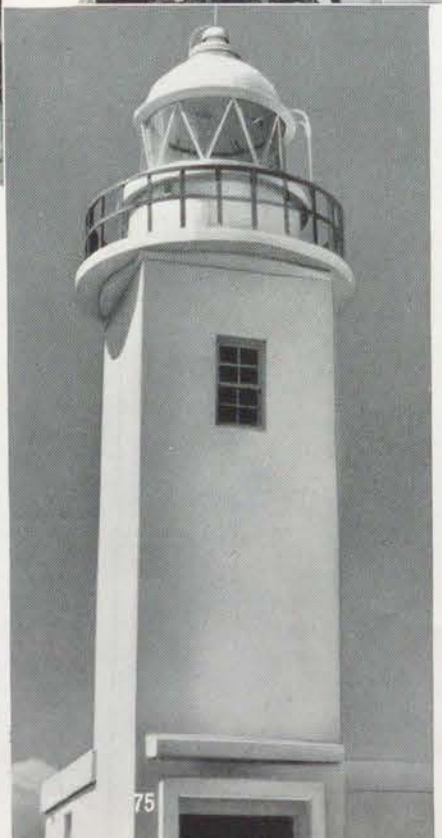
(四)構内で喫煙せぬ事

海上保安庁

紀伊日ノ御埼航路標識事務所長



友ケ島灯台と(上)日時計(下)



下津灯台



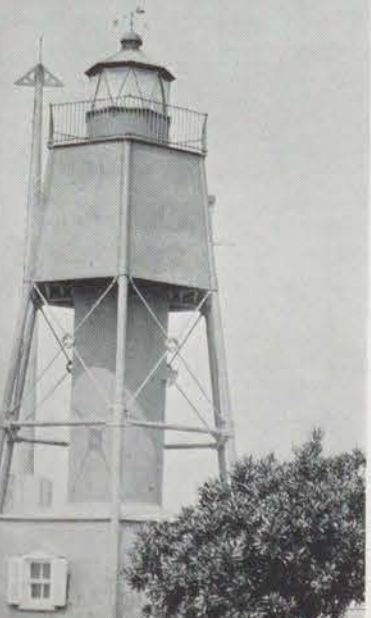
紀伊日ノ御埼灯台と見学心得の掲示板



改築前の和田岬灯台

大阪港突堤灯台





和田岬灯台



鯛尾浮標基地

伊島灯台





大角鼻灯台

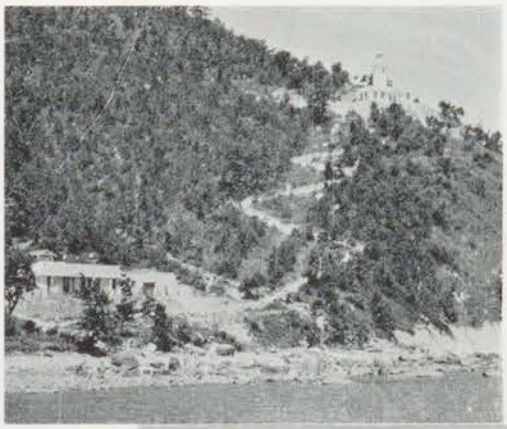
古い頃の江埼灯台
（立っているのは外人）



飾磨港南防波堤灯台



船着場より地蔵埼灯台への道



地蔵埼灯台の霧信号



今の江埼灯台

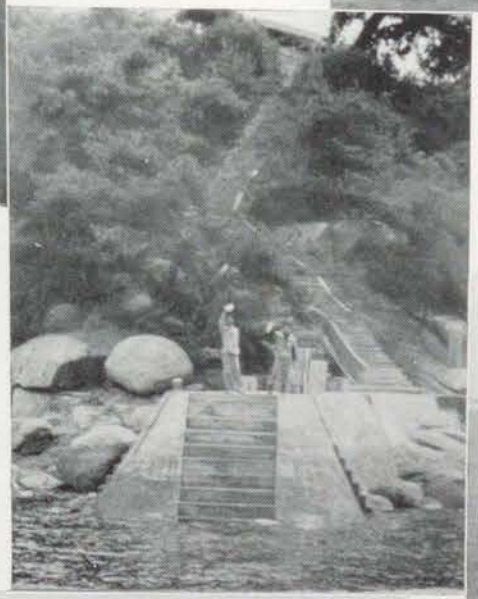




男木島灯台



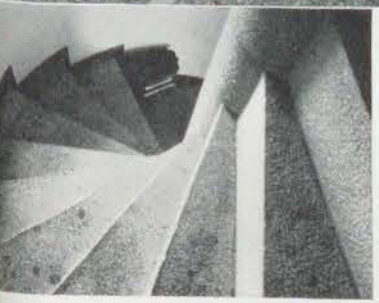
海上より鍋島灯台を望む



「若草」に別れのハンカチを
振る鍋島灯台職員



興津埼灯台

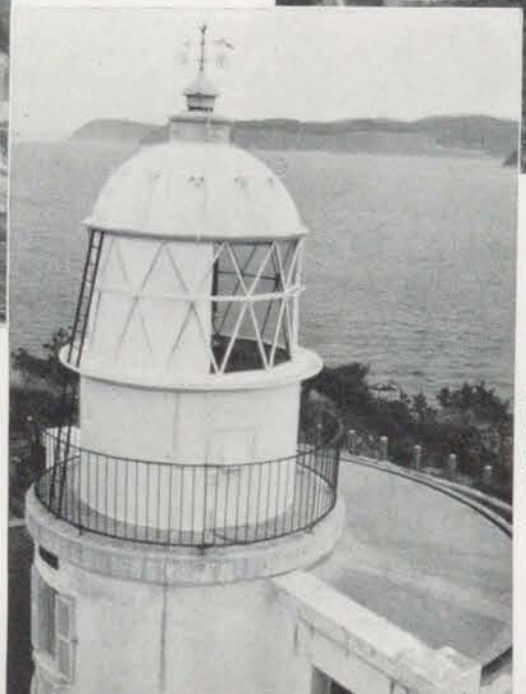


男木島灯台内の階段

丸亀港灯標と西防波堤灯台







鍋島灯台



室戸埼灯台

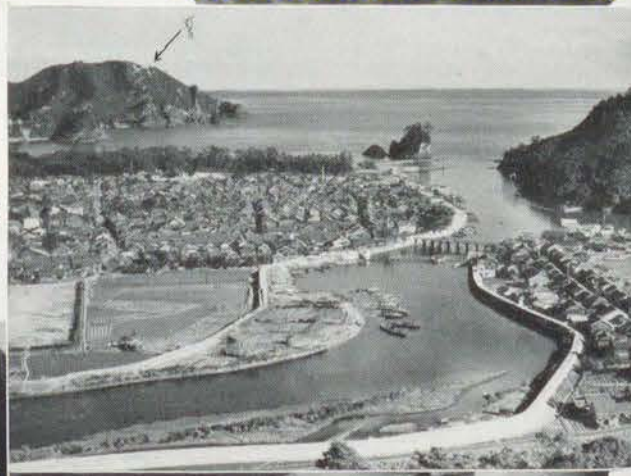


甲ノ浦灯台

龍頭埼灯台



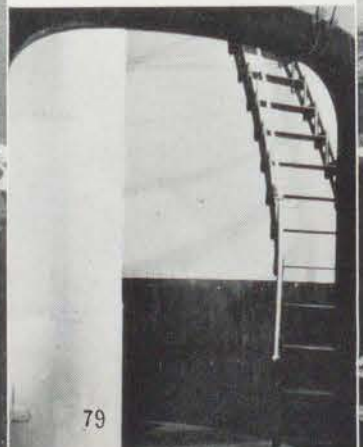
蒲生田埼灯台



阿瀬比の鼻灯台（遠望）と日和佐町



灯室入口（室戸埼灯台）





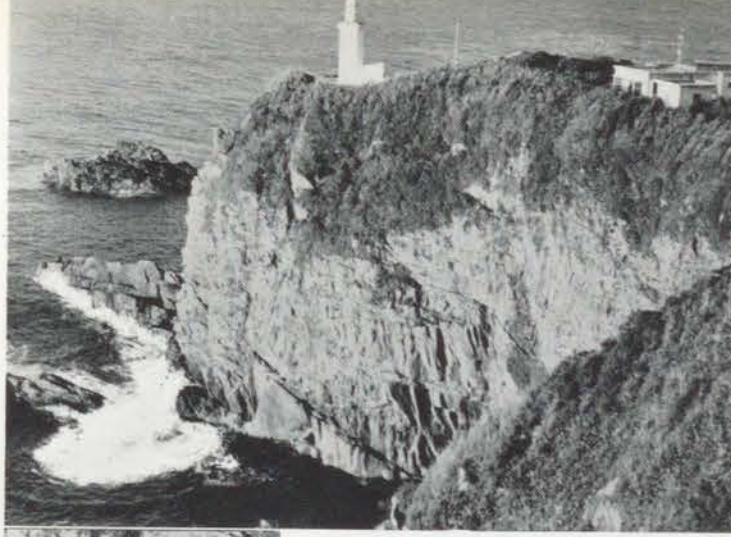
小松島港南防波堤灯台

同東防波堤南灯台





叶埼灯台



足摺岬灯台



遍路さん（足摺岬）

夜の同灯台



土佐沖ノ島灯台





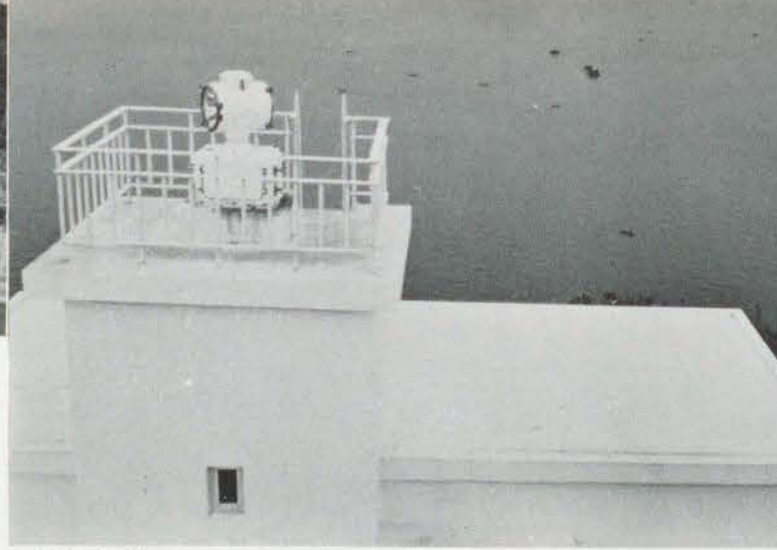
大浜灯台



大浜灯台の遠望

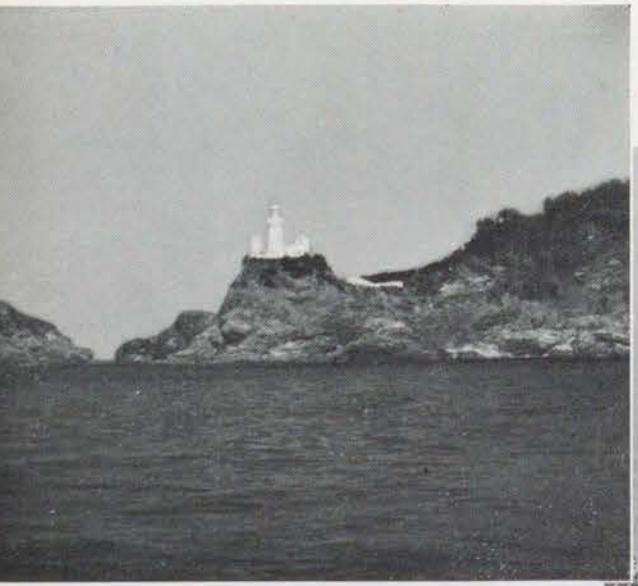


観音寺灯台



大埼灯台

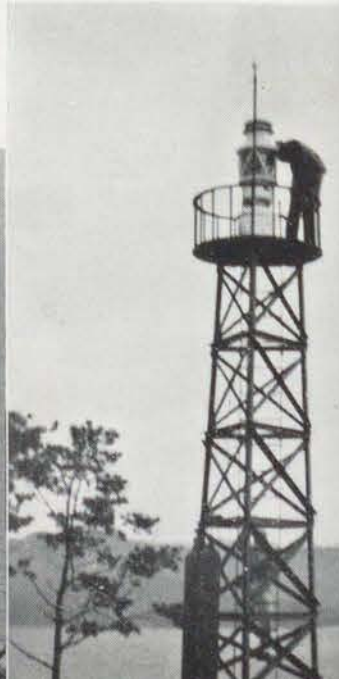
佐島灯台



佐田岬灯台

六島灯台







大浜埼灯台





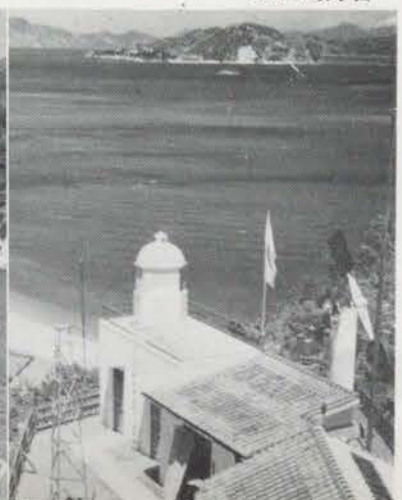


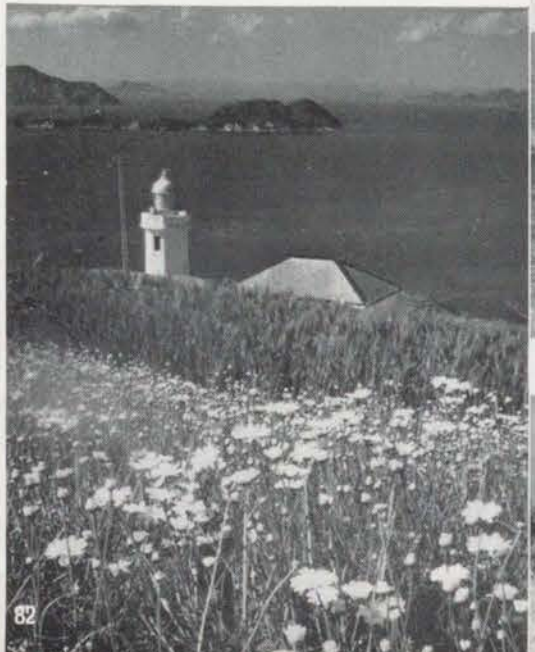
百貫島灯台とその遠望及び着船場より若草を眺む

草より中渡島灯台を望む



大浜埼灯台





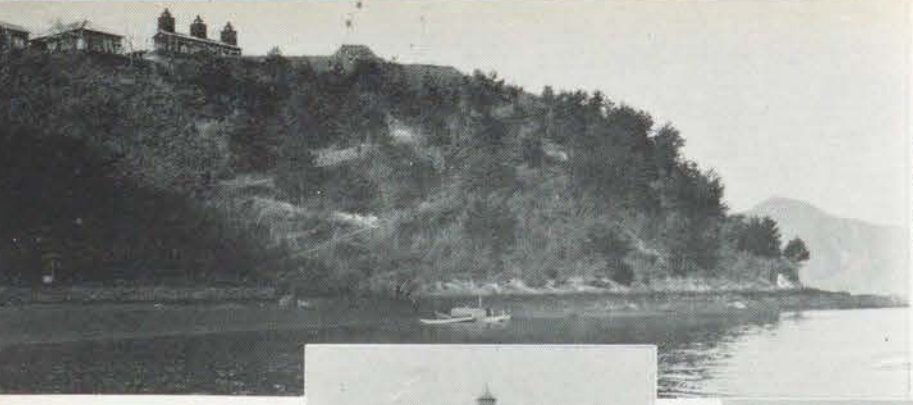
除虫菊の咲き乱れる高井神島灯台



灯台職員の見送り



灯台より若草をみる



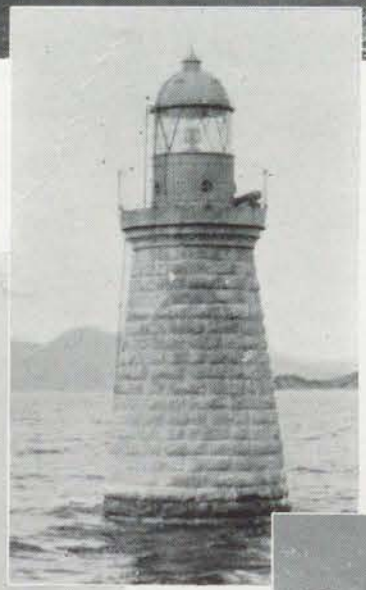
高根島灯台



中渡島灯台

宇品灯台





屋形石灯台





大下島灯台の遠望と近景



大久野島灯台

安芸白石灯標





日時計（大下島灯台にて）

着船場の賑い



センガイ瀬灯浮標



室津灯台

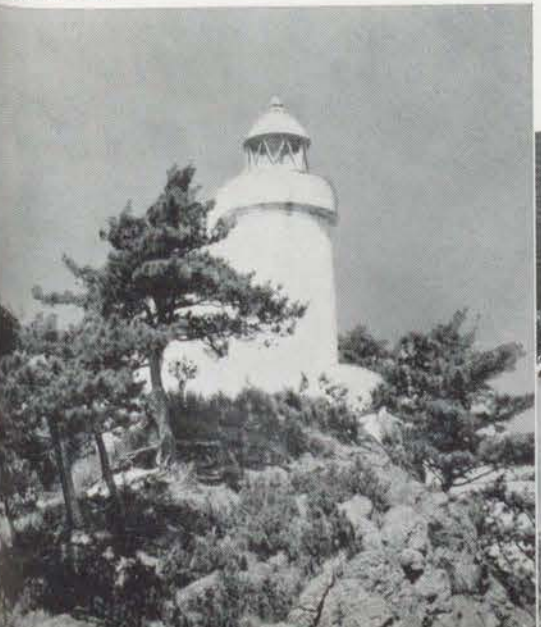






コダコ島灯台

岩島灯台





釣島灯台



見事な大サボテン（釣島灯台の構内）

屋島灯台



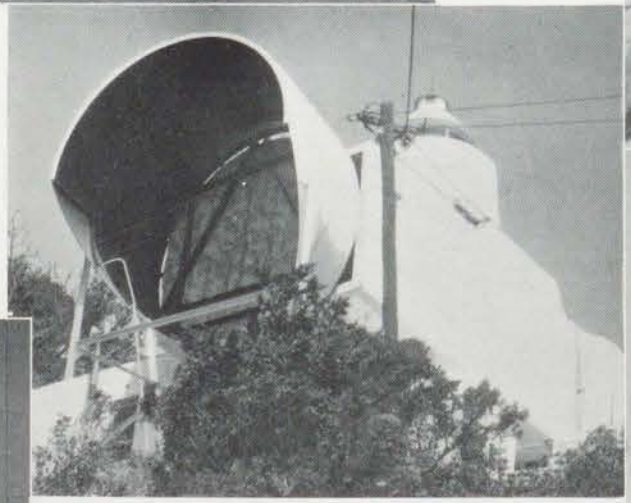
標示灯通航信号（台場鼻）



火の山下通航信号所全景



宇部港（手前）西南防波堤灯台

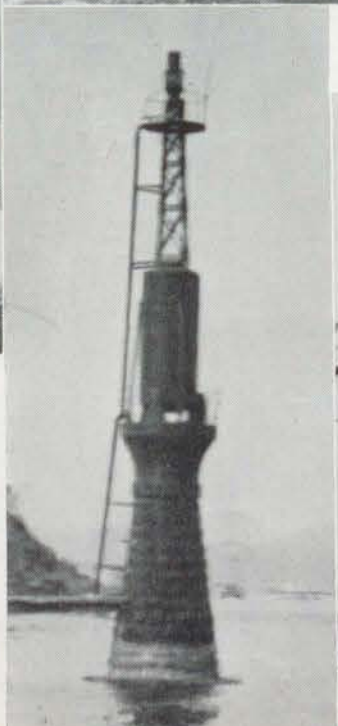


通航信号所（火の山下）



台場鼻通航信号所

一階　倉庫
二階　見張室、事務室
三階　ネオン信号室



山底鼻灯台



壇ノ浦灯台



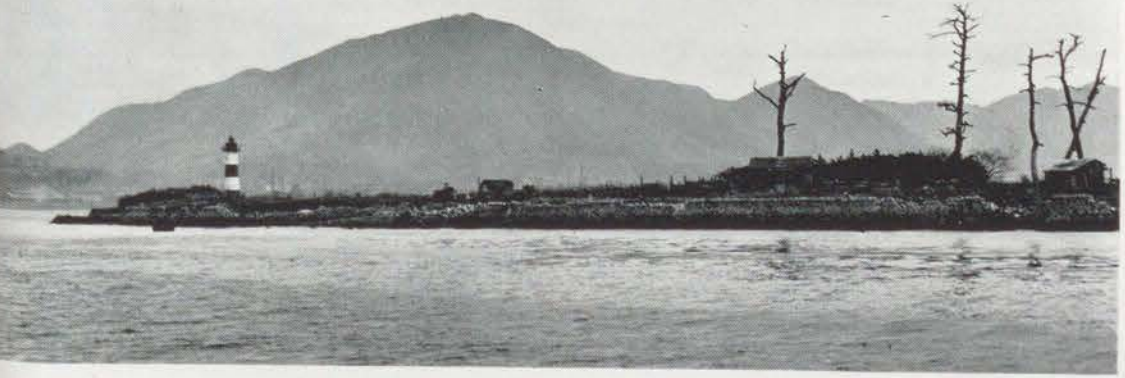
安岐埼灯台



関埼灯台



赤坂通航信号



巖流島灯台



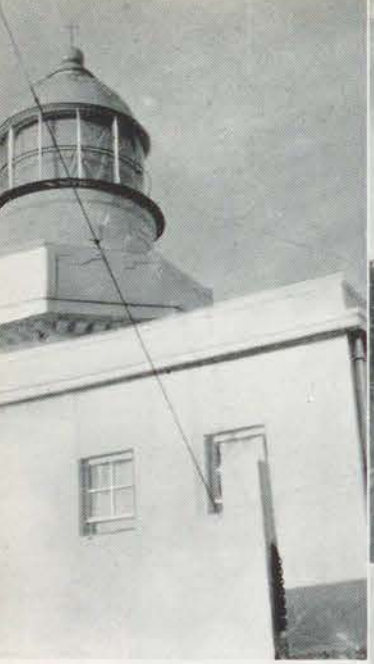
部埼灯台

水ノ子島灯台

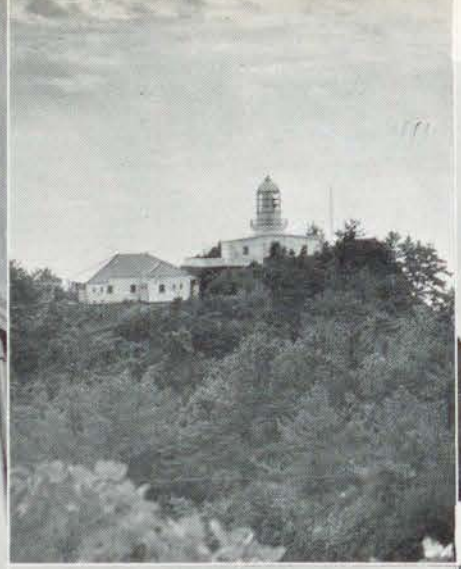


姫島灯台





坊ノ岬灯台



←鞍埼灯台



都井岬灯台

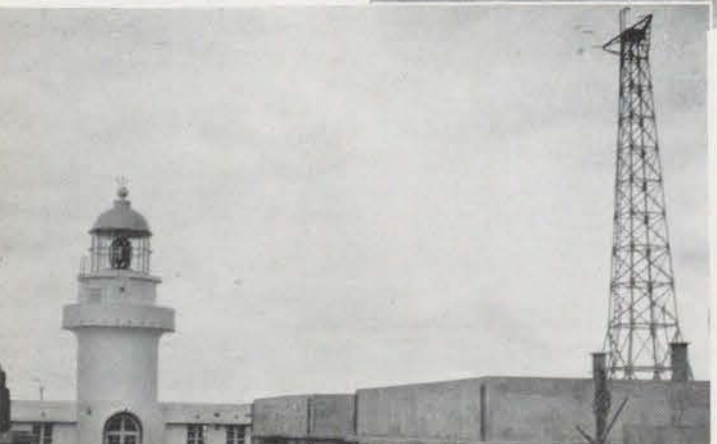


細島灯台



臥蛇島最北端

臥蛇島灯台



種子島灯台





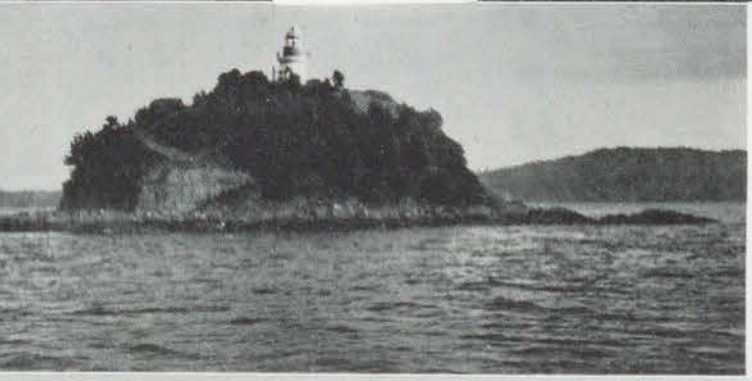
上馬刀灯台



長崎鼻灯台



草垣島灯台



上馬刀灯台を望む



戸馳島灯台



屋久島灯台



三池港灯台より錨地を望む

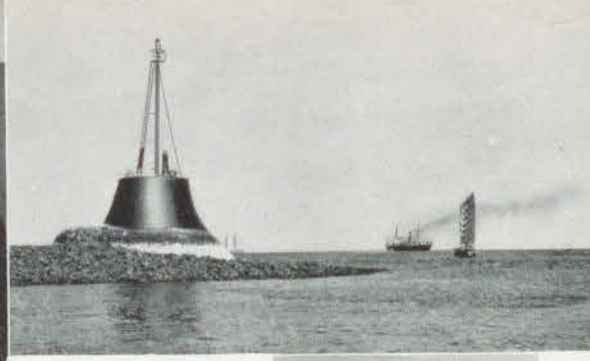


口ノ津灯台





湯島灯台



旧島原灯台



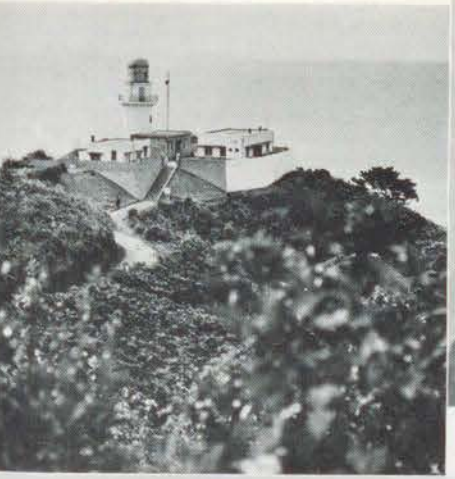
今の島原灯台

女島灯台の遠景と近景



釣掛埼灯台





樺島灯台（旧野母埼）



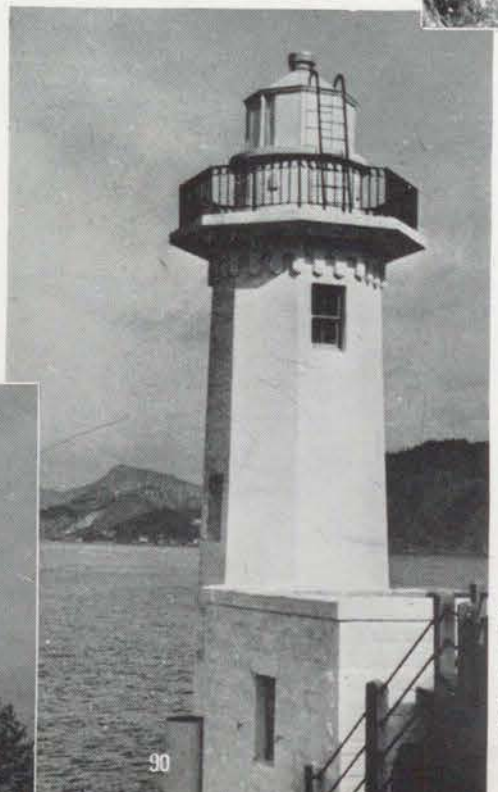
大瀬埼灯台



黄島灯台



樺島漁港口灯柱



蔭の尾島灯台

面高白瀬灯台





伊王島灯台



五島白瀬灯台



伏瀬灯標



平島灯台



大立島灯台



大神島灯台



改築前の伏瀬灯標



神埼灯台





古志岐島灯台の近景と遠景

若宮灯台

三島灯台

二神島灯台









玄界島灯台



沖の島灯台の遠景と近景



鳥帽子島灯台



博多港東防波堤灯台



博多港西防波堤灯台





昔の六連島灯台（立っているのは外人）



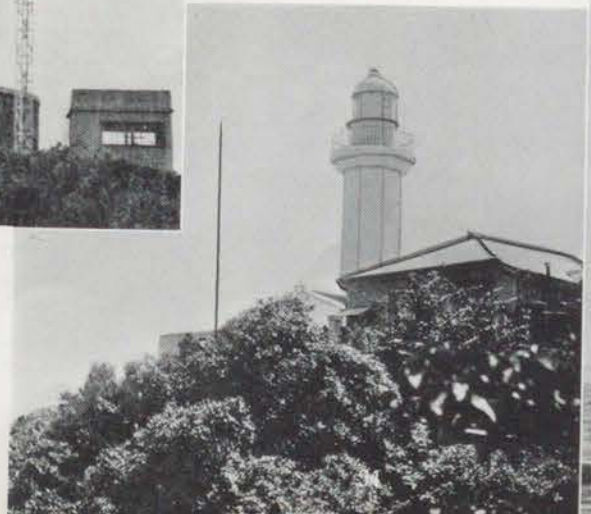
旧若松防波堤灯台

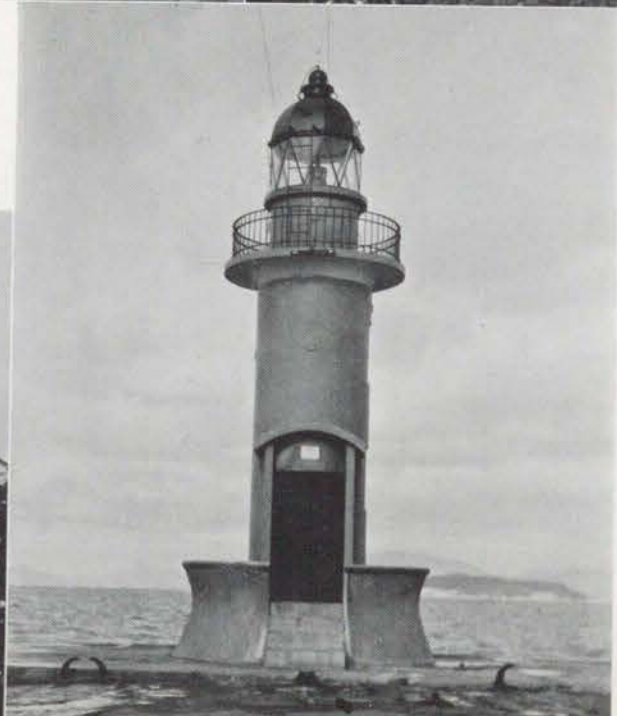




今の六連島灯台（左の建物は電報局）

蓋井島灯台





筑前大島灯台

今の若松防波堤灯台（紅色タイル張り）

防波堤の大部分は元軍艦

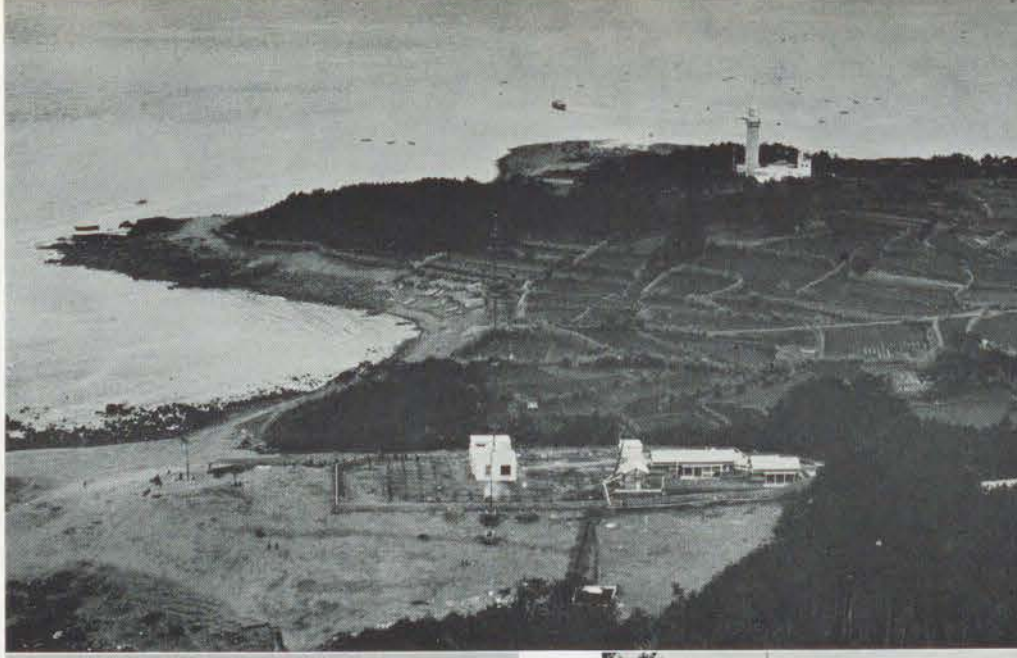


角島灯台

高山岬灯台



出雲日御埼灯台





特牛灯台



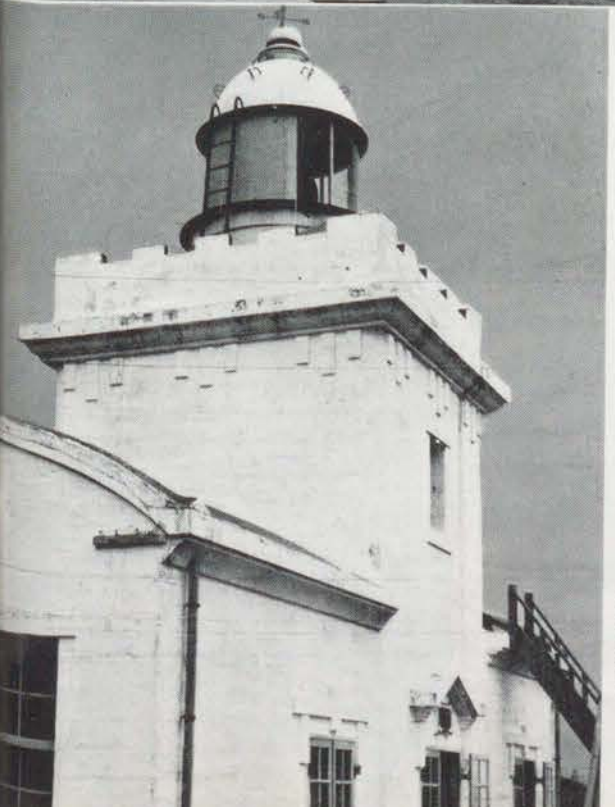
見島灯台



恵曇北防波堤灯台



多古鼻灯台



西郷岬灯台

美保関灯台





高野川口灯柱



経ケ岬灯台

長尾鼻灯台

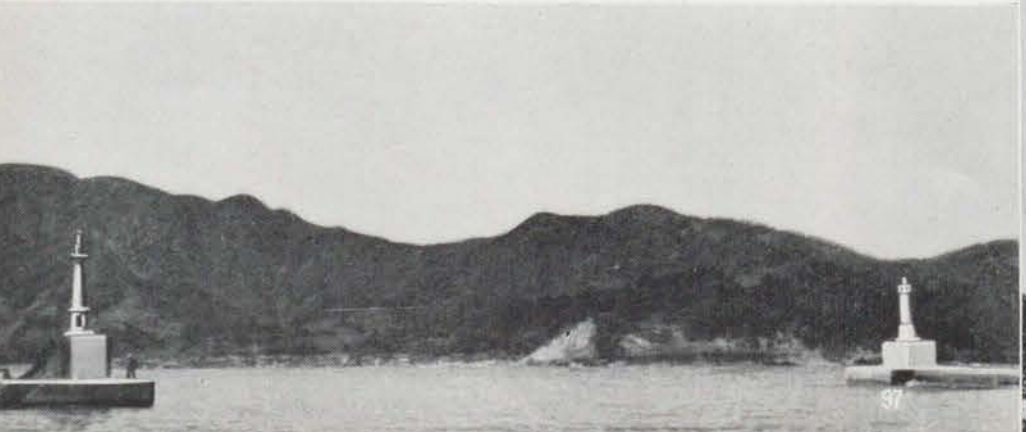


田後灯台



雪の余部埼灯台

香住港灯台







立石埼灯台



三国港防波岬灯台

敦賀港突堤灯台



小浜港防波堤灯台





越前岬灯台

博奕岬灯台





猿山岬霧信号所





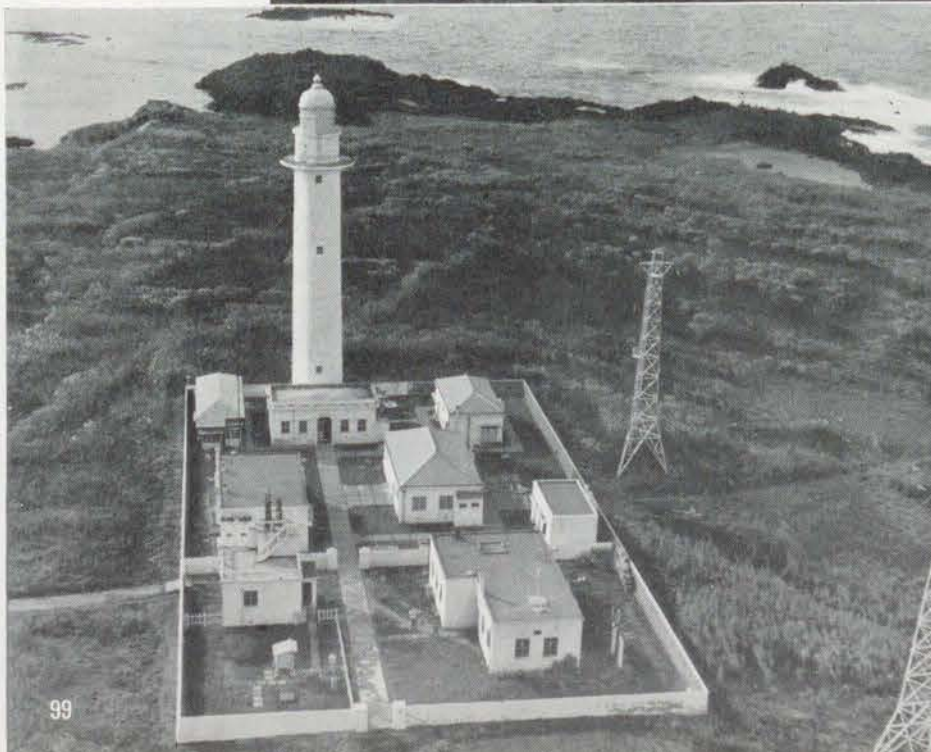
猿山岬灯台

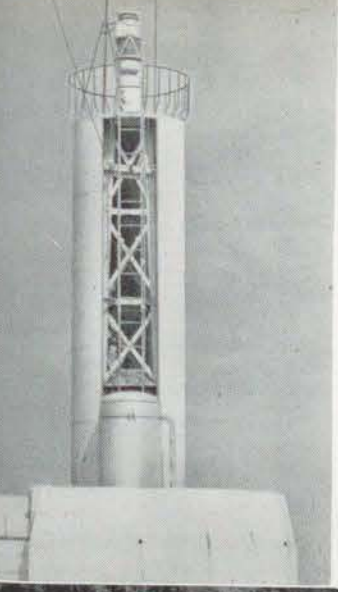
大野灯台



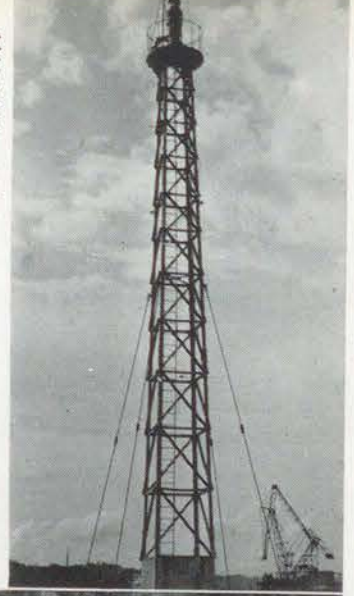
祿剛埼灯台

舳艫島灯台





伏木港導灯（低灯）



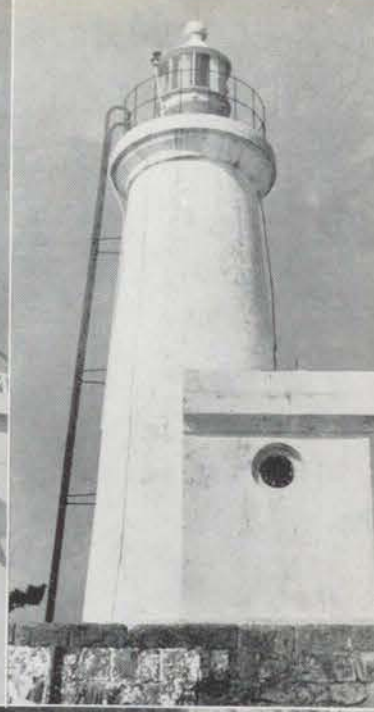
伏木港導灯（高灯）



七尾湾口灯台



能登島灯台低灯（右）



能登島灯台高灯（左）



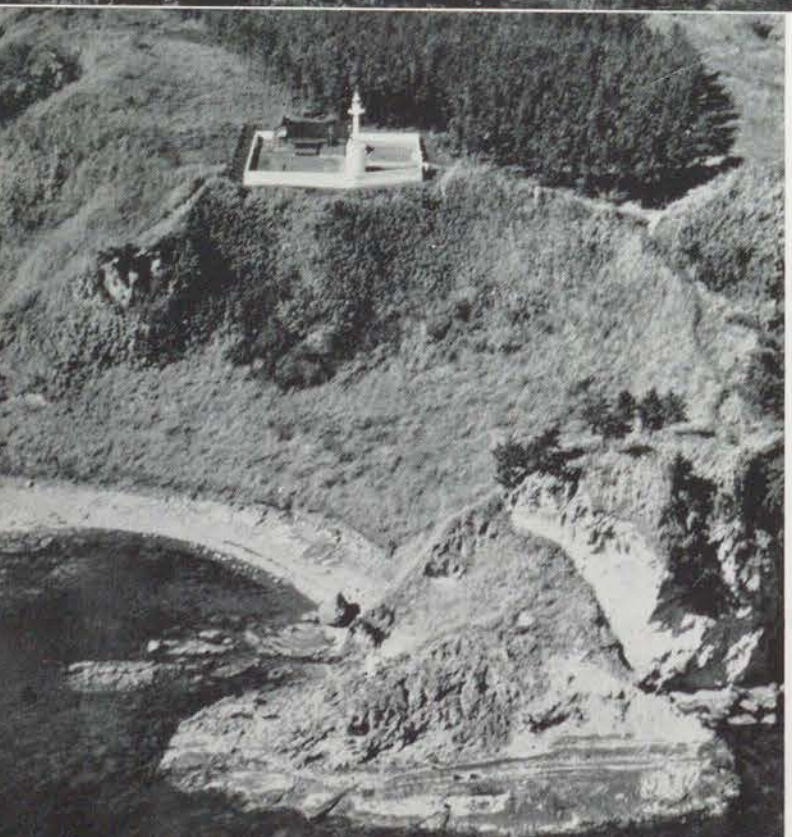
岩崎鼻灯台



沢崎灯台



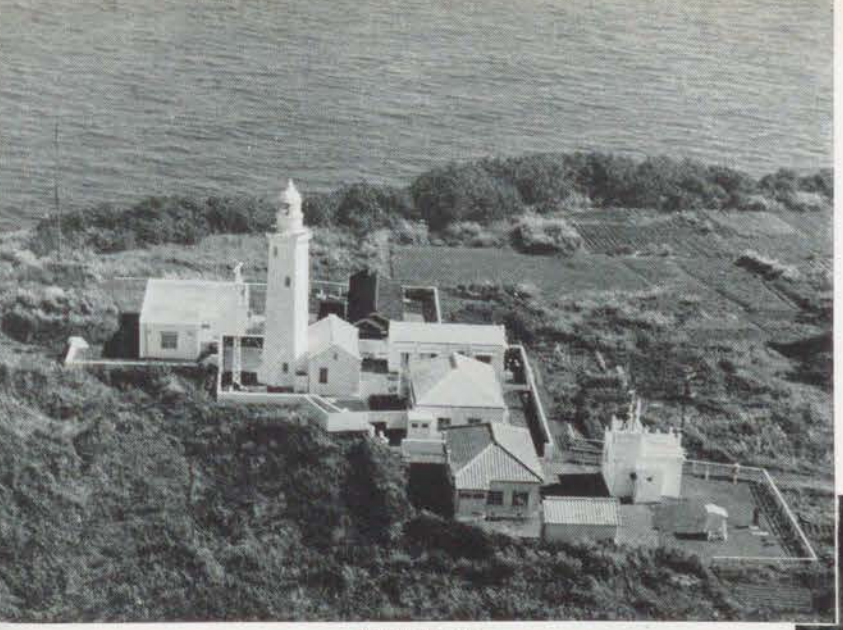
生地鼻灯台



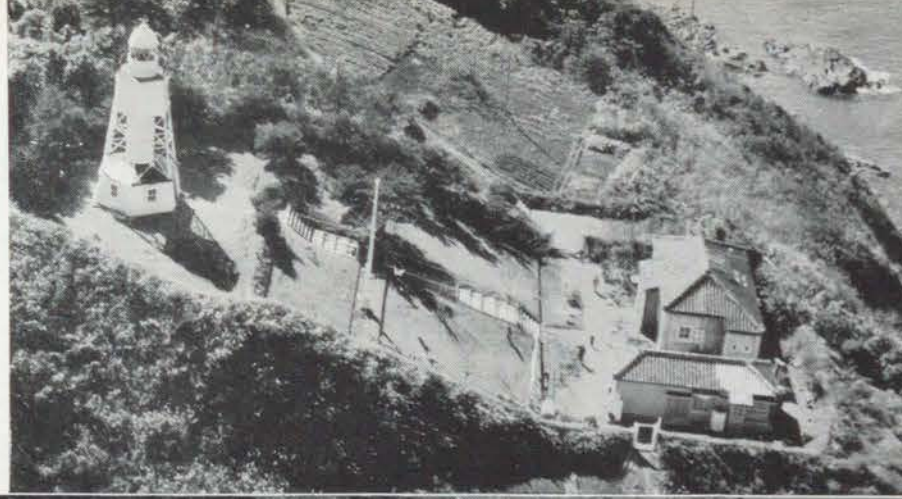
台ケ鼻灯台



名立港灯台



弾崎灯台



姫埼灯台



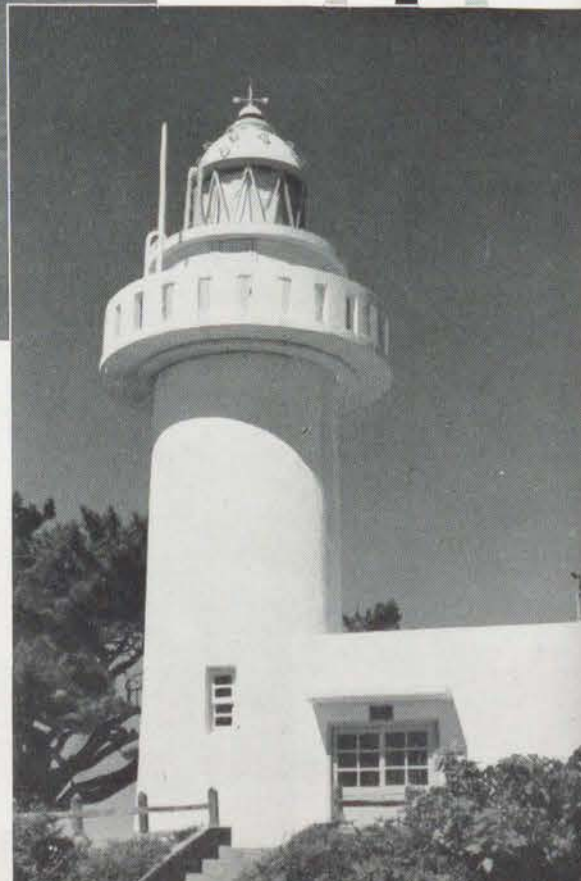
鴻瀬鼻灯台



粟生島灯台



新潟港防波堤灯台



飛島灯台



金浦港灯台



酒田港灯台



龍飛埼灯台

船川灯台



入道埼灯台





艫作埼灯台

昔の船川灯台



松前灯台の鳥瞰







空からみた白神岬灯台

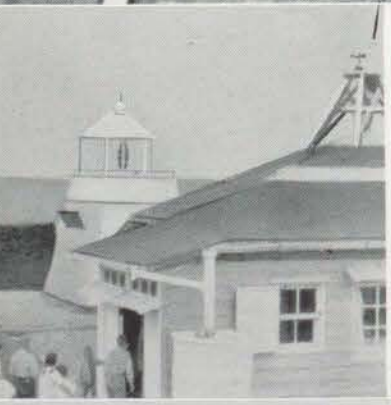
今の白神岬灯台



旧白神岬灯台



松前灯台の遠望



旧鷗島灯台

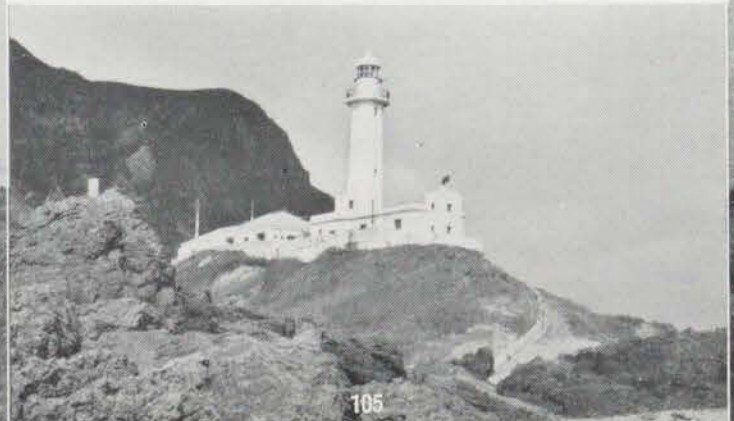
今の鷗島灯台

松前小島灯台の全景



松前小島灯台の近景







旧弁慶岬灯台



茂津田灯台

青苗岬灯台の遠望





今の弁慶岬灯台

稲穂岬灯台



激波をかぶる岩内灯台（昭和7年9月の颱風の時写したもの）





空からみた岩内港西防波堤灯台



旧稲穂岬灯台と霧信号



日和山灯台を鳥瞰する

旧日和山灯台





神威岬灯台と奇岩

小樽港南北防波堤灯台（航空写真）





日和山灯台



空からみた神威岬灯台

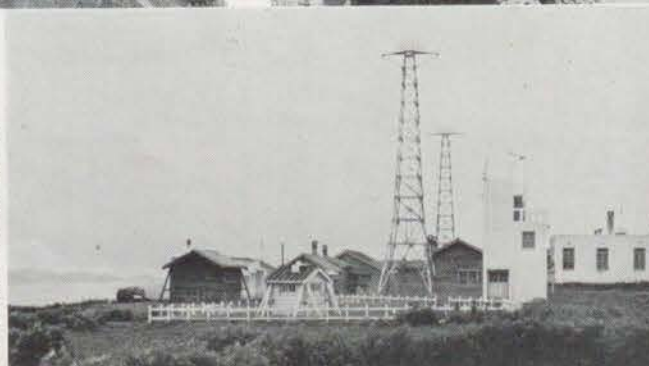


小樽港南北防波堤灯台の近景



機上より積丹無線方位信号所を見る

積丹岬無線方位信号所





空からみた増毛灯台



霧の中の雄冬岬灯台



雄冬岬灯台

増毛灯台の近景





焼尻島灯台



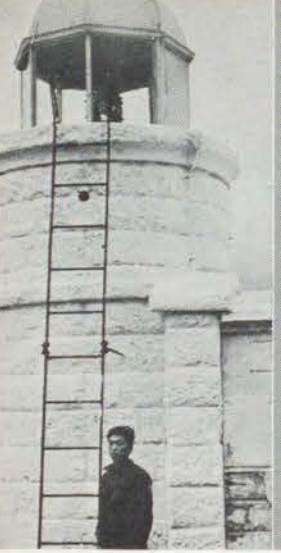
石狩灯台



留萌港防波堤灯台（白）



留萌港防波堤灯台（赤）



旧鴛泊灯台

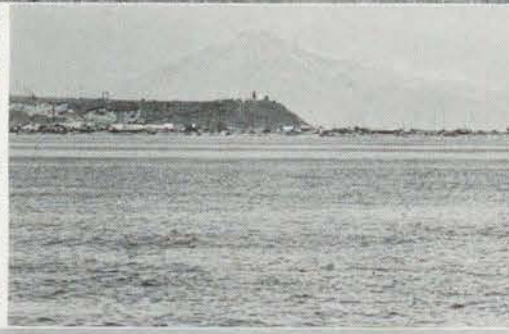


石埼灯台

機上より見た鴛泊灯台

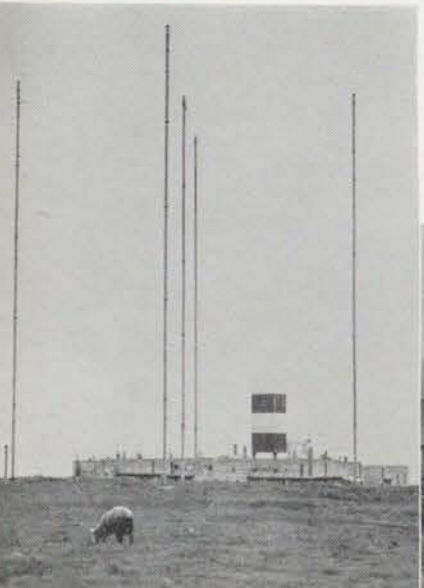


若草船上より稚内灯台を望む



稚内灯台

緬羊と宗谷岬灯台とアンテナ（組立式）



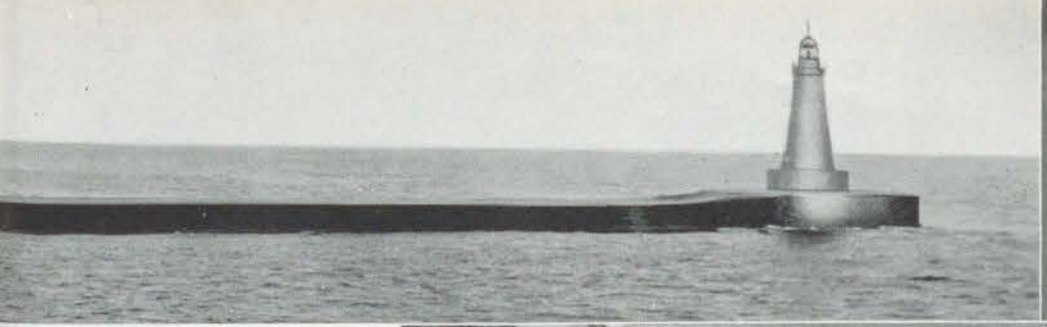


旧宗谷岬灯台

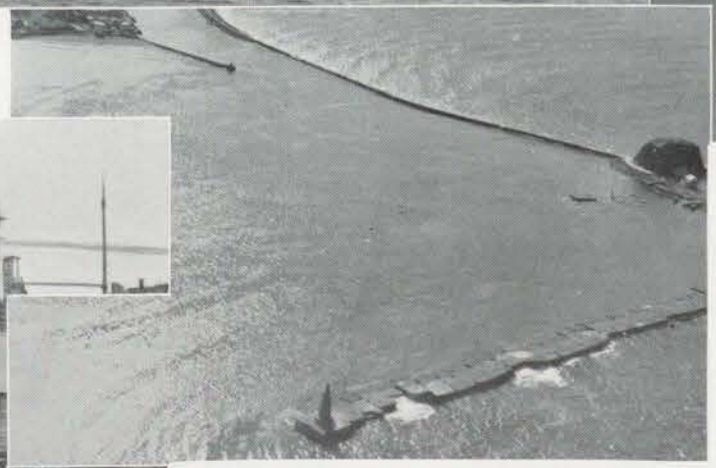


宗谷岬灯台

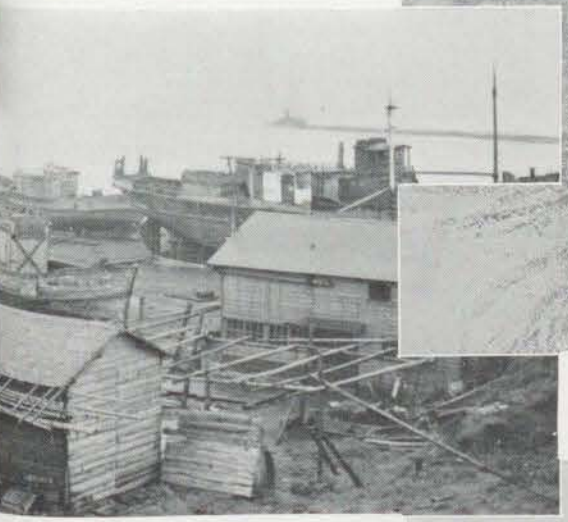




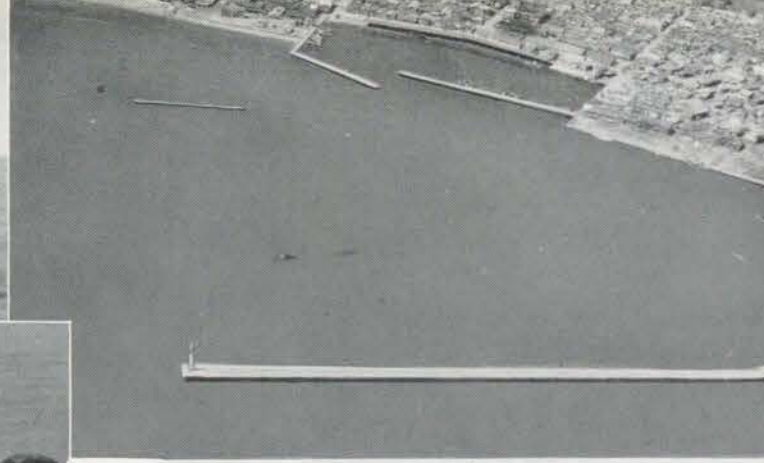
網走港防波堤灯台



空よりみた網走港防波堤灯台



根室灯台



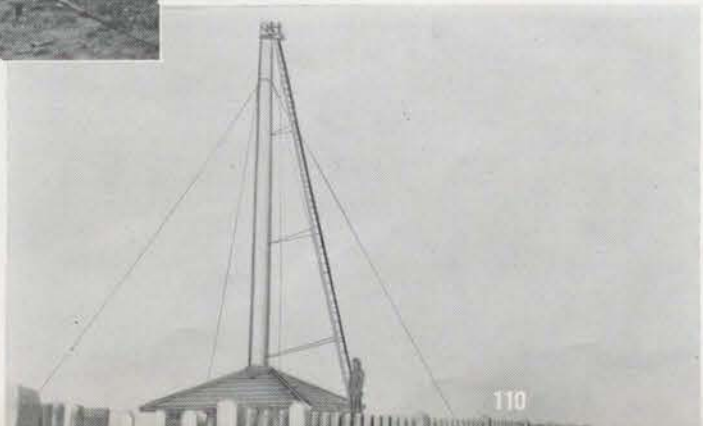
紋別港防波堤灯台



能取岬灯台



機上より見た能取岬灯台



昔の弁天島灯竿（根室）



昔の花咲灯台



今の花咲灯台



花咲港内の漁船群



昔の納沙布灯台



今の納沙布灯台の遠景



今の落石埼灯台

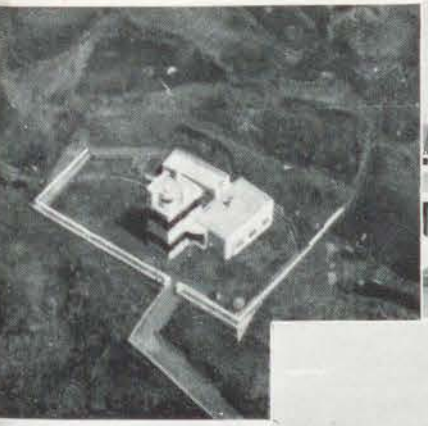


昔の落石埼灯台



雨の納沙布灯台

旧襟裳埼灯台









空から見た浦河灯台

近景の湯沸岬灯台

遠望の湯沸岬灯台と奇岩



近景の厚岸灯台



今の襟裳岬灯台



旧釧路埼灯台

今の釧路埼灯台







厚岸灯台の遠景

広尾港防波堤灯台





幌泉灯台と「若草」を眺む

遠望の室蘭港（大黒島）灯台





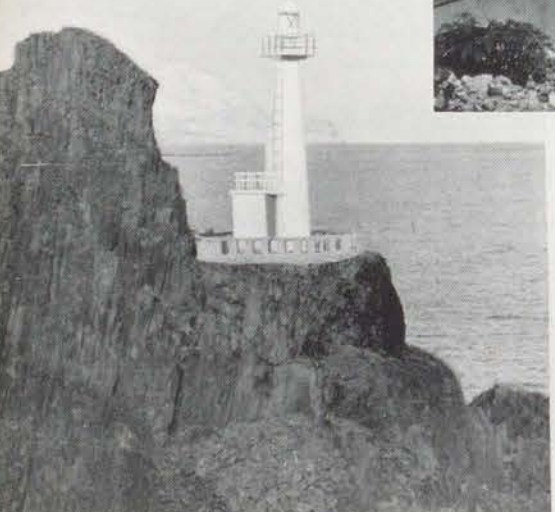
室蘭港灯台



チキユウ岬灯台の嶮

（右の白い建物は無線方位信号所）

日浦岬灯台



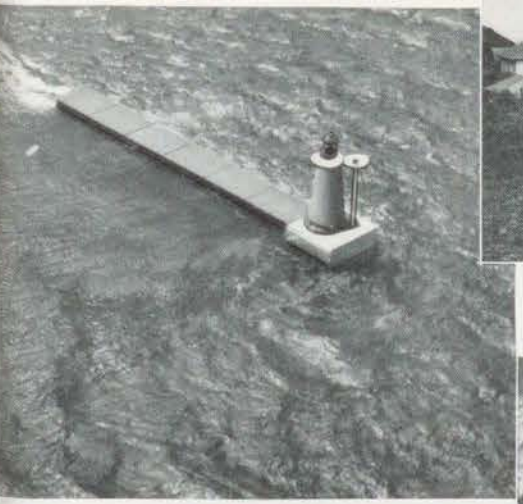
チキユウ岬無線方位信号所



チキウ岬灯台の近景



函館港防波堤灯台（赤）





汐首岬灯台

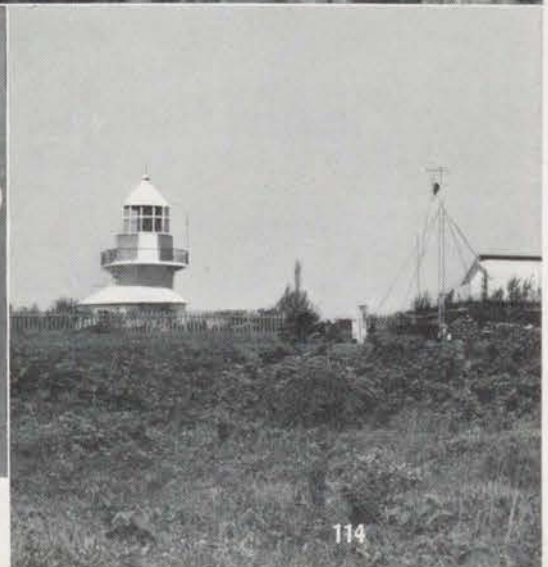
機上から見た葛登支岬灯台



灯台の位置図



旧葛登支岬灯台



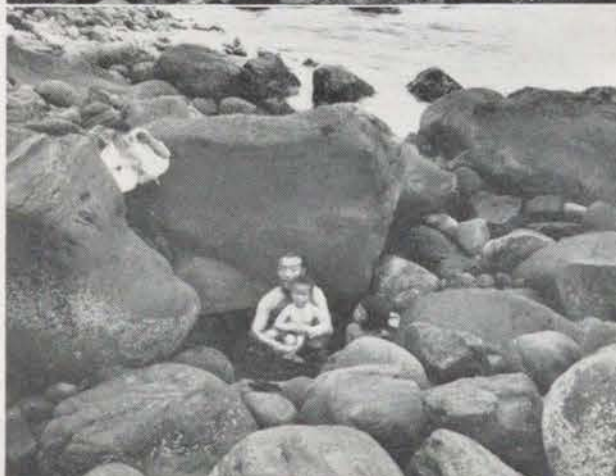
旧恵山岬灯台



今の恵山岬灯台



灯台下の海の温泉



平館灯台



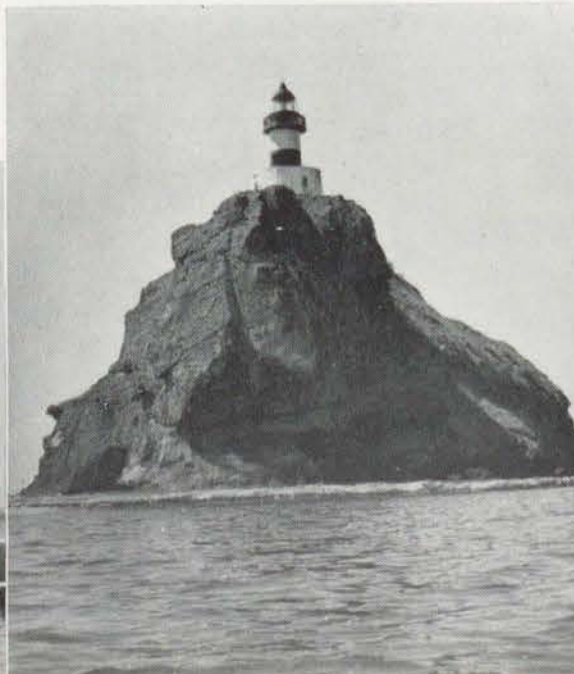
青森港東防波堤灯台



安井埼灯台



陸奥弁天島灯台



青森港北防波堤灯台



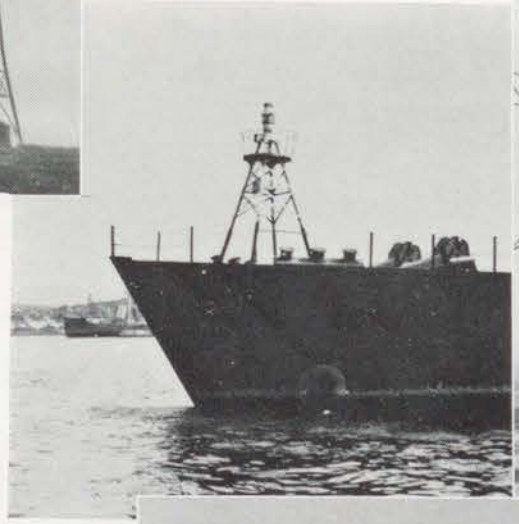


尻矢埼灯台

大間埼灯台



沈船防波堤灯台（八戸港）





普代灯台

鮫角灯台





鮭埼灯台を望む

灯室より海を望む（鮭埼灯台）



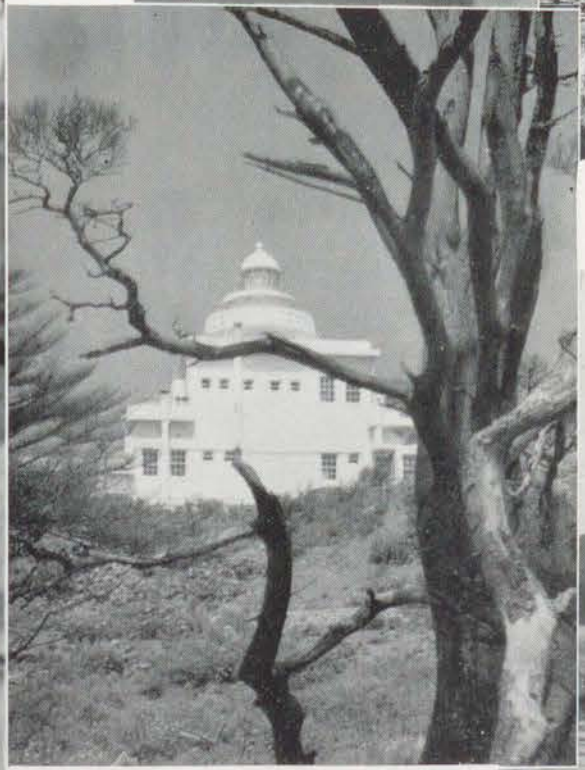


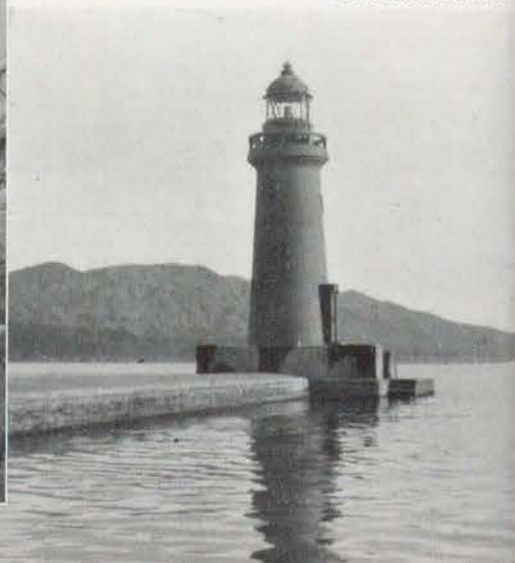
釜石港北防波堤灯台



釜石港南防波堤灯台

宮古港防波堤灯台





陸中尾埼灯台

陸前大島灯台



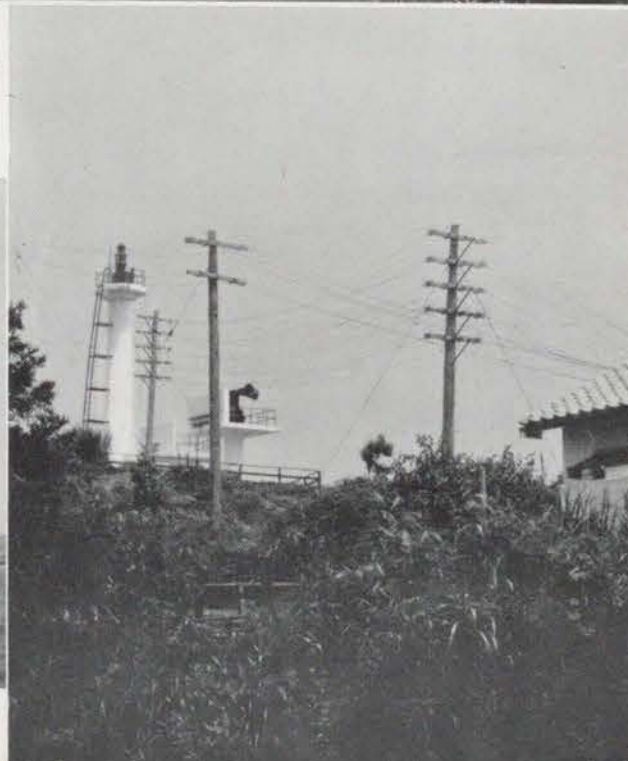
綾里埼灯台



大須埼灯台



四子ノ埼灯台





萩ノ浜灯台

金華山灯台の遠望



灯室とレンズ（金華山灯台）



波島灯台



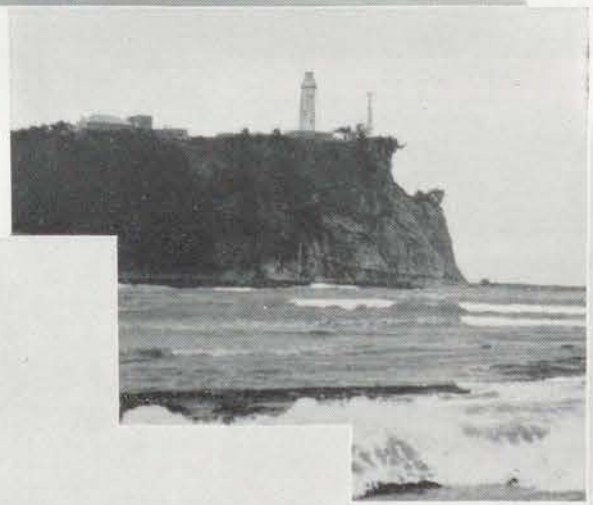


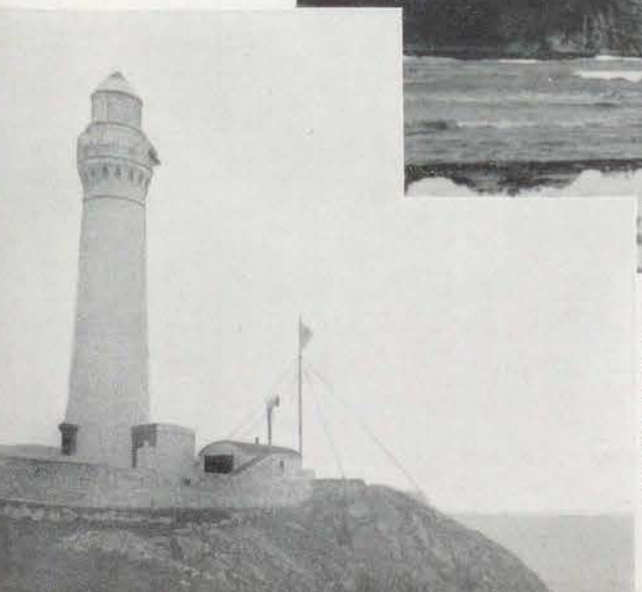
小名浜港防波堤灯台



鵜ノ尾埼灯台

塩屋埼灯台の遠望





昔の塩屋埼灯台



石巻港西防波堤灯台



石巻港東防波堤灯台

気象観測と灯台



風力計・風針計・風速計



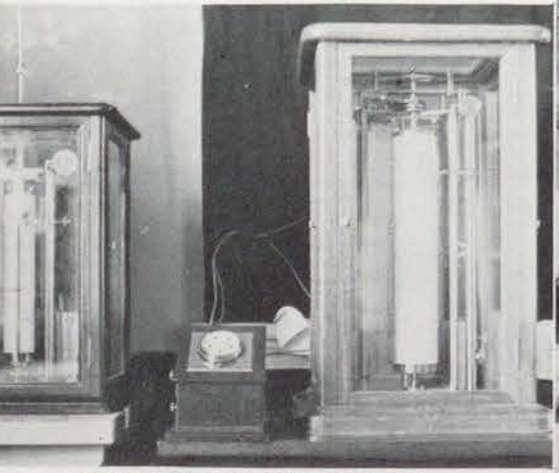
地中寒暖計（右）と自記雨量計（左）



昔の気象器機

気象観測所―右の白い建物―（尻矢埼灯台）



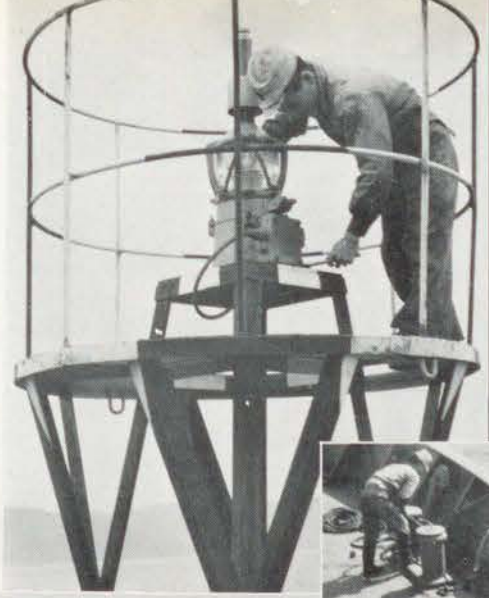


自記風針器（左）自記風力計（右）

方位針







設標船とその活躍

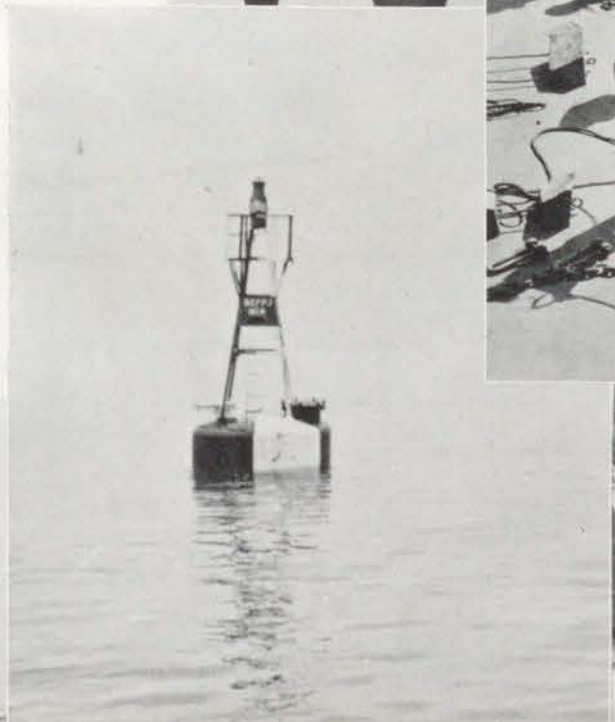




設標船「ほくと」











灯浮標の設置作業





灯浮標の引揚げ作業

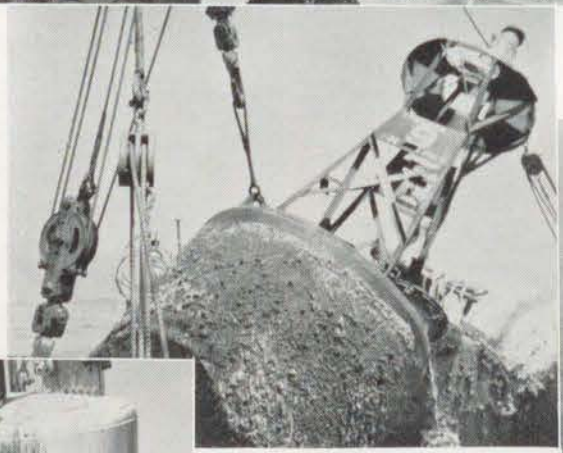




設標船「ぎんが」









設標船「かいおう」



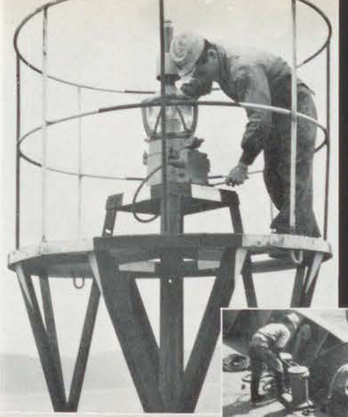




灯浮標の引揚げ作業



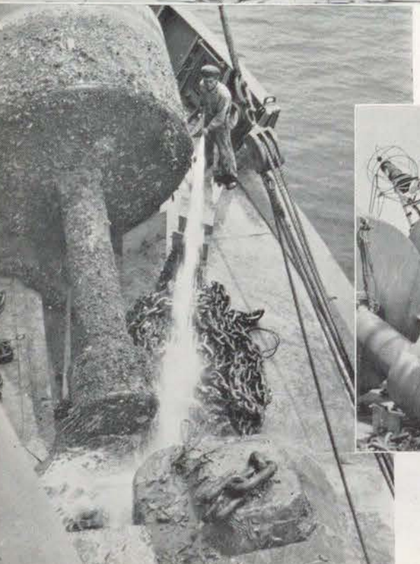




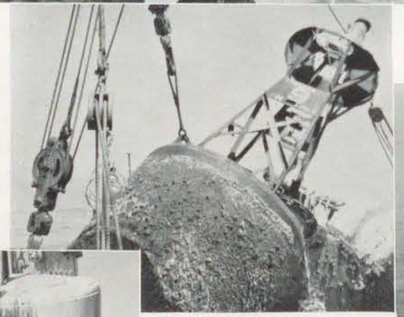
設標船とその活躍



設標船「ぎんが」





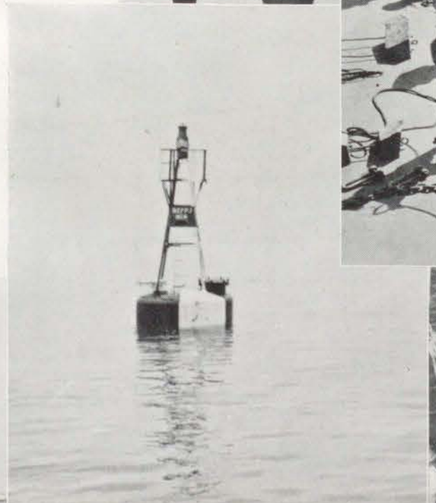


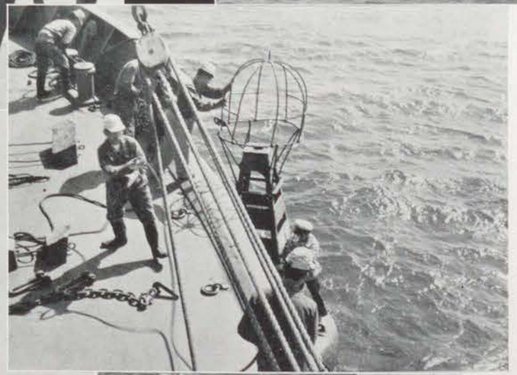


設標船「かいおう」









設標船「ほくと」

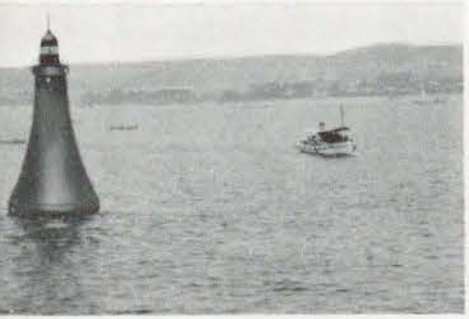




灯浮標の設置作業



見廻船の種類



廻中の大型発動機船

通船の降下作業中



見廻船「あかつき」



「きよつこう」



「あけぼの」





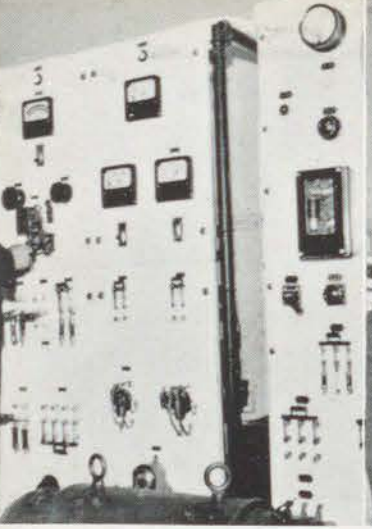
手押船

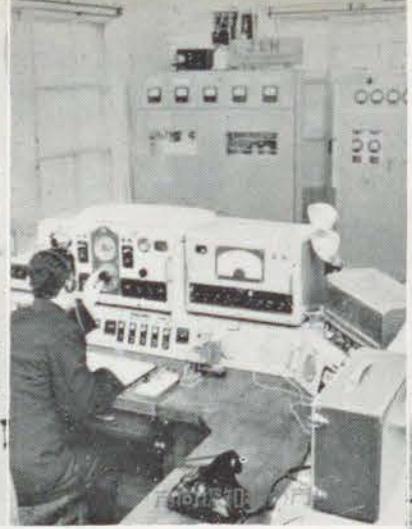


小型手押兼発動機船

配給品陸上げ（手前よりボート、通船、本船）







執務中の通信士



暴風標識掲揚中



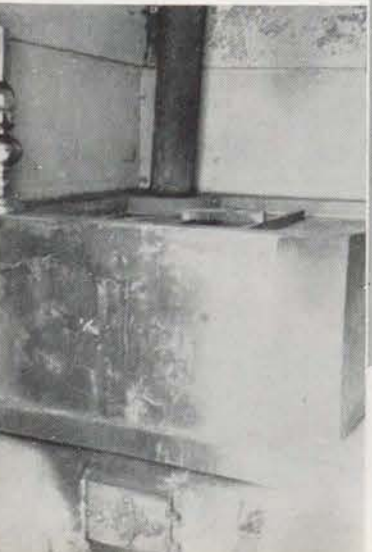
点灯中の灯台

一日の仕事



灯台の断面図

風呂場





親時計



海上監視中





執務中の通信士



暴風標識掲揚中

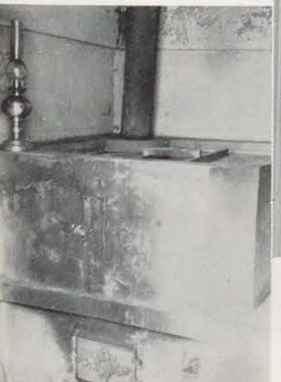


点灯中の灯台

一日の仕事



灯台の断面図



風呂場



親時計



海上監視中

見廻船の種類



見廻中の大型発動機船

通船の降下作業中



見廻船「あかつき」



「きよつこう」



「あけぼの」





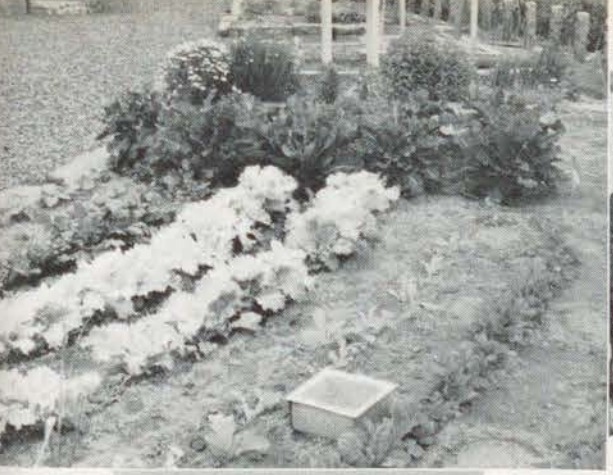
手押船



小型手押兼発動機船

配給品陸上げ（手前よりボート、通船、本船）







楽しい一時



退機所と貯水槽と放射能雨の浄化装置（下）

灯台の子供たち



スキーを楽しむ

行届いている花壇

養鶏

花と子供







放射能雨と飲料水



国民生活と灯台(一)



光による道しるべ



アメリカ航路「ぷらじる丸」



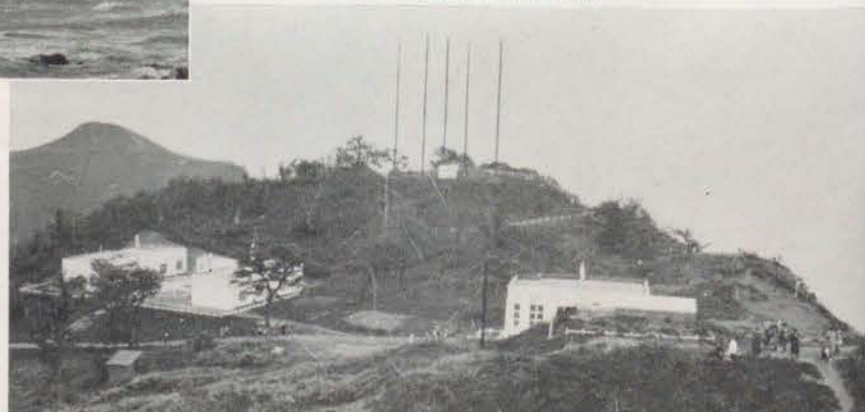
必需物資を満積して



楽しい船旅

貨物の安全輸送

電波による道しるべ



国民生活と灯台 (二)



大漁に賑う港と出迎えの家族



暁を衝いて帰港する近海漁船



鮭、ますの漁を終つて帰港した漁船団

沸く漁場



船底には海幸の山

船底より甲板へ





海幸の出荷も終つて家路に急ぐ婦人





鮭の腹中に塩詰め作業の婦人





甲板から更にソリに積移す

豊漁に

二十貫の海幸の山も軽々と





船出しも終つてホット一息

国民生活と灯台 (二)



暁を衝いて帰港する近海漁船



鮭、ますの漁を終つて帰港した漁船団





大漁に賑う港と出迎えの家族



船底には海幸の山

船底より甲板へ



豊漁に沸く漁場



甲板から更にソリに積移す



二十貫の海幸の山も軽々と



海幸の出荷も終つて家路に急ぐ婦人





鮭の腹中に塩詰め作業の婦人



船出しも終つてホット一息



ヘリコプターによる救助



灯台のある航空基地

航空基地（函館）





着水したヘリコプター



待機中のピーチクラフトE18S双発機



坐礁した船（下）と救助活躍中の巡視艇（左）



解説篇

昔の灯台（写真一頁より四頁参照）

燈台の歴史に就いては、簡単ではあるが既に記したので、ここでは、写真の説明不足を補促する。

天保山灯台（写真四頁参照）

天保山は天保五年に、木津川口の護岸工事の土砂をもつて築造された。燈台は、それを敷地として建てられた四角形の木造で、燈籠を設け、油障紙の油燈を点火したにはじまる。明治四年四月洋式燈台に改築のため仮燈を作つて点火したが、同五年完成、本格的燈台として出発した。その後、構内に廻台が設置されたが同四十年大阪築港燈台新設のため廃止撤去となつた。

つくだじま（石川島）灯　明　台（写真四頁参照）

この絵は、二代広重筆によるもので、江戸名所図絵のものである。

慶応の初め、石川島徒役場（人足寄場）の寄場奉行清水某という人が、監禁者の労作した油搾りと炭焼きの純益金で築造したのが、この燈明台である。建築した者は石工磯吉といわれている。

燈明台は、石垣の上に山をつくり、そこへ六角形の練塀式の燈塔を建て、燈籠の上部には羊の皮（油で細工したもの）を張り、種油を焚いたとある。行燈式とはいえ相当明るく、出入する船、殊に房州その他からの船にとつては、洵に有難い目標となつたものと思われる。当時、神田明神男坂の上にも常明燈があり、これも湾内漕行の船に便利がられた。

九段灯明台（写真四頁参照）

この燈明台は、明治四年靖国神社の前身である招魂社に献燈の意味で建てられたもので、築造は、つくだ島燈明台で苦心した石工磯吉の手になるといわれている。燈塔は各種の自然石を巧みに使つて積み重ねた洵に古典的な、すつきりしたもので、上部の燈籠は、既設の品川燈台や観音崎燈台の仏国式をとりいれて工風をこらしたものと思われる。当時は、ランプ式の点火であつたので、東京湾を一望出来る位置だけに、湾内の夜間航行の船にはよき道しるべとして利用されたであろう。

初めは、神社前の右側、元偕行社構内石垣の角の処にあつたが、明治十五年頃偕行社改築のとき、今の坂上お濠端に移され、以来瓦斯燈、電燈と戦前まで点燈を続けていたが、戦災後は荒れるにまかせ、江戸名残りの文化財も、今は昔を偲ぶよすがもない。

江戸条約で出来た洋式灯台

洋式燈台出現の理由は写真（6・7・8頁参照）のページで述べたので、ここでは、個々の燈台に就いて簡単に述べる。

観音崎灯台は、三等燈台で、光達距離は十四浬、燈台の高さは水面上一七〇尺である。明治二年正月に出来たもの（初代）は、大正十一年四月の震災で大亀裂を生じたため、同十二年三月鉄筋コンクリート造白色塗のものに改築した。これが二代目である。貞明皇后行啓あらせられ、職員及家族に御慰問の御言葉を賜つたのは、この二代目の時（同年五月）である。

然るに、同十二年九月の関東大震災で、再び破壊し、ここに鉄筋コンクリート造六角形白色塗の三代目が誕生したのである。現在は、光力は九万燭光、光達距離二十浬の四等燈台である。

野島埼灯台は、本燈台建築に先立ち、海岸寄りの高所に木造四角のやぐら形仮燈台を設け、不動レンズを置いて菜種油に点火し、本燈台完成までの十ケ月間これを続けた。やぐら上のチョンマゲに羽織袴の人々は、検視の役人でもあろう。（写真五頁参照）

本燈台は、大正十二年九月一日の関東大震災で崩壊し、一時仮新竿に点燈していたが、大正十五年八月鉄筋コンクリート六角形白色塗の二代目が落成、二等燈台として現在に至つている。

明治三十六年に爆発信号を設けたが、大正十四年八月には空気サイレン霧笛に改良、昭和七年二月には無線方位信号所を開始した。

品川灯台（性能・構造等は便覧参照）は、黒船襲来におびえて急造された品川御台場の第二砲台に造られた仏国式のもので、前記の観音埼、野島埼の二灯台が改修された今日、この灯台が日本最古のものとなつた。当時は、湾内通航の引船や釣船程度のものが利用していたが、東京港の計画が進むと共にその利用価値は高まり、今では、大型船舶の航行頻繁を極めているが、近々海堡切開の厄に遭い、廃燈の憂目をみるに至るという。かかる重要文化財を失うは遺憾。

神子元島灯台（性能・構造等は便覧参照）下田港を距る七浬の間には、暗礁散在して船舶の航行上危険甚だしきため、江戸条約でこの地に燈台建設を指定したのは当然と思う。この燈台は無人燈台であるため、家族との同居はゆるされず、退機所を下田港に置いて、一週間毎に二名宛交替の勤務制をとり、飲料水を初め生活必需品は、下田港より交代船（昔は手押船、今は機械船）で供給している。

島と陸との連絡方法は、昔は、旗流信号等であつたが、今は無線を使つている。

剣埼灯台（性能・構造等は便覧参照）本燈台も大正十二年九月の関東大震災で破壊し、同十四年十五日鉄筋コンクリート造白色六角形の二代目が落成したもので、無線回転ビーコン発祥の燈台である。

樫野埼灯台（性能・構造等は便覧参照）英国式で剣埼燈台とともに外洋に面する大燈台で、熊野灘の重要地点にある。明治二十三年九月十六日トルコ軍艦（モルトグロール）号が針路を誤つて遭難沈没し、乗組員二百余名という多数の犠牲者を出した。（写真七四頁参照）

伊王島灯台（性能・構造等は便覧参照）本灯台は、長崎港口にある一小島にあつて、最も重要な位置を占せている。天守堂のある香焼島とは数歩の潮で距てられ、ほとんど地続きといつてもよい。明治二年起工、同三年六月完成した英国式鉄造である。

潮岬灯台（性能・構造等は便覧参照）明治三年六月仮灯台を設置したが、同六年九月高さ六十三尺の英国式による木造灯台の完成をみた。

本灯台は、紀洲灘の突端に位し、樫野灯台とは相左右する最も重要な役割をもつため、明治十一年に木造を廃して石造とした。これが二代目であり現在のもので、高さ六十三尺の荘大なものである。

昭和二十九年十月無線方位信号所を新設し、大いに海難に備えている。

佐多岬灯台に就ては、写真説明一六頁を参照乞う。

本牧灯台船（戒礁丸）本船は、木造洋型で長さ七十二呎・巾十二呎・深さ六呎のもので、前後に二檣をもち、前檣の高さは、甲板上五十呎・後檣の高さは二十八呎。点灯は、日没時に点火して灯籠を定位置まで引揚げ、日の出とともに引降して消灯する。

本船の横浜港碇置によつて、晨に設置した西波止場灯竿とともに、昼夜出入港の船舶の目標として、効果をあげ、横浜港をして名実ともに日本の貿易港として発展せしめた。明治四十一年九月、瓦斯灯、浮標と交替して廃船した。

函館灯台船は、本牧と同型のもので、大正四年函館港防波堤構築のため、同年七月撤去した。

航路標識の種類　（写真一七頁より二五頁参照）

航路標識即ち灯台は、海上交通安全のための設備である。普通に灯台と称しているのは、視覚による光の灯台のことであるが、同じ視覚によるものの中にも、形の違いや色によつて知らされる形の灯台もあれば、聴覚による音の灯台もあり、電波による灯台もある。これらを総称して航路標識というのである。

視覚による灯台には、夜間の標識（略して夜標という）と昼間の標識（略して昼標という）とがあるが、更に夜標、昼標を次のように分類してそれ〳〵の役目を略記する。

◇夜　標　（視覚による灯台）　（写真一七・一八頁を参照）

灯　台　（標識としてもつとも重要なもので、沿岸や港湾の目標として設けられる。遠洋航海用のものと近海航海用との二種がある。遠洋航海用のものは、遠距離まで海上を照らす必要上、堅牢

高大にして灯器、光力等総て優良精巧なものが用いられている。（写真三六・三九頁参照）

灯柱　近海航路用のものは、光力範囲も、前者のように強大ではない。）

灯船　（小さい竿柱の頂に灯火を掲げる簡単なもので、港内などに用いられる―昔は灯竿という。）

導灯　（灯台をつけた船で、浅瀬や岩礁を示すため碇りをおろしている船である。）

灯浮標　（二つ以上の灯台を一組として、狭小な港口とか、転舵の困難な水道等で危険物を避けるために、安全航路の見透し線を表示するもので、二個又は数個の灯火を置く。）

灯標　（灯火のつくブイをいい、通常航路筋又は障害物を表示する。）

（暗礁とか浅瀬の上に建ててその位置を示すもので、船舶の坐礁を防ぎ、その航路を指導する。）（写真四六・五〇頁参照）

◇昼標

（**視覚による灯台**）（写真一九・二〇頁参照）

立標　（岩礁や浅瀬の上に建てた警戒標である。）

陸標　（陸上に建られた目標で、数個の標によつて船舶の針路を指示する。）

導標　（夜標の導灯の項参照）

浮標　（灯火をつけないブイをいう、灯浮標と同じ目的で碇置される。）（写真一二二・一二三頁参照）

滞標　（浅瀬や暗礁のある位置を、数個の標によつて指示する。）（解説一三六頁の写真参照）

◇霧信号

（**聴覚による灯台**）（写真二一頁参照）

霧鐘　（機械力や炭酸瓦斯の圧力を使つて釣り鐘を打鳴らすもので、濃霧、吹雪、豪雨、煙霧等天候不良で視界を遮る場合に用いる。）

霧笛　（機械力でサイレンを吹鳴する方法で四十秒時を超えて五秒吹鳴とか、五十秒を距て十秒時間に二連吹とかの区別があつて、他の霧信号との判別に便せしめている。音響をもつとも遠距離に達せしめるのに有効である。）

霧砲　（火薬の爆発力によつて音響を発する（空砲発射）もので、老鉄山灯台（写真二三頁）にあつた。）

爆発信号　（火薬の爆発力を使つて音響を発するものである。）（写真二四頁参照）

水中音信号　（前記のものは、いずれも音波が空気中を伝はるものであるが、これは水中に於て打鐘し、又は電気振板によつて音響を発し、音波を水中に伝はせて、船舶内の聴音器によつて受信させ、方位を知らせるものである。この信号は、地勢などによつて音波の反射や屈折等の現象を起し、音が一様でなく、音源の方向や遠近を誤認させる欠点もある。）

◇通航信号

（**視覚による灯台**）（写真二五頁参照）

（海峡などで船舶の往来のはげしい、見透しの悪い場所で、一定の目標を掲げて航船の交通整理をする。）

◇潮流信号

（**視覚による灯台**）（写真二五頁参照）

（潮の流れの早い場所で、潮流の模様を船舶に知らせる。）

◇無線方位信号所

（**電波による灯台**）（二五・五六―六三頁参照）

（天気のよい夜ならば、船は、灯台の灯をみて自船の位置を知ることができるが、若し雨や雪が降つたり霧が発生したような場合には、灯台の灯を視認することが非常に困難になるか全然不可能になつてしまう。或は又、灯台や陸地が見えないような遙か沖合を航行する場合には、頼るべき航路標識がない。そこで、こうした不便を除くために設けられたのが電波標

識である。

電波標識の中には、標識局と方向探知局があり、前者は、定時に、電波を発射するもので、船は、この電波をキャッチして自船の方位を知ることができるし、後者は逆に船の方から発射された電波をキャッチして船の方位を測定し、それを船に通知してやるものである。

電波標識は、このように便利なものであるが、これを利用する場合には、或る程度の技術と相当な施設を必要とする。従つて小さい漁船のような場合には、こうした技術と施設を持つていないので、電波標識を充分利用してもらうことができないわけである。そこで、いろ〳〵考えた末、どこの家庭にもあるラヂオ程度の受信機さへあれば、自船の方位を測定することのできる回転標識局という電波標識をつくつた。最近つくられるものは殆んどみなこの回転標識局である。

然しながら、科学の進歩につれて、最近は無線工学も非常に発達し、アメリカではロラン局といつて、約一四〇〇浬（夜間）程度の遠距離においても、自船の位置を測定できるような、すばらしい電波標識がつくられており、わが国においても近く実現をみる運びとなつている。

われ〳〵の日常生活の中にも、電波を利用することが非常に発達し、限りない恩けいを受けているが、航路標識も将来電波を利用することによつて益々発達し、航海術も革命的な変化を来すことが予想さられている。

灯台の等級とレンズ（写真二六頁・二七頁参照）

灯台には等級がある。その基準は、光力の大小、光達距離の遠近、建造物の大小、高低等で、これは世界各国共通している。

等級は、第一等から第六等及び無等の七階級で、次のように区別されている。（詳細は、全国主要航路標識の性質・構造便覧―一三七頁参照）

等級	焦点距離
第一等	九二〇粍
第二等	七〇〇〃
第三等大型	五〇〇〃
〃　小型	三七五〃
第四等	二五〇〃
第五等	一八七・五〃
第六等	一五〇〃
無等	一五〇〃

外洋からの航行船舶が、最初に陸地を認識するために建設されている灯台は、光力と光達距離の大きいことを必要とするので、一、二、三等級の優秀なものが選ばれ、又、濃霧の発生の多い地点には、特に一、二等灯台を必要としている。

沿岸航行の船舶や、内海航行船舶のためのものは、光達距離の遠大を必要としないので、四、五等灯台が当てられている。

海中の危険障害物を標示するためのものには、五、六等灯台が設けられ、港湾のように、船舶が、極く近くを航行するものは、船舶側の眩惑を防止するため、光力の弱い六等とか無等灯台を用いている。

レンズは、光を強くするために使うが、普通のレンズと違つて、中央が目玉レンズで、周囲が屈折プリズム式レンズになつている。こうすると、光が束になつて平行に出るようになるからである。

レンズを色々と組合せて光源の周囲を回転するようにすると、灯をつけたり消したりしなくとも、例えば、五秒間に一つ光を出すとか、三秒間に一つ光を出すといつたことが出来る。

レンズの焦点距離の大小によつて、一等レンズから六等レンズ及び無等レンズに分類され、使用するレンズの

等級に従つて、一等灯台とか二等灯台とかいわれるのである。

回転装置（写真三〇頁参照）

灯台のあかりが、ピカツ〳〵と光つているのは、街の灯や漁船が漁のときつける灯などと区別するためと、どこの灯台は何秒間に幾つの光を出すということを定めておけば、航行船舶はその灯光によつて、どこの灯台であるかが解るからである。

レンズは、重量があり、これを一定時間に正確に、同じ速度で回転させることは困難なので、普通水銀を入れた容器の上にレンズを浮かせる。こうすると、全重量千貫位のものでも指先き一本で楽に動かせる。更に、分銅の重みを利用し、分銅が下向するにつれて、レンズ台が回転する装置をする。この装置は、簡単でしかも経費がかからないので、各灯台とも殆んどが使用している。しかし、分銅が一番下までさがると、これを上の元の処まで捲上げなければならない。現在では自動捲上げ装置も造られている。

灯　器（光源）（写真三一頁参照）

灯台に使用する光源には、石油灯、瓦斯灯、電気灯とがある。

石油灯は、石油ランプのようなもので灯芯灯と石油蒸発白熱灯とがある。石油蒸発白熱灯は、石油を熱して蒸気とし、これにマントルをかけて白熱させるもので、その光の強度は、三〇〇燭光から一五〇〇燭光までは出せる。この光源は、灯火としては優秀なものである。

明治初年までの灯台の燃料は、果実油、菜種油が多く用いられていたが、その後、落花生油、無味香油等が使われた。明治七年に初めて英国から石油を輸入し、これを光源として灯台に用いた。

瓦斯灯は、岩礁とか浅瀬、防波堤等のように職員を常置して、朝夕点消灯の出来ない処にある灯浮標等に用いられるもので、ピンチガスのアセチレンガスを利用するが、主としてアセチレンガスを使う。特にアセチレンガスをアセトン液に溶解して、小さな容器の中に高圧で圧縮したアセトンガスは、持ち運びが簡単で、しかも、鮮明な光を発する。更に、太陽熱を利用して自然に消点灯する「日光弁」という機械（写真二九頁参照）が取付られるという便利がある。

電気灯には、孤光電灯と白熱電灯とがあるが、孤光灯は建設費と維持費がかさむので普及せず、主として白熱灯が使用されている。これは強大な光力が得られることと、取扱いが簡便である点から広く利用されている。

灯台と伝説

灯台にまつはる逸話、口碑、伝説はまことに多く、そのいずれもが読者の興味をそそるに充分なものであるが、余す僅かの紙数では、全部の紹介はできない。後日増補改訂の機会までその二篇を披露するに止める。

灯台建設の人柱（水ノ子島灯台）

九州と四国の豊後水道の荒潮の真只中に、水ノ子島という高さ六十尺余の小さい岩礁がある。水ノ子島灯台（写真二六・三八頁参照）は、その岩礁上に建設されたもので、美しい物語りはこの灯台築造のときのことである。

悪魔の白い牙に噛れたような、この小岩礁に灯台建設の工事がはじまつた。荒れ狂う激浪と峻険な岩礁は、全く人を寄せつけない。工事が遅々としているうちに、請負期限は過ぎてしまつた。この自然の暴威に、なす術もなく悲観落胆していた請負師は、ある夜、夢をみた。

『人柱をたてなければ、建築は覚つかない』

というのである。出来ない相談である。彼は懊悩した。この時、傍らにいた美しい娘は、

『どうか私を人柱に建てて下さい』と、いうより早く、身を躍らせて基礎工事の穴深く消え去つた。すると、不思議にも荒れに荒れていた風はとまり、海は静まつた。工事は勿ち進んだ。そして灯台は立派に出来上つた。

しかし、請負師夫婦は、犠牲となつた可愛い娘の許を去ることが出来ず、その儘、島に残つて灯台の保守に晩年を送つた。そして、娘の菩提を葬つたのである。

附近の漁村の人々は、警つて近寄つたこともない難所にできた、美しく立派な灯台を仰ぎみて、一様に驚異の目を見張つた。一体、誰がどうして、いつ建てたのだらうかと——。

そして、やがて、彼等の間には、この灯台にまつはる、悲しくも美しいロマンスが、囁きかはされるようになつた。

明治も後期のことである。

大間の弁天様（大間埼灯台）

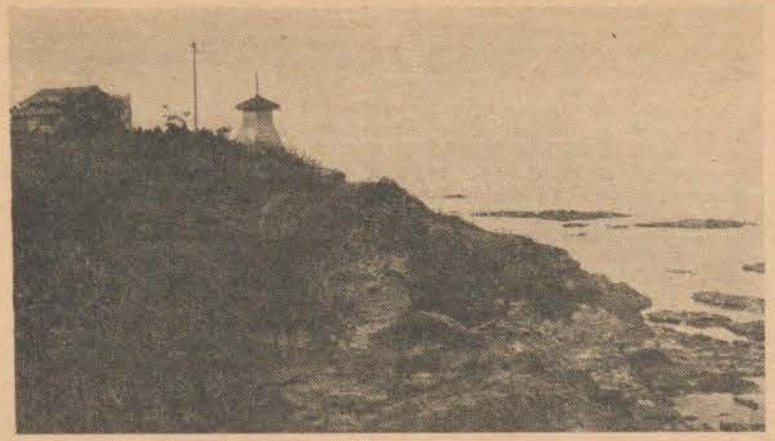
大間の人々の信仰の的となつている弁天様には、こんな伝説がある。対岸の北海道汐首岬と、恵山岬との中間に、日浦峠の上り一里、下り一里の難所がある。峠は熊の出没する險路、しかも海岸は断崖絶壁つづきで、交通の出来るところではなかつた。そこに、昔から祭られたささやかな弁天様の祠があつた。ある年、猛威をたくましくした激浪のため、弁天様は祠もろとも流されてしまつた。その后、年とともに、弁天様も忘れられていつた。

ある年、大間の漁師は大時化に遭い、ほう〳〵の体で大間の島に避難した。その時、磯辺に石の弁天様が打上げられていたのを見つけ、島の一番高いところに、破船の材木や流材を拾い集めて祠を作つてお祭りした。

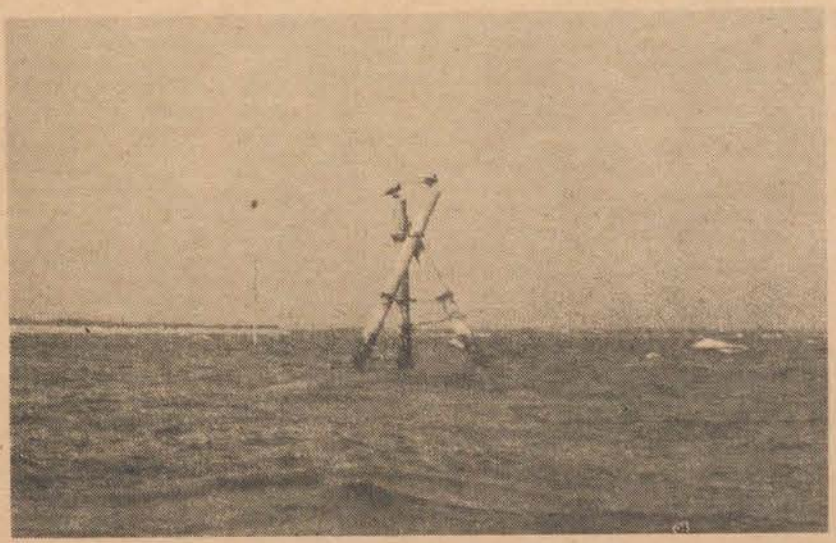
その年は、どうしたことか大豊漁であつた。

漁師の人々は、これは弁天様の御利益だと信仰するようになり、初めてお祭りした五月十日を縁日として、島の名も弁天島と名付けた。

百数十年を経た今もなほ、大間村から幾十艘の船を繰り出して島全体のお祭りをつづけているという。



福浦灯台　慶長十三年日野資信が初めて建てたもので（初めは篝火）その後、幾変遷の後、十八代目の吉三郎によつて、洋式灯台に改造された私設灯台の爆破である。



澪　標（所説篇133頁参照）

◇主要航路標識の性質・構造　（航路標識便覧）(一)

灯台名	所在地	等級灯質	燭光数	光達距離	構造形状	備考
白神岬	北海道松前郡	第4等 紅白閃互光	6万燭光	17海里	コンクリート円形	旧鉄造改築二代
松前	〃	無等 白光明暗	3万8千燭光	15海里	コンクリート方形	旧福山灯台
松前小島	〃	第3等 群閃白光	25万燭光	18海里	コンクリート円形	木造改築二代
鷗島	〃 檜山郡	第5等 群閃白光	1万5千燭光	17海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
稲穂岬	〃 奥尻郡	第3等 閃白光	33万燭光	18海里	コンクリート円形	旧鉄造改築二代
茂津多岬	〃 檜山郡	第3等 群閃白光	11万燭光	31海里	コンクリート円形	
弁慶岬	〃 寿都郡	40粍ビーコン閃白光	25万燭光	16海里	コンクリート円形	旧木造改築二代
岩内港	〃 岩内郡	無等 閃白光	2千燭光	8海里	コンクリート円形	
神威岬	〃 積丹郡	第1等 群閃互光	白 2万6千燭光	白 22,5海里	鉄造円形	
日和山	〃 高島郡	40粍ビーコン群閃白光	赤 1万	赤 20海里		
小樽港南・北防波堤	北海道小樽市	無等 明暗紅光	15万燭光	19海里	コンクリート方形	
石狩	北海道石狩郡	第6等 閃白光	1千燭光	16海里	コンクリート円形	
雄冬岬	〃 石狩郡	90粍ビーコン閃白光	6万5千燭光	12,5海里	鉄造六角形	旧木造改築二代
増毛	〃 増毛郡	第5等 明暗白光	80万燭光	37,5海里	コンクリート円形	
留萌港南・北	〃 留萌郡	無等 閃白光	1万燭光	18,5海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
焼尻島	〃 苫前郡	第4等 群閃白光	1万7千燭光	12,5海里	コンクリート円形	紅白
石崎	〃 石狩郡	第4等 閃互光	1万8千燭光	12海里	コンクリート円形	
鴛泊	〃 利尻郡	40粍ビーコン閃白光	6万燭光	19海里	コンクリート円形	
稚内	〃 宗谷郡	第3等 群閃白光	25万燭光	17海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
宗谷岬	〃 宗谷郡	第3等 群閃白光	55万燭光	22海里	鉄造円形	
能取岬	〃 網走郡	第4等 閃白光	24万燭光	18海里	コンクリート円形	
根室港・野付埼	〃 根室市北防波堤	第5等 閃白光	3万9千燭光	17,5海里	コンクリート円形	
網走港	〃 網走郡	第5等 明暗白光	4千燭光	20海里8	コンクリート円形	
納沙布岬	〃 花咲郡	第4等 明暗白光	1万7千燭光	13海里	コンクリート円形	
花咲	〃 花咲郡	第5等 明暗白光	1万8千燭光	14,5海里		
落石埼	〃 根室郡	90粍ビーコン閃白光	1万5千燭光	16海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
湯沸岬	〃 根室郡	90粍ビーコン閃白光	200万燭光	19海里	コンクリート六角形	旧鉄造改築二代
			80万燭光	19,5海里	コンクリート円形	

厚岸	〃	厚岸郡	40糎ビーコン閃白光	25万燭光	26.5海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
釧路埼	〃	釧路市	90糎ビーコン閃白光	80万燭光	18.5海里	コンクリート円形	〃二代
広尾港	〃	帯広郡	無等不動緑光	千燭光	5.5海里	コンクリート円形	
襟裳岬	〃	幌泉郡	第3等閃白光	90万燭光	22.5海里	コンクリート八角形	
幌泉港	〃	幌泉郡	第6等不動緑光	1万4千燭光	14海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
浦河港	〃	浦河郡	40糎ビーコン閃白光	25万燭光	18.5海里	コンクリート方形	〃
チキウ岬	〃	室蘭市	第3等群閃白光	31万燭光	25海里	コンクリート円形	
室蘭灯台	〃		40糎ビーコン閃白光	15万燭光	18.5海里	コンクリート方形	旧木造改築二代
恵山岬	〃	亀田郡	第3等明暗白光	6万燭光	18海里	コンクリート六角形	旧鉄造改築二代
汐首岬	〃	亀田郡	第3等群閃白光	2万9千燭光	18.5海里	鉄造円形	
日浦岬	〃	亀田郡	第6等明暗群閃白光	6万5千燭光	14.5海里	コンクリート円形	
函館港	〃	函館市	無等明暗紅光	1万5千燭光	12海里	コンクリート円形	
葛登支岬	〃	上磯郡	第3等明暗白光	6万5千燭光	18.5海里	コンクリート円形	旧木鉄造改築二代
酒田	山形県飽海郡		無等明暗紅光	1万5千燭光	13海里	コンクリート円形	旧木造改築二代
酒田北防波堤	〃		40糎ビーコン閃白光	25万燭光	13.5海里	〃	
鼠ケ関	〃		第6等群閃白光	3万4千燭光	14海里	〃	
飛島	秋田県		第4等閃白光	3万5千燭光	26海里	コンクリート円形	
金浦港	秋田県北秋田郡		無等明暗白光	3万6千燭光	14.5海里	コンクリート円形	
船川	秋田県南秋田郡		第5等群閃白光	7万2千燭光	19海里	コンクリート円形	
秋田港	秋田市		第6等群閃紅光	6千燭光	11海里	コンクリート円形	
入道埼	秋田県南秋田郡		第3等閃白光	130万燭光	20海里	コンクリート円形	
艫作埼	青森県西津軽郡		第3等閃白光	80万燭光	21.5海里	コンクリート円形	
龍飛埼	青森県西津軽郡		第3等群閃白光	33万燭光	27海里	コンクリート六角形	
平館	青森県	〃	第4等閃白光	7万燭光	14海里	鉄造六角	
青森港	青森市		無等明暗緑光	千燭光	5海里	コンクリート円形	
陸奥大島	青森県	下北郡	第4等閃白光	3万8千燭光	17.5海里	コンクリート円形	
陸奥弁天島	〃	下北郡	第4等閃白光	7千燭光	11.5海里	コンクリート円形	
大間埼	〃		第4等群閃白光	3万燭光	17海里	コンクリート円形	
尻矢埼	〃		第2等閃白光	200万燭光	18.5海里	石造円形	
鮫角	〃	八戸市	第4等群閃白光	9万燭光	20海里	コンクリート円形	

普代	〃	40粍ビーコン閃白光	2 5 万 燭 光	2 9 海 里	コンクリート円形		
氈尾埼	岩手県下閉伊郡	第3等 閃 白 光	1 6 5 万 燭 光	2 0．5 海 里	コンクリート円形白黒		
尾埼	〃	第4等 群閃白光	2 2 万 燭 光	2 4 海 里	コンクリート円形		
綾里埼	宮 城 県	第4等 閃 白 光	3 万 9 千 燭 光	2 6 海 里	〃		
陸前大島	宮 城 県	無 等 閃 白 光	3 万 8 千 燭 光	1 7．5 海 里	〃		
大須埼	宮 城 県	第5等 明暗白光	7 万 2 千 燭 光	1 9 海 里	コンクリート円形		
金華山	県宮城県牡鹿郡	第2等 紅白閃互光	4 1 万 燭 光	2 0 海 里	石 造 円 形		
石之巻	〃	無 等 明暗白光	2 千 燭 光	8 海 里	コンクリート円形		
波島	〃	第5等 明暗白光	1 万 6 千 燭 光	1 4．5 海 里	コンクリート円形		
鵜ノ尾埼	〃	40粍ビーコン白閃光	2 0 万 燭 光	1 8 海 里	コンクリート方形		
塩屋埼	福島県石城郡	第3等 閃 白 光	8 0 万 燭 光	2 2 海 里	コンクリート円形	旧コンクリート造改築二代	
小名浜	〃	第5等 明暗紅光	2 千 燭 光	8 海 里	コンクリート円形		
磯埼	茨城県久喜郡	90粍ビーコン閃白光	1 0 0 万 燭 光	1 7 海 里	コンクリート方形		
銚子一の島	千 葉 県	第5等 閃 白 光	4 千 燭 光	1 1 海 里	コンクリート円形		
波埼	茨城県鹿島郡	40粍ビーコン閃白光	4 4 万 千 燭 光	1 4 海 里	コンクリート方形		
犬吠埼	千 葉 県	第1等 閃 白 光	1 8 0 万 燭 光	1 9．5 海 里	煉瓦石円形		
大東埼	千葉県海上郡	40粍ビーコン閃白光	3 5 万 燭 光	2 1 海 里	コンクリート円形		
勝浦	千 葉 県	第4等 群閃白光	9 万 燭 光	2 2 海 里	コンクリート六角形		
野島埼	千 葉 県	第2等 閃 白 光	1 2 0 万 燭 光	1 7 海 里	コンクリート六角形	旧煉瓦石造改築二代	
洲ノ埼	〃	第4等 紅白閃互光	6 万 燭	1 8．5 海 里	コンクリート六角形		
木更津	〃	第5等 明暗紅光	2 万 9 千 燭 光	1 1 海 里	コンクリート円形		
品川	東 京 都	第5等 明暗紅光	2 万 4 千 燭 光	1 3 海 里	煉瓦石円形		
東京灯船	〃	無 等 群閃白光	3 万 5 千 燭 光	1 1 海 里	鉄 造		
横浜東北水堤	神奈川県 横 浜	第4等 明暗緑光	1万5千 燭 光	1 5，1 海 里	鉄造下部コンクリート		
羽田	東京都大田区	第5等 明暗緑光	4 千 燭 光	1 5 海 里	コンクリート		
横浜外防波堤	横 浜 港	第4等 閃 白 光	3 万 燭 光	1 2．5 海 里	コンクリート六角形	旧鉄造改築二代	
		第4等 群閃紅光	1万2千	1 3．5	コンクリート		
第二海堡	千葉県富津沖	第4等 群閃白光	3 万 燭 光	1 4 海 里	タイル張円形		
観音埼	神奈川県浦賀町	第5等 群閃白光	1 万 5 千 燭 光	1 2．5 海 里	鉄 造	旧鉄造改造三代	
剣埼	神奈川県 三 浦 郡	第4等 群閃白光	9 万 燭 光	2 0 海 里	コンクリート六角形	旧煉瓦コンクリート改造三代	
城ケ島	〃	第2等緑白群閃互光	4 5 万 燭 光	1 7．5 海 里	コンクリート六角形	旧石造改築二代	
		第4等 閃 白 光	2 5 万 燭 光	1 5．5 海 里	コンクリート円形タイル張	旧煉瓦石造改築二代	

伊豆大島	東京都	第4等 群閃白光	3万燭光	25.5海里	コンクリート六角形	旧コンクリート改築
神津島	〃	第5等 閃白光	1万7千燭光	14.7海里	コンクリート円形	
三宅島	〃	第5等 閃白光	1万7千燭光	14.7海里	石造四角形	
八丈島	〃	第3等 閃白光	120万燭光	25海里	コンクリート造円形	
伊東港	静岡県	無等 閃緑光	1万燭光	11海里	コンクリート円形	
神子元島	伊豆下田沖	第3等 群閃白光	19万燭光	19海里	石造円形黒白	
清水	清水市	第6等 群閃白光	4万5千燭光	14海里	コンクリート六角形	
御前埼	静岡県榛原郡	第3等 群閃白	110万燭光	19.5海里	煉瓦石造円形	
掛塚	静岡県磐田郡	第5等 明暗白光	9万燭光	13海里	上部鉄造下部コンクリート	
伊良湖岬	愛知県渥美郡	第4等 郡閃白光	三万燭光	12.5海里	コンクリート円形	
鍬川	〃	無等 閃白光	3万5千燭光	11.5海里	コンクリート円形	
師埼	〃 知多郡	無等 不動白光	1万4千燭光	12海里	コンクリート円形	
野間埼	〃	第5等 明暗白光	3万8千燭光	14.5海里	コンクリート円形	
名古屋西突堤	名古屋市	第5等 明暗白光	1万7千燭光	13.5海里	コンクリート円形	
四日市防波堤	四日市市	第5等 明暗白光	6万燭光	12.5海里		
菅島	三重県志摩郡	第4等 明暗白光	1万8千燭光	20海里	石造円形	
神島	〃	第4等 群閃白光	6万5千燭光	26.5海里	鉄造円形	
安乗埼	〃	第4等 閃白光	28万燭光	16海里	コンクリート六角形	
大王埼	〃	第4等 紅白閃互光	6万燭光	18.5海里	コンクリート円形	
志摩小島	〃	無等 明暗白光	3万5千燭光	15海里	コンクリート円形	
三木埼	〃 南牟婁郡	第5等 群閃白光	24万燭光	30海里	コンクリート造六角形	
梶取岬	三重県南牟婁郡	無等 明暗白光	3万8千燭光	17.5海里	コンクリート	
樫野埼	〃 東牟婁郡	第2等 群閃白光	65万燭光	18.5海里	石造円形	初代木造石造改造二代
潮岬	〃 西牟婁郡	第2等 明暗白光	73万燭光	19.5海里	石造円形	
市江埼	三重県西牟婁郡	第4等 群閃白光	25万燭光	25海里	コンクリート六角形	旧鉄造改築二代（位置移転）
紀伊日ノ御埼	〃 日高郡	第3等 群閃白光	70万燭光	29海里	コンクリート円形	
友ケ島	〃	90糎ビーコン 紅白閃互光	白190万燭光 赤76万燭光	20海里	石造円形	
大阪北突堤	大阪港	第4等 閃白光	1万8千燭光	14海里	コンクリート円形	

大阪南突堤	〃	第5等 閃紅光	1万1千燭光	1	3	海里	コンクリート円形紅色
和田岬	兵庫県神戸港	第4等 明暗白光	1万8千燭光	1	3	海里	鉄造六角形紅色
江埼	兵庫県津名郡	第3等 紅白互光	白 6万2千 紅 2万4千燭光	1	9	海里	石造円形
上島	〃	第5等 群閃白光	6万5千燭光	1	9	海里	鉄造楕形
松島	〃	第5等 閃白光	4千燭光	1	0	海里	コンクリート円形
小松島	徳島県	第5等 閃白光	4千燭光	1	0,5	海里	コンクリート円形
蒲生田埼	高知県	40粍ビーマン閃白光	2 5万燭光	1	8	海里	コンクリート円形
阿瀬比ノ鼻	〃	40粍ビーマン閃白光	2 5万燭光	3	0	海里	コンクリート円形
甲ノ浦	高知県安芸郡	第5等 明暗白光	2万1千燭光	1	7	海里	石造円形
室戸埼	高知県安芸郡	第1等 閃白光	250万燭光	3	0,5	海里	鉄造円形
羽根埼	〃	40粍ビーマン群閃白光	2 5万燭光	2	3	海里	煉瓦石造円形
龍頭埼	〃	40粍ビーマン閃白光	9万5千燭光	1	8	海里	
興津埼	高知県幡多郡	第4等 群閃白光	2 2万燭光	1	8	海里	コンクリート円形
足摺埼	〃 幡多郡	第4等 群閃白光	2 2万燭光	2	0,5	海里	コンクリート六角形
叶埼	〃	第5等 閃白光	7,5燭光	1	7,5	海里	コンクリート円形
土佐沖ノ島	〃	第4等 群閃白光	2 7万燭光	3	1	海里	コンクリート六角形

木造改築二代

大角鼻	香川県小豆郡	第4等 明暗白光	2万燭光	1	5,5	海里	上部鉄造下部コンクリート
地蔵埼	〃	第6等 群閃白光	4万5千燭光	1	8	海里	コンクリート造
男木島	〃 香川郡	第6等 閃白光	1万燭光	1	2,5	海里	石造円形
高松港	高松市	無等 不動紅光	1万5千燭光	1	1,5	海里	コンクリート造
鍋島	〃 仲多度郡	第4等 紅緑互光	紅 8千 緑 5千燭光	1	1	海里	石造円形
王島	岡山県玉野市	40粍ビーコン閃白光	2 5万燭光	1	6	海里	コンクリート円形
六島	岡山県小田郡	第5等 閃白光	1万燭光	2	1	海里	コンクリート造円形
百貫島	愛媛県越智郡	60粍ビーコン閃白光	6 8万燭光	2	2,5	海里	石造円形
高井神島	〃	第5等 群閃互光	2万燭光	2	4	海里	鉄造円形
尾ノ道	尾ノ道市	無等 閃紅光	1万1千燭光	1	3	海里	コンクリート円形
大浜埼	広島県御調郡	無等 不動白光	6万4千燭光	1	3,5	海里	石造円形
高根島	〃 豊田郡	〃 群閃白光	1万4千燭光	1	4	海里	石造円形
大久野島	〃	〃 明暗白光	3万8千燭光	1	3,5	海里	石造円形
中渡島	愛媛県越智郡	〃 群閃白光	1千燭光	7		海里	石造円形

大浜	愛媛県越智郡	第4等 紅緑互光	紅4万5千燭光 緑2万5千燭光	16海里	鉄造六角形	
新居浜	〃	第5等 閃白光	4千燭光	1，5海里	鉄造	
大下島	〃	第5等 群閃白光	3万5千燭光	12，5海里	石造円形	
釣島	〃 温泉郡	40粍ビーコン 紅白群閃互光	白20万5 紅1万8千燭光	20海里	石造円形	
クダコ	〃	第5等 明暗白光	1万2千燭光	13，5海里	石造円形	
屋形石	広島県安芸郡	無等 閃紅光	1千燭光	6海里	石造円形	
宇品（広島）	〃	〃 明暗白光	1万8千燭光	15海里	石造円形	
安芸白石	〃	第5等 閃紅光	2千燭光	8海里	石造円形	
センガイ瀬	山口県大島郡	無等 閃白光	2千燭光	8海里	石造円形	
室津港	〃	無等 明暗緑光	1万燭光	13，5海里	コンクリート円形	
屋島	〃 熊毛郡	第5等 閃白光	7万2千燭光	20海里	コンクリート円形	
徳山港	〃	無等 不動緑光	1万燭光	11海里	石造四角形	
岩島	〃	第5等 明暗白光	4千燭光	10，5海里	石造円形	
秋穂港	〃	無等 明暗白光	3万5千燭光	17，5海里	コンクリート円形	
佐田岬	愛媛県西宇知郡	第3等 群閃白光	60万燭光	18海里	コンクリート六角形	
大埼	〃	無等 閃白光	2万8千燭光	16，5海里	コンクリート造	
宇和島	宇和島市	〃 明暗緑光	9千燭光	10，5海里	コンクリート造	
襖鼻	愛媛県西宇和島郡	閃白光	25万燭光	20，0海里	コンクリート四角白	
宇部港	山口県	無等 緑閃光	1万燭光 閃光11万5千	18，5海里	コンクリート造円形	
部埼	福岡県門司市	第3等 不動閃光	不動6万燭光	17，半海里	石造円形	
苅田神ノ島	〃	40粍ビーコン 緑白群閃	白光2万5千燭光	21海里	コンクリート造円形	
姫島	大分県東国東郡	第4等 群閃白光	1万8千燭光	20海里	石造円形	
安岐埼	大分県北国東郡	40粍ビーコン閃白光	20万燭光	14海里	コンクリート造円形	
関埼	大分県北海部郡	第4等 不動白光	1万8千燭光	22海里	鉄造円形	
水ノ子島	大分郡南海部郡	第3等 閃白光	90万燭光	20海里	石造円形	
細島	〃	第5等 閃白光	1万3千燭光	22海里	コンクリート円形	
鞍埼	宮崎県南那珂郡	等3等 群閃白光	I9万燭光	24海里	コンクリート造六角形	コンクリート第一号
都井岬	〃	第3等 閃白光	165万燭光	37海里	コンクリート造六角	
佐多岬	鹿児島県肝付郡	第3等 群閃白光	80万燭光	20半海里	コンクリート六角形	鉄造六角築改二代
種子島	鹿児島県	第3等 群閃白光	20万燭光	26海里	コンクリート円形	

屋久島	鹿児島県	熊毛郡	第3等閃白光	120万燭光	22海里	石造円形	
會津高埼	〃	大島郡	閃白光	150燭光	7,5海里	コンクリート四角形	
草垣島	〃	川辺郡	第3等群閃白光	11万1千燭光	29海里	コンクリート造円形	
坊ノ岬	〃		第3等群閃白光	32万燭光	23半海里	コンクリート六角形	
釣掛埼	〃	薩摩郡	第3等閃白光	120万燭光	29,5海里	煉瓦石造コンクリート六角形	
串木野	〃		第6等閃白光	8万燭光	14海里	コンクリート円形	
長崎鼻	〃	出水郡	第4等閃白光	2万燭光	15海里	コンクリート造	
戸島	熊本県	天草郡	第6等明暗白光	1万燭光	13海里	石造円形	
戸馳島	〃		無等閃白光	2千燭光	8海里	コンクリート造	
三角	〃		第5等明暗白光	7万2千燭光	17半海里	コンクリート造	
三池港	〃		40粁ビーコン群閃白光	20万燭光	21半海里	コンクリート造	
湯島	〃	天草郡	第5等閃白光	1万2千燭光	13半海里	コンクリート造	
口ノ津	〃	高来郡	第6等群閃白光	5万5千燭光	17半海里	石造円形	
樺島	長崎県	西彼杵郡	第3等閃白光	14万燭光	28海里	コンクリート造	野母埼改称
蔭ノ尾	長崎県	西彼杵郡	無等明暗紅光	1万5千燭光	14海里	コンクリート造	
伊王島	〃		第4等群閃白光	1万8千燭光	21海里	コンクリート造	
向後埼	〃		90粁ビーコン閃白光	80万燭光	23,半海里	コンクリート造	
面高白瀬	〃		無等閃白光	2千燭光	8海里	コンクリート造	
御神島	〃		第4等群閃白光	3万燭光	16,5海里	コンクリート造円形	
伏瀬	〃		第6等閃白光	30万燭光	9海里	コンクリート造円形	
大立島	〃		第5等閃白光	2万8千燭光	16,5海里	コンクリート造	
平島	〃		第3等群閃紅光	4万4千燭光	19,5海里	コンクリート造	
相ノ島	〃		第5等群閃白光	3万2千燭光	15海里	コンクリート造	
五島白瀬	長崎県	西彼杵郡	第4等閃白光	千燭光	16,5海里	コンクリート造方形	
黄島	〃		第4等群閃白光	5万2千燭光	25,5海里	コンクリート造円形	
女島	長崎県	南松浦郡	第2等群閃白光	120万燭光	27海里	コンクリート造円形	
大瀬埼	〃		90粁ビーコン閃白光	200万燭光	23,半海里	鉄造円形	
古志岐島	〃		第4等閃白光	1万5千燭光	22海里	コンクリート造方形	旧木造改築二代
二神島	〃	北松浦郡	第4等群閃白光	3万6千燭光	25海里	コンクリート造六角	
若宮	〃	壱岐郡	第4等明暗白光	2万4千燭光	24,5海里	コンクリート造方形	旧木造改築二代
神埼	〃	下県郡	第4等閃白光	12万燭光	21海里	コンクリート造円形	旧木造改築二代
豆酘	〃		第4等群閃白光	5千燭光	10,5海里	コンクリート造円形	

対馬黒島	〃 上県郡	第6等 閃白光	2万3千燭光	15.5海里	コンクリート円形	
三島	〃	第5等 明暗白光	6万1千燭光	13,5海里	コンクリート造方形	旧木造改築二代
烏帽子島	福岡県糸島郡	第2等 明暗白光	17万燭光	20,0海里	コンクリート造円形	旧鉄造改築二代
鷹島	〃 東松浦郡	第6等 閃白光	2千燭光	8海里	コンクリート造四角	旧木造改築二代
博多港西防波堤	福岡県	無等 紅閃光	千燭光	5,5海里	コンクリート造円形	
博多港東防波堤		無等 緑閃光	千燭光	4,5海里		
玄界島	〃	第5等 閃白光	3千500燭光	23,0海里	コンクリート造円形	
筑前大島	〃 大島郡	第5等 群閃白光	4千燭光	19,5海里	〃	
沖ノ島	福岡県大島郡	第1等群閃紅白互光	25万燭光	35,0海里	コンクリート造方形	燈竿改築二代
山底鼻	山口県豊浦郡	無等 明暗白光	3万8千燭光	12海里	下部石造上部鉄造	旧石造其後移転改造三代
巌流島	〃	第6等 明暗白光	1万4千燭光	13海里	コンクリート造円形	旧石造移転改造三代
台場鼻	下関海峡					
金ノ弦	〃	無等 明暗白光	2千燭光	8海里	石造円形白色	旧石造移転改築三代
大山鼻	〃	無等 緑閃白	1千燭光	6海里	コンクリート造円形	
本山	〃	〃 白閃光	8万燭光	12,5海里	コンクリート造円形	
満珠島	〃	第5等 群閃白光	2万6千燭光	13海里	コンクリート造円形	
六連島	〃	40糎ビーコン閃白光	4万2千燭光	15,5海里	石造円形白色	
白洲	福岡県若松沖	第5等 閃白光	1万2千燭光	13海里	上部鉄造，下部石造	木造改築二代
大藻路岩	山口県豊浦郡	第5等 閃紅光	1万燭光	12,5海里	石造円形紅色	
蓋井島	〃	第4等 群閃白光	10万燭光	25,0海里	コンクリート六角形	
特牛	〃	無等 不動白光	3万8千燭光	15海里	コンクリート造方形	
角島	〃	第1等 閃白光	140万燭光	18海里	石造円形	
見島	〃	無等 不動白光	1千燭光	14海里	コンクリート造円形	
高山岬	〃	第5等 閃白光	4万燭光	24,5海里	コンクリート四角白	

馬島	鳥取県那珂郡	第5等 群閃白光	1万8千燭光	16,5海里	煉瓦石造円形	
大岬	〃	40糎ビーコン閃白光	25万燭光	22海里	コンクリート造円形	
出雲日御埼	島根県簸川郡	第1等 群閃紅白互光	60万燭光	21海里	煉瓦造円形	
恵曇港	〃	無等 明暗白光	3万5千燭光	17海里	コンクリート造円形	
多古鼻	〃	40糎ビーコン閃白光	25万燭光	26,5海里	コンクリート造円形	
知夫里	〃	40糎ビーコン紅白互光	紅10万燭光 白25万燭光	30,5海里	コンクリート造円形	
西郷岬	島根県国吉郡	第4等 群閃白光	19万燭光	26,5海里	コンクリート造円形	

美保関	〃 八束郡	90糎ビーコン群閃白光	150万燭光	23.5海里	石造円形	
長尾鼻	〃	90糎ビーコン閃白光	80万燭光	21.5海里	コンクリート造円形	
鳥取港	鳥取県	無等不動白光	3万2千燭光	14海里	コンクリート造円形	
田後	網代埼	第6等群閃白光	8万燭光	11.5海里	コンクリート造円形	
余部埼	〃	第3等閃白光	120万燭光	39.5海里	コンクリート造円形	
経ケ岬	京都府竹野郡	第1等群閃白光	100万燭光	29.5海里	石造円形	
博奕岬	〃	第5等閃白光	10万燭光	28海里	コンクリート造円形	
小浜港鋸埼	〃	30糎ビーコン閃白光	5万燭光	14.5海里	コンクリート造円形	
立石埼	福井県敦賀郡	第4等明暗白光	1万8千燭光	23.5海里	コンクリート造円形	
越前岬	〃	第4等閃白光	28万燭光	28.5海里	コンクリート造円形	
三国港雄島	〃	無等群閃白光	3万5千燭光	17海里	コンクリート造円形	

大野	石川県	90糎ビーコン閃白光	80万燭光	17海里	コンクリート造円形	
橋立	〃	第5等群閃白光	7万2千燭光	19.5海里	コンクリート造円形	
福浦	石川県	第6等明暗白光	6万5千燭光	15.5海里	コンクリート造円形	
猿山	石川県	第2等群閃白光	130万燭光	35海里	コンクリート六角形	
舳倉島	〃	第3等群閃白光	11万燭光	18.0海里	コンクリート造円形	
禅剛埼	〃 珠洲郡	第2等明暗白光	5万5千燭光	18.5海里	石造円形	
能登島	石川県鹿島郡	第5等群閃白光	4千燭光	10.0海里	コンクリート造円形	
七尾湾口	〃 鹿島郡	40糎ビーコン閃白光	25万燭光	16.5海里	コンクリート造方形	
伏木岩埼鼻	富山県射水郡	第4等閃白光	25万燭光	20.0海里	コンクリート造円形	
富山港	〃	第5等明暗緑光	2万2千燭光	12.5海里	コンクリート造円形	
生地鼻	〃	第4等閃白光	25万燭光	16.0海里	コンクリート造円形	
名立	〃	90糎ビーコン閃白光	80万燭光	23.5海里	コンクリート造円形	
台ケ鼻	〃	第6等閃白光	6万5千燭光	18.5海里	コンクリート造円形	
沢埼	新潟県佐渡郡	第4等群閃白光	21万燭光	18.0海里	コンクリート造円形	
姫埼	〃	第5等明暗白光	9万燭光	18.0海里	鉄造六角形	
弾埼	〃	第4等群閃白光	12万燭光	22.5海里	コンクリート造	
新潟港	〃	第5等群閃白光	3万燭光	13.0海里	コンクリート造	
粟生島	〃	90糎ビーコン閃白光	80万燭光	39.0海里	コンクリート造	

灯台への道しるべ

事務所名	最寄の国鉄駅（新橋より）	最寄駅より事務所まで							備考
		社線粁	バス粁	船運	徒歩粁（事務所まで）	徒歩区間道路難易 上	中	下	
白神岬	渡島大沢 937.7				渡島大沢 5.5	5.5			
松前	渡島大沢 937.7		渡島大沢―松前 6.0		松前 2.0	2.0			
鷗島	江差 934.6		江差―姥神町 1.9		姥神町 0.6	0.3			
稲穂岬	江差 934.6			江差―奥尻 32.2	奥尻 12.7	12.7		0.3	
茂津多岬	瀬棚 1,000.5		瀬棚―美谷 16.0		美谷 8.0				冬期間バス運休多し徒歩による
弁慶岬	黒松内 983.6	黒松内―寿都 16.5	寿都―政泊 5.2		政泊 0.5	0.5		8.0	冬期間バス運休徒歩による
岩内港	岩内 1,069.8								
神威岬	余市 1,083.9		余市―余別 5.0		余別 3.5	1.5		0.0	冬期間バス運休のため余市船 美国徒歩 事務所
積丹岬	余市 1,083.9		余市―入舸 53.0		入舸 1.0	0.5		0.5	〃
余市港	余市 1,083.9				余市 2.5	2.5			
日和山	小樽 1,103.8		小樽―祝津 7.6		祝津 0.7	0.7			
小樽港	小樽 1,103.8				小樽 2.0	2.0			冬期間バス運休のため札幌バス 花畔橋 石狩徒歩 事務所
石狩	札幌 1,137.6		札幌―石狩 26.0		石狩 1.0	1.0			
雄冬岬	増毛 1,311.0			増毛―雄冬港 14.0	雄冬港 3.6	0.5		3.1	
増毛港	増毛 1,311.0				増毛 0.4	0.3	0.1		
留萌港	留萌 1,294.3				留萌 2.0	2.0			
焼尻島	舸前 1,344.8			苫前―焼尻 12.0	焼尻 2.0	2.0			
石泊	稚内 1,549.2			稚内―鬼脇 33.0	鬼脇 2.5	2.5			
鴛泊	稚内 1,549.2			稚内―鴛泊港 28.0	鴛泊港 0.5			0.5	
稚内港	稚内 1,549.2		稚内―ノサップ（郵便局前） 4.0		ノサップ 0.6	0.6			冬期間バス運休徒歩による
宗谷岬	稚内 1,549.2		稚内―大岬 32.0		大岬 0.2			0.2	冬期間バス運休声間下車26.9粁徒歩

紋別港	紋別	1,445.7				紋別	1.0	1.0			
能取岬	網走	1,514.1				網走	14.0	14.0			
網走港	網走	1,514.1				網走	2.2	2.2			
根室港	根室	1,667.7				根室	3.5	3.5			
納沙布埼	根室	1,667.7	根室—歯舞 18.0			歯舞	8.0	8.0			冬期間社線運休機による
花咲港	花咲	1,662.1				花咲	4.0	4.0			
落石埼	落石	1,648.7				落石	5.4	5.4			
湯沸岬	浜中	1,606.1		浜中—霧多布 12.0		霧多布	3.9	3.9			
霧多布	浜中	1,606.1		浜中—霧多布 12.0		霧多布	2.0	2.0			
厚岸	厚岸	1,578.9		厚岸—渡船場 2.0	渡船場 0.3厚岸町 厚岸町 5.8大黒島	大黒島	2.0			2.0	
釧路埼	釧路	1,532.3		釧路—米町交番前 3.0		米町交番前	0.4	0.4			
広尾港	広尾	1,301.2				広尾	1.6	1.6			1301.2粁中58粁はバスによる
襟裳岬	様似	1,243.2		様似—襟裳 40.1		襟裳	1.0	1.0			
幌泉港	様似	1,243.2		様似—幌泉 25.3		幌泉	0.2	0.1		0.1	
浦河港	浦河	1,227.0				浦河	1.3	1.2		0.1	
チキウ岬	母恋	1,046.7		母恋—宮前 1.8		宮前	1.5	1.5			
室蘭港	室蘭	1,048.9		室蘭—築港前 2.9		築港前	0.5	0.5			
恵山岬	函館	851.3		松風町—椴法華 52.0		椴法華	5.0	4.8		0.2	
汐首岬	函館	851.3		松風町—下汐首 24.0		下汐首	0.8	0.6		0.2	
函館港	函館	851.3				函館	1.2	1.2			
葛登支岬	渡島当別	877.3				渡島当別	3.0	1.5	1.3	0.2	
小名浜港	泉	209.7	泉—小名浜 5.4			小名浜	1.0	1.0			
塩屋埼	平	214.1		平—豊間 13.5		豊間	1.5	1.5			
鶏尾埼	中村	311.7		中村—原釜 4.9	原釜(舗)松川浦 0.2	松川浦	1.5			1.5	
塩釜港	東塩釜	382.4				東塩釜	0.2	0.2			
石巻港	石巻	416.9		石巻—門脇郵便局前 3.0		門脇郵便局前	0.2	0.2			

荻浜	渡波	424.9		渡波—荻浜 18.0		浜荻	2.0			2.0		
金華山	石巻	416.9		石巻—波止場 1.5	波止場—金華山波止場 27.0	金華山波止場	6.0			6.0		
四子埼	女川	461.8			女川—出島 5.0	出島	4.0			4.0		
大須埼	女川	461.8			女川—大須埼 12.0	大須埼	0.5			0.5		
陸前大島	気仙沼	520.3			気仙沼_浦ノ浜 波止場 5.0	浦ノ浜	4.0	4.0				
綾里埼	大船渡	561.4		大船渡—綾里港 10.8		綾里港	8.0			8.0		
陸中尾埼	釜石	588.4			釜石_白浜 波止場 4.6	白浜	7.0			7.0		
釜石港	釜石	588.4				釜石	2.5	2.5				
魹埼	宮古	734.0			宮古—白浜 3.0	白浜	24.0	20.0		4.0		
宮古港	宮古	734.0				宮古	1.5	1.5				
普代	久慈	707.5		久慈—普代 31.0		普代	9.5		9.5			
鮫角	鮫	654.4				鮫	2.5	2.5				
尻矢埼	田名部	753.8		田名部—尻矢 33.6		尻矢	3.0	3.0			冬期間バス運休	
大間埼	大畑	768.6		大畑—大間 30.6	大間—弁天島波止場 2.0	弁天島波止場	0.2			0.2	冬期間バス運休	
陸奥弁天島	大湊	753.3		大湊—宿野辺 27.1		宿野辺	1.5	1.5			冬期間バス運休	
安井埼	小湊	712.3		小湊—東滝 6.0		東滝	0.3	0.3			冬期間バス運休	
青森港	青森	738.3				青森	0.5	0.5				
平館	蟹田	765.3		蟹田—灯台前 12.8								
龍飛埼	蟹田	765.2		蟹田—三厩 21.0		三厩	13.1			13.1		
艫作埼	艫作	687.3				艫作	0.8		0.8			
入道埼	羽立	609.4		羽立—畠 22.0		畠	2.0	2.0			冬期間は羽立バス18粁北浦徒歩6粁事務所	
船川港	船川	612.3				船川	2.0			2.0		
金浦港	金浦	635.4				金浦	1.0			1.0		
酒田港	酒田	6,775				酒田	3.5	3.5				
飛島	酒田	677.5			酒田波止場—勝浦 22.0	勝浦	2.7			2.7		
磯埼	勝田	125.8	勝田—磯埼 14.3			磯埼	0.5					

犬吠埼	銚子	134,9	銚子—犬吠 5,6			犬吠	1,0	1,0			
太東埼	太東	90,6				太東	6,0	5,5		0,5	
勝浦	勝浦	112,2				勝浦	4,5	3,0	1,5		
野島埼	館山	131,0		館山—白浜 16,0		白浜	0,5	0,5			
洲の埼	館山	131,0		館山—灯台前 14,5		灯台前	0,6		0,6		
木更津港	木更津	76,4				木更津	1,0	1,0			
東京港	田町	1,6			船武(田町)(備)第二合場 2,0						
横浜港	桜木町	26,9				桜木町	0,3	0,3			
横須賀港	横浜	24,9	横浜—追浜 30,0	追浜—日向 1,5		日向	0,3	0,3			
観音埼	横浜	24,9	横浜—浦賀 39,0	浦賀—観音埼 5,5		観音埼	0,4			0,4	
剣埼	久里浜	66,5		久里浜—松輪 14,9		松輪	0,5	0,3		0,2	
城ケ島	久里浜	66,5		久里浜—三崎 11,5	三崎—城ケ島船場 0,5	城ケ島船場	0,1			0,1	
伊豆大島	浜松町	0,7		元村—岡田 7,2	竹芝桟橋—元村 60,0	岡田	5,0	3,0	2,0		竹芝，神津島間の船便は天候により不定期
神津島	浜松町	0,7			竹芝桟橋—神津島 86,0	港	4,0			4,0	
三宅島	浜松町	0,7		三宅港—伊豆 10,0	竹芝桟橋—三宅港 95,0	伊豆	1,5		1,5		
八丈島	浜松町	0,7		神湊—末吉 18,1	竹芝桟橋—神湊 154,0	末吉	0,8	0,8			
伊東港	伊東	117,6				伊東	3,0	3,0			
下田港	伊東	117,6		伊東—下田 70,7		下田	0,8	0,8			
石室埼	伊東	117,6		伊東 70,7 下田 下田 16,8 長津呂		長津呂	1,5	1,5			
清水港	三保	173,4				三保	1,5	1,5			
御前埼	藤枝	196,4	藤江新—地頭方 28,0	地頭方—御前埼 6,5		御前埼	1,0	1,0			
掛塚	盤田	242,0		盤田—駒場 4,3		駒場	1,0	1,0			
伊良湖埼	豊橋	289,7		豊橋—伊良湖 42,2							
三谷港	三河三谷	304,4		三河三谷—高野山口 2,0		高野山口	0,3			0,3	
蜆川	刈谷	337,7	刈谷—大浜港 15,6			大浜港	3,0		3,0		
師埼	武豊	361,9	武豊—河和 9,5	河和—師崎 12,0		師崎	1,0		1,0		

野間崎	武豊	361.9	武豊—河和 9.5	河和—灯台前 13.5							
名古屋港	名古屋	362.1	名古屋—大手橋 14.0			大手橋	0.2	0.2			
四日市港	四日市	399.3				四日市	1.2	1.2			
贄崎	津	437.5	津 4.0 江戸橋			津海岸	1.5		1.5		
鳥羽港	鳥羽	493.6	江戸橋 3.5 津海岸			鳥羽	1.3	1.3			
神島	鳥羽	493.6			鳥羽港—神島港 18.3	神島港	0.8			0.8	
安乗崎	鳥羽	493.6	鳥羽—鵜方 21.9	鵜方—安乗 18.6		安乗	2.0			2.0	
大王崎	鳥羽	493.6	鳥羽—鵜方 21.9	鵜方—波切 10.3		波切	0.5		0.5		
志摩小島	鳥羽	493.6	鳥羽—鵜方 21.9	鵜方—布施田 19.0		布施田	0.9		0.9		
尾鷲港	尾鷲	545.4				尾鷲	2.3		2.3		
三木崎	尾鷲	545.4			尾鷲—三木浦 22.0	三木浦	5.0			5.0	
梶取崎	太地	627.9		太地—太地町 2.7		太地町	3.6	3.6			
樫野崎	串本	649.9		串本—串本港 1.5	串本港—樫野港 5.5	樫野港	1.5	1.5			649.9粁中 40.2粁はバスによる
潮岬	串本	649.9		串本—潮岬 5.4		潮岬	0.2	0.2			
市江崎	紀伊椿	695.3				紀伊椿	8.3	7.3		1.0	
紀伊日ノ御崎	御坊	674.4		御坊—三尾村 12.7		三尾村	3.5			3.5	
下津	下津	639.6		下津港—沖ノ島 5.0		沖ノ島	1.0			1.0	
友ケ島	東和歌山	619.9	和歌山—加太 9.8	加太—棧橋 2.0	棧橋—友ケ島 4.0	友ケ島	2.0	2.0			
大阪港	大阪	552.5		大阪—灯台前 8.4							
神戸港	神戸	585.6	神戸—笠松七丁目 2.7			笠松七丁目	1.3	1.3			
西ノ宮港	西ノ宮	567.9				西ノ宮	3.0	3.0			
姫路港	英賀保	645.0		英賀保—製鉄所前 3.0		製鉄所前	0.1	0.1			
江崎	明石	604.8		岩屋港—灯台下 4.0	明石港—岩屋港 3.5	灯台下	00.4			0.04	
小松島港	小松島	865.5				小松島	1.0	1.0			
蒲生田崎	阿波橘	883.0			阿波橘—蒲田部落 10.0	蒲田部落	1.5			1.5	
阿瀬比ノ鼻	日和佐	907.7		日和佐—恵比須浜 5.0		恵比須浜	1.0			1.0	

甲の浦	牟岐	922.2		牟岐—甲ノ浦 27.2		甲ノ浦	1.5	0.1		0.5	
室戸埼	牟岐	922.2		牟岐—灯台下 72.4		灯台下	1.0			1.0	
高知港	高知	939.8		高知—浦戸 14.0		浦戸	0.2		0.2		
興津埼	窪川	1,011.8		窪川—興津村 19.0		興津村	4.4	4.4			
足摺埼	窪川	1,011.8		窪川—足摺埼 105.0		足摺埼	0.1	0.1			
叶埼	窪川	1,011.8		窪川—灯台前 121.0							
土佐沖ノ島	窪川	1,011.8		窪川—片島 86.0	片島港—弘瀬桟橋 30.0	弘瀬桟橋	2.0			2.0	
和歌山港	東和歌山	619.8	東和歌山—県庁前 2.1			県庁前	2.0	2.0			
片上港	和気	700.4	和気—片上 8.6			片上	1.0	1.0			
玉島港	玉島	754.2		玉島—八幡神社 2.0							
大角鼻	高松	779.9		草壁—坂手 5.0	高松—草壁 15.1	坂手	4.0		4.0		
地蔵埼	高松	779.9			高松—蒲野 13.5	蒲野	4.1		4.1		
男木島	高松	779.9			高松—男木島 4.8	男木島	9.0		9.0		
高松港	高松	779.9				高松	0.1	0.1			
丸亀港	丸亀	808.0				丸亀	0.8	0.8			
鍋島	坂出	801.2			坂出3.8与島 与島(備)0.2鍋島						
観音寺港	観音寺	936.0				観音寺	2.2	2.2			
六島	笠岡	772.7			笠岡10.8真鍋島 真鍋島4.3六島	六島	0.7			0.7	
尾道港	尾道	807.4			尾道一向島 0.2						
高井神島	尾道	807.4			尾道—12.4弓削 弓削5.0高井神島	高井神島	2.0			2.0	
百貫島	尾道	807.4			尾道10.0下弓削 下弓削(備)5.0百貫島						
大浜埼	尾道	807.4			尾道—大浜 7.5	大浜	2.0		2.0		
高根島	尾道	807.4			尾道—瀬戸田 10.2	瀬戸田	5.0			5.0	
伯方	尾道	807.4			尾道—伯方 17.8	伯方	2.0	2.0			
大久野島	忠海	835.1			忠海(備)—大久野島 3.2						
大下島	今治	924.4			今治15.1岡村 岡村(備)2.7大下島						

中渡島	今治	924.4			今治(備)中渡島 2.9						
今治港	今治	924.4				今治	3.0	3.0			
釣島	三津浜	970.2	三津浜—高浜 5.0		高浜 2.1 由良 鷲ケ巣(備) 1.6 釣島						
クダコ島	三津浜	970.2			三津浜—元怒和 20.5	元怒和	2.5			2.5	
松山港	三津浜	970.2				三津浜	3.0	3.0			
佐田岬	八幡浜	1,042.3			八幡浜—串 27.0	串	8.0			8.0	
佐島	八幡浜	1,042.3			八幡浜(備)佐島 3.7						
大埼	宇和島	1,077.1			宇和島—田ノ浜 17.8	田ノ浜	3.0			3.0	
宇和島港	宇和島	1,077.1				宇和島	1.3	1.3			
沖家室島	柳井港	962.6			柳井港—沖家室 21.6	沖家室	1.0			1.0	
室津港	柳井港	962.6		柳井港—室津 25.5							
屋島	柳井港	962.6		柳井港—室津 25.5	室津—八島 4.5	八島	4.0			4.0	道らしき道なし
徳山港	徳山	979.4				徳山	0.7	0.7			
秋穂港	大道	1,013.7		大道—秋穂 9.4		秋穂	0.8	0.8			
安芸白石	秋波	922.6			秋波—阿多田 6.7	阿多田	1.2			1.2	
屋形石	宇品	896.8			宇品—切串 1.6	切串	1.5			1.5	
広島港	宇品	896.8				宇品	0.8	0.8			
宇部港	宇部岬	1,047.4				宇部岬	1.1	1.1			
部埼	門司港	1,104.4		門司港—白野江 6.2		白野江	3.5	2.5		1.0	
関門港	下関	1,092.6		下関—田ノ首 5.3		田ノ首	0.2	0.2			
火の山下	下関	1,092.6	下関—御裳川 3.9			御裳川	0.6	0.6			
特牛	特牛	1,138.8		特牛—特牛港 3.7		特牛港	1.0	0.2	0.7	0.1	
角島	特牛	1,138.8		特牛駅前—特牛港 3.7	特牛—尾山 3.0	尾山	1.8	0.2	1.6		
見島	東萩	1,175.2			萩——見島 25.0	見島	0.5			0.5	
高山岬	須佐	1,143.5				須佐	8.3	7.8	0.5		
沖の島	赤間	1,140.9		赤間—神湊 10.7	神湊—大島 4.0	大島	0.6	0.6			

筑前大島	赤間	1,140.9		赤間—神湊 10.7	神湊—大島 4.0	大島	4.2		4.2		
博多港	博多	1,172.4	博多—須埼浦 1.7			須埼浦	0.8	0.8			
玄界島	今宿	1,190.1		今宿—宮ノ浦 10.0	宮ノ浦—玄界島 3.0	玄界島	1.2			1.2	
烏帽子島	東唐津	1,225.4		東唐津—呼子 18.4		呼子	1.1	1.0		0.1	
三島	博多	1,172.4			博多—比田勝 108.2	比田勝	1.2	1.2			
対馬黒島	博多	1,172.4			博多—鴨居瀬 88.5	鴨居瀬	0.6			0.6	
神埼	博多	1,172.4		厳原—浅藻 23.8	博多—厳原 75.0	浅藻	5.0			5.0	
若宮	博多	1,172.4			博多—若宮島 45.4	若宮島	0.7			0.7	
二神島	平戸口	1,320.3		平戸口—田平 0.7	田平—二神島 19.2	二神島	0.9			0.9	
平戸港	平戸口	1,320.8		平戸口—田平 0.7	田平—平戸 1.5	平戸	0.9	0.9			
平港	佐世保	1,290.2			佐世保—平 35.0	平	0.6			0.6	
大瀬埼	長崎	1,333.8		長崎駅前—大波止 0.8	長崎—玉之浦 89.0	玉之浦	4.7	2.7		2.0	長崎駅前—大波止 市電の便もあり
玉之浦港	長崎	1,333.8		長崎駅前—大波止 0.8	長崎—玉之浦 89.0	玉之浦	0.4	0.4			〃
黄島	長崎	1,333.8		長崎駅前—大波止 0.8	長崎—黄島 64.5	黄島	1.3			1.3	〃
佐世保港	佐世保	1,290.2				佐世保	1.1	1.1			
伊王島	長崎	1,333.8		長崎駅前—大波止 0.8	長崎—伊王島 6.5	伊王島	2.7			2.7	長崎駅前—大波止 市電の便もあり
蔭の尾島	長崎	1,333.8		長崎駅前—大波止 0.8	長崎—香焼 5.4	香焼	3.3	2.8		0.5	〃
樺島港	長崎	1,333.8		長崎駅前—脇岬 33.9	脇岬—樺島 0.6	樺島	2.7			2.7	
口ノ津港	諫早	1,302.2	諫早—口ノ津 75.8			口ノ津	2.2	1.8		0.4	
湯島	三角	1,328.0			三角—湯島 8.6	湯島	1.1			1.1	
三池港	荒尾	1,246.5				荒尾	1.9	1.9			
戸馴島	三角	1,328.0			三角(備)灯台下 2.3	灯台下	0.1			0.1	
戸島	水俣	1,376.8			水俣—戸島 34.0	戸島	0.3			0.3	
長崎鼻	折口	1,407.9		折口駅前—唐隈 14.9	黒之浜—瀬戸 1.0	瀬戸	1.3	0.5		0.8	
串木野港	串木野	1,456.1				串木野	2.5	2.5			
釣掛埼	阿久根	1,413.4			阿久根—手打 48.8	手打	4.9	2.9		2.0	
坊の岬	伊集院	1,472.9	伊集院—枕崎 49.6	枕崎——坊 9.3		坊	4.8	1.6		3.2	

枕崎港	伊集院	1,472.9	伊集院—枕崎 49,6				枕崎	1,2	1,2					
鹿児島港	鹿児島	1,493.4					鹿児島	1,0	1,0					
屋久島	鹿児島	1,493.4			鹿児島—永田 81,3		永田	7,0			7,0			
種子島	鹿児島	1,493.4		西の表—上中 43,0	鹿児島—西の表 62,0		西の表	8,6	6,1		2,5			
佐多岬	山川	1,540.2			山川—伊座敷 8,2		伊座敷	18,0	3,6		14,4			
都井岬	福島仲町	1,550.1		福島仲町—岬駅前 22,0			岬	2,5	2,5					
鞍埼	南郷	1,571.5			目井津—竹之尻 1,7		竹之尻	2,0			2,0			
細島港	細島	1,384.7					細島	3,9	2,7		1,2			
佐伯港	佐伯	1,302.2					佐伯	0,9	0,9					
関埼	幸崎	1,256.3	幸崎—佐賀関 9,1				佐賀関	4,1			4,1			
安岐埼	杵築	1,203.6	杵築—古城 9,2				古城	1,2	1,2					
姫島	宇佐	1,180.2	宇佐—豊後高田 4,0	豊後高田—伊美 30,3	伊美—姫島 3,5		姫島	6,9	6,0	0,9				
中津港	中津	1,156.2					中津	2,5	2,5					
苅田港	苅田	1,123.0					苅田	1,0	1,0					
三国港	福井	551.8	福井—三国港 26,6				三国港	0,45			0,45			
越前岬	鯖江	538.1	鯖江—織田 19,2	織田 8,0 梅浦			玉川	2,0			2,0			
敦賀港	敦賀	490.5		梅浦 3,0 玉川 敦賀駅前—気比神宮前 1,8			気比神宮前	0,8	0,8					
立石埼	敦賀	490.5		敦賀駅前—気比神宮前 1,8	敦賀桟橋(艀)立石海岸 7,0		立石海岸	1,0			1,0			
小浜港	小浜	540.0					小浜	1,2	1,2					
博奕岬	西舞鶴	581.8		西舞鶴—高野川口 1,0	高野川口—浦丹生 6,0		浦丹生	3,0			3,0			
舞鶴港	東舞鶴	574.8		東舞鶴—東公会堂 1,5			東公会堂	0,3	0,3					
経ケ岬	峰山	630.3		峰山 15,5 間人			袖志	3,5			3,5			
香住港	香住	697.4		間人 13,5 袖志 香住—水産研究所前 1,0			水産研究所前	0,5	0,5					
余部埼	鎧	704.0					鎧	8,0			8,0			
鳥取港	鳥取	747.7		鳥取駅前—賀露海岸 2,0			加露海岸	0,5	0,5					
田後港	岩美	729.3		岩美—竹間 1,6			竹間	3,0	3,0					

長尾鼻	青谷	770,2		青谷駅前—青谷中学前 2,0		青谷中学前	2,0		2,0				
境港	境	858,3				境	2,0	2,0					
多古鼻	松江	869,3		松江—小波 29,0		小波	3,0		3,0				
西郷岬	境	858,3			境———西郷 124,0	西郷	5,0			5,0			
知夫里島	境	858,3			境———郡 66,6	郡	5,0			5,0			
恵曇港	松江	869,3		松江—恵曇 13,0		恵曇	0,6	0,6					
出雲日御碕	大社	909,5		大社—日御埼 10,0		日御埼	0,6		0,6				
大岬	五十猛	940,2				五十猛	2,0		2,0				
馬島	浜田	990,7		浜田駅前—桟橋 4,6	桟橋(備)馬島 1,8	馬島	1,0	1,0					
新潟港	沼垂	332,1		沼垂—山の下局前 2,0		山の下局前	0,6	0,6					
弾埼	新潟	414,2			新潟 38,0 両津	鷲埼	2,5			2,5			
姫埼	新潟	414,2		両津—両尾 10,0	両津 17,3 鷲埼	両尾	6,0	6,0					
台ケ鼻	新潟	414,2		両津—二見 30,0	新潟—両津 38,0	二見	1,5	1,5					
沢埼	新潟	414,2			新潟—小木 49,7	小木	8,2			8,2			
名立	名立	308,9				名立	1,5			1,5			
生地鼻	生地	378,5		駅—生地 2,0		生地	0,7	0,7					
富山港	東岩瀬	421,2				東岩瀬	0,4	0,4					
伏木港	伏木	440,4				伏木	2,0	2,0					
七尾港	七尾	516,8		七尾—三室 10,0		三室	4,0		4,0				
能登島	七尾	516,8			七尾—須会 3,0	須会	1,5		1,5				
祿剛埼	穴水	549,9		穴水—狼煙 14,0		狼煙	0,5	0,5					
輪島港	輪島	570,3				輪島	1,5	1,5					
猿山岬	穴水	549,9		穴水—道下 20,0		道下	10,0						
大野	金沢	474,0	金沢—金石 8,0			金石	1,0	1,0		10,0			

推薦のことば

社団法人　灯光会

職場の友とも国民文化資料ともなるような灯台写真帳を作りたいと、かねて企図されながらも、絶えて実現されないのを歎いていたのですが、このたびついに「**写真で見る灯台文化九十年**」が刊行される運びとなりました。

この出版については、国光出版株式会社の良心的努力によって、期待以上に立派なものが生れることになりました。広く種類を網羅した写真・資料は主として灯台部の各課を煩わし、歴史的なものについては、坂本氏をはじめとする年史編さん委員の御協力によるところが多かったのであります。この一冊は、年来編さんに努力を注いでいる灯台九十年史を、写真によってアッピールしたもので、年史編さんの目的の半ばを達したといってもよいものと思います。

海上保安庁在勤の方々はもとより、海運、水産、学校、図書館等にとっても、色々参考となる記念アルバムをおすすめする次第であります。

編者のことば

◇本書は、視覚によって、灯台文化のあゆみと現状を、静・動両面から知ることができるようにするのが目的なので、写真には簡単な説明をつけるに止め、解説篇で、その欠を補促し、理解の便をはかった。

◇実際の編集に当ってみて、その並々でない大事業であることと、資料の乏しいことに驚いた。しかし、幸い斯界の権威坂本宇三郎氏の絶大な御協力を得て、この意義ある仕事の完成をみるに至った。

◇写真は、海上保安庁灯台部及全国各管区本部の提供によるが、一部篤志家の蒐集されたものも利用したので珍貴なものが数多くもられ、内容は、いちじるしく豊富かつ優秀なものになった。読者の関心を捕へるに足ると思う。

◇配列順序については、ずいぶん苦心を要したが、坂本氏の綿密な示教を得て整然たるを得た。

◇分量は、一四四頁を限度とされていたが、二十頁からの超過となった。貴重な問題は決して粗雑に扱うべきではない。編者としては、この程度の増頁では不満足であるが、出版部としての事情もあり、後日再版の機会に増補改訂し、万全をはかりたい。

◇監修の任に当られた灯台部長土井智喜、同監理課長猪口猛夫、同電標課長堀江義雄、同工務課長藤野義男氏をはじめ、企画に資料蒐集に、懇篤なる御好意と御支援をいただいた坂本宇三郎、三上秀彌、松本基、酒井茂、西村俊也、熊田光利、中村幹、山崎肇の諸氏に衷心から感謝の意を表する。

昭和三十一年八月二十五日　印刷
昭和三十一年八月三十日　発行　定価五百円

写真でみる　灯台文化九十年

編集兼発行者　石橋鎮雄

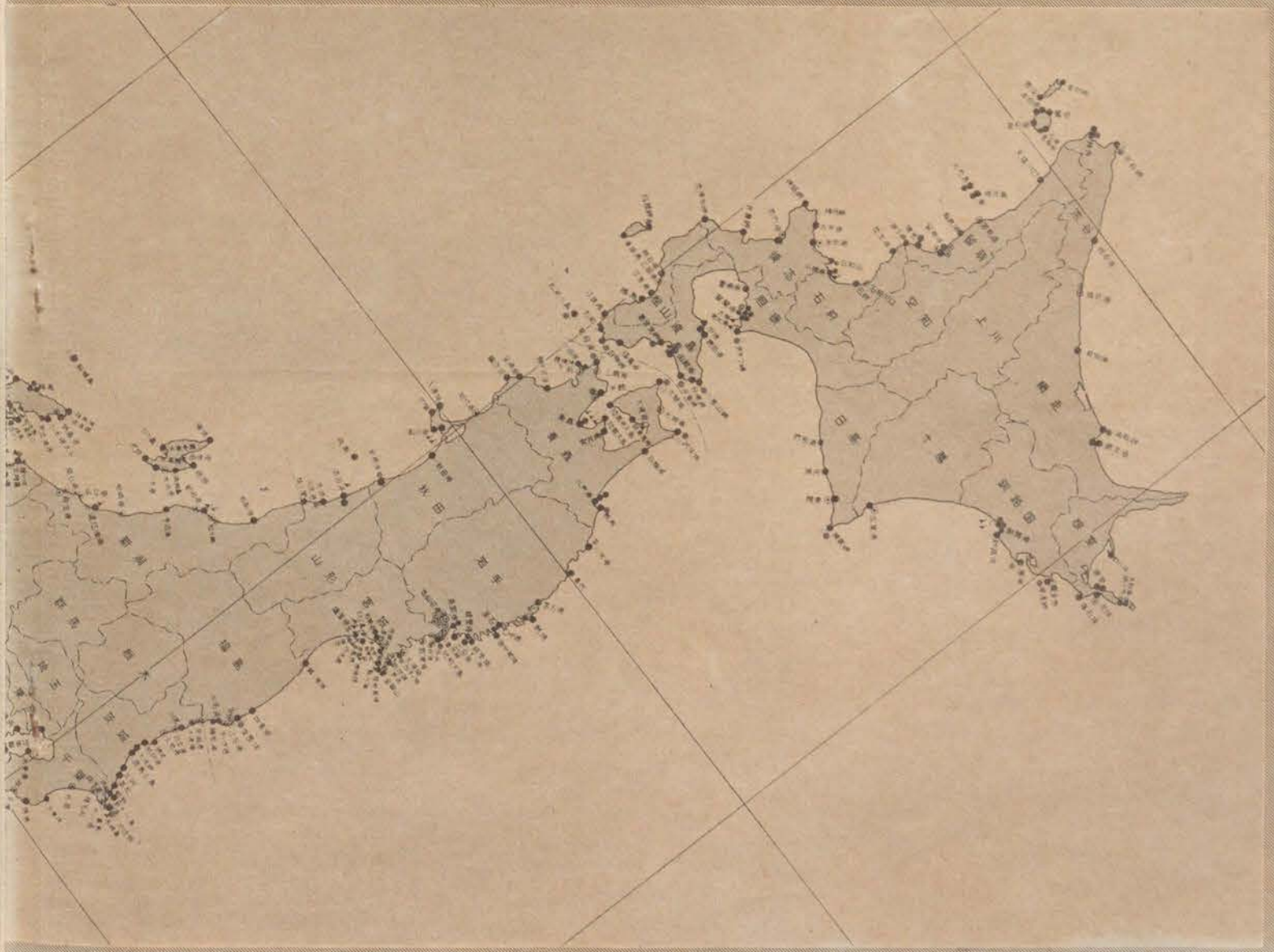
版権所有者　社団法人　灯光会

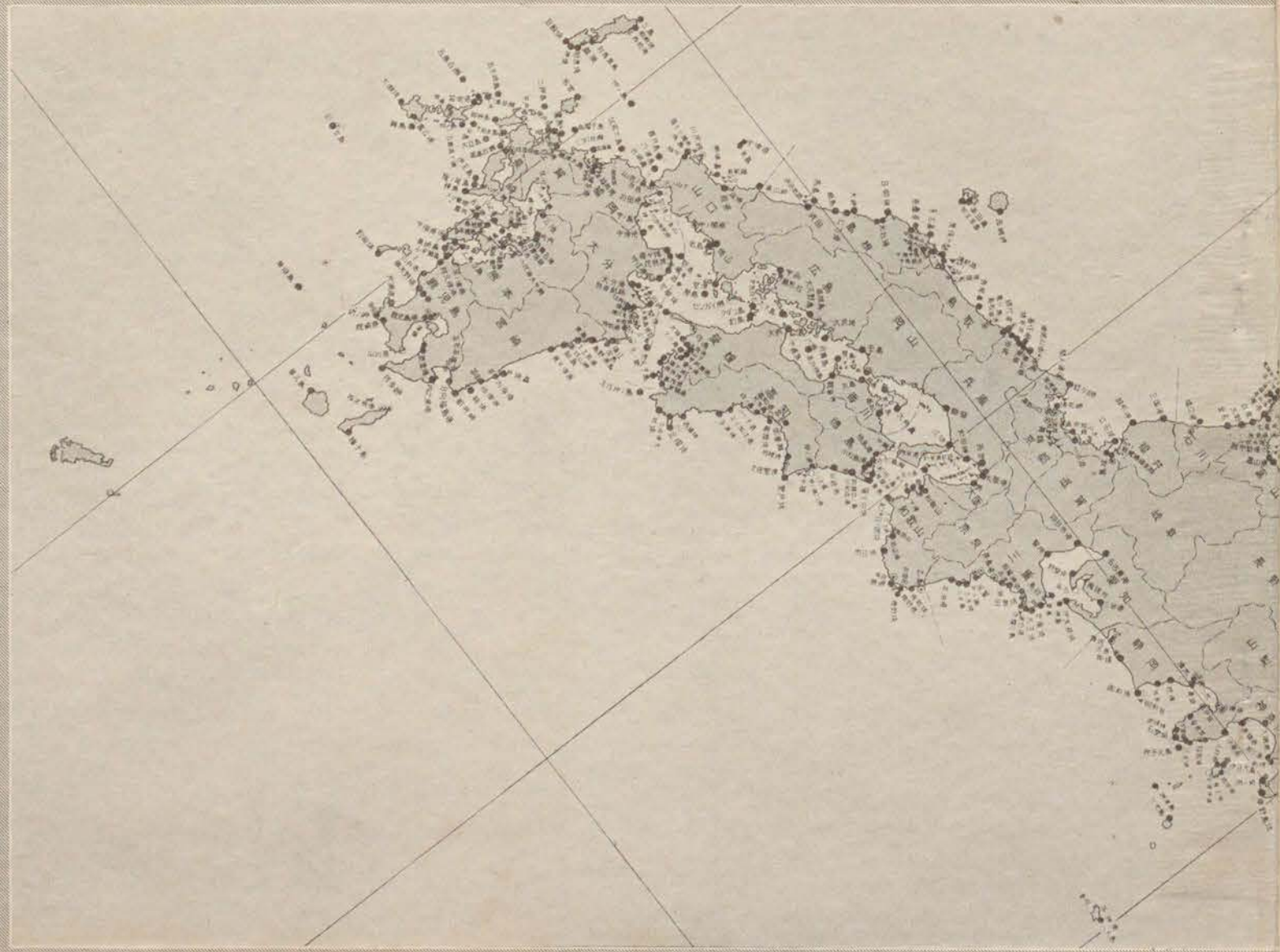
印刷所　共同印刷株式会社

発行所　東京・杉並区杉並局区内　国光出版株式会社　電話（32）〇六六六番

複製不許

日本航路標識位置図（昭和28年12月現在）





日本航路標識位置図

（昭和28年12月現在）

